

平成 25 年 度

専門科目教育要項

東京医科歯科大学歯学部口腔保健学科
口腔保健衛生学専攻

ま え が き

この教育要項は、歯学部口腔保健学科口腔保健衛生学専攻の授業を受ける学生の皆さんに、平成25年度に行われる予定の専門教育科目を示し、それらの授業計画および授業内容の概要を知らせるためのものです。

学生の皆さんが、本学における口腔保健衛生学専攻教育の内容を把握すると共に、充実した履修が行えるよう本要項を有意義に活用されることを希望します。

平成25年4月

歯学部口腔保健学科教育委員会

基本的理念

温かく豊かな人間性を有し、口腔保健・福祉の立場から、人々の健康で幸せな生活の実現のため、専門的知識および技術をもって広く社会貢献し、指導的役割を果たすことのできる人材を育成する。

一般教育目標

口腔保健学科では、次のような一般教育目標の基に教育を行っています。

1. 生命の尊厳と基本的な科学原理・概念を理解し、生命科学の知識を修得する。
2. 基本的人権を尊重し、相手の心情と行動を理解して人と接する能力を身につける。
3. 社会における口腔保健・福祉の果たす役割とその重要性を理解する。
4. 心身の様々な状態を理解し、口腔保健に関する知識および技術を修得する。
5. 科学的探究心と問題解決能力を身につけ、生涯学習への意欲を培う。
6. 保健・医療・福祉等の関連職種と連携して活動できる能力を身につける。
7. 口腔保健の立場から国際貢献ができる能力を修得する。
8. 深い人間理解と医療人としての高い倫理観、豊かな感性を身につける。
9. QOLの向上に関わるものづくりの専門家として、自らの高度な知識と技術を社会に還元する意欲を養う。

歯学部長あいさつ

歯学部長 田上 順次

口腔保健学科口腔保健衛生学専攻の皆さん、進級おめでとう。いよいよ専門科目が本格的に始まります。これからの学習は、一つ一つがすべて皆さんの将来を形成してゆくための糧になるものです。さらに気持ちを充実させて勉学に励んでください。

本専攻の歴史は、1951年の開設された歯科衛生士養成の専門学校に始まります。この間、多くの人材を輩出し、歯科界においてリーダーシップを発揮しておられます。皆さんはすでに業界での地位の確立された大学に入学し、専門教育を受けるのですから、卒業時には当然、皆さんに対する社会的な期待も大きなものになります。その期待にこたえるべく、教育内容は十分に検討したものです。世界中どこと比較しても、胸を張れる教員組織、環境、設備、そして教育内容です。ひとつひとつの科目に真剣に取り組み、達成すべき項目をすべて修得すれば、本学科の卒業生として、どこに出ても自信を持って活躍できるはずです。

グローバル化する社会においても、皆さんに対する期待は増すばかりです。在学中に皆さんには外国で研修する機会も増えてきています。一人でも多くの人にこうしたプログラムに参加してほしいと思います。社会の期待にこたえる専門職業人として、業界のリーダーとして、未来を築いていってくれることを願っています。皆さんの将来は輝かしい可能性に満ちています。どうか先生方を信頼し、仲間とともに助けあいながら、力いっぱい勉学に励み、自分の人生を切り開く基盤を形成してください。

平成25年4月

目 次

まえがき

基本的理念

一般教育目標

歯学部長あいさつ

東京医科歯科大学学部履修規則（平成23年以降入学者）	1
東京医科歯科大学歯学部口腔保健学科専門科目履修内規（平成23年以降入学者）	9
東京医科歯科大学学部専門科目履修規則（平成22年入学者）	10
東京医科歯科大学試験規則（平成23年以降入学者）	14
東京医科歯科大学歯学部口腔保健学科試験内規	17
東京医科歯科大学歯学部試験規則（平成22年入学者）	18

学生周知事項等

歯科衛生士国家試験ならびに社会福祉国家試験について	23
学生周知事項	25
スチューデントセンター（5号館2階）について	29
保健管理センター（5号館2階）について	29
図書館本部（M&Dタワー3・4階）について	29
国立美術館キャンパスメンバーズについて	30
1号館西・2号館・7号館の管理、使用について	31
附属病院内での注意事項	32
視聴覚研修スペースについて	33
歯学部附属病院の機構	34
湯島キャンパス案内	36
1号館西5～8階平面図	37
2号館平面図	38
7号館平面図	39
1号館の配置	40
2号館、7号館の配置	41
10号館、M&Dタワーの配置	42
歯科棟の配置	43
平成25年度歯学部口腔保健学科口腔保健衛生学専攻授業計画表	44
歯学部口腔保健学科口腔保健衛生学専攻教員連絡先一覧	45

第1学年 履修ユニット

口腔保健と専門職	47
歯科衛生学概論Ⅰ	49
歯科衛生学概論Ⅱ	51
臨床体験実習	53
人体の構造と機能Ⅰ	55

栄養と代謝	58
公衆衛生学	60
社会保障 I	62

第2学年 履修ユニット

臨床体験実習	65
科学英語 I	67
科学英語 II	69
人体の構造と機能 II	71
歯・口腔の構造と機能	74
歯の形態学実習	77
病理学総論	80
口腔病理学	82
薬理学	84
病原微生物と生体防御	86
口腔保健衛生基礎科学実習	89
口腔衛生学	92
口腔健康科学	94
社会保障 II	96
保健医療サービス	98
歯科保存学	101
小児歯科学	104
歯科補綴学	107
口腔外科・歯科麻酔学	110
口腔疾患予防学の基礎	113
医学一般 I	119
健康教育の基礎 I	122
健康教育の基礎 II	124
食生活教育	127
臨床検査	130
生体材料学	132
臨床口腔保健衛生基礎学	134
臨床口腔保健衛生応用学 I	138
歯科衛生過程基礎演習	142
相談援助の基盤と専門職 I	144
現代社会と福祉 I	146
現代社会と福祉 II	148
ソーシャルワーク I	150

第3学年 履修ユニット

小児歯科学	153
歯科薬理・薬剤学	155
矯正歯科学	158
歯科放射線学	161
包括的歯科医療の実際	163
口腔疾患予防学の実践と応用	165
医学一般Ⅱ	170
健康教育の企画と実践Ⅰ	173
臨床口腔保健衛生応用学Ⅱ	176
歯科衛生過程専門演習	181
歯科衛生臨床実習	183
歯科衛生臨地実習	186
高齢者福祉	188
社会調査の基礎	191
介護福祉	193
児童・家庭福祉Ⅰ	195
障害児・者福祉Ⅰ	197
地域福祉Ⅰ	200
相談援助の基盤と専門職Ⅱ	202
相談援助演習Ⅰ	204
卒業研究	206
口腔保健と国際協力	209
児童・家庭福祉Ⅱ	211
障害児・者福祉Ⅱ	213
地域福祉Ⅱ	216
相談援助の基盤と専門職Ⅲ	218
権利擁護	221
社会福祉行政	223
ソーシャルワークⅡ	225
相談援助実習指導	228
相談援助実習	230

編入3学年 履修ユニット

口腔保健衛生基礎科学実習	231
--------------	-----

第4学年 履修ユニット

社会保障論Ⅱ	235
ヘルスカウンセリング特論	237
介護概論	239

歯科口腔介護	242
顎口腔機能リハビリテーション	245
発達育成系口腔保健衛生臨床実習	247
成人口腔保健衛生臨床実習Ⅱ	249
高齢者口腔保健衛生臨床実習	252
障害者口腔保健衛生臨床実習	255
地域口腔保健衛生臨地実習	257
高齢者・訪問口腔保健衛生臨地実習	259
選択臨床・臨地実習	262
特論（卒業論文）	264
地域福祉の理論と方法Ⅱ	266
就労支援サービス	268
福祉行財政と福祉計画	270
福祉サービスの組織と経営	272
社会福祉相談援助演習	274
社会福祉相談援助実習	276
社会福祉相談援助実習指導	277

東京医科歯科大学学部専門科目履修規則（平成23年以降入学者）

〔平成22年3月30日〕
規則第41号

（趣旨）

第1条 東京医科歯科大学における専門に関する教育科目（以下「専門科目」という。）の履修に関しては、東京医科歯科大学学則（平成16年規程第4号。以下「学則」という。）に定めるもののほか、この規則の定めるところによる。

（専門科目の履修）

第2条 専門科目の履修については、医学部教授会又は歯学部教授会の議を経て別表1に定めるとおりとする。

（授業）

第3条 専門科目の授業は、講義、演習若しくは実習により行い、必修、選択必修又は選択とする。

（1単位当たりの授業時間）

第4条 学則第36条に定める1単位当たりの授業時間は、次のとおりとする。

- (1) 講義 15時間
- (2) 演習 30時間
- (3) 実習 45時間

2 前項第3号の規定にかかわらず、医学部保健衛生学科の臨地実習の1単位当たりの授業時間は、次のとおりとする。

- (1) 看護学専攻 45時間
- (2) 検査技術学専攻 30時間

（編入学者、転入学者の単位認定）

第5条 学則第12条から第18条の2までの規定により編入学及び転入学の許可をするときは、既修得単位を全学共通科目及び専門科目に相当する単位として、一部又は全部を認定するものとする。

2 前項の認定は、全学共通科目に相当する科目については教養部において、専門科目に相当する科目については、当該学生が在籍する学部（以下「在籍学部」という。）におい

て行うものとする。

3 在籍学部は、入学を許可する学年及び履修方法等について、教養部と協議するものとする。

(再入学の単位認定)

第6条 学則第19条の規定により再入学を許可された者の当該学部における既修得単位は、全学共通科目及び当該学部専門科目の単位として、一部または全部を認定する。

(編入学者、転入学者、再入学者の在学年限)

第7条 学則第12条から第19条の規定により、編入学、転入学及び再入学を許可された者の在学年限は、学則第32条第1項に定める在学年限から入学を許可されたまでの経過学年数を減じた年数とする。

(試験及び単位)

第8条 履修した授業科目については、試験を行う。ただし、試験を行うことが困難な授業科目等については、試験によらず、学修の成果をもって、又は指定した課題についての報告をもって試験に替えることがある。

2 前項の試験に合格したときは、所定の単位を与える。

3 実習を伴わない授業科目については、試験に合格したときは所定の単位を与える。ただし、一授業科目の試験を分割して実施する科目については、そのすべての試験に合格しなければ単位を修得することができない。

4 実習を伴う授業科目については、試験に合格し、かつ、その授業科目の実習修了の認定が行われなければ所定の単位を修得することができない。

5 学習の評価は、別表2のとおりとする。

6 単位の認定は、医学部教授会又は歯学部教授会の議を経て当該学部長がこれを行う。

7 試験の方法に関しては別に定める。

(進級要件)

第9条 学生は、別表3に示す要件を満たさなければ、進級又は所定の授業科目の履修をすることができない。

2 医学部医学科にあっては、休学期間を除き、同一学年の在籍は2年までとし、なお成業の見込みがないと認められたときは、学則第33条第1号の規定により退学を命ずる。

(卒業認定)

第10条 学生の卒業認定は、学則第39条により行うものとする。

(補足)

第11条 この規則に定めるもののほか履修に関し必要な事項は各学部教授会の議を経て別に定める。

附 則

- 1 この規則は、平成22年4月1日から施行する。
- 2 東京医科歯科大学医学部履修規則（平成16年規則第201号）は、廃止する。
- 3 東京医科歯科大学歯学部履修規則（平成16年規則第213号）は、廃止する。
- 4 平成22年3月31日において現に医学部に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成22年4月1日以降在学者の属する学年に再入学、転入学するものについては、改正後の別表の規程にかかわらず、なお従前の東京医科歯科大学医学部履修規則の例による。
- 5 平成22年3月31日において現に歯学部在学する者（以下「在学者」という。）及び平成22年4月1日以降在学者の属する学年に再入学、転入学する者については、改正後の別表の規程にかかわらず、なお従前の東京医科歯科大学歯学部履修規則の例による。

附 則（平成23年3月4日規則第15号）

- 1 この規則は、平成23年4月1日から施行する。
- 2 平成23年3月31日において、現に本学に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成23年4月1日以降に在学者の属する学年に再入学、転入学又は編入学する者については、改正後の別表の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成24年2月3日規則第19号）

- 1 この規則は、平成24年4月1日から施行する。
- 2 平成24年3月31日において、現に本学に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成24年4月1日以降に在学者の属する学年に再入学、転入学又は編入学する者については、改正後の別表の規定にかかわらず、なお従前の例による。

別表 1

口腔保健学科（口腔保健衛生学専攻）教育課程

区分	授業科目	単位数		履修学年								
				1年		2年		3年		4年		
		必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
基礎分野	科学英語Ⅰ	1				○						
	科学英語Ⅱ		1				○					
専門基礎分野	人体の構造と機能及び疾病	6			○	○	○					
	歯・口腔の構造と機能	4				○	○					
	口腔保健衛生基礎科学実習	1				○	○					
	疾病の成り立ちと回復過程の促進	6					○	○				
	公衆衛生学	1			○							
	社会保障Ⅰ	2			○							
	社会保障Ⅱ	2					○					
	保健医療サービス	2						○				
専門分野	口腔保健と専門職	1		○								
	歯科衛生学概論Ⅰ	1			○							
	歯科衛生学概論Ⅱ	1			○							
	口腔衛生学	1				○						
	臨床歯科医学	8					○	○	○	○		
	口腔疾患予防学	8					○	○	○	○		
	口腔健康科学	1					○					
	健康教育の基礎	2					○	○				
	食生活教育	1						○				
	高齢者福祉	2							○			
	社会調査の基礎	2							○			
	健康教育の企画と実践	3							○	○	○	

	生体材料学	1				○				
	臨床検査	1					○			
	歯科薬理・薬剤学	1						○		
	介護福祉	2						○		
	歯科口腔保健衛生基礎学	2				○				
	臨床口腔保健衛生応用学Ⅰ	2					○			
	臨床口腔保健衛生応用学Ⅱ	2						○	○	
	歯科衛生臨床実習	13							○	○
	歯科衛生臨地実習	5							○	○
	歯科衛生臨床・臨地応用実習		1							○
	全身と口腔の健康評価	1								○
	顎口腔機能の育成と回復	1								○
統合分野	臨床体験実習	1			○	○	○			
	歯科衛生過程	2				○	○	○	○	
	卒業研究	4						○	○	○
	児童・家庭福祉Ⅰ	1						○		
	障害児・者福祉Ⅰ	1						○		
	地域福祉Ⅰ	1						○		
	相談援助の基盤と専門職Ⅰ	1							○	
	相談援助の基盤と専門職Ⅱ	1							○	
	相談援助演習Ⅰ	1							○	
	相談援助演習Ⅱ	2								○
展開分野	口腔保健と国際協力		2					○		
	口腔疾患予防学演習		1							○
	口腔健康教育演習		1							○
	臨床口腔保健衛生基礎学演習		1							○
	児童・家庭福祉Ⅱ		1					○		

障害児・者福祉Ⅱ	1					○			
地域福祉Ⅱ	1					○			
公的扶助	2							○	
コミュニティーワーク	2							○	
相談援助の基盤と専門職Ⅲ	2						○		
相談援助演習Ⅲ	2								○
現代社会と福祉Ⅰ	2			○					
現代社会と福祉Ⅱ	2				○				
ソーシャルワークⅠ	4			○	○				
ソーシャルワークⅡ	4					○	○		
権利擁護	1					○			
社会福祉行政	1					○			
福祉計画	1								○
司法福祉	1							○	
福祉運営管理	2								○
就労支援サービス	1								○
相談援助実習	4						○	○	○
相談援助実習指導	2						○	○	○
計	10 2	43							

別表 2

成績区分	評価区分	単位認定
100～90点	秀	合格
89～80点	優	
79～70点	良	
69～60点	可	
59～0点	不可	不合格

別表 3

口腔保健学科（口腔保健衛生学専攻）

（1）第 1 学年の末までに次の授業科目の単位の修得もしくは試験に合格しなければ、第 2 学年に進級することができない。

公衆衛生学、社会保障Ⅰ、口腔保健と専門職、歯科衛生学概論Ⅰ、歯科衛生学概論Ⅱ、
（第 1 学年に実施される授業を対象とする）人体の構造と機能及び疾病、臨床体験実習

（2）第 2 学年の末までに次の授業科目の単位の修得もしくは試験に合格しなければ、第 3 学年に進級することができない。

科学英語Ⅰ、人体の構造と機能及び疾病、歯・口腔の構造と機能、口腔保健衛生基礎科学実習、疾病の成り立ちと回復過程の促進、社会保障Ⅱ、保健医療サービス、口腔衛生学、口腔健康科学、健康教育の基礎、食生活教育、生体材料学、臨床検査、歯科口腔保健衛生基礎学、臨床口腔保健衛生応用学Ⅰ、臨床体験実習、相談援助の基盤と専門職Ⅰ
（第 2 学年に実施される授業を対象とする）臨床歯科医学、口腔疾患予防学、歯科衛生過程

（3）第 3 学年の前期までに次の授業科目の単位の修得もしくは試験に合格しなければ、第 3 学年後期以降の授業科目を履修することができない。

高齢者福祉、社会調査の基礎、歯科薬理・薬剤学、介護福祉、児童・家庭福祉Ⅰ、障害児・者福祉Ⅰ、地域福祉Ⅰ、相談援助の基盤と専門職Ⅱ
（第 3 学年前期に実施される授業を対象とする）健康教育の企画と実践、臨床歯科医学、口腔疾患予防学、臨床口腔保健衛生応用学Ⅱ、歯科衛生過程

東京医科歯科大学歯学部口腔保健学科専門科目履修内規

平成23年12月7日
歯学部長制定

(趣旨)

第1条 この内規は、東京医科歯科大学歯学部専門科目履修規則（平成22年規則第41号。以下「履修規則」という。）第11条に基づき、歯学部口腔保健学科における専門に関する教育科目の履修に関し、必要な事項を定めるものとする。

(学習の評価)

第2条 定期試験及び追試験の成績については、担当教員が100点満点で採点し、授業科目ごとに履修規則別表2のとおり学習の評価を行う。

2 第1項の学習の評価に、平常の学習の成果を加味することができる。

(必修科目及び仮進級)

第3条 履修規則別表3に掲げる科目は、必修科目とする。

2 必修科目に係る試験の不合格者については、仮進級を認めない。

(G P)

第4条 G P (Grade Point) で成績を評価する場合は次のとおりとする。

成績評価	秀	優	良	可	不可
G P	4.0	3.0	2.0	1.0	0
成績区分	90点以上	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下

2 選択科目の履修を届け出た後、単位を認定されなかった科目については、未履修科目とし、G P A (Grade Point Average) の計算式には算入しない。

(補則)

第5条 この内規に定めるもののほか、履修に関し必要な事項は各専攻において別に定めることができる。

附 則

1 この内規は、平成23年12月7日から施行し、平成23年4月1日から適用する。

2 平成23年3月31日において現に歯学部口腔保健学科に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成23年4月1日以降在学者の属する学年に再入学、転入学する者については、この内規の規定にかかわらず、なお従前の例による。

東京医科歯科大学学部専門科目履修規則（平成22年入学者）

〔平成22年3月30日〕
規則第41号

（趣旨）

第1条 東京医科歯科大学医学部・歯学部における授業の履修に関しては、東京医科歯科大学学則（平成16年規程第4号。以下「学則」という。）に定めるもののほか、この規則の定めるところによる。

（授業科目）

第2条 授業科目は、学則第6条第1項に定める全学に共通する教育科目（以下「全学共通科目」という。）と専門に関する教育科目（以下「専門科目」という。）とする。

（全学共通科目の履修）

第3条 全学共通科目の履修については、東京医科歯科大学全学共通科目履修規則（平成16年規則第217号）の定めるところによる。

（専門科目の履修）

第4条 専門科目の履修については、各教授会の議を経て別表1に定めるとおりとする。

（専門科目の履修要件）

第5条 全学共通科目を修了しなければ、専門科目を履修することができない。ただし、医学部医学科、医学部保健衛生学科看護学専攻は、この限りでない。

（授業）

第6条 専門科目の授業は、講義、演習若しくは実習により行い、必修又は選択必修とする。

（1単位当たりの授業時間）

第7条 学則第36条に定める1単位当たりの授業時間は、次のとおりとする。

(1) 医学科

ア 講義及び演習 15～30時間
イ 実習 30～45時間

(2) 保健衛生学科

ア 講義 15時間
イ 演習 30時間
ウ 実習 45時間
エ 臨地実習
看護学専攻 45時間
検査技術学専攻 30時間

(3) 歯学科

ア 講義及び演習 15～30時間
イ 実習 30～45時間

(4) 口腔保健学科

ア 講義及び演習 15～30時間
イ 実習 30～45時間

（編入学者、転入学者の単位認定）

第8条 学則第12条から第18条までの規定により編入学及び転入学の許可をするときは、既修得単位を全学共通科目及び本学部専門科目に相当する単位として、一部又は全部を認定するものとする。

2 前項の認定は、全学共通科目に相当する科目については教養部において、専門科目に相当する科目については、当該学生が在籍する学部において行うものとする。

3 入学を許可する学年及び履修方法等については、教養部と協議するものとする。

(再入学の単位認定)

第9条 学則第19条の規定により再入学を許可された者の当該学部における既修得単位は、全学共通科目及び当該学部専門科目の単位として、一部または全部を認定する。

(編入学者、転入学者、再入学者の在学年限)

第10条 学則第12条から第19条の規定により、編入学、転入学及び再入学を許可された者の在学年限は、学則第32条第1項に定める在学年限から入学を許可された学年までの経過学年数を減じた年数とする。

(試験及び単位)

第11条 履修した授業科目については、試験を行う。ただし、試験を行うことが困難な授業科目等については、試験によらず、学修の成果をもって、又は指定した課題についての報告をもって試験に替えることがある。

2 前項の試験に合格したときは、所定の単位を与える。

3 実習を伴わない授業科目については、試験に合格したときは所定の単位を与える。ただし、一授業科目の試験を分割して実施する科目については、そのすべての試験に合格しなければ単位を取得することができない。

4 実習を伴う授業科目については、試験に合格し、かつ、その授業科目の実習修了の認定が行われなければ所定の単位を取得することができない。

5 試験は、次のとおりとする。

(1) 医学部

定期試験，科目試験，共用試験，追試験及び再試験

(2) 歯学部歯学科

ユニット試験，共用試験，追試験及び再試験

(3) 歯学部口腔保健学科

期末試験，中間試験，追試験及び再試験

6 学習の評価は、別表2のとおりとする。

7 単位の認定は、学部教授会の議を経て学部長がこれを行う。

8 試験の方法に関しては別に定める。

(進級要件)

第12条 学生は、別表3に示す要件を満たさなければ、進級又は所定の授業科目の履修をすることができない。

2 医学部医学科にあっては、休学期間を除き、同一学年の在籍は2年までとし、なお成業の見込みがないと認められたときは、学則第33条第1号の規定により退学を命ずることがある。

(卒業認定)

第13条 学生の卒業認定は、学則第39条により行うものとする。

(補足)

第14条 この規則に定めるもののほか履修に関し必要な事項は各学部教授会の議を経て別に定める。

附 則

1 この規則は、平成22年4月1日から施行する。

2 東京医科歯科大学医学部履修規則（平成16年規則第201号）は、廃止する。

3 東京医科歯科大学歯学部履修規則（平成16年規則第213号）は、廃止する。

4 平成22年3月31日において現に医学部に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成22年4月1日以降在学者の属する学年に再入学、転入学するものについては、改正後の別表の規程にかかわらず、なお従前の東京医科歯科大学医学部履修規則の例による。

5 平成22年3月31日において現に歯学部在学する者（以下「在学者」という。）及び平成22年4月1日以降在学者の属する学年に再入学、転入学する者については、改正後の別表の規程にかかわらず、なお従前の東京医科歯科大学歯学部履修規則の例による。

(2) 口腔保健学科専門科目学科課程表
平成22年専門科目履修開始者

授業科目	ユニット名	2年				3年				4年								
		前期		後期		前期		後期		前期		後期						
		必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択					
科学英語 I	科学英語 I	○																
科学英語 II	科学英語 II				○													
人体の構造と機能 II	人体の構造と機能 II	○																
	歯・口腔の構造と機能	○		○														
疾病の成立過程と生体防御	病理学総論	○																
	口腔病理学			○														
薬理・薬剤学	薬理・薬剤学	○																
	関係法規・衛生行政	○																
現代社会と福祉 I	現代社会と福祉 I	○																
現代社会と福祉 II	現代社会と福祉 II		○		○													
社会保障論 II	社会保障論 II														○			
口腔健康科学	口腔健康科学	○																
口腔保健衛生学原論 II	口腔保健衛生学原論 II	○																
臨床歯科医学	保存系歯科医学			○														
	再建系歯科医学					○												
	外科系歯科医学					○												
	発達育成系・障害者歯科医学			○		○												
口腔疾患予防学	口腔疾患予防学	○																
顎口腔機能育成学	顎口腔機能育成学			○														
先端歯周病予防学	先端歯周病予防学							○										
口腔疾患予防学実習	口腔疾患予防学実習	○		○		○												
口腔健康統計学・情報処理論	口腔健康統計学・情報処理論					○												
口腔健康教育	口腔健康教育	○																
口腔健康教育実習	口腔健康教育実習	○		○														
食生活教育	食生活論	○																
	栄養指導	○																
医学一般	医学一般			○		○												
口腔と全身の健康評価	生活習慣と疾患	○																
保健行動科学	口腔と全身の健康評価・臨床検査			○														
	コミュニケーション論 II					○												
ヘルスカウンセリング論	ヘルスカウンセリング論					○												
ヘルスカウンセリング特論	ヘルスカウンセリング特論														○			
	臨床口腔保健衛生基礎学	臨床口腔保健衛生基礎学	○															
臨床口腔保健衛生基礎学	歯科放射線学	○																
	歯科生体材料学																	
臨床口腔保健衛生基礎学実習	臨床口腔保健衛生基礎学実習			○		○												
介護概論	介護概論														○		○	
歯科口腔介護	歯科口腔介護														○	○	○	
顎口腔機能訓練法	顎口腔機能リハビリテーション														○			
口腔保健衛生臨床実習	顎口腔機能訓練法					○												
	発達育成系口腔保健衛生臨床実習									○								
	成人口腔保健衛生臨床実習 I									○								
	成人口腔保健衛生臨床実習 II														○			
高齢者口腔保健衛生臨床実習	高齢者口腔保健衛生臨床実習														○		○	
	障害者口腔保健衛生臨床実習														○		○	
地域口腔保健衛生臨床実習	地域口腔保健衛生臨床実習														○		○	
	高齢者・訪問口腔保健衛生臨床実習														○		○	
選択臨床・臨床実習	選択臨床・臨床実習													○		○		
口腔保健衛生基礎科学実習	口腔保健衛生基礎科学実習	○		○														
特論(卒業研究)	特論(卒業研究)													○		○		
低所得者に対する支援と生活保護制度	低所得者に対する支援と生活保護制度			○														
障害者に対する支援と障害者自立支援制度 I	障害者に対する支援と障害者自立支援制度 I			○														
障害者に対する支援と障害者自立支援制度 II	障害者に対する支援と障害者自立支援制度 II					○												
児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度 I	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度 I	○																
児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度 II	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度 II		○		○													
高齢者に対する支援と制度 I	高齢者に対する支援と制度 I					○												
高齢者に対する支援と制度 II	高齢者に対する支援と制度 II						○											
地域福祉の理論と方法 I	地域福祉の理論と方法 I							○										
地域福祉の理論と方法 II	地域福祉の理論と方法 II								○		○							
保健医療サービス	保健医療サービス										○							
就労支援サービス	就労支援サービス																○	
更生保護制度	更生保護制度																○	
権利擁護と成年後見制度	権利擁護と成年後見制度																○	
福祉行財政と福祉計画	福祉行財政と福祉計画																○	
福祉サービスの組織と経営	福祉サービスの組織と経営																○	
社会調査の基礎	社会調査の基礎										○							
相談援助の基盤と専門職	相談援助の基盤と専門職											○						
相談援助の理論と方法	相談援助の理論と方法											○						
社会福祉相談援助演習	社会福祉相談援助演習											○		○				
社会福祉相談援助実習指導	社会福祉相談援助実習指導											○		○		○		
社会福祉相談援助実習	社会福祉相談援助実習													○		○		

注) 選択科目は、年度によって開講しない場合がある。

放送大学単位互換制度利用科目については、履修時期が変更になる場合がある。

(2) 口腔保健学科
平成22年専門科目履修開始者

進級に関する事項	授 業 科 目
<p>右の授業科目について、第2学年次末までに単位の取得もしくは試験に合格しなければ、第3学年次の授業科目を履修することができない。</p>	<p>科学英語Ⅰ、人体の構造と機能Ⅱ、疾病の成立過程と生体防御、薬理・薬剤学、関係法規・衛生行政、現代社会と福祉Ⅰ、口腔健康科学、口腔保健衛生学原論Ⅱ、口腔疾患予防学、口腔健康統計学・情報処理論、口腔健康教育、口腔健康教育実習、食生活教育、口腔と全身の健康評価、口腔保健衛生基礎科学実習、児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度Ⅰ、障害者に対する支援と障害者自立支援制度Ⅰ、高齢者に対する支援と制度Ⅰ</p> <p>(第2学年次に実施される授業を対象とする)</p> <p>医学一般、口腔疾患予防学実習、臨床歯科医学、臨床口腔保健衛生基礎学</p>
<p>右の授業科目について、第3学年次前期までに単位の取得もしくは試験に合格しなければ、第3学年後期以降の授業科目を履修することができない。</p>	<p>医学一般、臨床歯科医学、口腔疾患予防学実習、保健行動科学、臨床口腔保健衛生基礎学、介護概論、地域福祉の理論と方法Ⅰ</p>
<p>右の授業科目について、第4学年次末までに単位を取得しなければ、卒業することができない。</p>	<p>歯科口腔介護、口腔保健衛生臨床実習、地域口腔保健衛生臨床実習、選択臨床・臨地実習、特論</p>

東京医科歯科大学試験規則（平成23年以降入学者）

（平成23年4月1日
規則第1号）

（趣旨）

第1条 この規則は、東京医科歯科大学における全学に共通する教育科目及び専門に関する教育科目（以下「授業科目」という。）の試験に関して、東京医科歯科大学学則（平成16年規程第4号。以下「学則」という。）、東京医科歯科大学全学共通科目履修規則（平成16年規則第217号。）及び東京医科歯科大学学部専門科目履修規則（平成22年規則第41号。）に定めるもののほか、必要な事項を定める。

（試験の種類）

第2条 試験は、本試験、追試験及び再試験とする。

（試験の方法）

第3条 試験は、筆答試験、コンピュータ活用試験、口答試験及び実地試験のいずれかによって行う。

（本試験）

第4条 本試験は、定期試験及び共用試験をいう。

2 共用試験は、医学部医学科及び歯学部歯学科において行う。

（定期試験）

第5条 定期試験とは、履修した授業科目について行う試験をいう。

2 定期試験の実施日時は、試験実施日の2週間前までに公示する。

3 定期試験を受験することのできる者は原則として次のとおりとする。

(1) 講義及び演習 当該授業科目の授業時間数の3分の2以上履修した者

(2) 実習 当該授業科目の授業時間数の4分の3以上履修した者

4 定期試験の結果は、公示する。

5 第3項に定めるもののほか、定期試験の受験資格に関し必要な事項は、医学部、歯学部又は教養部（以下「部局」という。）において別に定めることができる。

（共用試験）

第6条 共用試験とは、知識・問題解決能力を主として評価する多肢選択形式のコンピュータ活用試験（CBT）及び技能・態度を主として評価する客観的臨床能力試験（OSCE）をいう。

2 共用試験の実施日時は、試験実施日の2週間前までに公示する。

3 共用試験を受験することのできる者は医学部医学科及び歯学部歯学科において

別に定める。

4 共用試験の結果は、公示する。

(追試験)

第7条 追試験とは、病気、その他止むを得ない理由により本試験を受験できなかった者に対して行う試験をいう。ただし、追試験は原則として1回限りとする。

2 追試験を受験しようとする者(以下「追試験申請者」という。)は、所定の受験申請書に医師の診断書等の証明書類を添えて、本試験終了後原則として5日以内に医学部長、歯学部長又は教養部長(以下「学部長等」という。)に願い出て、許可を受けなければならない。

3 学部長等は、前項の申請について、教育委員会又は教務委員会と協議のうえ、その可否を決定し、追試験申請者に通知するものとする。

4 追試験受験決定が否の場合は、本試験を不合格とする。

5 試験の結果は、公示する。

6 第2項に定めるもののほか、追試験の申請に関し必要な事項は、部局において別に定めることができる。

(再試験)

第8条 再試験とは、本試験又は追試験を受験し、不合格となった者に対し行う試験をいう。ただし、再試験は、原則として1回限りとする。

2 再試験の実施日時は、指定の期日までに公示する。

3 再試験は当該学部長等の判断により、受験を許可しないことがある。

4 再試験受験決定が否の場合は、当該授業科目を不合格とする。

5 試験の結果は、公示する。

6 第3項に定めるもののほか、再試験の許可に関し必要な事項は、部局において別に定めることができる。

(試験の成績)

第9条 本試験及び追試験による成績については、科目責任者が100点満点で採点し、60点以上を合格とする。

2 再試験の成績については、科目責任者が採点する。ただし成績は、60点を上限とする。

3 共用試験の成績については、前2項の規定にかかわらず、医学部医学科及び歯学部歯学科において別に定める。

(成績の報告)

第10条 科目責任者は、本試験、追試験及び再試験について所定の用紙に採点結果を記入し、指定の期日までに当該学部長等に報告しなければならない。

2 医学科教育委員会委員長又は歯学科教育委員会委員長は、共用試験について所定の用紙に採点結果を記入し、指定の期日までに当該学部長に報告しなければならない。

(罰則)

第11条 試験において不正行為があったときは、学則第58条の規定による懲戒の手続きをとるものとする。

(補則)

第12条 この規則に定めるもののほか、試験に関し必要な事項は別に定める。

附 則

- 1 この規則は、平成23年4月1日から施行する。
- 2 東京医科歯科大学医学部試験規則（平成16年規則202号）は廃止する。
- 3 東京医科歯科大学歯学部試験規則（平成16年規則214号）は廃止する。
- 4 この規則は、平成23年3月31日において現に医学部または歯学部に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成23年4月1日以降在学者が所属する学年に再入学、転入学するものについては、改正後の規則にかかわらず、なお従前の東京医科歯科大学医学部試験規則または東京医科歯科大学歯学部試験規則の例による。

東京医科歯科大学歯学部口腔保健学科試験内規

平成23年12月7日
歯学部長制定

(趣旨)

第1条 この内規は、東京医科歯科大学試験規則（平成23年規則第1号。以下「試験規則」という。）第12条に基づき、歯学部口腔保健学科における専門に関する教育科目の試験に関し、必要な事項を定めるものとする。

(試験の種類)

第2条 試験規則第5条に規定する定期試験とは、期末試験及び中間試験とする。

(期末試験及び中間試験)

第3条 期末試験とは、履修を修了した授業科目及び授業科目を構成するユニット（以下「ユニット」という。）について定期的に行う試験をいう。

2 中間試験とは、履修中の授業科目及びユニットについて適宜行う試験をいう。

3 期末試験及び中間試験の実施時期については、口腔保健衛生学専攻及び口腔保健工学専攻（以下、「各専攻」という。）において別に定める。

(追試験)

第4条 追試験は、原則として定期試験の実施期間に行う。

(再試験)

第5条 定期試験に係る再試験は、原則として定期試験の実施期間に行う。

(補則)

第6条 この内規に定めるもののほか、試験に関し必要な事項は各専攻において別に定めることができる。

附 則

1. この内規は、平成23年12月7日から施行し、平成23年4月1日から適用する。
2. 東京医科歯科大学歯学部口腔保健学科に平成23年3月31日に在学し、引き続き本学科の在学者となった者（以下「在学者」という。）及び平成23年4月1日以後在学者の属する学年に再入学、転入学及び編入学する者に係る試験については、この内規の規定にかかわらず、なお従前の例による。

東京医科歯科大学歯学部試験規則（平成 22 年入学者）

平成 16 年 4 月 1 日
規則 第 2 1 4 号

第 1 章 総則

（趣旨）

第 1 条 この規則は、東京医科歯科大学歯学部専門科目履修規則（平成 22 年規則 4 1 号）第 1 1 条第 8 項の規定に基づき、歯学部における専門に関する教育科目（以下「専門科目」という。）の試験に関し、必要な事項を定める。

第 2 章 歯学部歯学科

（試験の種類）

第 2 条 試験は、ユニット試験、共用試験、臨床能力判定試験とする。

（ユニット試験）

第 3 条 ユニット試験とは、履修規則第 4 条別表 1（4）の表において定める授業科目（以下「モジュール」という。）におけるユニット終了時に行う試験をいう。

- 2 ユニット試験の実施日時は、原則として各ユニットの最終日に行う。
- 3 ユニット試験の受験資格は、講義は 3 分の 2 以上、実習は 4 分の 3 以上の出席を原則として、各ユニットで定める。
- 4 ユニット試験に係る追試験（疾病、負傷その他止むを得ない理由により期末試験を受験できなかった者に対して、行う試験をいう。）、及び再試験（ユニット試験又は追試験を受験し不合格となった者に対して、改めて行う試験をいう。）は、学年末の再試験期間等において実施する。

（共用試験）

第 4 条 共用試験とは、知識・問題解決能力を主として評価する多肢選択形式のコンピュータ活用試験（以下「CBT」という。）及び技能・態度を主として評価する客観的臨床能力試験（以下「OSCE」という。）をいう。

- 2 共用試験は第 5 学年前期終了後に実施する。なお、試験時日時は試験実施日の 3 週間前までに公示する。
- 3 共用試験を受験できる者は、第 5 学年前期に開講されるモジュール内のユニットの単位を全て修得している者とする。
- 4 共用試験の合格基準は別に定める。

（臨床能力判定試験）

第 5 条 臨床能力判定試験とは、第 6 学年末に行う包括臨床実習終了時 OSCE 及び臨床推論能力試験（症例発表会）をいう。

- 2 臨床能力判定試験については、別に定める。

（成績の報告）

- 第6条 モジュール担当教員は、ユニットごとの成績に基づき、平常授業態度等を加味し、所定の採点表に評点結果を記入して所定の期日まで歯学科長に報告しなければならない。
- 2 成績の評点は、100点満点とする。
 - 3 学習の評価は、履修規則第11条第6項別表2による。
 - 4 再試験の評点は、60点を限度とする。

第3章 歯学部口腔保健学科

(試験の種類)

- 第7条 試験は、期末試験、追試験、中間試験及び再試験とする。
- 2 期末試験は、履修を修了した授業科目について定期的に行う試験をいう。
 - 3 追試験は、疾病、負傷その他止むを得ない理由により期末試験を受験できなかった者に対して、その授業科目について行う試験をいう。
 - 4 中間試験は、履修中の授業科目について適宜行う試験をいう。
 - 5 再試験は、期末試験又は追試験を受験し不合格となった者に対して、その授業科目について改めて行う試験をいう。

(試験の実施時期)

- 第8条 期末試験の実施時期は別に定める。
- 2 追試験は、期末試験終了後1か月以内に行う。
 - 3 中間試験については、別に定める。

(試験の方法)

- 第9条 講義の試験は、筆記試験又は口頭試問により行う。
- 2 演習に関して試験を行う場合は、筆記試験又は口頭試問により行う。
 - 3 実習に関して試験を行う場合は、筆記試験、口頭試問又は実技試験により行う。

(試験実施の公示)

- 第10条 期末試験の日時は、試験実施日の2週間前までに公示する。
- 2 追試験の施行期日は、予め公示する。

(期末試験の受験資格)

- 第11条 期末試験は、講義及び演習については、当該授業科目の講義又は演習総時間数の3分の2以上出席して履修した者、実習については、当該実習総時間数の4分の3以上出席して履修した者でなければ、受験することができない。

(受験の申請)

- 第12条 試験を受験しようとするものは、受験申請書を提出するものとする。ただし、期末試験は、受験申請書の提出を要しない。
- 2 追試験を受験しようとする者は、所定の受験申請書に必要事項を記入し、理由書又は医師の診断書等の証明書類を添えて、当該試験終了後5日以内に口腔保健学科長に提出しなければならない。
 - 3 前項に規定する期日までに追試験の受験申請のない場合は、追試験を受験することができない。
 - 4 再試験は原則として行わない。ただし、期末試験又は追試験を受験し、不合格となっ

た者で平素の履修状況及び出席状況が良好な者に対して、願い出により行うことができる。

- 5 前項ただし書きの試験を願い出る者は、試験結果の発表があった日から起算して5日以内に再試験願いを口腔保健学科長に提出しなければならない。

(追再試験受験の可否)

第13条 口腔保健学科長は、追再試験の受験申請のあった者について、担当教員と協議の上、その可否を決定し、申請者に通知する。

(学習の評価並びに評点)

第14条 学習の評価は、試験の結果並びに実習成績等により行う。

- 2 成績の評点は、100点満点とする。
- 3 学習の評価は、履修規則第11条第6項別表2による。
- 4 期末試験を正当な理由がなく受験しなかった者又は受験申請書を提出して正当な理由なく追試験及び再試験を受験しなかった者は、そのときの当該授業科目の試験結果を不合格とする。
- 5 再試験の評点は60点を限度とする。

(試験結果の公示)

第15条 期末試験、追試験及び再試験の結果は、合否をもって公示する。

(実習・演習の修了認定)

第16条 実習及び演習については、所定の出席率を満たし、かつ次の各号の一に該当する者を当該授業科目の実習又は演習を修了した者と認める。

- (1) 製作品、レポート等(以下「製作品等」という。)の提出を必要とする授業科目の実習又は演習で提出した製作品等について担当教員が合格と判定した者
- (2) 担当教員が行う実習又は演習の試験に合格した者
- (3) その他担当教員が実習又は演習を修了したと判定した者

(卒業研究の修了認定)

第17条 卒業研究については、研究終了後に行う研究成果報告によって合格と判定された者を当該研究を修了した者と認める。

(実習・演習、卒業研究の修了認定の結果の公示)

第18条 実習・演習、卒業研究の修了認定の結果は、合否をもって公示する。

(成績の報告)

第19条 担当教員は、授業科目ごとに所定の採点表に評点結果を記入し所定の期日までに口腔保健学科長に報告しなければならない。

第4章 その他

(罰則)

第20条 試験に関し不正を行った者は、学則第58条の規定により懲戒する。

(その他)

第 2 1 条 この規則に定めるもののほか、試験に関し必要な事項は別に定める。

附 則

- 1 この規則は、平成 1 6 年 4 月 1 日から施行し、第 3 章の規定以外の規定は、平成 1 5 年 4 月 1 日から適用する。
- 2 国立大学法人の成立前の東京医科歯科大学歯学部平成 1 5 年 3 月 3 1 日に在学し、国立大学法人の成立の日において引き続き本学部の在学者となったもの(以下「在学者」という。)及び平成 1 5 年 4 月 1 日以後在学者の属する学年に再入学、転入学及び編入学する者の教育課程の履修については、この規則の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則 (平成 2 2 年 8 月 2 5 日規則第 6 2 号)

- 1 この規則は、平成 2 2 年 8 月 2 5 日から施行し、平成 2 2 年 4 月 1 日から適用する。
- 2 平成 2 2 年 3 月 3 1 日において現に歯学部在学する者(以下「在学者」という。)及び平成 2 2 年 4 月 1 日以降在学者の属する学年に再入学、転入学するものについては、改正後の規則にかかわらず、なお従前の東京医科歯科大学歯学部試験規則の例による。

學生周知事項等

歯科衛生士国家試験ならびに社会福祉士国家試験について

歯科衛生士国家試験

〔試験の概要〕

(試験科目)

人体(歯・口腔を除く)の構造と機能 歯・口腔の構造と機能、疾病の成り立ち及び回復過程の促進、歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み、歯科衛生士概論、歯科予防処置論、歯科保健指導論、歯科診療補助論

(受験資格)

- (1) 文部科学大臣の指定した歯科衛生士学校を卒業した者(卒業見込みの者を含む)
- (2) 厚生労働大臣の指定した歯科衛生士養成所を卒業した者(卒業見込みの者を含む)
- (3) 外国の歯科衛生士学校を卒業し、又は外国において歯科衛生士免許を得た者であって、厚生労働大臣が(1)又は(2)に掲げる者と同等以上の知識及び技能を有すると認めた者

(試験期日)

例年、3月の第1日曜日に行われます。

第22回(前回)の歯科衛生士国家試験は、平成25年3月3日(日)に行われました。

(受験手数料)

受験手数料の額は14,300円です。

(受験手続)

1. 必要書類

ア. 受験願書

イ. 写真

ウ. 卒業証明書又は卒業見込証明書(受験資格の(1)、(2)に該当する者)

なお、(1)、(2)に該当する者で卒業見込証明書を提出した者にあつては、3月15日午後5時までに卒業証明書を提出する。当該期日までに、提出されないときは、当該受験は無効となる。

2. 出願について

出願については、大学で必要書類をとりまとめ、歯科医療研修振興財団に提出します。

なお、受験願書、写真用台紙、受験手数料払込用紙等は、一般財団法人歯科医療振興財団から毎年10月中旬に各学校・養成所宛に届きますので、受験予定者は学務部教務課歯学系教務掛にて受領してください。試験の詳細については、受験案内で確認してください。

社会福祉士国家試験

〔試験の概要〕

(試験科目)

人体の構造と機能及び疾病、心理学理論と心理的支援、社会理論と社会システム、現代社会と福祉、社会調査の基礎、相談援助の基盤と専門職、相談援助の理論と方法、地域福祉の理論と方法、福祉行財政と福祉計画、福祉サービスの組織と経営、社会保障、高齢者に対する支援と介護保険制度、障害者に対する支援と障害者自立支援制度、児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度、低所得者に対する支援と生活保護制度、保健医療サービス、就労支援サービス、権利擁護と成年後見制度、更生保護制度

(受験資格)

- (1) 4年制大学等で指定科目を修めて卒業した方
- (2) 2年制（又は3年制）短期大学等で指定科目を修めて卒業し、指定施設において2年以上（又は1年以上）相談援助の業務に従事した方
- (3) 社会福祉士短期養成施設（6月以上）を卒業（修了）した方
- (4) 社会福祉士一般養成施設（1年以上）を卒業（修了）した方

(試験期日)

次回（第26回）の試験は、平成26年1月下旬に行われる予定です。

第25回（前回）の試験は、平成25年1月27日（日）に行われました。

(受験手数料)

受験手数料の額は7,540円です。

(受験手続)

1. 必要書類

ア. 受験申込書

イ. 写真

ウ. 卒業証明書又は卒業見込証明書（受験資格の（1）に該当する者）

2. 出願について

公益財団法人社会福祉振興・試験センターより本学に出願書類が届いた後、学務部教務課歯学系教務掛が社会福祉士養成課程履修者（4学年）に出願書類を配布します。受験予定者は出願書類を学務部教務課歯学系教務掛に提出してください。

学生周知事項

1. 掲示について

学生へ告知、通知、連絡はすべて掲示板により掲示する。掲示の見落としのないよう十分注意すると共に、1日に1度は掲示を見て不利益をこうむらないように心がけること。2～4学年用の教務連絡用掲示板は1号館西7階リフレッシュルーム前に設置されている。

また、eラーニングシステム（WebClass）や電子メール（Webメール）によって連絡されることがあるので頻繁に確認すること。

2. 学生証について

- (1) 学生証は常に携帯すること。
- (2) 学生証を紛失又は破損等したときは、学務企画課（1号館西1階）に届け出て再交付の手続きをすること。
再交付費用(2,200円)は学生本人の負担とする。
- (3) 学生証は卒業、退学または除籍のときは直ちに学務企画課へ返納すること。
返却出来ない場合は、費用を負担することとする。

3. 学生旅客運賃割引証

- (1) 課外活動又は帰省等でJR線を利用し、乗車区間が片道100kmを超える場合旅客運賃の割引（2割）を受けられることができる。
- (2) 学割証の不正使用（第三者への貸与等）は絶対にしないこと。
- (3) 年間使用限度枚数は1人10枚（1回につき2枚まで）
- (4) 私鉄、バス等の利用において通学証明書を必要とする場合は、所定の用紙を貰い持参すること。
- (5) 学生が必要なときは5号館3階談話室にある証明書自動発行機を使用すること。
(利用日時：月曜日～金曜日、8：30～21：00)
(問い合わせ先：学生支援課（内線5077）)

4. 証明書等

証明書等は、教務課及び証明書自動発行機にて発行する。

- (1) 教務課歯学系教務掛（1号館西1階）（受付時間 8：30～17：15）

次に掲げるものは、教務課で発行する。

(①と②の交付は、原則として交付願を受理した日から1週間程度要します。)

①成績証明書

②調査書

③英文の在学証明書

④通学証明書（交通機関から請求された場合に限る。）

通学証明書が必要な場合は、歯学系教務掛に問い合わせてください。

鉄道やバスの通学定期券を購入する場合は、住居の最寄り駅または大学の最寄り駅にて学生証を提示し、直接購入すること。

- (2) 次に掲げるものは、5号館3階談話室にある自動発行機で発行する。

①在学証明書

②卒業見込証明書（第4学年在籍者のみ。）

(利用日時：月曜日～金曜日、8：30～21：00)

問い合わせ先：学務企画課企画調査掛（内線5074）

5. 住所・氏名等の変更について

本人又は保証人の住所、氏名、電話、本籍等（電話番号を含む。）に変更が生じたときは、速やかに教務掛へ申し出て所定の手続きをすること。

6. 休学、復学、退学、欠席

(1) 授業の欠席

病気その他の事由により欠席した場合は、欠席届を教務課歯学系教務掛（1号館西1階）へ提出すること。

（病気の場合は、必ず医師の診断書を添付すること。）

(2) 休学

病気その他の事由により、引き続き3ヶ月以上休学する場合は、休学願（保証人連署）を歯学系教務掛へ提出し、学長の許可を得ること。（病気の場合は、必ず医師の診断書を添付してください。）

また、休学を許可される期間は、通算して2年以内。

（特別の事情があるときは、更に1年以内の休学が許可されることがある。）

(3) 復学

休学している学生が、休学許可期間の途中または満了時に復学を希望する場合は、復学願（保証人連署）を歯学系教務掛へ提出し、学長の許可を得ること。（病気を理由に休学した場合は、復学可能である旨の医師の診断書を添付すること。）

(4) 退学

病気その他の事由により、学業を継続することが困難となり、退学しようとする場合は、退学願（保証人連署）を歯学系教務掛へ提出し、学長の許可を受けること。

なお、退学するにあたっては、事前に担任教員等と面談し、退学事由等について十分相談すること。

7. ネームプレート着用について

歯学部学生であることを明示するために、歯学部・同附属病院では必ず着用すること。

プレートは貸与とし、紛失又は破損した場合は再交付を受けるものとする。この場合は実費負担すること。

学科名と氏名の間のスペースに学年を表示するシール（例「0H4」）を貼ること。シールは歯学系教務掛で配布しているので、汚損したら適宜貼り替えること。

8. 授業中（大学行事、課外授業を含む。）の事故等

入学時に加入した「学校教育災害傷害保険」（学研災）および「医学生教育研究賠償責任保険」（医学賠）の対象となります。（詳細は「学生生活の手引き」を参照してください。）

9. 遺失物および拾得物

校内での遺失物に関する問い合わせまたは拾得物の届け出は、下記のとおりです。

(1) 講義室、実習室、ロッカー室・・・学務部教務課（1号館西1階：内線5411）、歯学部防災センター（歯科棟北1階）

(2) 上記（1）以外・・・歯学部総務課（歯科棟南2階：内線5406）

10. 授業料の払込について

金融機関の預金口座振替により、授業料を引き落とす。

前期分授業料は4月中に、後期分授業料は10月中に納付すること。

11. 湯島キャンパスにおける講義受講に際しての注意事項

- (1) 平日の午前8時30分から午後5時まで歯学部附属病院玄関から出入りすることを原則禁止
- (2) 歯学部建物内へは以下のように出入りすること
 - 1) 聖門↔1号館、2号館、7号館
 - 2) 正門↔1号館、2号館、7号館
 - 3) 御茶ノ水門あるいは丸の内線出口↔歯学部附属病院防災センター（歯学部時間外通用口）
- (3) 白衣又は実習着を着用していない学生は、歯学部附属病院の聖橋側エレベーターを使用すること。
- (4) 臨床実習履修中の学生以外がやむを得ない理由で歯学部附属病院内を移動するときは、私語を慎むこと。
- (5) 白衣又は実習着を着用したまま学外に出ないこと。

12. 授業中のパーソナルコンピュータ、スマートフォンなどの機器使用の制限について

授業中におけるパーソナルコンピュータ、タブレット端末、スマートフォンなどの携帯電話等の使用に関して以下のように定められています。

- (1) 当該授業に関係のない機器を使用することを禁ずる。
- (2) 上記1の状況において、授業担当者あるいは授業補助者が、学生が当該機器を使用していると認めたときはこれを制限できる。この場合制限とは以下のことをいう。
 - 1) 当該機器の電源を強制的にOFFにする。
 - 2) 当該授業終了時まで授業担当者あるいは授業補助者が当該機器を保管することができる。
 - 3) 当該学生を退出させる。再入室にあたっては当該機器を持ち込んでいないことを条件とする。

13. カードリーダーの設置について

第1～4講義室およびリフレッシュルームにはカードリーダーが設置されます。

カードリーダーの使用方法については別に周知されるので、教員の指示にしたがって使用すること。

14. 台風等の自然災害や交通機関運休による休講措置（湯島地区）

台風等の自然災害や交通機関運休に伴う湯島地区で行う授業の休講、試験の延期の措置等を決定した場合は、下記により本学のホームページ「学部・大学院」ニュース欄に掲載します。

URL : <http://www.tmd.ac.jp/faculties/index.html>

- 台風などで首都圏に直接災害が予想される場合
 - ・ 午前の授業を休講、午前の試験を延期とする場合は、午前6時30分までに公示する。
 - ・ 午後の授業を休講、午後の試験を延期とする場合は、午前10時までに公示する。
 - ・ 夜間（午後6時以降）の授業を休講、夜間（午後6時以降）の試験を延期とする場合は、午後4時までに公示する。
- 首都圏における交通機関（JR及び大手私鉄・地下鉄など）が全面的に運転を休止している場合
 - ・ 午前の授業を休講、午前の試験を延期とする場合は、午前6時30分までに公示する。
 - ・ 午後の授業を休講、午後の試験を延期とする場合は、午前10時までに公示する。
 - ・ 夜間（午後6時以降）の授業を休講、夜間（午後6時以降）の試験を延期とする場合は、午後4時までに公

示する。

15. 授業中の大規模地震のときの避難場所について

1号館西での授業中に大規模地震が発生した際には、口腔保健衛生学専攻の学生は1号館西1階の正面玄関前に避難してください。ただし、状況に応じて別の避難場所に誘導される場合があります。

大学全体としての避難場所はM&Dタワー前スペースとなっています。平成25年4月現在、立体駐車場の工事中なので、その近辺（歯学部附属病院前、医科A棟前）に避難してください。

16. 大規模地震ポケットマニュアルについて

このマニュアルは、大規模地震（震度5強以上を想定）が発生した場合の初動対応を掲載しています。常時携行し、大規模地震が発生した場合の安全確保や避難及び安否確認等に役立ててください。

マニュアルが手元に届かない場合或いは破損・紛失した場合は以下にお問い合わせ願います。英語版のポケットマニュアルも作成していますので、必要な場合は以下に申し出てください。

問い合わせ先：学務部教務課（1号館西1階）03-5803-5118(教務課長)

なお、このマニュアルは、ホームページ（学内専用サイト → 学内専用教職員学生向け情報 → 危機管理の関する情報）からも確認できます。

17. 安否確認システムについて

このシステムは、大規模地震はもとより、風水害等による本学の学生及び教職員の安否確認のため、携帯電話・スマートフォン・パソコンから安否情報を入力するものです。

大規模地震や風水害の際には、この度配付しました「大規模地震ポケットマニュアル」の「安否確認システムによる報告」をご覧ください。ポケットマニュアルに掲載のQRコード又は、URL(<https://anpi.tmd.ac.jp/>)を直接入力することにより安否確認システムにアクセスし、ID（職員番号又は学籍番号）とパスワード（初期値は、IDと同じ。）によりログインして自身の安否を入力してください。

大規模地震や風水害の際には、本システムにより大学からの情報（大規模地震などの危機事象ごとに安否確認のお願いを掲載します。）を確認していただき、安否情報の入力をお願いします。

今後、このシステムの実効性を高めるため、試行を重ねたいと考えていますが、その際はメール等によりご案内しますのでご協力願います。

なお、このシステムの操作方法につきましては、ホームページ（学内専用サイト → 学内専用教職員学生向け情報 → 危機管理の関する情報）からも確認できます。

18. その他

(1) クラブ、サークル等宛の郵便物等は、学生支援課の窓口で保管していますので、責任者は適宜確認してください。

なお、個人宛の郵便物等は、大学に配達されないようお願いいたします。

(2) 事務の窓口

教務事務・・・・・・・・学務部教務課歯学系教務掛（1号館西1階・内線5411）

授業料の納入・・・・・・・・財務施設部 財務管理課収入管理掛（1号館西3階・内線5048）

奨学金・授業料免除・・学務部学生支援課学生支援総括掛（1号館西1階・内線5077）

スチューデントセンター（5号館2階）について

1. 本学の学生に対して、生活、修学、就職、メンタルヘルス及びハラスメントに関することなど、キャンパスライフ全般に渡り、全学的に支援を行い、もって学生支援活動の充実を図ることを目的として設置されました。
2. 開室時間：
9：00～17：00
3. 主な業務：
 - キャンパスライフ全般、生活・修学・就職に関する支援
 - メンタルヘルスやハラスメントに関する相談及びカウンセリング
4. 個別相談：
10：30～17：00
5. 詳細はWebサイト (<http://www.tmd.ac.jp/cmn/stdc/index.html>) を参照してください。（内線4959）

保健管理センター（5号館2階）について

1. 利用可能時間：
8：45～12：00、13：00～17：00
内線5081
2. 主な業務：
 - 健康相談・処置
(担当医による相談受付時間、10：00～12：00、13：00～15：00)
 - 健康診断書の発行（申込受付時間、8：30～17：00）
 - 健康診断と各種検査、ワクチン接種（年間予定によって行われる）
3. 詳細は「保健管理センター案内」を参照してください。（内線5081）

図書館本館（M&Dタワー3・4階）について

1. 図書館の利用には、利用証が必要です。ICカードタイプの学生証（IC身分証）が利用証になります。
2. 開館時間： 平日 8：30～22：00、土日祝 10：00～18：30
(情報検索室) 平日 9：00～21：00、土日祝 11：00～17：30
3. 休館日： 年末年始
4. 利用可能内容（詳細は図書館ホームページおよび利用案内を参照してください）
 - 貸出：貸出を希望される資料と利用証を持って、カウンターへお越しください。本館では自動貸出機もご利用いただけます。
 - 電子ジャーナル： 出版社との契約により、学内LANからの利用のみになります。
 - 資料の複写：本学の資料を著作権の範囲内で複製することができます。コピーはセルフサービスです。各図書館に設置されているコピー機をお使いください。料金、モノクロ1枚 10円、カラー1枚 30円。
 - 情報検索室の利用：情報検索室では備付のPCが利用できます。ネットワークの利用にはアカウントとパスワードが必要です。
 - パソコンの利用：館内は無線LAN対応です。接続方法は、「学内LAN接続マニュアル」をご覧ください。（学内のみ閲覧可能）。各自で持ち込まれるパソコンからインターネット、学内LANに接続する場合は、アカウント

とパスワードが必要となります。

- 相互利用 (ILL) : 利用したい資料が学内 (講座・電子ジャーナル含む) になく、他大学や研究機関の図書館で所蔵している場合、以下のサービスが利用できます。複写を申し込む、図書を取り寄せる、直接訪問する。他大学の図書館を利用する場合、身分証の他に紹介状が必要です。
5. 注意事項 (詳細は図書館ホームページおよび利用案内を参照してください)
- 会話は必要最小限を、周囲に迷惑にならないような声量で行ってください。 本学の図書館は、医療・医学情報を求める患者さんや学外の研究者の方も利用しています。会話の内容については、誤解を招かないよう、個人情報の漏洩の無いよう、十分注意願います。館内での携帯電話の通話はお控えください。
 - 館内での飲食は原則禁止です。(3階の図書館入口前に、飲食ラウンジがあります。) 閲覧室のみ、蓋付きの容器に入った飲料水をご利用いただけます。PC設置場所及び情報検索室では、飲食は厳禁です。
 - 資料は大切に取り扱い、書き込み、切り取り、汚損等はしないでください。
 - 貴重品は常に携帯し、所持品の管理は各自で責任を持って行ってください。
 - その他、図書館員の指示に従ってください。
6. 明治大学との相互利用 :
- 東京医科歯科大学が発行する身分証・図書館利用証を持参すれば、明治大学の各図書館 (中央、和泉、生田図書館) に入館し、貸し出しを受けることが出来ます。貸し出しの初回は住所が確認できるもの (運転免許証、健康保険証等) が必要です。「相互利用案内」を必ず一読の上、利用願います。

国立美術館キャンパスメンバーズについて

「国立美術館キャンパスメンバーズ」とは、学校教育において美術館を有効に活用することと、学生や教職員の美術に親しむ機会をより豊かにすることを目的とした、大学等を対象とする制度です。本学でもこのキャンパスメンバーズに加入しています。

キャンパスメンバーズの利用方法

対 象 : 本学の学部学生・大学院生・歯科技工士学校生・教職員

特 典 : 所蔵作品展の「無料観覧」(所蔵作品を持たない国立新美術館を除く)

特別展・共催展の「割引観覧」(学生は大学生団体料金・教職員は一般団体料金)

利用方法 : 各館の券売所または改札で学生は学生証、教職員は身分証明書を提示しキャンパスメンバーズの利用の旨を伝え、入館または観覧券を購入してください。

利用機関 : 国立西洋美術館、東京国立近代美術館、国立新美術館、国立国際美術館、京都国立近代美術館

1号館西・2号館・7号館の管理、使用について

1. 1号館西・2号館・7号館の出入口の施錠について

1号館西出入口 1階正面玄関 終日出入可（防災センター管理）

1階東側出入口 解錠 6:00 施錠 18:30

2号館出入口 2階正面玄関 解錠 7:30 施錠 18:00

2階西側外階段 解錠 7:00 施錠 18:00

（施錠後はカードリーダーに学生証をタッチすることで外から入ることが可能です。）

7号館出入口 1階聖門側（1ヶ所） 解錠 7:30 施錠 18:00

歯科棟北接続口（東側6か所） 解錠 7:30 施錠 18:00

1号館東接続口（2階、3階 2ヶ所）

消防法の規定により、歯科棟側は避難口のため施錠しても建物内から外へはいつでも出られる。ただし、1号館東接続部（2階、3階）は施錠すると出入りできない。

2. 1号館西・7号館内各室の施錠について

1号館西 第1～3講義室 解錠 7:30 施錠 18:00

第4講義室 解錠 7:30 施錠 19:00

リフレッシュルーム 解錠 7:30 施錠 19:00

学生ロッカー室 各人の責任で解・施錠し、防犯に努めること。

7号館 講義室 解錠 7:30 施錠 17:00

リフレッシュルーム 解錠 8:30 施錠 19:30

3. 1号館西・7号館における講義室の目的外使用について

講義室は、原則として目的外使用は許可しない。

4. 学生のロッカー室（1号館西7階）について

(1) 2・3年女子は第3ロッカー室、4年女子は第2ロッカー室、男子学生は第1ロッカー室を使用すること。

(2) ロッカー室は、更衣のほか、休憩室として使用する。

(3) 各人にロッカーが貸与されるので、丁寧に使用すること。また、各人の責による破損等については、各人の負担により原状回復すること。

(4) 各人で錠前を購入して、ロッカーには必ず鍵を閉め、盗難に注意すること。ロッカーでの盗難が多発しているので、とくに貴重品等の管理は厳重にすること。

(5) ロッカーの上部に私物を置かないこと。置いた場合は、教務掛で撤去する。

(6) ロッカーの内外部にシール、ポスター等を貼らないこと。

(7) ロッカー室に飲食した空容器、紙クズ等は散らさないように必ず分別してゴミ箱に捨てること。

(8) ロッカー室でサークルの集会をしたり、マーじゃん等はしないこと。

5. リフレッシュルーム（1号館西7階）の使用について

(1) 口腔保健衛生学専攻2～4年生が使用できるほか、口腔保健衛生学専攻1年生も使用することができる。

(2) 食事・休憩・歯磨きなどの目的で使用する。

(3) 周囲に迷惑がかからぬよう、お互いに協力して、節度をもって使用すること。

(4) 注意事項

- 私物を保管・放置等、特定の場所の占拠をしないこと。（放置された私物は、適宜、予告なしに処分する。）
- エアコンの設定温度に留意し、誰もいないときには止めること。
- 飲食した空容器、紙クズ等は散らさないように必ず分別してゴミ箱に捨てること。
- 洗面台の排水が詰まるので、食べ物のカス等を流さないこと。
- ホワイトボードは学生間の連絡に使用できるほか、教員からの連絡にも使用するので、不要になった書き込みは書いた者が責任をもって消し、不要になった掲示物も掲示した者が撤去すること。

(5) 平日に使用できるが、長期休暇中は平日も施錠されるので、その期間中に使用したい学生は、口腔保健衛生学専攻教員に申し出て解・施錠してもらうこと。

6. 歯学部学生リフレッシュルーム（7号館1、6階）の使用について

- (1) 歯学部在籍する学生が使用することができる。
- (2) 休息・飲食・自己学習・打合せなどの目的で使用する。
- (3) 平日に使用できるが、利用約束を守って使用すること。
(問合せ先：教務課歯学系教務掛)

7. 学生用ホワイトボード・掲示板の使用について

- (1) 掲示物の内容については関知しないが、良識をもって掲示すること。
- (2) 掲示期間を過ぎることのないよう自主的に撤去すること。
(ホワイトボードの設置場所……第1～4講義室内、掲示板の設置場所……第3講義室後方)

8. 講義室・実習室の使用について

- (1) 講義室・実習室における飲食は原則として禁止する。
- (2) 講義室の机の上に腰をかけないこと。
- (3) 7号館7階以上は動物実験施設なので感染予防等のため関係者以外の出入りを禁止する。
- (4) 講義室・実習室においては、紙クズ等は散らさないように必ず分別してゴミ箱に捨てること。
- (5) 参考書・ノート等の私物は講義室の中に放置しないこと。（放置された私物は、適宜、予告なしに処分する。）
- (6) 室内は学生用ホワイトボード・掲示板以外に掲示物の添付を禁ずる。
- (7) 講義室・実習室等においては、下駄ばきを厳禁する。

9. スキルラボⅡ（1号館西5階）の使用について

スキルラボⅡには、学生が各自で技術練習できるよう、必要な設備・機器が整備されている。実習時間数には限りがあり、個人に寄って技術の習熟度が異なるので、口腔保健の専門職として臨床上に必要な技術を修得するためには日々の研鑽が不可欠である。実習で修得した技能の確認、向上のため、スキルラボⅡを積極的に利用し、主体的に技術の修得に努めること。

附属病院内での注意事項

1. 附属病院内の通行に際しては、特に患者さんに配慮すること。
2. 附属病院内の患者待合室での休憩は差し控えること。
3. 附属病院内では、つっかけ・スリッパ等の使用を禁止する。

視聴覚研修スペースについて

7号館6F「視聴覚研修室・歯学部学生リフレッシュルーム」の半分は、自己学習等に使用できるよう、備付PCが10台設置されている。また、無線LAN付の個人PCにより学内LANへの接続も可能である。

施設を利用する場合、下記の注意事項を厳守すること。

1. 利用時間

平日 午前8時30分～午後7時30分

2. 利用する上での注意事項

- (1) きれいに、清潔に利用すること。
- (2) 一部の学生が独占的に利用する環境を作らないこと。
- (3) 私物や貴重品は極力置かないこと（紛失は本人の責任となる）。
- (4) 禁煙とする。
- (5) 備付の機器の使用にあたっては丁寧に行い、故障・不具合があった場合は、教務課に連絡すること。
- (6) 共同利用施設であることを認識し、他の利用者の迷惑になるような行為をしないこと。
- (7) 無線LAN等による学内LANへの接続方法については本学HP、図書館情報メディア機構内のマニュアルを参照すること
http://www2.tmd.ac.jp/cmn/lib/using_lan.pdf

<付記>

本スペースの他、図書館情報メディア機構内「情報検索室」にも同様に使用できるPCがある。

歯学部附属病院の機構

歯学部附属病院は患者の診療を通じて歯学の教育と研究を行う場です。しかし、最近では社会の要請にも答える必要から、歯科医療における模範的診療機関としての使命も課せられています。

1. 診療科

歯科病棟	8階
歯科麻酔外来	7階
インプラント外来	
口腔外科外来	6階
顎顔面外科外来	
顎義歯外来	
言語治療外来	
むし歯外来	5階
歯周病外来	
第一総合診療室	4階
第二総合診療室	
歯科心身医療外来	
顎関節治療部	
快眠歯科（いびき・無呼吸）外来	
義歯外来	3階
歯科アレルギー外来	
スポーツ歯科外来	
クリーンルーム歯科外来	
矯正歯科外来	2階
小児歯科外来	
ペインクリニック	
口腔ケア外来	
歯科総合診療部	1階
スペシャルケア外来（高齢者）	
スペシャルケア外来（障がい者）	
摂食リハビリテーション外来	
息さわやか外来	
セカンドオピニオン外来	
歯科放射線外来	地下1階

クリーンルーム歯科外来（3階）は、院内感染のリスクを分散しないために、血液・唾液・その他を媒体として院内感染を引き起こす可能性のある病原微生物（肝炎ウイルス、HIV、MRSA

など)を有する患者のうち、外来診療が行える患者の歯科診療が行われています。

第1総合診療室1(4階)は歯学科の学生臨床実習の場として、一口腔単位の総合歯科診療が行われています。第1総合診療室2(4階)は口腔保健学科口腔保健衛生学専攻学生の口腔ケアの臨床実習が行われます。第2総合診療室(4階)は臨床研修医の総合研修が行われています。

2. 病棟(8階)

入院患者のために、60床のベッドとそれに必要な処置室、記録室等付帯施設が完備され、基準看護のもとに、日夜にわたる診療体制が敷かれています。

3. 中央診療施設

検査部、歯科技工部、医療安全管理室、感染対策室、診療情報管理室、歯科臨床研修センター、地域歯科医療連携センター、歯科医療情報センター、歯科器材・薬品開発センター、中央手術室、中央器材室が設置されています。

4. 薬剤部(1階)

数名の薬剤師が配置されており、薬剤に関する業務(調剤、製剤、処方、薬品の管理、薬品の情報の収集・伝達など)および臨床実習を行う学生に対する処方箋の取り扱いその他の教育を行っています。

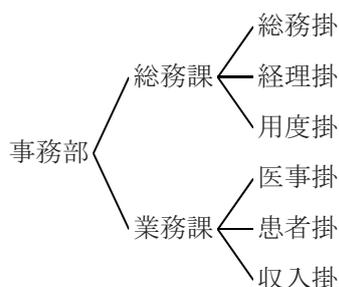
5. 看護部

約80名の看護師が各診療科や病棟に配置されており、病院の看護業務を行っています。

6. 歯科衛生保健部

約30名の歯科衛生士が口腔ケア外来や関係診療科に配置されており、歯科診療における歯科健康教育、歯科予防処置、歯科診療補助を行っています。口腔保健学科口腔保健衛生学専攻の学生の教育を行っています。

7. 事務部



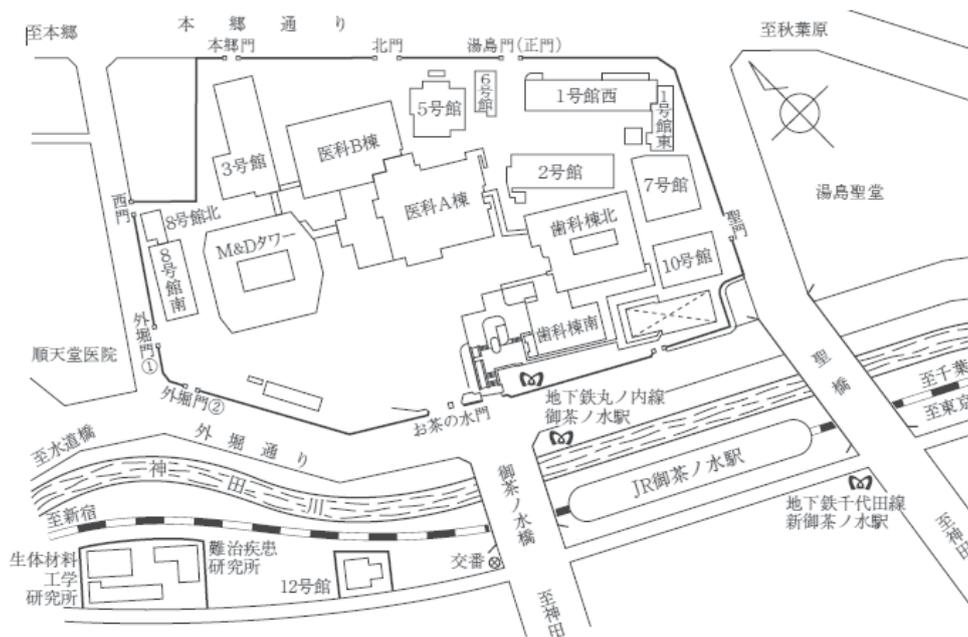
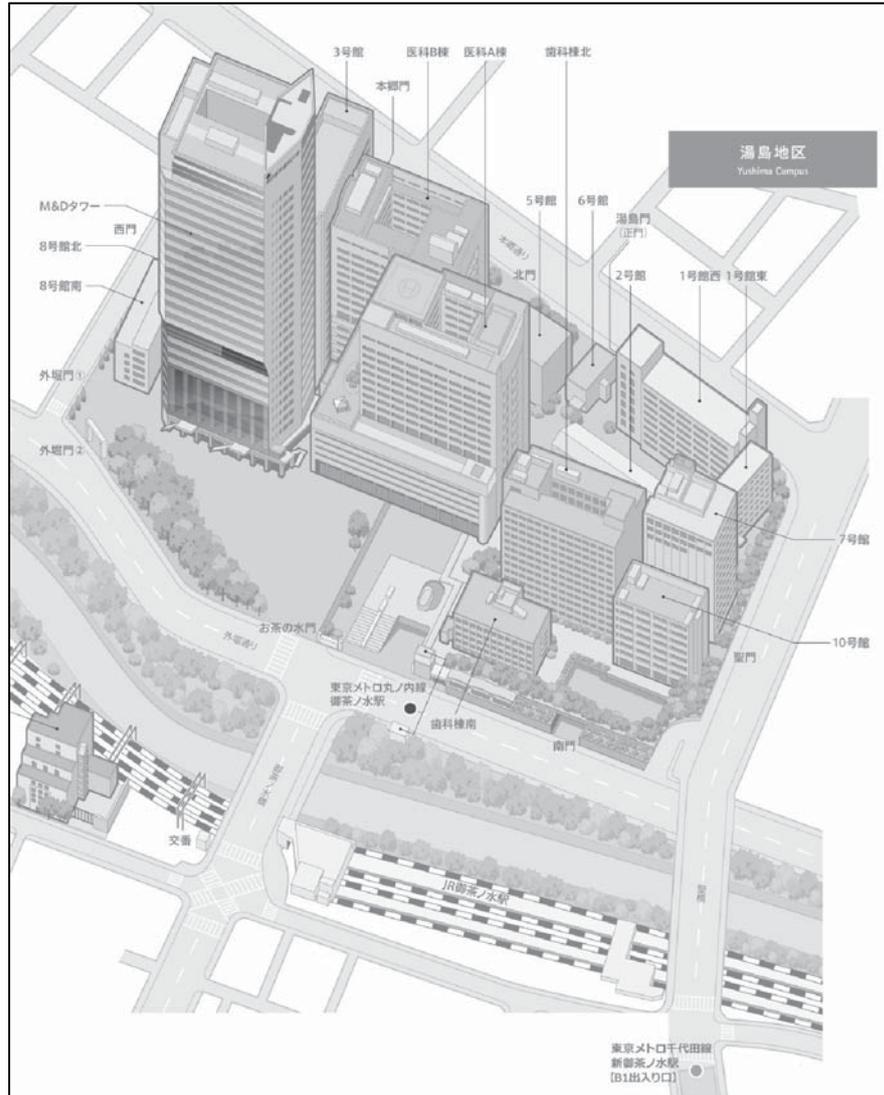
学務部 — 教務課 — 歯学系教務掛

歯学部の実務業務は、総務課と業務課によって行われています。また、学生は学務部教務課歯学系教務掛を通じて病院内で勉学できるようになっています。患者は全て業務課を経て受診するように決められています。患者の歯科技工に用いる歯科材料は、医事掛材料室から給付されます。

8. 病院の管理運営

病院長が病院の管理運営を統括します。病院は、病院長、各科長、各部長によって構成される病院運営会議によって運営されます。また、学生の臨床教育については、各臨床教授で構成される臨床教育会議および歯学科、口腔保健学科教育委員会において討議されています。

湯島キャンパス案内

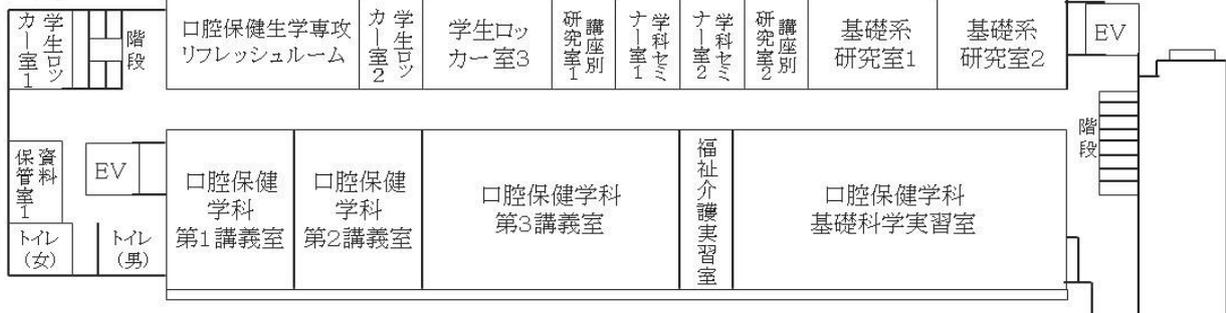


1号館西5～8階平面図

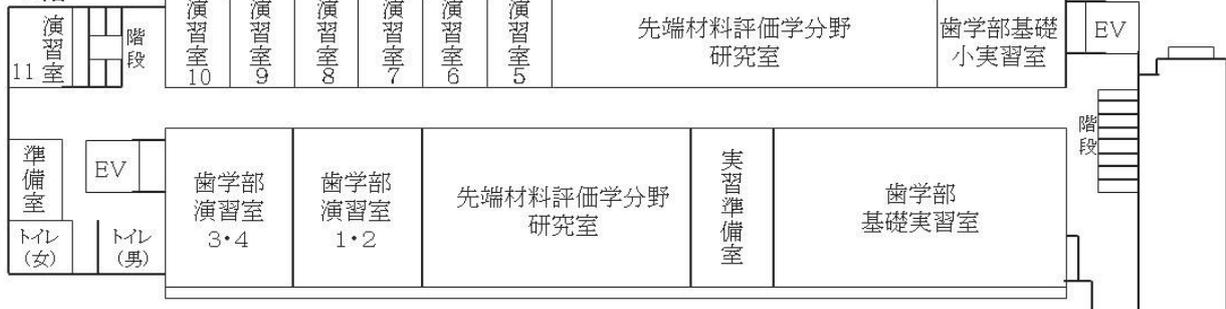
8階



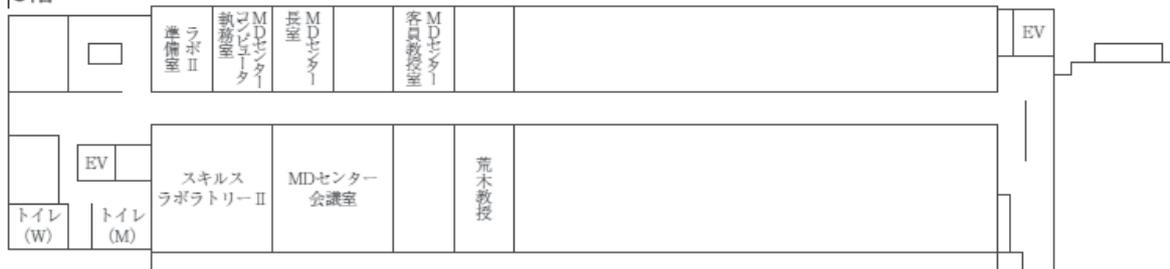
7階



6階

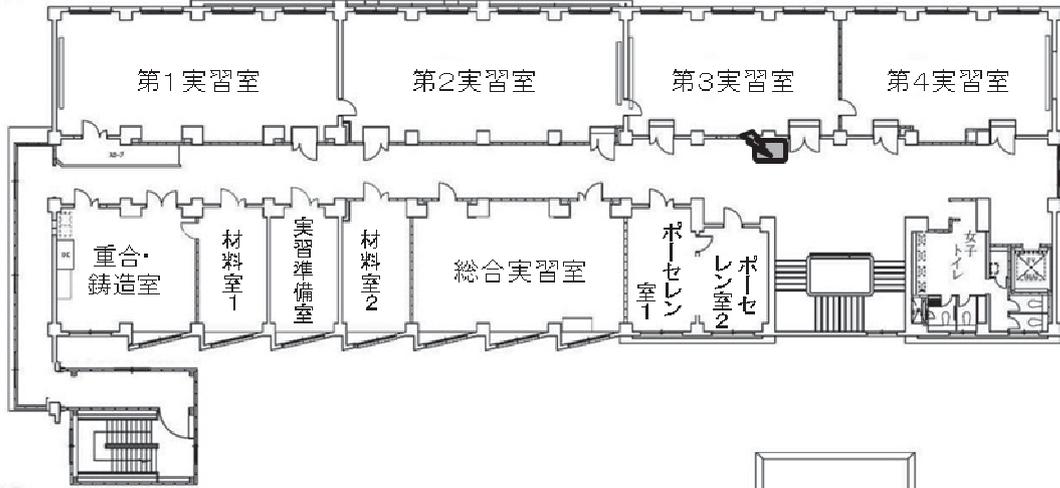


5階

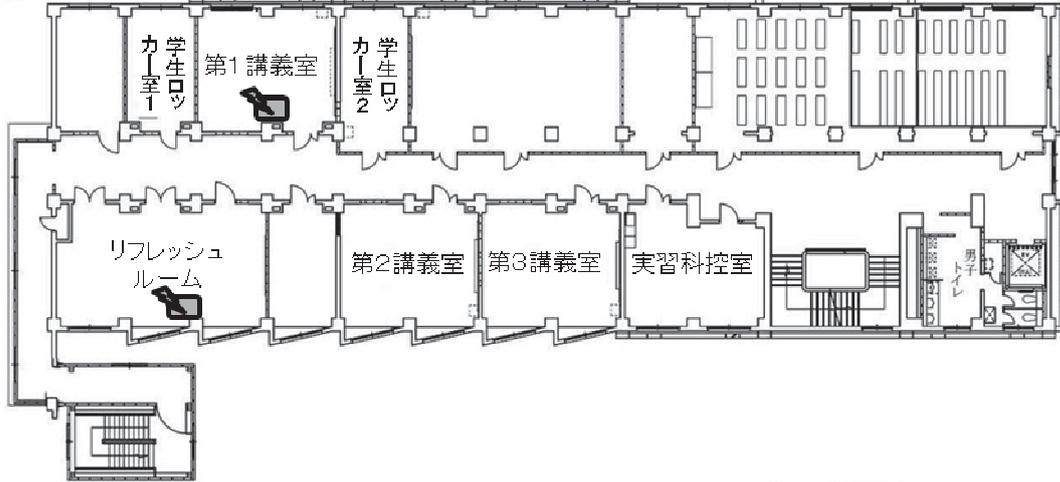


2号館平面図

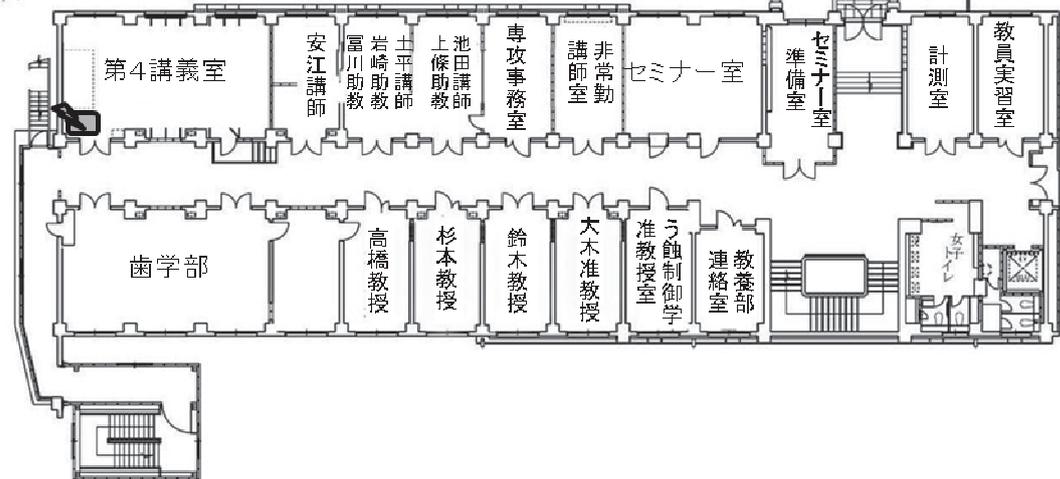
4階



3階



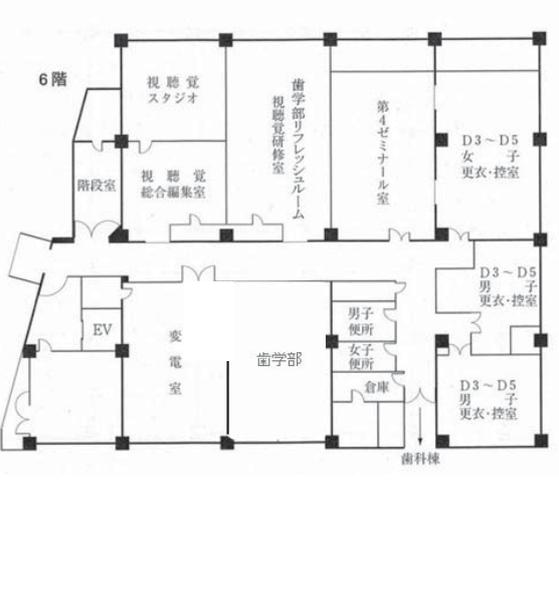
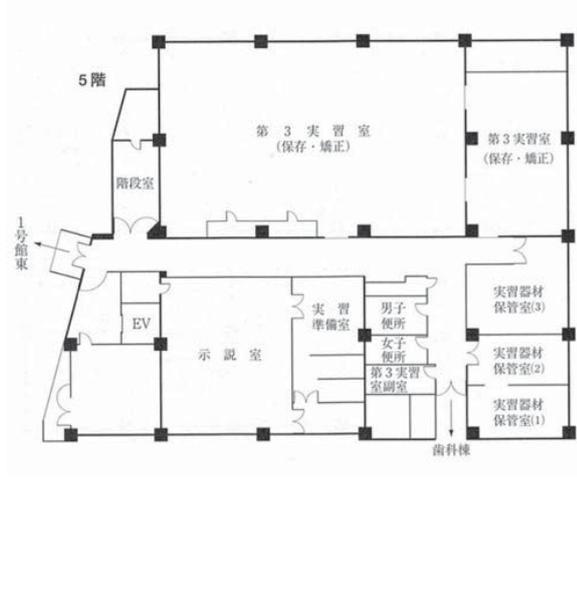
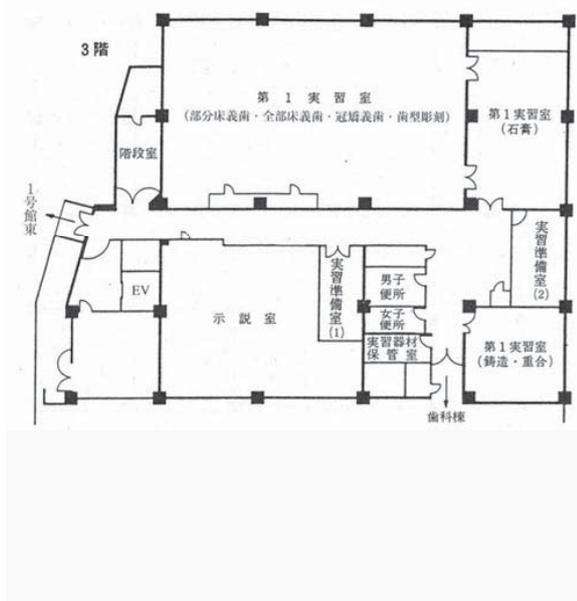
2階



2階
 歯科棟
 連絡口

 :カードリーダー設置場所

7号館平面図



1号館の配置

階	1号館西				1号館東	
	講義室・実習室	研究室等	教授室等	その他	研究室等	教授室
9	特別講堂			歯科同窓会事務室 特別第1会議室		
8	口腔保健衛生学専攻 第4講義室 臨床基礎実習室 相互実習室 メディア実習室	口腔保健衛生学専攻 学科セミナー室3 講座別研究室3 臨床系研究室	口腔保健衛生学 専攻 教授室 准教授室 講師・助教室	口腔保健衛生学専攻 学科事務室 非常勤講師室 資料保管室2		
7	口腔保健衛生学専攻 第1～3講義室 基礎科学実習室 福祉介護実習室 学生ロッカー室1～3 リフレッシュルーム	口腔保健衛生学専攻 学科セミナー室1,2 講座別研究室1,2 基礎系研究室1,2		口腔保健衛生学専攻 資料保管室1	歯学部会議室 第1,2ゼミナール室	
6	歯学部演習室1～11 基礎実習室	先端材料評価学	宇尾		第3ゼミナール室 インプラント・ 口腔再生医学	
5	スキルスラボII	医歯学教育システム 研究センター 生命倫理研究センター	荒木	女性研究者支援室	インプラント・ 口腔再生医学 口腔病理学	春日井
4				学術国際部 国際交流センター	口腔病理学	山口
3				財務施設部	全部床義歯補綴学 歯学部	水口 下山 石川
2				総務部総務企画課	監査法人室 全部床義歯補綴学	
1				学務企画課 学生支援課 学務課歯学系教務掛 入試課 総務部人事課		

2号館の配置

階	講義室・実習室	研究室等	教授室等	その他
4	第 1~4 実習室			
3	第 1~3 講義室			学生ロッカー室 1,2 リフレッシュルーム
2	第 4 講義室	教員実習室 計測室 教員研究室 セミナー室 セミナー室準備室 う蝕制御学分野	教授室 准教授室 講師室 口腔保健工学専攻・歯 科技工士学校教員室 非常勤講師室 准教授室	歯学部附属病院 教養部連絡室 口腔保健工学専攻・ 歯科技工士学校事務室
1				和同会事務室 実験施設

7号館の配置

階	講義室・実習室	その他
7~11		動物実験施設
6	第 4 ゼミナール室	D 2 ~ D 5 男子更衣・控室 D 2 ~ D 5 女子更衣・控室 リフレッシュルーム 変電室
5	第 3 実習室 示説室	
4	第 4 講義室 第 2 実習室 歯科麻酔歯科放射線実習室	D 6 男子更衣・控室 D 6 女子更衣・控室 D 6 リフレッシュルーム
3	第 1 実習室 示説室	
2	第 2 , 3 講義室	コピー機
1	第 1 講義室	リフレッシュルーム 動物実験施設

10号館の配置

階	研究室	教授室等
7	歯周病学	和泉
6	顎顔面外科学	原田
5	高齢者歯科学 疼痛制御学	嶋田
4	疼痛制御学 麻酔・生体管理学 スポーツ医歯学	深山
3	スポーツ医歯学 障害者歯科学 歯科医療行動科学	上野 篠塚 俣木
2	顎顔面補綴学 歯科心身医学 総合診療歯科学	谷口 豊福

M&Dタワーの配置

	階	研究室	教授室等		階	研究室	教授室等
北側	8	硬組織構造生物学 分子情報伝達学	高野	南側	8	細菌感染制御学	中川
	7	硬組織病態生化学 歯学教育開発学 口腔放射線腫瘍学 硬組織再生学	森尾 三浦(雅) 篠村		7	硬組織薬理学 認知神経生物学	大谷 泰羅
	6	分子発生学 ナノメディスン(DNP) 分子細胞機能学	井関 森田		6	医療経済学 顎顔面解剖学 分子免疫学	川渕 柴田 東
階	講堂・図書館			研究室・その他		教授室等	
4	図書館		情報検索室 図書館情報メディア機構 教育メディア開発学			木下	
3							
2	鈴木章夫記念講堂		共用講義室 1, 2				

歯科棟の配置

〈歯科棟北〉

階	分野	教授室等	外来等	医局	その他
12	咬合機能矯正学 顎顔面矯正学	小野 森山			歯科衛生保健部
11	部分床義歯補綴学 摂食機能保存学 小児歯科学	三浦(宏)			
10	う蝕制御学 歯髄生物学 健康推進歯学	田上 須田 川口			歯科衛生保健部
9	顎口腔外科学 口腔放射線医学 顎関節咬合学	小村 倉林 木野			
8			病棟		医員当直室(男)
7			歯科麻酔外来 インプラント外来 手術室	麻酔・生体管理学	医員当直室(女) 滅菌材料室
6			口腔外科外来 顎顔面外科外来 顎義歯外来 言語治療外来 検査部	顎口腔外科学 顎顔面外科学 検査部	
5			むし歯外来 歯周病外来	う蝕制御学 歯髄生物学 歯周病学	総合技工室
4			第1総合診療室 第2総合診療室 顎関節治療部 歯科心身外来 快眠歯科外来		ヘッドライター室 器材準備室 歯学部特別講堂 演習室 歯科臨床研修センター 材料室 和同会売店
3			義歯外来 スポーツ歯科外来 歯科アレルギー外来 クリーンルーム歯科外来 技工部	部分床義歯補綴学 全部床義歯補綴学 摂食機能保存学 高齢者歯科学	大会議室 小会議室 看護部 研修医技工室
2	歯学教育システム 評価学		小児歯科外来 矯正歯科外来 ペインクリニック 口腔ケア外来	小児歯科学 咬合機能矯正学 顎顔面矯正学	歯学部総務課 歯学部国際交流室
1			歯科総合診療部 スペシャルケア外来 息さわやか外来 薬剤部	歯科総合診療部	電算室 防災センター 器材薬剤センター 和同会売店 研修医控室
B1			歯科放射線外来		低温室 ボイラー室
B2					食堂

〈歯科棟南:外来事務棟〉

平成25年度歯学部口腔保健学科口腔保健衛生学専攻専門科目授業計画表(案)

第1学年

前期	学部専門科目 「口腔保健と専門職」	25. 4. 16(火)~25. 5. 14 (火) 5週 毎週火曜日
----	----------------------	--

後期	学部専門科目 「歯科衛生学概論Ⅰ、Ⅱ」 「人体の構造及び疾病」 「公衆衛生学」 「社会保障Ⅰ」 「臨床体験実習」	25. 10. 1(火)~26. 1. 28 (火) 16週 毎週火曜日 26. 2. 4(火) 定期試験
----	---	---

第3学年

区 分		期 間
前期	春季休業	25. 4. 1(月)~25. 4. 4(木)
	ガイダンス(編入学生含む)	25. 4. 5(金)
	入学式(編入学生のみ)	25. 4. 8(月)
	授業 1 7 週	25. 4. 8(月)~25. 8. 2(金)
	夏季休業	25. 8. 5(月)~25. 8. 23(金)
後期	定期試験	25. 8. 26(月)~25. 9. 6(金)
	授業3週(選択科目のみ)※	25. 9. 9(月)~25. 9. 25(水)
	臨床実習ガイダンス	25. 9. 26(木)・25. 9. 27(金)
	授業 1 2 週	25. 9. 30(月)~25. 12. 20(金)
	創立記念日	25. 10. 12(土)
	お茶の水祭準備のため休講	25. 10. 18(金)
	お茶の水祭	25. 10. 19(土)~25. 10. 20(日)
	冬季休業	25. 12. 24(火)~26. 1. 6(月)
	授業 5 週	26. 1. 7(火)~26. 2. 10(月)
	補講および定期試験	26. 2. 12(水)~26. 2. 14(金)
授業5週(選択科目のみ)※	26. 2. 17(月)~26. 3. 20(木)	
春季休業	26. 3. 24(月)~26. 3. 31(月)	

※学外講師の日程により、夏季・春季休業期間または8限等を実施する場合があります

第2学年

区 分		期 間
前期	春季休業	25. 4. 1(月)~25. 4. 4(木)
	ガイダンス	25. 4. 5(金)
	授業 1 7 週	25. 4. 8(月)~25. 8. 2(金)
	夏季休業	25. 8. 5(月)~25. 9. 6(金)
	補講および定期試験	25. 9. 9(月)~25. 9. 27(金)
後期	授業 1 2 週	25. 9. 30(月)~25. 12. 20(金)
	創立記念日	25. 10. 12(土)
	解剖体追悼式	25. 10. 17(木)午後予定
	お茶の水祭準備のため休講	25. 10. 18(金)
	お茶の水祭	25. 10. 19(土)~25. 10. 20(日)
	冬季休業	25. 12. 24(火)~26. 1. 6(月)
	授業 5 週	26. 1. 7(火)~26. 2. 10(金)
	補講および定期試験	26. 2. 12(水)~26. 2. 28(金)
	春季休業	26. 3. 3(月)~26. 3. 31(月)

第4学年

区 分		期 間
前期	春季休業	25. 4. 1(月)~25. 4. 4(木)
	ガイダンス	25. 4. 5(金)
	授業 1 7 週	25. 4. 8(月)~25. 8. 2(金)
	夏季休業	25. 8. 5(月)~25. 8. 16(金)
後期	授業6週(選択科目のみ)※	25. 8. 19(月)~25. 9. 27(金)
	授業 1 2 週	25. 9. 30(月)~25. 12. 20(金)
	創立記念日	25. 10. 12(土)
	お茶の水祭準備のため休講	25. 10. 18(金)
	お茶の水祭	25. 10. 19(土)~25. 10. 20(日)
	冬季休業	25. 12. 24(火)~26. 1. 6(月)
	補講および卒業試験	26. 1. 7(火)~26. 1. 31(金)
	卒業式	26. 3. 25(火)予定

※学外講師の日程により、夏季・春季休業期間または8限等を実施する場合があります

歯学部 口腔保健学科口腔保健衛生学専攻教員 連絡先一覧

	所属	氏名	メールアドレス
大学院歯学総合研究科歯理工学専攻	生涯口腔保健衛生学分野	荒川 真一	s-arakawa.ltoh@tmd.ac.jp
		近藤 圭子	solan.ltoh@tmd.ac.jp solan.pvoh@tmd.ac.jp
	健康支援口腔保健衛生学分野	吉増 秀實	h-yoshimasu.ocsh@tmd.ac.jp
		小野寺 光江	m.onodera.ohce@tmd.ac.jp m.onodera.ocsh@tmd.ac.jp
	口腔疾患予防学分野	品田 佳世子	shinada.pvoh@tmd.ac.jp
		遠藤 圭子	usagi.pvoh@tmd.ac.jp usagi.aohc@tmd.ac.jp
		大塚 紘未	hiromi.pvoh@tmd.ac.jp
	地域・福祉口腔保健衛生学分野	白田 千代子	hakuta.ohcw @tmd.ac.jp
		遠藤 慶子	k-endo.ohcw@tmd.ac.jp
	口腔健康教育学分野	寺岡 加代	ktera.ohce@tmd.ac.jp
	口腔保健衛生基礎学分野	山口 朗	akira.mpa@tmd.ac.jp
		坂本 裕次郎	y.sakamoto.ombi@tmd.ac.jp y.sakamoto.bsoh@tmd.ac.jp
	歯学部附属病院	安田 昌代	yasuda.ocsh@tmd.ac.jp

授業時間割

1限	9:00～9:50
2限	10:00～10:50
3限	11:00～11:50
4限	13:00～13:50
5限	14:00～14:50
6限	15:00～15:50
7限	16:00～16:50
8限	17:00～17:50

第1学年 履修ユニット

科目名	口腔保健と専門職
ユニット名	口腔保健と専門職
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	1 学年前期・必修1 単位・90 分×8 回
科目責任者・ユニット責任者	遠藤圭子・遠藤圭子
主な授業場所	口腔保健学科 第3 講義室・演習室

学習目標

自学自習とディスカッションに基づく問題基盤型学習（PBL）を通して、口腔保健の基礎知識、保健・医療・福祉の専門職に共通する職業倫理や実務上の態度・姿勢、多職種連携の重要性を学ぶ。

到達目標

- ・口腔保健の概要を説明できる。
- ・保健・医療・福祉の専門職に共通する職業倫理を説明できる。
- ・保健・医療・福祉の専門職に共通する実務上の態度・姿勢を説明できる。
- ・保健・医療・福祉の専門職による多職種連携の重要性を説明できる。

授業計画

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1	オリエンテーション	口腔保健と専門職を学ぶ意義、学習方法 (PBL テュートリアル)	大木・遠藤
2	シナリオ1	シナリオ提示、学習項目の検討	口腔保健学科教員
3	学習項目の発表	ディスカッション	口腔保健学科教員
4	シナリオ2	シナリオ提示、学習項目の検討	口腔保健学科教員
5	学習項目の発表	ディスカッション	口腔保健学科教員
6	全体発表準備	全体発表項目、発表法の検討	口腔保健学科教員
7	全体発表	グループ評価	口腔保健学科教員
8	学習の振り返り	まとめ	大木・遠藤

評価方法

- ・レポート、グループディスカッションの参加状況で総合的に評価する。

- ・本学歯学部試験規則第11条（期末試験及び中間試験の受験資格）に規定された出席要件を満たさない場合、本科目の単位は認定しない。

教科書および参考書

- ・授業中に配布する資料。
- ・参考書は授業時に紹介する。

留意事項

- ・事前に資料の配付、e-learning へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。

担当教員の Office hour

衛生：遠藤圭子	口腔疾患予防学分野	随時	usagi.pvoh@tmd.ac.jp
工学：大木明子	口腔保健工学統合学分野	火曜	moki.mfoe@tmd.ac.jp

科目名	歯科衛生学概論
ユニット名	歯科衛生学概論 I
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	1 学年後期・必修1 単位・90 分×8 回
科目責任者・ユニット責任者	遠藤圭子・遠藤圭子
主な授業場所	口腔保健学科 第1 講義室

学習目標

歯科衛生の変遷と、歯科衛生業務に必要な専門知識・技術の概要および基本事項を理解するとともに、歯科衛生士の主要業務や歯科衛生過程の各場面で必要となる専門知識・技術の特徴を知る。

到達目標

- ・ 歯科衛生の変遷を説明する。
- ・ 歯科衛生を担う職種として、歯科衛生士の活動の場と業務内容を説明する。
- ・ 歯科衛生業務で必要となる専門知識・専門技術の特徴を説明する。
- ・ 歯科臨床の業務で必要となる専門知識・専門技術を説明する。
- ・ 口腔疾患予防業務で必要となる専門知識・専門技術の特徴を説明する。
- ・ 歯科衛生過程の各場面で必要となる専門知識・専門技術の特徴を説明する。
- ・ 医療における安全確保の意義と対策を概説する。

授業計画

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1	歯科衛生の変遷と概要	歯科衛生の歴史、歯科衛生とは、本学の歯科衛生士養成の歴史	遠藤圭子
2	歯科衛生業務	歯科衛生士の専門知識と専門技術	遠藤圭子
3	歯科衛生業務	歯科衛生士の活動の場と業務内容	白田千代子
4	口腔疾患予防業務	口腔疾患予防に必要な専門知識と専門技術	近藤圭子
5	健康教育	健康教育の実践と必要な専門知識・技術	遠藤圭子
6	歯科診療の補助業務	歯科臨床の概要、歯科衛生業務内容	遠藤圭子
7	論理的思考ツールの活用	歯科衛生過程	遠藤圭子
8	医療安全対策	インシデント、アクシデント	遠藤圭子

評価方法

- ・レポート、期末試験で総括的評価を行う。
- ・受講態度、出席状況等を総括的評価に加味する。

教科書

- ・全国歯科衛生士教育協議会監修：最新歯科衛生士教本「歯科衛生学総論」，医歯薬出版，2012.

参考図書

- ・Esther M. Wilkins 著／石川達也 校閲／布施祐二・眞木吉信・松井恭平・松崎晃 監訳／全国歯科衛生士教育協議会監修：歯科衛生士の臨床，医歯薬出版，2008.
- ・全国歯科衛生士教育協議会監修：最新歯科衛生士教本「歯科診療補助論」，医歯薬出版，2007.
- ・全国歯科衛生士教育協議会監修：最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論」，医歯薬出版，2011.
- ・授業の際、印刷物を配布する。

留意事項

- ・事前に資料の配付、e-learning へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。
- ・出席が2/3に満たない場合は、単位認定はできない。出席要件を満たすように十分留意すること。

担当教員の office hour

遠藤圭子	口腔疾患予防学分野	随時	usagi.pvoh@tmd.ac.jp
白田千代子	地域・福祉口腔保健衛生学分野	随時	hakuta.cohc@tmd.ac.jp
近藤圭子	生涯口腔保健衛生学分野	随時	solan.ltoh@tmd.ac.jp

科目名	歯科衛生学概論
ユニット名	歯科衛生学概論Ⅱ
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	1 学年後期・必修 1 単位・90 分×8 回
科目責任者・ユニット責任者	遠藤圭子・遠藤圭子
主な授業場所	口腔保健学科 第1 講義室

学習目標

歯科衛生士の職業倫理・行動規範を理解するとともに、専門職として必要な対人援助の基本的事項および様々な場面において必要となる対人関係の特徴を理解する。

到達目標

- ・ 歯科衛生士の職業倫理・行動規範を説明する。
- ・ 歯科衛生業務に必要な対人援助技術の基本事項を説明する。
- ・ 歯科臨床における対人援助技術の特徴を説明する。
- ・ 健康教育を実践する場で必要となるコミュニケーションの特徴を説明する。
- ・ 対象の人びとを理解する手立てを説明する。

授業計画

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1	オリエンテーション	オリエンテーション (授業の概要と方法)	遠藤圭子
2	職業倫理・行動規範	歯科衛生業務における倫理および行動規範 法や規則の遵守	遠藤圭子
3	対人援助	対人援助に必要な技術	遠藤圭子
4	対人援助技術	歯科臨床における対人援助技術	遠藤圭子
5	健康教育とコミュニケーション	コミュニケーションのあり方	遠藤圭子 白田千代子
6	歯科衛生過程	歯科衛生過程の6つの構成要素とその内容	遠藤圭子
7	対象の理解	アセスメントとニーズ判断	遠藤圭子
8	学習の振り返り	まとめ	遠藤圭子

評価方法

- ・課題レポート、期末試験で総括的評価を行う。
- ・受講態度、出席状況等を総括的評価に加味する。

教科書

- ・全国歯科衛生士教育協議会監修：最新歯科衛生士教本「歯科衛生学総論」，医歯薬出版，2012.

参考図書

- ・Esther M. Wilkins 著／石川達也 校閲／布施祐二・眞木吉信・松井恭平・松崎晃 監訳／全国歯科衛生士教育協議会監修：歯科衛生士の臨床，医歯薬出版，2008.
- ・全国歯科衛生士教育協議会監修：最新歯科衛生士教本「歯科診療補助論」，医歯薬出版，2007.
- ・全国歯科衛生士教育協議会監修：最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論」，医歯薬出版，2011.
- ・授業の際、印刷物を配布する。

留意事項

- ・事前に資料の配付、e-learning へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。
- ・出席が2/3に満たない場合は、単位認定はできない。出席要件を満たすように十分留意すること。

担当教員の office hour

遠藤圭子	口腔疾患予防学分野	随時	usagi.pvoh@tmd.ac.jp
白田千代子	地域・福祉口腔保健衛生学分野	随時	hakuta.cohc@tmd.ac.jp
近藤圭子	生涯口腔保健衛生学分野	随時	solan.ltoh@tmd.ac.jp

科目名	臨床体験実習
ユニット名	臨床体験実習
授業形態	実習
開講時期・単位・時間数	1 学年後期・必修・90分×8回 } 1単位 2 学年前・後期・必修・30時間 } 単位認定(1単位・45時間)は2学年終了時に行う
科目責任者・授業担当者	白田千代子・白田千代子
主な授業場所	口腔保健学科 第1講義室・附属病院・企業等

学習目標

多様な場における歯科衛生士の活動の見学体験を通して、歯科衛生士の専門性と社会的役割、専門職としての倫理観、態度、ならびに対人援助の基本を学ぶ。

到達目標

- ・体験した歯科衛生士の活動の実際について説明する。
- ・歯科衛生士の専門的業務と社会的役割について説明する。
- ・歯科衛生士としての倫理観、態度および対人援助の基本を説明する。
- ・歯科衛生士に必要となる専門知識・専門技術の基本事項を概説する。

授業計画

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1・2	オリエンテーション	臨床体験実習の目的、方法、スケジュール	白田千代子
3・4	事前学習	附属病院、企業内診療所、歯科関連企業、福祉施設等における歯科衛生士、社会福祉士など専門職の活動	白田千代子 遠藤圭子 近藤圭子
5・6	見学	見学実習	白田千代子
7	発表準備	報告書作成、発表内容の確認	遠藤圭子
8	総括	発表、振り返りとまとめ	白田千代子 近藤圭子

評価方法

報告書の提出、発表の結果をもって、総括的評価を行う。
受講態度、出席状況等を総括的評価に加味する。

参考図書等

・授業の際に紹介する。

担当教員の office hour

白田千代子	地域・福祉口腔保健衛生学	随時	hakuta.ohcw@tmd.ac.jp
遠藤圭子	口腔疾患予防学分野	随時	usage.pvoh@tmd.ac.jp
近藤圭子	生涯口腔保健衛生学分野	随時	solan.ltoh@tmd.ac.jp

科目名	人体の構造と機能及び疾病
ユニット名	人体の構造と機能 I
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	1 学年後期・必修 2 単位・90 分×15 回
科目責任者・ユニット責任者	坂本裕次郎・坂本裕次郎
主な授業場所	口腔保健学科 第1 講義室

学習目標

人体の正常な構造と機能を学んで、生命現象が営まれるメカニズムを分子レベルから個体レベルへと統合的に理解するとともに、組織および器官の発生のしくみと成長と加齢に伴う変化ならびに生体の恒常性維持機構について理解する。

到達目標

- ・人体の構成ならびに構造と機能の関係を概説する。
- ・細胞の構造と働きならびに遺伝子の分子機構を説明する。
- ・人体の発生と発達の概要を説明する。
- ・上皮組織、支持組織、筋組織、神経組織の特徴と役割を説明する。
- ・運動器（骨格系と筋系）の構造と機能および発生と成長に伴う変化を説明する。
- ・循環器の構造と機能および発生と成長に伴う変化を説明する。
- ・循環調節のしくみおよび血液の役割を説明する。
- ・内分泌器の構造および発生と成長に伴う変化を説明する。

授業計画

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1	人体の構成	人体の構造と機能を学ぶ意義、人体の構成と身体の方向用語、細胞と組織と器官系	坂本裕次郎
2	人体を構成する細胞の構造と機能	核とその役割、細胞質と細胞膜・細胞内小器官の役割	坂本裕次郎
3・4	組織と器官系の分類	上皮組織・支持組織・筋組織・神経組織の構成要素の特徴と役割および器官系の構成	坂本裕次郎
5	骨格系の形成と機能	骨組織の発生様式と骨格形成、骨組織と骨格の役割	坂本裕次郎

6	骨格系と筋系 1	肉眼解剖学的にみた骨と筋、全身の骨格と筋の構成	坂本裕次郎
7	人体の発生と生後発達	人体の発生過程と生後の変化	井関祥子
8	骨格系と筋系 2	肉眼解剖学的にみた骨と筋、全身の骨格と筋の構成	坂本裕次郎
9・10	筋の収縮機構と機能、骨格筋の収縮のタイプと疲労	骨格筋・心筋・平滑筋の収縮のしくみと役割	杉本久美子
11	心臓と脈管系の構造	心臓と血管・リンパ管の組織学的構造	坂本裕次郎
12	循環器系	肉眼解剖学的にみた全身の循環器の構成、	坂本裕次郎
13	循環器系の機能と循環調節	心臓と脈管系の機能とその調節機構	杉本久美子
14	血液の機能	血液の構成成分の働きと血液型	杉本久美子
15	内分泌系の構造と発生	内分泌器官の種類と構造、発生過程	井関祥子

評価方法

- ・筆記試験と受講状況による総合評価を行う。

参考図書等

- ・最新歯科衛生士教本「人体の構造と機能 1 解剖学・組織発生学・生理学」全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版 2010年
- ・「人体解剖学」改訂第42版 藤田恒太郎著 南江堂 2003年
- ・「入門人体解剖学」改訂第5版 藤田恒夫著 南江堂 2012年
- ・「グレイ解剖学」原著第2版 塩田浩平、瀬口春道、大谷 浩、杉本哲夫訳 エルゼビア・ジャパン 2011年
- ・「標準組織学 総論」第4版 藤田尚男、藤田恒夫著 医学書院 2002年
- ・「標準組織学 各論」第4版 藤田尚男、藤田恒夫著 医学書院 2010年
- ・「標準生理学」第7版 小澤滯司、福田康一郎総編集 医学書院 2010年
- ・新歯科衛生士教本「解剖学・組織発生学・口腔解剖学」第2版 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版 1996年
- ・新歯科衛生士教本「生理学」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版 1995年

留意事項

- ・事前に資料の配付、e-learning へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。

担当教員の office hour

坂本裕次郎	口腔保健衛生基礎学分野	随時	y.sakamoto.ombi@tmd.ac.jp
井関祥子	分子発生学分野	随時	s.iseki.emb@tmd.ac.jp
杉本久美子	口腔基礎科学分野	火 16:00-18:00	ksugimoto.fohc@tmd.ac.jp

科目名	人体の構造と機能及び疾病
ユニット名	栄養と代謝
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	1 学年後期・必修 2 単位・90 分×15 回
科目責任者・ユニット責任者	坂本裕次郎・小野寺光江
主な授業場所	口腔保健学科 第2講義室

学習目標

食物に含まれる各栄養素の種類と機能、それらの消化・吸収・代謝の過程を学ぶとともに、さまざまな食品に含まれる栄養素を理解し、健康の維持・増進のための食生活についての知識を習得する。

到達目標

- ・健康と栄養摂取の関係について説明する。
- ・栄養素の種類と機能を説明する。
- ・栄養素の体内での消化・吸収について説明する。
- ・栄養素の代謝・応答について説明する。
- ・食品に含まれる栄養素を理解し、食品群の種類とその特徴について説明する。
- ・ホルモンによる恒常性の維持について説明する。
- ・ホルモンの分泌と作用メカニズムについて説明する。
- ・歯と歯周組織における硬組織の形態と構成成分ならびに機能について説明する。
- ・歯の石灰化の機序とカルシウム・リン代謝について説明する。

授業計画

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1	栄養の基礎知識	栄養の基礎知識	小野寺光江
2	糖質の栄養学	糖質の構造と機能および栄養学的意義	小野寺光江
3	脂質の栄養学	脂質の構造と機能および栄養学的意義	小野寺光江
4	タンパク質の栄養学	タンパク質の構造と機能および栄養学的意義	小野寺光江
5	ビタミンの栄養学	ビタミンの種類と栄養学的意義	小野寺光江
6	ミネラルの栄養学	ミネラルの種類と栄養学的意義	小野寺光江
7	消化と吸収	栄養素の消化と吸収	小野寺光江

8	食品と栄養	食品群の種類と特徴	小野寺光江
9	生体の構成要素	細胞の役割、生体における水	森田育男
10	糖質の生化学	糖質の代謝・応答	森田育男
11	脂質の生化学	脂質の代謝・応答	森田育男
12	タンパク質の生化学	タンパク質の代謝・応答	森田育男
13	ホルモン	ホルモンによる恒常性の維持、 ホルモンの分泌と作用メカニズム	森田育男
14	歯と歯周組織の生化学 1	歯と歯周組織の生化学	中島友紀
15	歯と歯周組織の生化学 2	歯の石灰化とカルシウム・リン代謝	中島友紀

評価方法

- ・提出レポート、期末の客観試験、論述試験で総括的評価を行う。
- ・出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。

参考図書等

- ・最新歯科衛生士教本「人体の構造と機能 2 栄養と代謝」医師薬出版株式会社
ISBN978-4-263-42819-1
- ・最新版「日本食品標準成分表2010」収載 食品成分表2013 女子栄養大学出版
ISBN978-4-7895-1013-4

留意事項

- ・事前に資料の配付、e-learning へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。

担当教員の office hour

小野寺光江 健康支援口腔保健衛生学分野 随時 m.onodera.ocsh@tmd.ac.jp
 森田育男 分子細胞機能学分野 随時 morita.cell@tmd.ac.jp
 中島友紀 分子情報伝達学分野 随時(メールで約束してから来室してください)
 naka.csi@tmd.ac.jp

科目名	公衆衛生学
ユニット名	公衆衛生学
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	1 学年後期・必修 1 単位・90 分×8 回
科目責任者・ユニット責任者	品田佳世子・品田佳世子
主な授業場所	口腔保健学科 第1 講義室

学習目標

健康、疫学、人口、環境、保健衛生などの基本事項を理解し、ヘルスプロモーションや予防医学を
実践するための基礎的知識の習得と新たな発想を展開する方法を学ぶ。

到達目標

- ・健康の概念を説明する。
- ・疫学について説明する。
- ・人口統計について説明する。
- ・環境による健康への影響を説明する。
- ・地域保健について基本的事項を理解する。
- ・ヘルスプロモーション、予防医学の基本概念と実践方法について理解する。

授業計画

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1	総論	総論、健康の概念、ヘルスプロモーション、 予防医学、グループ課題	品田佳世子
2	疫学	疫学の定義および概要、疫学の方法	品田佳世子
3	人口	人口の動向、人口動態統計、生命表	品田佳世子
4	健康と環境 1	健康と環境の課題発表の準備	品田佳世子
5・6	健康と環境 2	各グループの課題発表、健康と環境の総括	品田佳世子
7・8	地域保健・公衆衛生	地域保健の概要と事例検討・発表	品田佳世子

評価方法

- ・課題発表・作成された資料、筆記試験と受講状況による総合評価を行う。

参考図書等

- ・教科者：最新歯科衛生士教本『保健生態学』（歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1）
医歯薬出版
- ・参考書：厚生省の指標 臨時増刊「国民衛生の動向」、厚生統計協会
「シンプル衛生公衆衛生学」 南江堂

留意事項

- ・事前に資料の配付、e-learning へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。

担当教員の office hour

品田佳世子 口腔疾患予防学分野 火 16:00-18:00 shinada.pvoh@tmd.ac.jp

科目名	社会保障Ⅰ
ユニット名	社会保障Ⅰ
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	1学年後期・必修2単位・90分×15回
科目責任者・ユニット責任者	遠藤慶子・遠藤慶子
主な授業場所	口腔保健学科 第1講義室

学習目標

- ・社会保障制度の基礎的知識および社会保障と口腔保健の関連性を理解する。
- ・少子高齢社会における社会保障制度と保健・福祉・医療の実際を理解する。

到達目標

- ・社会保障制度の目的と機能を説明する。
- ・社会保障と口腔保健の関連性を説明する。
- ・少子高齢社会における社会保障制度の課題を説明する。
- ・社会保障制度と保健・福祉・医療の実際を関係づける。

授業計画

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1	社会保障の概要①	人々の暮らしと社会保障制度	遠藤慶子
2	社会保障の概要②	日本の社会保障制度Ⅰ	中村秀一
3	社会保障の実際①	日本の社会保障制度Ⅱ	中村秀一
4	社会保障の概要③	高齢者の人たちを支援する社会保障制度Ⅰ	橋本泰子
5	社会保障の実際②	高齢者の人たちを支援する社会保障制度Ⅱ	橋本泰子
6	社会保障の概要④	障害のある人たちを支援する社会保障制度Ⅰ	石渡和実
7	社会保障の実際③	障害のある人たちを支援する社会保障制度Ⅱ	石渡和実
8	社会保障の概要⑤	地域社会と社会保障制度Ⅰ	小畑万里
9	社会保障の実際④	地域社会と社会保障制度Ⅱ	小畑万里

10	社会保障の概要⑥	地域社会と社会保障制度Ⅲ	大貫正男
11	社会保障の実際⑤	地域社会と社会保障制度Ⅳ	大貫正男
12	社会保障の概要⑦	国際社会の社会保障制度Ⅰ	猪熊律子
13	社会保障の実際⑧	国際社会の社会保障制度Ⅱ	猪熊律子
14	社会保障のまとめ	日本の社会保障制度の課題Ⅰ	中村秀一
15	社会保障のまとめ	日本の社会保障制度の課題Ⅱ	中村秀一

評価方法

- ・授業内レポートで重要な単元の学習成果を評価する。
- ・定期試験を実施し、総合的に評価する。

参考図書等

- ・授業中に配布する資料。
- ・参考書は授業時に紹介する。

留意事項

- ・事前に資料の配付、e-learning へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。

担当教員の office hour

遠藤慶子 地域・福祉口腔保健衛生学分野 随時 k-endo.ohcw@tmd.ac.jp

担当教員（非常勤）

中村秀一 国際医療福祉大学 大学院
橋本泰子 大正大学
石渡和実 東洋英和女学院大学
小畑万里 日本社会事業大学 通信教育科 社会福祉士養成課程
大貫正男 司法書士大貫正男事務所
猪熊律子 読売新聞社

第2学年 履修ユニット

科目名	臨床体験実習
ユニット名	臨床体験実習
授業形態	実習
開講時期・単位・時間数	1 学年後期・必修・90 分 8 回 } 1 単位 2 学年前・後期・必修・30 時間 } 単位認定 (1 単位・45 時間) は 2 学年終了時に行う
科目責任者・ユニット責任者	白田千代子・白田千代子
主な授業場所	口腔保健学科 第4講義室・福祉施設・企業等

学習目標

多様な場における歯科衛生士の活動の見学体験を通して、歯科衛生士の専門性と社会的役割、専門職としての倫理観、態度、ならびに対人援助の基本を学ぶ。

到達目標

- ・体験した歯科衛生士の活動の実際について説明する。
- ・歯科衛生士の専門的業務と社会的役割について説明する。
- ・歯科衛生士としての倫理観、態度および対人援助の基本を説明する。
- ・歯科衛生士に必要となる専門知識・専門技術の基本事項を概説する。

授業計画 2 学年前期

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1-3	オリエンテーション	臨床体験実習の目的、方法、スケジュール	白田千代子
4-9	施設見学	企業内診療所、歯科関連企業、福祉施設等	白田千代子 遠藤圭子 近藤圭子
10・11	報告書の作成	見学場所、内容、考察	白田千代子
12・13	発表準備	資料およびシナリオ作成	遠藤圭子
14・15	総括	発表、振り返りとまとめ	白田千代子 近藤圭子

授業計画 2 学年後期

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1-3	オリエンテーション	臨床体験実習の目的、方法、スケジュール	白田千代子
4-9	施設見学	企業内診療所、歯科関連企業、福祉施設等	白田千代子 遠藤圭子 近藤圭子
10・11	報告書の作成	見学場所、内容、考察	白田千代子
12・13	発表準備	資料およびシナリオ作成	遠藤圭子
14・15	総括	発表、振り返りとまとめ	白田千代子 近藤圭子

評価方法

報告書の提出、発表の結果をもって、総括的評価を行う。

受講態度、出席状況等を総括的評価に加味する。

参考図書等

- ・授業の際に紹介する。

担当教員の office hour

白田千代子	地域・福祉口腔保健衛生学分野	随時	hakuta.cohc@tmd.ac.jp
遠藤圭子	口腔疾患予防学分野	随時	usagi.pvoh@tmd.ac.jp
近藤圭子	生涯口腔保健衛生学分野	随時	solan.ltoh@tmd.ac.jp

科目名	科学英語 I
ユニット名	科学英語 I
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年前期・必修 1 単位・15 時間
科目・ユニット責任者	品田佳世子・品田佳世子
主な授業場所	口腔保健学科 第4 講義室

学習目標

- ・口腔保健に関連する基本的英語表現を修得する。
- ・口腔保健に関して、英語で対応するための基礎的能力を身につける。

到達目標

- ・口腔保健関連の専門用語を英語で表現する。
- ・英会話で、予約対応、医療面接の補助等を行うための基礎を学ぶ。
- ・英語で歯科疾患について説明できるための基礎を学ぶ。
- ・英語でブラッシング、フッ化物の応用、シーラントを説明するための基礎を学ぶ。
- ・歯科、口腔保健関連の英文を読解し、内容を理解する。

授業計画

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1・2	歯科用基本英語	歯科・口腔保健学に必要な基本的英語表現を学ぶ 受付対応について	品田佳世子
3	予約対応の実践	英会話で、予約対応のロールプレイを行う	關奈央子 Janelle Moross
4	全身疾患の既往 医療面接	全身疾患の既往や生活習慣などの医療面接	品田佳世子
5	医療面接実践	英会話で、医療面接を行う	關奈央子 Janelle Moross
6	歯周病について	英会話で、歯周病を説明する	品田佳世子
7	歯ブラシとブラ ッシング方法	英会話で、歯ブラシやブラッシング方法を説明する	品田佳世子

8・9	フッ化物の応用、シーラント	英語で、相互にフッ化物の応用、シーラントとその効果について説明する	品田佳世子
10・11	予防処置、保健指導の英語実践	英会話で、歯周病、ブラッシング、フッ化物の応用、シーラント等の説明を行う	關奈央子 品田佳世子
12・13	英語の科学論文	英語の歯科、口腔保健に関する科学論文を読み、内容を理解する	品田佳世子
14	TOEFL, TOEIC について	TOEFL, TOEIC の問題実践	關奈央子
15	歯科英語のまとめ	歯科英語のまとめ	品田佳世子

評価方法

- ・ 期末の客観試験、論述試験で総括的評価を行う。
- ・ 出席状況、授業態度、英語によるロールプレイの状況を総括的評価に加味する。
- ・ 随時の小テスト等で形成的評価を行い総括的評価に加味する。

参考図書等

教科書：最新歯科衛生士教本「歯科英語」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
丸ごと覚える歯科臨床英会話フレーズ集 川口陽子 監修・著 クインテッセンス出版

留意事項

- ・ 教科書や事前に配布された資料中の単語を調べ、声を出して読んで、予習をしておくこと。

担当教員の office hour

品田佳世子 口腔疾患予防学分野 随時 shinada.pvoh@tmd.ac.jp
關 奈央子 国際交流センター 木 16:30～18:00 seki.isc@tmd.ac.jp

担当教員

Janelle Moross グローバルキャリア支援室

科目名	科学英語 II
ユニット名	科学英語 II
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年後期・選択 1 単位・15 時間
科目責任者・ユニット責任者	荒川真一・荒川真一
主な授業場所	演習室

学習目標

- ・口腔保健に関連する科学論文を理解する能力を身につける。
- ・口腔保健の研究に関して、英語で発表できる能力を身につける。

到達目標

- ・口腔保健関連の英語の専門用語を理解する。
- ・口腔保健関連英文科学論文の内容を理解する。
- ・口腔保健関連英文科学論文の内容を説明する。

授業計画

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1・2	英語科学論文	英語科学論文の構成・読み方の説明	荒川真一
3・4	英語論文抄読 1	英語科学論文を実際に読む	荒川真一
5・6	英語論文抄読 1	論文内容の確認	荒川真一
7・8	英語論文抄読 2	英語科学論文を実際に読む	荒川真一
9・10	英語論文抄読 2	論文内容の確認	荒川真一
11	文献検索	文献検索の方法の説明・実行	荒川真一
12・13	英語論文抄読 3	グループで選定した英語科学論文を読む	荒川真一
14・15	英語論文抄読 3	グループ毎に論文内容を発表する	荒川真一

評価方法

- 提出レポート、期末の客観試験、論述試験で総括的評価を行う。
- 出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。
- 提出レポート、発表等で総括的評価を行う。

参考図書等

特になし

留意事項

- 英語の辞書（電子辞書）、PC（11回目からの文献検索に使用）等を持参すること。
- 事前に配布された論文中のわからない単語を調べ、予習をしておくこと。

担当教員の office hour

荒川真一 生涯口腔保健衛生学分野 月～金 17:00-19:00 s-arakawa.ltoh@tmd.ac.jp

科目名	人体の構造と機能及び疾病
ユニット名	人体の構造と機能Ⅱ
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年前期・必修 2 単位・30 時間
科目責任者・ユニット責任者	坂本裕次郎・坂本裕次郎
主な授業場所	口腔保健学科第4講義室・基礎科学実習室

学習目標

人体の正常な構造と機能を理解して、生命現象が営まれるメカニズムを分子レベルから個体レベルへと統合的に理解するとともに、組織および器官の発生のしくみと成長、発育、加齢の過程に伴う変化について理解する。

到達目標

- ・末梢神経系および中枢神経系の構造と機能およびその発生と成長に伴う変化を説明する。
- ・感覚器系の構造と機能および発生と成長に伴う変化を説明する。
- ・消化器系の構造と機能および発生と成長に伴う変化を説明する。
- ・呼吸器系の構造と機能および発生と成長に伴う変化を説明する。
- ・泌尿器系の構造と機能、尿の生成機序を説明する。
- ・生体の恒常性維持機構（体温調節、体液組成および体液量の調節）を説明する。
- ・生殖器の構造と機能および発生と成長に伴う変化を説明する。
- ・体幹四肢の運動器、循環器、神経系の相互関係と頭頸部へのつながりについて説明する。

授業計画

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1	脊髄と神経系の基本構造	神経系の構成、神経細胞と化学シナプスの構造、脊髄と脊髄神経	坂本裕次郎
2・3	全身の末梢神経系	脊髄神経系と自律神経系と走行	坂本裕次郎
4	中枢神経系の構成	脳の基本構成と髄膜と脳室系	坂本裕次郎
5	神経系の発生	神経系の発生過程とその機構	井関祥子

6-8	神経系の働き	興奮伝導・興奮伝達のしくみ、神経伝達物質の働き、末梢神経系の働き、脊髄の働きと脊髄反射、脳（大脳皮質、大脳辺縁系、間脳、小脳、脳幹ほか）の働き	泰羅雅登
9・10	感覚器系の構造	感覚器の構造および感覚伝導路の基本	坂本裕次郎
11・12	一般体性感覚、内臓感覚および特殊感覚	一般体性感覚、内臓感覚、視覚、聴覚、平衡感覚の伝導路と機能	泰羅雅登
13	消化器系総論	消化器系の全体像と発生および基本構造	坂本裕次郎
14・15	食道、胃腸、肝胆膵	食道、胃、小腸、大腸、肝臓、胆のう、膵臓の構造	坂本裕次郎
16	呼吸器系の構造	呼吸器系の構成と組織	坂本裕次郎
17	呼吸器系の発生	呼吸器系の発生過程とその機構	井関祥子
18	呼吸器系の働き	呼吸運動、ガス交換のしくみ、呼吸調節、肺気量の分画	勝山成美
19・20	生殖器の構造と発生	生殖器の構造と発生のしくみ	坂本裕次郎
21・22	泌尿器系の構造と発生	泌尿器系の構造と発生のしくみ	井関祥子
23・24	尿の生成と体液の調節	尿生成のメカニズム、排尿、体液量および体液組成の調節	勝山成美
25	体温調節	発汗、体温調節機構	勝山成美
26・27	運動器としての骨格と筋	骨格標本を使って、体幹・体肢の骨格と筋の総括と頭頸部とのつながりについて	坂本裕次郎
28・29	脊髄神経系・自律神経系・脈管系と周囲の構造	体幹・体肢の末梢神経系・脈管系の総括と頭頸部とのつながりについて	坂本裕次郎
30	まとめ	授業の補足	坂本裕次郎

評価方法

- ・提出レポート、期末の客観試験、論述試験で総括的評価を行う。
- ・出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。

参考図書等

- ・最新歯科衛生士教本「人体の構造と機能 1 解剖学・組織発生学・生理学」全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版 2010年
- ・「人体解剖学」改訂第42版 藤田恒太郎著 南江堂 2003年
- ・「入門人体解剖学」改訂第5版 藤田恒夫著 南江堂 2012年
- ・「グレイ解剖学」原著第2版 塩田浩平、瀬口春道、大谷 浩、杉本哲夫訳 エルゼビア・ジャパン 2011年
- ・「標準組織学 総論」第4版 藤田尚男、藤田恒夫著 医学書院 2002年
- ・「標準組織学 各論」第4版 藤田尚男、藤田恒夫著 医学書院 2010年
- ・「標準生理学」第7版 小澤澁司、福田康一郎総編集 医学書院 2010年
- ・新歯科衛生士教本「解剖学・組織発生学・口腔解剖学」第2版 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版 1996年
- ・新歯科衛生士教本「生理学」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版 1995年

留意事項

- ・事前に資料の配付、e-learning へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。
- ・実習室で行われる授業では白衣を着用すること。

担当教員の office hour

坂本裕次郎	口腔保健衛生基礎学分野	随時	y.sakamoto.ombi@tmd.ac.jp
井関祥子	分子発生学分野	随時	s.iseki.emb@tmd.ac.jp
泰羅雅登	認知神経生物学分野	随時 (事前に連絡すること)	masato.cnb@tmd.ac.jp
勝山成美	認知神経生物学分野	随時 (事前に連絡すること)	katz.cnb@tmd.ac.jp

科目名	歯・口腔の構造と機能
ユニット名	歯・口腔の構造と機能
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	2学年前・後期・必修3単位・45時間
科目責任者・ユニット責任者	坂本裕次郎・坂本裕次郎
主な授業場所	口腔保健学科第4講義室・基礎科学実習室

学習目標

顎・顔面・口腔領域の組織、器官の構造と機能および分子的基盤を学ぶとともに、それらの発生と成長について学び、顎・顔面・口腔領域の健康と全身の健康との関連について理解を深める。

到達目標

- ・ 脳神経の支配様式と働きについて説明する。
- ・ 顎顔面と口腔諸器官の構造および発生と成長について説明する。
- ・ 唾液線の構造と分泌機構および唾液の成分とその作用について説明する。
- ・ 歯と歯周組織の形態と構成成分ならびに機能について説明する。
- ・ 歯と歯周組織の発生、成長過程を説明する。
- ・ 脳の構造と上行性・下行性伝導路について説明する。
- ・ 口腔領域の体性感覚器・味覚器官の構造と働きおよび発生と成長について説明する。
- ・ 下顎反射のしくみとその役割について説明する。
- ・ 咀嚼運動の神経機構と嚥下・吸引・嘔吐反射のしくみを説明する。
- ・ 発声・構音のしくみを説明する。
- ・ 口腔諸器官（歯・歯周組織・唾液線を含む）の機能と全身の正常機能とを関連づける。

授業計画

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1・2	脳神経	脳神経系の構成と走行	坂本裕次郎
3-5	口腔粘膜・舌・唾液腺	口腔粘膜・舌・唾液腺の構造	坂本裕次郎
6・7	口腔領域の組織観察	口唇・舌・扁桃・唾液腺の顕微鏡観察	坂本裕次郎
8	口蓋・咽頭・喉頭	口蓋・咽頭・喉頭の構造	坂本裕次郎
9	顎顔面領域の発生	顎顔面領域の初期発生	坂本裕次郎

10	歯の発生 1	硬組織形成前までの歯胚の発生過程	坂本裕次郎
11	歯の発生 2	象牙質・歯髄複合体の形成機構	坂本裕次郎
12	歯の発生 3	エナメル質の形成機構	坂本裕次郎
13・14	顔面の発生・歯の発生の組織像	顔面の発生、初期歯胚、硬組織形成期歯胚の顕微鏡観察	坂本裕次郎
15	歯周組織の形成機構	歯周組織の形成機構	坂本裕次郎
16	象牙質・歯髄複合体	象牙質・歯髄複合体の構造と象牙質の成長線	坂本裕次郎
17	エナメル質	エナメル質の構造と成長線	坂本裕次郎
18	歯周組織	歯周組織の構造	坂本裕次郎
19	歯列形成と歯の萌出と交換	歯列と咬合の形成と歯の萌出と交換のしくみ	坂本裕次郎
20・21	歯と歯周組織の組織像	象牙質・エナメル質・歯周組織の顕微鏡観察	坂本裕次郎
22-24	中枢神経系	中枢神経系の外景と内景、脳脊髄膜と脳室系、上行性・下行性伝導路	坂本裕次郎
25	記憶・学習・情動行動	記憶・学習・情動行動のしくみ	泰羅雅登
26-28	歯と口腔の神経	歯と口腔の感覚をつかさどる神経	坂本裕次郎
29	口腔粘膜感覚・	口腔粘膜感覚・	泰羅雅登
30・31	歯髄感覚・歯根膜感覚	歯髄感覚・歯根膜感覚のしくみ	泰羅雅登
32・33	唾液腺の機能	唾液の分泌機構、唾液の性状・成分・生理作用	勝山成美
34・35	味覚・嗅覚	味覚と嗅覚のしくみ	杉本久美子
36-38	咀嚼運動	顎関節感覚・咀嚼運動の制御機構	坂本裕次郎
39	下顎反射	開口反射と閉口反射のしくみ	泰羅雅登
40	嚥下、吸引、嘔吐	嚥下、吸引、嘔吐のしくみ	泰羅雅登
41	発声と構音	発声のしくみと構音	泰羅雅登
42-44	消化と吸収	消化管運動のしくみ、消化液の成分と作用および分泌調節、栄養素の消化と吸収および排便反射のしくみ	杉本久美子
45	まとめ	授業の補足	坂本裕次郎

評価方法

- ・提出レポート、期末の客観試験、論述試験で総括的評価を行う。
- ・出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。
- ・随時の小テスト等で形成的評価を行い、授業態度等も総括的評価に加える。
- ・前期評価と後期評価を総合して年間評価とするが、原則として前期と後期それぞれに合格しなくてはならない。
- ・前期末と後期末に評価するので、前期と後期それぞれに受験資格を満たさなくてはならない。

参考図書等

- ・最新歯科衛生士教本「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版 2011年
- ・最新歯科衛生士教本「人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学」全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版 2010年
- ・「人体解剖学」改訂第42版 藤田恒太郎著 南江堂 2003年
- ・「入門人体解剖学」改訂第5版 藤田恒夫著 南江堂 2012年
- ・「標準組織学 各論」第4版 藤田尚男、藤田恒夫著 医学書院 2010年
- ・「基礎歯科生理学」第5版 森本俊文、山田好秋編 医歯薬出版 2008年
- ・「標準生理学」第7版 小澤滯司、福田康一郎総編集 医学書院 2010年
- ・新歯科衛生士教本「解剖学・組織発生学・口腔解剖学」第2版 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版 1996年
- ・新歯科衛生士教本「生理学」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版 1995年

留意事項

- ・事前に資料の配付、e-learningへのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。
- ・実習室で行われる授業では白衣を着用すること。

担当教員の office hour

- 坂本裕次郎 口腔保健衛生基礎学分野 随時 y.sakamoto.ombi@tmd.ac.jp
- 泰羅雅登 認知神経生物学分野 随時（事前に連絡すること） masato.cnb@tmd.ac.jp
- 勝山成美 認知神経生物学分野 随時（事前に連絡すること） katz.cnb@tmd.ac.jp
- 杉本久美子 口腔基礎科学分野 木 16:00-18:00 ksugimoto.fohc@tmd.ac.jp

科目名	歯・口腔の構造と機能
ユニット名	歯の形態学実習
授業形態	講義・実習
開講時期・単位・時間数	2学年前・後期・必修1単位・45時間
科目責任者・ユニット責任者	坂本裕次郎・坂本裕次郎
主な授業場所	口腔保健学科第4講義室・基礎科学実習室、医学部解剖学実習室

学習目標

歯の種類と形態的特徴および役割、頭蓋と顎関節および頭頸部の諸器官の構造を互いに関連付けて学び、歯と口腔の役割を包括的に理解するとともに、顎・顔面・口腔領域の健康と全身の健康との相互関係について理解を深める。

到達目標

- ・ 口腔の構造とはたらきについて説明する。
- ・ 歯と歯周組織の構成要素ならびに役割について説明する。
- ・ 歯と歯列の方向用語、歯の形態を表す用語について説明する。
- ・ 歯の分類と表記方法について説明する。
- ・ 永久歯の種類ごとに歯冠と歯根の形態について説明する。
- ・ 永久歯の種類と上下左右の区別について説明する。
- ・ 乳歯の種類ごとに歯冠と歯根の形態について説明する。
- ・ 乳歯の種類と上下左右の区別について説明する。
- ・ 歯の形態について立体的に表現する。
- ・ 頭蓋を構成する骨の種類と形態および顎関節の構造について説明する。
- ・ 頭頸部の筋の種類と起始・停止、支配神経と作用を説明する。
- ・ 頭頸部の動・静脈、リンパ系について説明する。
- ・ ヒトの歯の形態と顎運動を互いに関連付けて説明する。
- ・ 口腔諸器官の機能と全身の正常機能とを関連づける。

授業計画

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1	口腔諸器官の総論	口腔～咽頭の構造と機能の基礎知識、歯と歯周組織の構成要素	坂本裕次郎

2	歯と歯列の総論	歯の種類と記号・方向用語、歯列と咬合の基礎知識	坂本裕次郎
3-6	永久歯の解剖学	切歯・犬歯・小白歯・大白歯の形態	坂本裕次郎
7-8	乳歯の解剖学	乳切歯・乳犬歯・乳臼歯の形態	坂本裕次郎
9-11	歯の形態実習 1	実習内容と使用器具の説明、スケッチ 1	坂本裕次郎 安江 透
12-14	歯の形態実習 2	石膏を使って歯の形態形成の準備作業、スケッチ 2	坂本裕次郎 安江 透
15-17	歯の形態実習 3	前歯の形態形成	坂本裕次郎 安江 透
18-20	歯の形態実習 4	小白歯の形態形成	坂本裕次郎 安江 透
21-23	歯の形態実習 5	上顎大白歯の形態形成	坂本裕次郎 安江 透
24-26	歯の形態実習 6	下顎大白歯の形態形成	坂本裕次郎 安江 透
27-29	歯の形態実習 7	特別課題などを行う	坂本裕次郎 安江 透
30	まとめ	前半の授業の補足	坂本裕次郎
31-33	頭蓋と頭頸部の脈管系	頭蓋の外景・内景、頭頸部の動・静脈 1	坂本裕次郎
34-36	頭蓋と頭頸部の脈管系	頭蓋を構成する骨、頭頸部の動・静脈 2、リンパ管・リンパ節	坂本裕次郎
37-38	頭頸部の筋系と頸筋膜	表情筋・咀嚼筋・浅頸筋・外側頸筋・前頸筋（舌骨上筋・舌骨下筋）・後頸筋、頸筋膜	坂本裕次郎
39-40	顎関節と顎運動	顎関節の構造と機能および顎運動	坂本裕次郎
41-43	解剖学見学実習	頭頸部を中心とする局所解剖体の観察	坂本裕次郎
44-45	まとめ	後半の授業の補足	坂本裕次郎

評価方法

- ・授業は講義と実習を合わせて行い、期末の客観試験、論述試験および実習内容で総括的評価を行う。
- ・随時の小テスト等で形成的評価を行い、出席状況、提出物、授業態度等も総括的評価に加える。
- ・前期と後期での講義の評価と実技の評価を総合して年間評価するが、原則として前期と後期に講義と実技のそれぞれに合格しなくてはならない。
- ・前期末と後期末に講義と実技を分けて評価するので、前期と後期それぞれに講義と実技での受験資格を満たさなくてはならない。

参考図書等

- ・最新歯科衛生士教本「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版 2011年
- ・「歯の解剖学」第22版 藤田恒太郎原著 金原出版 1995年
- ・「人体解剖学」改訂第42版 藤田恒太郎著 南江堂 2003年
- ・「入門人体解剖学」改訂第5版 藤田恒夫著 南江堂 2012年
- ・「グレイ解剖学」原著第2版 塩田浩平、瀬口春道、大谷 浩、杉本哲夫訳 エルゼビア・ジャパン 2011年

留意事項

- ・事前に資料の配付、e-learningへのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。
- ・実習室で行われる授業では白衣を着用すること。
- ・解剖学実習室で行われる授業では、白衣と上履きを着用するほか、臨床系実習と同様のゴム手袋（グローブ）やマスク等を着用すること。

担当教員の Office hour

坂本裕次郎 口腔保健衛生基礎学分野 随時 y.sakamoto.ombi@tmd.ac.jp
安江 透 歯冠修復技工学分野 随時 yasue.fpoe@tmd.ac.jp

科目名	疾病の成り立ちと回復過程の促進
ユニット名	病理学総論
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年前期・必修 1 単位・15 時間
科目責任者・ユニット責任者	坂本裕次郎・坂本啓
主な授業場所	口腔保健学科 第4講義室

学習目標

・ 疾病の病理学的分類および原因と病態に関する基本的知識を習得し、人体の構造と機能の正常と異常の相互関係について理解する。

到達目標

- ・ 病因に基づく疾病の分類体系を理解する。
- ・ 疾病の原因となる変化が、遺伝子、蛋白質、細胞、組織、器官、器官系レベル、個体の各レベルにあり、相互に密接に関連していることを理解する。
- ・ 各々の疾病における組織学的変化の基礎を理解する。

授業計画

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1・2	病理学序論	病理学の歴史、病因論	坂本啓
3・4	遺伝性疾患	染色体異常、遺伝子異常、奇形	坂本啓
5・6	退行性病変	代謝障害、退行性病変	坂本啓
7・8	進行性病変	再生と修復、進行性病変	坂本啓
9・10	循環障害	循環障害	坂本啓
11・12	炎症	炎症、感染症	坂本啓
13	免疫異常	免疫学の基礎、免疫異常	坂本啓
14・15	腫瘍	腫瘍	坂本啓

評価方法

- ・ 出席状況、授業態度と期末の客観試験で総合的評価を行う。

参考図書等

- ・最新歯科衛生士教本「病理学・口腔病理学」全国歯科衛生士教育協議会編集 医歯薬出版 2012年
- ・ルービン 病理学－臨床医学への基盤－ 西村書店 2007年
- ・日本病理学会 病理コア画像 <http://pathology.or.jp/corepictures2010/index.html>

留意事項

- ・特になし

担当教員の office hour

坂本啓 口腔病理学分野 月・金 16:00-17:30 s-kei.mpa@tmd.ac.jp

科目名	疾病の成り立ちと回復過程の促進
ユニット名	口腔病理学
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年後期・必修 2 単位・30 時間
科目責任者・ユニット責任者	坂本裕次郎・坂本啓
主な授業場所	口腔保健学科 第4講義室

学習目標

・顎口腔領域の疾病の病理学的分類および原因と病態に関する基本的知識を習得し、顎口腔領域の諸器官について正常な構造と機能と異常との相互関係を理解する。

到達目標

- ・各々の疾患の病因・病態と症状を、その組織学的変化と対応して理解する。
- ・顎口腔の解剖学的構造と疾患との相互関係からそれぞれの理解を深める。
- ・主な口腔疾患の臨床的な症状と病理・病態を、症例を通して理解する。

授業計画

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1・2	歯の異常	歯の発育異常、歯の損傷と付着物	坂本啓
3・4	う蝕	う蝕	坂本啓
5・6	歯髄炎	歯髄炎	坂本啓
7・8	歯周炎	根尖性歯周炎、歯周病、治癒の病理	坂本啓
9	口腔の発育異常	口腔の発育異常	坂本啓
10・11	口腔粘膜疾患	口腔粘膜疾患	坂本啓
12	口腔の嚢胞	口腔の嚢胞	坂本啓
13・14	口腔の腫瘍	口腔の腫瘍	坂本啓
15	顎骨の病変	顎骨の病変	坂本啓
16	唾液腺疾患	唾液腺疾患、加齢に伴う口腔病変	坂本啓
17	歯の構造と疾患	歯の正常構造と歯の疾患との相互関係	坂本裕次郎

18	歯周組織と疾患	歯周組織の正常構造と歯周疾患との相互関係	坂本裕次郎
19・20	乳歯と疾患	乳歯の正常構造の特徴と疾患との相互関係	坂本裕次郎
21・22	顎骨と疾患	上下顎骨の正常構造と顎骨疾患との相互関係	坂本裕次郎
23・24	口腔の軟組織と疾患	口腔粘膜、舌、唾液腺の正常構造と顎骨疾患との相互関係	坂本裕次郎
25・26	臨床口腔病理 1	症例検討：歯肉炎、辺縁性歯周炎	品田佳世子 坂本啓
27・28	臨床口腔病理 2	症例検討：歯髄炎、根尖性歯周炎	品田佳世子 坂本啓
29・30	臨床口腔病理 3	症例検討：粘膜疾患、唾液腺疾患	品田佳世子 坂本啓

評価方法

- ・出席状況、授業態度と期末の客観試験で総合的評価を行う。

参考図書等

- ・最新歯科衛生士教本「病理学・口腔病理学」全国歯科衛生士教育協議会編集 医歯薬出版 2012年
- ・口腔病理基本画像アトラス <http://www.dent.nihon-u.ac.jp/OralPathologyAtlas/Ver1/>

留意事項

- ・特になし

担当教員の office hour

坂本啓 口腔病理学分野 月・金 16:00-17:30 s-kei.mpa@tmd.ac.jp
坂本裕次郎 口腔保健衛生基礎学分野 随時 y.sakamoto.ombi@tmd.ac.jp
品田佳世子 口腔疾患予防学分野 随時 shinada.pvoh@tmd.ac.jp

科目名	疾病の成り立ちと回復過程の促進
ユニット名	薬理学
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年後期・必修 1 単位・15 時間
科目責任者・ユニット責任者	坂本裕次郎・大谷啓一
主な授業場所	口腔保健学科 第4 講義室

学習目標

医薬品の薬理作用を理解し、薬物を安全かつ効果的に利用するために必要な基本的知識を修得する。

到達目標

- ・ 薬の作用、有効量、中毒量、致死量について概説する。
- ・ 薬物の投与方法と生体内分布について概説する。
- ・ 薬物の連用および併用に伴う現象について概説する。
- ・ 中枢神経系作用薬物の種類と作用について概説する。
- ・ 末梢神経系作用薬物の種類と作用について概説する。
- ・ 痛みと薬物について概説する。
- ・ 抗炎症薬の種類と作用について概説する。
- ・ 呼吸・循環器系作用薬の種類と作用について概説する。
- ・ 消化器系作用薬の種類と作用について概説する。

授業計画

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1	薬理学の基礎、医療と薬物	薬物療法の種類、薬理作用の基本形式と分類、薬物の用量と作用	大谷啓一
2・3・4	身体と薬物	薬物の作用機序、薬物動態、薬物の投与方法 連用、併用による作用、薬理作用に影響を与える因子、薬物の副作用・有害作用、ライフステージと薬物	大谷啓一
5・6	中枢神経系作用薬物	全身麻酔薬、睡眠薬、向精神薬、抗けいれん薬、抗・パーキンソン薬、中枢神経興奮薬	大谷啓一

7・8	末梢神経系作用薬物	神経伝達物質、自律神経系作用薬	杉本久美子
9	局所麻酔薬	局所麻酔薬の作用機序・分類・代謝	大谷啓一
10	痛みと薬物	麻薬性鎮痛薬、非麻薬性鎮痛薬、解熱鎮痛薬	大谷啓一
11	抗炎症薬	ステロイド性抗炎症薬、非ステロイド性抗炎症薬、痛風治療薬	青木和広
12・13	循環器系作用薬	降圧薬、高脂血症治療薬、抗狭心症薬、強心薬、抗不整脈薬、高脂血症治療薬、腎疾患治療薬	青木和広
14	呼吸器系作用薬	鎮咳薬、去痰薬、気管支拡張薬、喘息治療薬、呼吸促進薬	田村幸彦
15	消化器系作用薬	食欲・消化作用薬、消化性潰瘍治療薬、胃腸運動改善薬、腸疾患作用薬	田村幸彦

評価方法

- ・提出レポート、期末の客観試験、論述試験で総括的評価を行う。
- ・出席状況および授業態度を総括的評価に加味する。

参考図書等

- ・新歯科衛生士教本「薬理学」第2版 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・「シンプル薬理学」改訂第3版 植松俊彦 他編 南江堂
- ・「現代歯科薬理学」第5版 小椋秀亮監修 医歯薬出版

留意事項

事前に資料の配付、e-learning へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。

担当教員の office hour

大谷啓一	硬組織薬理学分野	月、火	16:00-18:00	kohya.hpha@tmd.ac.jp
杉本久美子	口腔基礎科学分野	木	16:00-18:00	ksugimoto.fohc@tmd.ac.jp
青木和広	硬組織薬理学分野	火	16:00-18:00	kazu.hpha@tmd.ac.jp
田村幸彦	硬組織薬理学分野	金	16:00-18:00	tamu.hpha@tmd.ac.jp

科目名	疾病の成り立ちと回復過程の促進
ユニット名	病原微生物と生体防御
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	2学年前・後期・必修2単位・30時間
科目責任者・ユニット責任者	坂本裕次郎・坂本裕次郎
主な授業場所	口腔保健学科 第4講義室

学習目標

病原微生物の特徴と病原性、口腔および全身の感染症の病因と感染成立の機序および生体の防御反応のしくみについて理解し、その理解に基づく感染予防の方法ならびに実際の対処法を理解する。

到達目標

- ・細菌、ウイルス等による感染について、微生物の病原性を構造、機能、遺伝的因子から理解する。
- ・感染の予防と治療の基礎を微生物の特性に着眼して理解する。
- ・病原微生物の分類と病原性について説明する。
- ・口腔細菌の特徴と病原性について説明する。
- ・免疫獲得と免疫寛容の機構および免疫疾患の病因・病態について説明する。
- ・病原微生物や様々な外来刺激に対する生体の防御系を説明する。
- ・疼痛の病因・病態について説明する。
- ・顎・顔面・口腔領域の神経痛の病因・病態について説明する。
- ・歯科医療現場で遭遇する感染症について説明する。
- ・感染予防の方法と限界について説明する。
- ・医療現場における安全対策について説明する。

授業計画

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1・2	微生物学総論	微生物の一般的性状（細菌、ウイルス、その他）	中川一路
3-5	感染	微生物の病原因子、感染経路、感染症の種類、口腔内症状を呈する感染症	中川一路
6・7	感染と免疫	感染と免疫の基礎	中川一路
8・9	化学療法	化学療法の機序、薬剤耐性	中川一路

10・11	微生物学各論 1	グラム陽性菌、グラム陰性菌	中川一路
12・13	微生物学各論 2	スピロヘータ、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア、真菌、ウイルス	中川一路
14・15	口腔細菌	う蝕関連細菌、歯周疾患関連細菌	中川一路
16	免疫概論	免疫システムとは、自己寛容	東みゆき
17	免疫担当細胞	免疫担当細胞	東みゆき
18	自然免疫	食細胞、抗体、補体、自然免疫	東みゆき
19	適応免疫 1	細胞性免疫、エフェクター細胞	東みゆき
20	適応免疫 2	液性免疫、免疫記憶、ワクチン	東みゆき
21	アレルギー	過敏症、自己免疫	東みゆき
22・23	疼痛総論	疼痛の概念と分類、疼痛発生の原因と機序	坂本裕次郎
24	顎・顔面領域の疼痛	脳神経と顎・顔面領域の疼痛の原因と機序	坂本裕次郎
25・26	歯科医療と感染症	歯科医療現場において遭遇するおもな感染症	砂川光宏
27・28	感染予防の方法	歯科医療現場における感染予防法の実際	砂川光宏
29・30	安全対策	歯科医療現場における安全対策	三輪全三

評価方法

- ・提出レポート、期末の客観試験、論述試験で総括的評価を行う。
- ・随時の小テスト等で形成的評価を行い、出席状況、授業態度等も総括的評価に加える。
- ・前期評価と後期評価を総合して年間評価とするが、原則として前期と後期それぞれに合格しなくてはならない。
- ・前期末と後期末に評価するので、前期と後期それぞれに受験資格を満たさなくてはならない。

参考図書等

- ・最新歯科衛生士教本「疾病の成り立ち及び回復過程の促進 2 微生物学」全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版 2011年
- ・新歯科衛生士教本「微生物学」第2版 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版 2007年

留意事項

- ・事前に資料の配付、e-learning へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。

担当教員の office hour

坂本裕次郎	口腔保健衛生基礎学分野	随時	y. sakamoto. ombi@tmd. ac. jp
中川一路	細菌感染制御学分野	月・木	16:00-18:00 ichiro-n. bac@tmd. ac. jp
東みゆき	分子免疫学分野	月～金	16:00-18:00 miyuki. mim@tmd. ac. jp
砂川光宏	クリーンルーム歯科外来	(事前に連絡すること)	m. sunakawa. endo@tmd. ac. jp
三輪全三	小児歯科外来	月・水・木	16:00-18:00 miwa. dohs@tmd. ac. jp

科目名	口腔保健衛生基礎科学実習
ユニット名	口腔保健衛生基礎科学実習
授業形態	実習
開講時期・単位・時間数	2 学年前・後期・必修 1 単位・45 時間
科目責任者・ユニット責任者	坂本裕次郎・坂本裕次郎
主な授業場所	口腔保健学科基礎科学実習室・医学部解剖学実習室

学習目標

人体の構造と機能及び疾病、歯・口腔の構造と機能、疾病の成り立ちと回復過程の促進などの講義で学習した内容について、実習を通して理解を深める。

到達目標

- ・人体の筋、神経系および主要器官を観察して特徴を説明する。
- ・人体の主要器官の組織標本を観察して特徴を説明する。
- ・細菌の分離培養とその細菌の鑑別を行う。
- ・組織標本の切片作製と染色を行い、光学顕微鏡観察の意義について説明する。
- ・咀嚼その他の各種の運動と筋の働きの検査を行い、筋の種類と働きについて説明する。
- ・尿の比重測定および一般検査を行い、尿から得られる生体の情報について説明する。
- ・味覚および体性感覚の感覚検査を行い、感覚のしくみについて説明する。
- ・歯科で用いられる代表的な薬物の作用を観察し、薬物の特性を説明する。
- ・蛍光色素等の硬組織内への沈着を観察し、硬組織の成長・発育過程を説明する。

授業計画

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1-3	解剖学見学実習	解剖体の観察（骨格・筋、脈管・神経系、内臓）	坂本裕次郎
4-6	細菌学実習 1	細菌の培養と観察 1	品田佳代子 荒川真一
7-9	細菌学実習 2	細菌の培養と観察 2	品田佳代子 荒川真一
10-12	細菌学実習 3	細菌の培養と観察 3	品田佳代子 荒川真一

13-15	組織学実習 1	組織標本作製（組織切片の作製）と顕微鏡観察	坂本裕次郎
16-18	組織学実習 2	組織標本作製（組織切片の作製）と顕微鏡観察	坂本裕次郎
19-21	組織学実習 3	組織標本作製（組織切片の染色）と顕微鏡観察	坂本裕次郎
22-24	機能解剖実習 1	咀嚼機能検査（咀嚼・その他の運動と機能検査）	上野俊明
25-27	機能解剖実習 2	咀嚼機能検査（下顎運動の測定）	水口俊介
28-30	生理学実習 1	尿の生理学（尿比重測定・一般尿検査）	小野寺光江
31-33	生理学実習 2	感覚機能検査（皮膚感覚の測定）	杉本久美子
34-36	生理学実習 3	感覚機能検査（味覚閾値測定）	杉本久美子
37-39	薬理学実習 1	全身麻酔薬の作用	大谷啓一 青木和広 田村幸彦
40-42	薬理学実習 2	硬組織の薬理	大谷啓一 青木和広 田村幸彦
43-45	薬理学実習 3	鎮痛薬の薬理、局所麻酔薬の作用	大谷啓一 青木和広 田村幸彦

評価方法

- ・出席状況、実習態度、提出レポート等で総括的評価を行う。
- ・各実習項目の実習状況を総合して評価するが、原則としてそれぞれに合格しなくてはならない。
- ・実習項目ごとに評価するので、原則としてそれぞれに出席を満たさなくてはならない。

参考図書等

e-learning システム上にアップロード、または授業の際に印刷物を配付する。

留意事項

- ・事前に、配付される実習書等を読み、関連知識を予習しておくこと。
- ・実習室では、必ず白衣とネームプレートを着用すること。
- ・解剖学実習室では、白衣とネームプレートのほかに、上履きを着用するほか、手袋（臨床系実習と同様のグローブ）やマスク等を着用すること。

担当教員の office hour

坂本裕次郎	口腔保健衛生基礎学分野	随時	y.sakamoto.ombi@tmd.ac.jp
品田佳代子	口腔疾患予防学分野	随時	shinada.pvoh@tmd.ac.jp
荒川真一	生涯口腔保健衛生学分野	随時	s-arakawa.ltoh@tmd.ac.jp
上野俊明	スポーツ医歯科学分野	月・木	16:00-17:00 t.ueno.spmd@tmd.ac.jp
水口俊介	全部床義歯補綴学分野	随時	s.minaguchi.gerd@tmd.ac.jp
小野寺光江	健康支援口腔保健衛生学分野	随時	m.onodera.ocsh@tmd.ac.jp
杉本久美子	口腔基礎科学分野	木	16:00-18:00 ksugimoto.fohc@tmd.ac.jp
大谷啓一	硬組織薬理学分野	月・火	16:00-18:00 kohya.hpha@tmd.ac.jp
青木和広	硬組織薬理学分野	月	16:00-18:00 kazu.hpha@tmd.ac.jp
田村幸彦	硬組織薬理学分野	金	16:00-18:00 tamu.hpha@tmd.ac.jp

科目名	口腔衛生学
ユニット名	口腔衛生学
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年前期・必修 1 単位・15 時間
科目責任者・ユニット責任者	品田佳世子・品田佳世子
主な授業場所	口腔保健学科 第4講義室

学習目標

口腔衛生学およびそれに関連する法律を理解するとともに集団の口腔保健に関する問題を解決するための疫学的方法論および衛生行政のシステムを理解する。

到達目標

- ・口腔衛生学について説明できる。
- ・う蝕の検出と指数を説明できる。
- ・歯周疾患の検出と指数を説明できる。
- ・口腔清掃状態と歯石の指数を説明できる。
- ・口腔保健に関連する法律について説明できる。
- ・地域保健法、健康増進法および健康日本 21 施策を説明できる。
- ・地域歯科保健について説明できる。

授業計画

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1	口腔衛生学概論	口腔衛生学についての概説	品田佳世子
2	口腔診査の疫学的意義	口腔診査法の変遷とそれぞれの特徴、歯科検診における誤差の考察	品田佳世子
3	う蝕の検出基準と指数	う蝕の各種検出基準・指数とその意義	品田佳世子
4	歯周疾患の検出基準と指数	歯周疾患の各種検出基準・指数とその意義	品田佳世子
5	口腔清掃状態および歯石の検出基準と指数	口腔清掃状態・歯石の各種検出基準・指数とその意義	品田佳世子
6	歯のフッ素症・酸蝕症などの検出基準と指数	歯のフッ素症・酸蝕症等の各種検出基準・指数とその意義	品田佳世子
7・8	母子保健法、母子歯科保健	母子保健の動向と規則、母子歯科保健	品田佳世子

9・10	学校保健安全法、学校歯科保健	学校保健の動向と規則、学校歯科保健	品田佳世子
11	労働安全衛生法、産業歯科保健	産業保健の動向と規則、産業歯科保健	品田佳世子
12	高齢者の医療、口腔保健に関する法律、成人歯科保健、高齢者歯科保健	成人保健、高齢者保健の動向と規則、成人歯科保健、高齢者歯科保健、介護予防	品田佳世子
13	精神保健、国際保健	精神保健、国際保健の中での口腔保健	品田佳世子
14・15	地域歯科保健	地域保健の動向と規則、地域歯科保健	品田佳世子

評価方法

- ・提出レポート、期末の客観試験、論述試験で総括的評価を行う。
- ・出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。
- ・随時的小テスト等で形成的評価を行い、授業態度等も総括的評価に加える。
- ・提出レポート、課題発表等で総括的評価を行う。
- ・講義、グループ討論、発表の態度等を総括的評価に加味する。

教科書、参考図書等

教科書：最新歯科衛生士教本「保健生態学」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版

参考図書

- ・「国民衛生の動向」（厚生指標 臨時増刊） 厚生統計協会毎年発行
- ・「歯科でいかそう健康増進法」8020 推進財団編 医歯薬出版
- ・「歯科六法必携」能美光房、宮武光吉、石井拓男編 ヒョーロンパブリッシャーズ
- ・新歯科衛生士教本「衛生行政・社会福祉」第2版 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版

留意事項

- ・事前に小テスト範囲が示された場合は、予習・復習して小テスト・授業に臨むこと。

担当教員の office hour

品田佳世子 口腔疾患予防学分野 随時 shinada.pvoh@tmd.ac.jp

科目名	口腔健康科学
ユニット名	口腔健康科学
授業形態	講義・PBL テュートリアル
開講時期・単位・時間数	2 学年前期・必修 1 単位・15 時間
科目責任者・ユニット責任者	寺岡加代・寺岡加代(講義)、小野寺光江、大木明子 (PBL テュートリアル)
主な授業場所	口腔保健学科第3 講義室(講義)、歯学部演習室等(PBL テュートリアル)

学習目標

口腔健康科学の概念および意義を学び、科学的根拠に基づくヘルスプロモーションが実践できる口腔保健の専門家としての役割を理解する。

到達目標

- ・口腔健康科学の意義を説明する。
- ・ヘルスプロモーションの概要を説明する。
- ・WHO の健康戦略を説明する。
- ・保健行動の理論とモデルを説明する。
- ・ヘルスプロモーションの展開過程（計画・実施・評価）を説明する。
- ・口腔保健政策におけるヘルスプロモーションの役割を説明する。
- ・人々の健康に影響をおよぼす要因を説明する。
- ・人々の健康に関する問題を発見し、解決するための方法を検討する。

授業計画

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1	口腔健康科学の概要	口腔健康科学の意義	寺岡加代
2-3	セッション1	シナリオ1	口腔保健学科教員
4-6	セッション2	シナリオ1	口腔保健学科教員
7-9	セッション3	シナリオ2	口腔保健学科教員
10-12	セッション4	シナリオ2	口腔保健学科教員
13-14	全体発表	シナリオ1、2についてグループ発表	口腔保健学科教員
15	口腔健康科学の概要	ヘルスプロモーションの概要・役割、WHO	寺岡加代

評価方法

講義：期末の客観試験、記述試験で総括的評価を行う。

PBL：セッション毎に、チューターによる形成的評価を行う。

出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。

参考図書等

- ・「オーラルヘルスプロモーション」 岡田昭五郎監修 (財) 口腔保健協会
- ・「ヘルスプロモーション講座」 島内憲夫編著 JUHRC
- ・「健康教育・ヘルスプロモーション」 武藤孝司著 篠原出版

留意事項

講義：事前に資料の配布・アップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

PBL：PBL テュートリアルブックをよく読んで、グラドルールを厳守すること。

事前に資料の配付、e-learning へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。

必要に応じ、科目責任者(演習)、担当チューターによる面談を行うことがある。

担当教員の office hour

寺岡加代	口腔健康教育学分野	随時	ktera.ohce@tmd.ac.jp
小野寺光江	健康支援口腔保健衛生学分野	随時	m.onodera.ocsh@tmd.ac.jp
杉本久美子	口腔基礎科学分野	16:00-18:00	ksugimoto.fohc@tmd.ac.jp
大木明子	口腔保健工学統合学分野	16:00-18:00	moki,mfoe@tmd.ac.jp

科目名	社会保障Ⅱ
ユニット名	社会保障Ⅱ
授業の形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年前期・必修 2 単位・30 時間
科目責任者・ユニット責任者	遠藤慶子・遠藤慶子
主な授業場所	口腔保健学科 第4 講義室

学習目標

保健・医療・福祉サービスを包含する社会保障の理念や歴史、社会保障の各制度や体系、諸外国における社会保障制度の概要を理解する。

到達目標

- ・現代社会における社会保障制度の位置づけと課題を説明できる。
- ・社会保障制度の概念・理念・対象を説明できる。
- ・社会保障制度の体系（各制度の概要）を説明できる。
- ・社会保障の財源と費用を説明できる。
- ・社会保険と社会扶助の関係を説明できる。
- ・公的保険制度と民間保険制度の関係を説明できる。
- ・諸外国における社会保障制度の概要を説明できる。

授業計画

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1・2	現代社会と社会保障制度	授業の説明、学習内容、現代社会と社会保障制度の概説	引馬知子 遠藤慶子
3・4	社会保障制度の概念・対象・理念	社会保障の概念と範囲、役割と意義、理念と対象	引馬知子
5・6	社会保障の歴史(1)	諸外国における社会保障制度の発達	引馬知子
7・8	社会保障の歴史(2)	日本における社会保障制度の発達	引馬知子
9・10	社会保障の財源と費用	社会保障の財源、社会保障給付費、国民負担率	引馬知子
11・12	社会保障制度の体系	社会保険、社会扶助等の概念と範囲	引馬知子

13・14	社会保障と雇用保険・労災保険	労災保険制度、雇用保険制度の概要と課題	引馬知子
15・16	社会保障と年金保険	年金保険制度の概要と課題	引馬知子
17・18	社会保障と介護保険	介護保険制度の概要と課題	引馬知子
19・20	社会保障と社会扶助等	各種社会福祉制度、生活保護制度、社会手当等の概要	引馬知子
21・22	公的保険制度と民間保険制度	公的保険制度(社会保険制度)と民間保険制度の関係性および民間保険の概要	引馬知子
23・24	諸外国における社会保障制度(1)	社会保障の国際比較	引馬知子
25・26	諸外国における社会保障制度(2)	社会保障における国際的潮流	引馬知子
27・28	社会保障制度における現状と課題	少子高齢社会と社会保障制度	引馬知子
29・30	まとめ	授業の振り返りと学習成果の確認	引馬知子

評価方法

- ・ 授業内レポートおよびリアクションペーパーで、重要な単元の学習成果を評価する。
- ・ 定期試験を実施し、総合的に評価する。

参考図書等

- ・ 随時、授業中に紹介する。

留意事項

事前に資料の配付、e-learning システム上へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

担当教員の office hour

遠藤慶子 地域・福祉口腔保健衛生学分野 随時 k-endo.ohcw@tmd.ac.jp

担当教員(非常勤)

引馬知子 田園調布学園大学

科目名	保健医療サービス
ユニット名	保健医療サービス
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年後期・必修 2 単位・30 時間
科目責任者・ユニット責任者	小野寺光江・小野寺光江
主な授業場所	口腔保健学科 第4講義室

学習目標

- ・保健医療サービスに関連する法律や衛生行政、医療保険制度、政策動向を理解する。
- ・保健医療サービスにおける専門職の役割と実際、多職種連携やチームアプローチを理解する。

到達目標

- ・保健医療サービスに関連する法律（憲法、地域保健法、健康増進法など）の概要を説明する。
- ・保健医療サービスに関連する政策動向を説明する。
- ・衛生行政の概要と政策動向を説明する。
- ・医療保険制度（診療報酬に関する内容を含む）の特徴や仕組みを説明する。
- ・保健医療サービスにおける専門職（医師、歯科医師、歯科衛生士、歯科技工士、看護師、保健師、医療ソーシャルワーカー、他の医療技術職）の役割と実際を説明する。
- ・保健医療サービスにおける他職種連携や医療チームアプローチを説明する。
- ・インフォームドコンセントの概要（関連制度、自己決定・自立尊重原理など）を説明する。

授業計画

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1	保健医療サービス関連の法・制度 1	憲法・医療法などの基本法規と保健医療制度	寺岡加代
2	保健医療サービス関連の法・制度 2	保健医療サービスの制度・政策（概要）	寺岡加代
3	保健医療サービス関連の法・制度 3	保健医療サービス従事者の関係法規と資格制度	北原稔
4	保健医療サービス関連の法・制度 4	健康増進法の概要と制度・政策	北原稔
5	保健医療サービス関連の法・制度 5	地域保健の関連法規と制度・政策	北原稔
6	保健医療サービス関連の法・制度 6	母子保健の関連法規と制度・政策	小野寺光江

7	保健医療サービス関連の法・制度 7	学校保健の関連法規と制度・政策	品田佳世子
8	保健医療サービス関連の法・制度 8	産業保健の概要と関連法規および制度・政策	品田佳世子
9	保健医療サービス関連の法・制度 9	成人・高齢者保健の関連法規と制度・政策	小野寺光江
10	保健医療サービス関連の法・制度 10	精神保健の概要と関連法規および制度・政策	美濃由紀子
11	保健医療サービス関連の政策動向 1	高齢者福祉・介護と保健医療サービス	小野寺光江
12	保健医療サービス関連の政策動向 2	障害者福祉・児童福祉と保健医療サービス	岡光基子
13	保健医療サービス関連の政策動向 3	歯科口腔保健の推進と保健医療サービス	矢澤正人
14	衛生行政 1	国の衛生行政と機能	矢澤正人
15	衛生行政 2	都道府県・市区町村の衛生行政と保健事業の実際	矢澤正人
16	衛生行政 3	衛生行政の政策動向と今後の課題	矢澤正人
17	医療保険制度 1	医療保険の種類とプロセス	寺岡加代
18	医療保険制度 2	出来高払い・包括払いの制度と特徴	寺岡加代
19	医療保険制度 3	診療報酬制度の概要、診療報酬と医療連携	寺岡加代
20	医療保険制度 4	医療費減免等の諸制度（高額療養費制度など）	寺岡加代
21	医療保険制度 5	医療費に関する政策動向と今後の課題	寺岡加代
22	インフォームドコンセントの概要	関連諸制度、自己決定・自立尊重の原理について	寺岡加代
23	保健医療サービスにおける専門職 1	保健医療サービスにおける歯科医師・歯科衛生士・歯科技工士の役割	矢澤正人

24	保健医療サービスにおける専門職 2	保健医療サービスにおける医療専門職の役割	小野寺光江
25-26	保健医療サービスにおける専門職 2	病院におけるMSWの役割、医療チームアプローチと多職種連携	山田麻記子
27-28	保健医療サービスにおける専門職 3	災害時におけるMSWの役割	山田美代子
29-30	保健医療サービスにおける専門職 4	被災地医療機関と受入れ医療機関との連携	山田美代子

評価方法

- ・提出レポート、期末の客観試験、論述試験で総括的評価を行う。
- ・出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。
- ・提出レポート、課題発表等で総括的評価を行う。

参考図書等

- ・最新歯科衛生士教本 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み 2 歯科衛生士と法律
全国歯科衛生士教育協議会 医歯薬出版
- ・新・社会福祉士養成講座 17 保健医療サービス 社会福祉士養成講座編集委員会編 中央法規

留意事項

- ・事前に資料の配布、e-learning へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

担当教員の office hour

小野寺光江 生涯口腔保健衛生学分野 随時 m.onodera.ocsh@tmd.ac.jp
 寺岡加代 口腔健康教育学分野 随時 ktera.ohce@tmd.ac.jp
 品田佳世子 口腔疾患予防学 随時 shinada.pvoh@tmd.ac.jp

担当教員（非常勤）

北原稔 神奈川県厚木保健福祉事務所
 矢澤正人 東京都多摩立川保健所
 山田美代子 西方医療福祉研究会

科目名	臨床歯科医学
ユニット名	歯科保存学
授業形態	演習・講義
開講時期・単位・時間数	2 学年前期・必修 1 単位・30 時間
科目責任者・ユニット責任者	白田千代子・荒川真一
主な授業場所	口腔保健学科 第4講義室

学習目標

保存系歯科医学の内容を理解し、保存系歯科医療におけるチームアプローチを実践するために必要な知識を修得する。

到達目標

- ・ 歯の硬組織疾患を説明する。
- ・ う蝕のリスクファクターと診断法、病理と処置法を説明する。
- ・ 窩洞の分類と修復物の理想的臨床形態を説明する。
- ・ コンポジットレジン修復を説明する。
- ・ 歯科用セメントの種類と使用目的を説明する。
- ・ アマルガム修復を説明する。
- ・ メタルインレー修復を説明する。
- ・ 審美的間接法修復を説明する。
- ・ う蝕の保存修復治療に必要な器具、器材、前準備、ならびに術後管理を説明する。
- ・ 歯髄保存療法の種類、目的、器具、器材、前準備、術後管理を説明する。
- ・ 歯髄除去療法の種類、目的、器具、器材、前準備、術後管理を説明する。
- ・ 感染根管治療の種類、目的、器具、器材、前準備、術後管理を説明する。
- ・ 根管充填法の種類、目的、器具、器材、前準備、術後管理を説明する。
- ・ 外科的歯内治療の種類、目的、器具、器材、前準備、術後管理を説明する。
- ・ 歯周基本治療の種類、目的、器具、器材、前準備、術後管理を説明する。
- ・ 外科的歯周治療の種類、目的、器具、器材、前準備を説明する。
- ・ 歯周治療におけるメンテナンスの内容、目的、器具、器材、前準備、術後管理を説明する。

授業計画

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1・2	歯周病・歯周治療 歯周病の病因・症状	歯周病・歯周治療の概説、歯周病の病因	荒川真一
3・4	歯周組織, 歯周組織検査と診断	歯周組織診査の種類、目的、器具、器材、準備	荒川真一
5・6	スケーリング・ルートプレーニング	歯周基本治療としてのスケーリング・ルートプレーニング、目的、器具、器材、準備、術後管理	荒川真一
7・8	咬合調整と固定、 歯周外科手術	咬合調整と固定の種類、歯周外科手術、目的、器具、器材、準備、術後管理	荒川真一
9・10	薬物療法、メンテナンス・SPT	薬物療法とメンテナンス、SPTの内容、目的、器具、器材、準備	荒川真一
11・12	保存修復治療	歯の構造と硬組織疾患、う蝕のリスクファクターと診断、う蝕の病理と処置法、窩洞の分類、修復物の形態	島田康史
13・14	成形充填修復 1	成形充填修復治療の流れ、コンポジットレジン修復	島田康史
15・16	成形充填修復 2	歯科用セメント（ガラスアイオノマーセメント修復）、アマルガム修復	島田康史
17・18	鑄造修復	間接法修復治療の流れ、メタルインレー修復、審美的間接法修復	島田康史
19・20	ケーススタディ	う蝕の保存修復歯科治療における診療の流れと器材の準備、治療計画とメンテナンス	島田康史
21・22	歯内治療	歯内治療概説、歯髄保存療法の種類、目的、器具、器材、準備、術後管理、ラバーダム防湿、隔壁	竹田淳志
23・24	歯髄除去療法	歯髄除去療法の種類、目的、器具、器材、準備、術後管理	竹田淳志
25・26	感染根管治療	感染根管治療の種類、目的、器具、器材、準備、術後管理	竹田淳志
27・28	根管充填法	根管充填法の種類、目的、器具、器材、準備、術後管理、および外科的歯内治療の種類、目的、器具、器材、準備、術後管理	竹田淳志
29・30	ケーススタディ	歯内治療における診療の流れと器材の準備	竹田淳志

評価方法

- ・提出レポート、期末の客観試験、論述試験で総括的評価を行う。
- ・出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。
- ・随時の小テスト等で形成的評価を行い、授業態度等も総括的評価に加える。
- ・提出レポート、課題発表等で総括的評価を行う。
- ・講義、グループ討論、発表の態度等を総括的評価に加味する。

参考図書等

- ・新歯科衛生士教本「歯科診療補助 歯科器械の知識と取り扱い」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・沼部幸博監修：新人歯科衛生士のためのペリオドンタルインスツルメンテーション. クインテッセンス出版
- ・日本歯周病学会編：歯科衛生士のための歯周治療ガイドブック. 医歯薬出版
- ・最新歯科衛生士教本「歯周疾患 歯周治療」 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版
(この書籍は必ず購入してください：荒川)
- ・最新歯科衛生士教本「微生物学」 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版
- ・「ザ・ペリオドントロジー」和泉雄一、沼部幸博、山本松男、木下淳博 編 永末書店
- ・新歯科衛生士教本「保存修復学・歯内療法学」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・接着ここが知りたい歯科衛生士編 日本接着歯学会編 口腔保健協会
- ・保存修復学2 1 田上順次、千田彰、奈良陽一郎、桃井保子 永末書店

留意事項

- ・事前に資料の配布、e-learning へのアップロード等があった場合には、各自予習して授業に臨むこと。

担当教員の office hour

荒川真一	生涯口腔保健衛生学分野	月～金	17:00-19:00	s-arakawa.lto@tmd.ac.jp
島田康史	う蝕制御学分野	月・火・木・金	16:30-18:30	shimada.ope@tmd.ac.jp
竹田淳志	歯髄生物学分野	月・火・水・金	17:00-18:00	takeda.a.endo@tmd.ac.jp

科目名	臨床歯科医学
ユニット名	小児歯科学
授業形態	演習・講義
開講時期・単位・時間数	2 学年後期・必修・15 時間 } 1 単位 3 学年後期・必修・15 時間 } 単位認定（1 単位）は3 学年終了時に行う
科目責任者・ユニット責任者	白田千代子・遠藤圭子
主な授業場所	口腔保健学科 第4 講義室

学習目標

小児の心身の成長・発達をふまえ、発達期口腔保健の意義および発達期口腔疾患の特徴、予防・治療法を理解する。

到達目標

- ・ 出生から青少年期までの心身の成長・発達を理解する。
- ・ 小児の情緒と社会性の発達を理解する。
- ・ 小児の健康を育む食生活と支援の重要性を理解する。
- ・ 歯の萌出と乳歯・幼若永久歯の特徴を理解する。
- ・ 顎・顔面頭蓋の成長過程を理解する。
- ・ 歯列咬合の発育過程を理解する。
- ・ 小児期の口腔疾患とその治療法、チーム医療を理解する。
- ・ 歯科治療時の小児の行動への対応法を理解する。
- ・ 小児に特有な心身の問題とその解決策を概説できる。

授業計画 2 年後期

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1・2	小児の成長発育、機能の発達、情緒・社会性の発達	成長発育の特徴、身体の発育とその評価、器官の発育、運動・感覚機能の発達、情緒・社会性の発達	石川雅章
3・4	小児の生理的特徴、摂食機能と言語の発達	原始反射、哺乳に関する反射、小児の生理的特徴、栄養摂取と摂食機能の発達、哺乳期、離乳期、幼児期、児童・生徒期、発達期の食の問題、言語の基礎知識、言語の発達、発達期にみられる構音障害	石川雅章

5・6	顎・顔面頭蓋、歯列・咬合の発育	頭蓋の構成要素と相対的発育、頭蓋発育の機構と評価法、側貌頭部エックス線規格写真計測による日本人小児の平均身長、歯列咬合の発育（無歯期、乳歯萌出期、乳歯列期、混合歯列前期、混合歯列後期、永久歯列期）、歯列発育の評価法	石川雅章
7・8	発達期の口腔疾患と歯科的対応 1	乳歯・幼弱永久歯の特徴、歯・歯数・萌出の異常、乳歯う蝕の特徴、小児う蝕の実態、重症乳歯う蝕の為害作用、青少年期のう蝕	三輪全三
9・10	発達期の口腔疾患と歯科的対応 2	発達期の歯周疾患、不正咬合、口腔軟組織疾患の原因と予防、不良習癖、咬合誘導	三輪全三
11・12	歯科治療時の小児行動への対応法	小児の歯科診療時の留意事項（診療環境の整備、小児歯科治療三角、コミュニケーションの確立）、小児の情動の特徴、行動変容法、強制的な行動抑制	小野芳明
13・14	小児歯科の症例紹介	小児歯科の症例紹介（酸蝕、外傷を含む）、治療における歯科医療従事者の役割・チーム医療	小野芳明
15	発達期の口腔保健	まとめ	遠藤圭子

評価方法

毎回の授業開始前の小テストで形成的評価を行う。

2 学年後期末試験（客観試験、記述試験）で評価する。

参考図書等

- ・全国歯科衛生士教育協議会監修 最新歯科衛生士教本「小児歯科」医歯薬出版
- ・全国歯科衛生士教育協議会監修 最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論」医歯薬出版
- ・前田隆秀、朝田芳信、田中光郎他「小児の口腔科学」学建書院
- ・「国民衛生の動向 2012・2013 年」 厚生統計協会
- ・「平成 23 年版 青少年白書」 内閣府
- ・「平成 23 年版 食育白書」 内閣府

留意事項

- ・事前に資料の配布、e-learning へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

担当教員の office hour

遠藤圭子 口腔疾患予防学分野 随時 usagi.pvoh@tmd.ac.jp

担当教員

石川雅章	歯学部
三輪全三	小児歯科学分野
小野芳明	小児歯科学分野

科目名	臨床歯科医学
ユニット名	歯科補綴学
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年後期・必修 1 単位・15 時間
科目責任者・ユニット責任者	白田千代子・白田千代子
主な授業場所	口腔保健学科 第4 講義室

学習目標

補綴歯科医療と補綴装置の特徴を理解するとともに、補綴装置使用における口腔の健康管理の知識を習得する。

到達目標

- ・補綴歯科治療の意義と目的を説明する。
- ・補綴歯科治療の種類・特徴を説明する。
- ・補綴歯科治療に関連のある顎口腔系の機能と形態を説明する。
- ・有床義歯の種類・特徴を説明し、制作過程を概説する。
- ・冠橋義歯の種類・特徴を説明し、制作過程を概説する。
- ・補綴装置使用時における口腔の健康管理を説明する。

授業計画

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1	補綴歯科治療の基礎	意義と目的、補綴装置の役割、補綴装置の種類と特徴、材質の相違が口腔に及ぼす影響	鈴木哲也
2	補綴装置の製作過程 1	印象採得 全部床義歯・特徴・粘膜負担	鈴木哲也
3	補綴装置の製作過程 2	垂直的・水平的な咬合採得法、ゴシックアーチ法の概略、咬合器の形態と機能、咬合器と咬合採得	鈴木哲也
4	補綴装置の製作過程 3	印象採得 部分床義歯	若林則幸
5	床義歯の構成と特徴	部分床義歯の特徴 クラスプ・レスト・Iバー・アタッチメント・マグネット・テレスコープ・連結子 歯根膜負担	若林則幸

6	補綴装置の取り扱い方 1	床義歯の取り扱い、義歯装着により生じる問題と対応方法、 歯周病との関連	若林則幸
7	補綴装置の管理と補修 1	床義歯の管理、補綴装置の修理、デンチャーマーキングの目的と実際、ティッシュコンディショニング、支台歯のオーバーロード	鈴木哲也
8	まとめ	健康を考える・口から食す	駒田亘
9・10	冠橋義歯の種類と特徴 1	金属冠・レジン前装冠・ポーセレン前装冠・レジンジャケットクラウン・オールセラミッククラウン・3/4冠・4/5冠・ピンレッジ・プロキシマールハーフクラウン・アンレー・ラミネートベニア・ブリッジなど	駒田亘
11	冠橋義歯の種類と特徴 2	ボンティックの形態、材質と為害作用 セラミック・ジェルコニア等、テンポラリークラウンの意義と為害作用、仮着と合着	駒田亘
12	補綴装置の取り扱い方 2	冠橋義歯の取り扱い、クラウンブリッジの失敗症例と対応方法	駒田亘
13	補綴装置の管理と補修 2	冠橋義歯の管理	駒田亘
14	まとめ	健康を考える・介護予防のために	鈴木哲也
15	補綴装置の装着	歯科技工士との協働	鈴木哲也

評価方法

提出レポート、期末の客観試験、記述試験で総括的評価を行う。出席状況および授業態度を沿う核的評価に加味する。随時の小テスト等で形成的評価を行う。

参考図書等

- ・最新歯科衛生士教本「咀嚼障害・咬合異常(1) 歯科補綴」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
- ・第3版 歯科補綴学専門用語集 日本補綴歯科学会編 医師薬出版
- ・全部床義歯補綴学 林都志夫編 医師薬出版
- ・よい義歯だめな義歯 鈴木哲也編 クインテッセンス出版 K. K.
- ・スタンダード部分床義歯補綴学 藍 稔編 学健書院
- ・部分床義歯のトラブル解消法 細見洋泰編 クインテッセンス出版 K. K.
- ・義歯のケア-歯科衛生士のための副読本-(日本義歯ケア学会監修) 濱田泰三、水口俊介、秋葉徳寿ほか編 デンタルダイヤモンド社

- ・ クラウンブリッジ補綴学 石橋寛二、川添堯彬編 医歯薬出版
- ・ 歯冠修復上・下 萩原芳幸編 クインテッセンス出版 K. K.
- ・ 口と歯の事典 高戸 毅、天笠光雄編 朝倉書店

留意事項

事前に資料の配付、e-learning システム上へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。また、学習する内容について各自で参考文献を読み、理解を深めること。

担当教員の office hour

鈴木哲也	口腔機能再建技工学分野	随時	suzuki.peoe@tmd.ac.jp
若林則幸	部分床義歯補綴学分野	随時	wakabayashi.rpyo@tmd.ac.jp
駒田 亘	摂食機能保存学分野	随時	w.komada.fpro@tmd.ac.jp

科目名	臨床歯科医学
ユニット名	口腔外科・歯科麻酔学
授業形態	演習・講義
開講時期・単位・時間数	2 学年後期・必修 1 単位・30 時間
科目責任者・ユニット責任者	白田千代子・吉増秀實
主な授業場所	口腔保健工学専攻 第4講義室、口腔保健学科 第4講義室

学習目標

- ・口腔外科・歯科麻酔科のチーム医療を行うにあたって必要な基礎的知識を修得する。

到達目標

- ・顎顔面口腔に症状を現す先天異常と発育異常を列挙し、治療法を説明できる。
 - ・顎口腔領域の炎症の診断および治療法を説明する。
 - ・顎口腔領域の損傷の診断および治療法を説明する。
 - ・顎口腔領域の嚢胞の診断および治療法を説明する。
 - ・口腔粘膜疾患の診断および治療法を説明する。
 - ・唾液腺疾患の病因と病態について説明する。
 - ・顎口腔領域の腫瘍の診断および治療法を説明する。
 - ・顎口腔領域の神経疾患の診断および治療法を説明する。
 - ・顎口腔領域の血液疾患、出血性素因について説明する。
 - ・顎関節疾患の病因、病態、診断および治療法を説明する。
 - ・口腔外科疾患に関連する補綴治療について説明する。
 - ・麻酔法を説明する。
 - ・口腔外科・歯科麻酔科のチーム医療について説明する。
- 口腔の健康維持のために、治療後のセルフケアについて説明する。

授業計画 1～15回は口腔保健工学専攻と合同授業

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1	口腔外科の概要	口腔外科とは、口腔外科疾患の種類、口腔外科診断法	吉増秀實
2	先天異常	口唇裂・口蓋裂の診断、治療、その他の顎口腔領域の先天異常	吉増秀實
3	顎発育異常	顎変形症の診断と治療	吉増秀實
4	外傷	軟組織損傷、顎骨骨折、歯の外傷	吉増秀實

5	炎症	歯性炎症、炎症の波及、炎症の診断と治療	吉増秀實
6	嚢胞	歯原性嚢胞、非歯原性嚢胞、軟組織嚢胞の診断と治療	吉増秀實
7	良性腫瘍・腫瘍類似疾患	良性腫瘍・腫瘍類似疾患の診断と治療	吉増秀實
8	悪性腫瘍	悪性腫瘍の診断と治療	吉増秀實
9	口腔粘膜疾患	口腔粘膜疾患の診断と治療	吉増秀實
10	口腔顎顔面領域の神経疾患、唾液線疾患	口腔顎顔面領域の神経疾患、唾液線疾患の診断と治療	吉増秀實
11	血液疾患、出血性素因	血液疾患、出血性素因の診断と治療	吉増秀實
12	代謝性疾患の口腔症状、症候群	代謝性疾患の口腔症状、口腔顎顔面領域に関連した症候群および疾患	吉増秀實
13	口腔外科と補綴治療	口腔外科疾患術後患者に対する補綴治療、補綴に関連した口腔外科手術	吉増秀實
14・15	顎関節疾患	顎関節症の診断と治療、顎関節症以外の顎関節疾患の種類、診断と治療	木野孔司
16	口腔外科診療総論	診察法、手術の適否、消毒滅菌（器械材料の消毒、手術室の消毒、手指の消毒、手術野の消毒	吉増秀實
17	口腔外科診療各論（抜歯）	抜歯の適応、必要器材、術前の注意事項、抜歯法、抜歯の実際と介助、診療補助の要点、抜歯創の治癒過程、術後処置、偶発症と処置等	吉増秀實
18	口腔外科小手術	種類、適応、方法、必要器材、術前の注意事項、術後管理、術後の説明、診療補助の要点等	吉増秀實
19	口腔外科手術患者の口腔ケア	口腔癌・口唇裂・口蓋裂の処置の流れ、治療後のセルフケア	吉増秀實
20	口腔外科手術患者の口腔ケア	顎変形症・顎骨骨折患者の治療法、処置の流れ、治療後のセルフケア	吉増秀實
21・22	歯科麻酔学概論 全身状態評価・ バイタルサイン	歯科麻酔学概論、全身状態評価・バイタルサイン	神野成治
23・24	全身麻酔法	全身麻酔法	神野成治

25・26	局所麻酔法	局所麻酔法、局所麻酔薬の種類	神野成治
27・28	精神鎮静法ほか	精神鎮静法ほか	神野成治
29・30	ペインクリニック	ペインクリニックとは、顎顔面口腔領域の疼痛性疾患の種類、診断と治療	神野成治

評価方法

- ・2 学年後期末に試験を行う。
- ・出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。
- ・受験資格は、東京医科歯科大学歯学部試験規則第 11 条に準ずる。

参考図書等

- ・最新歯科衛生士教本「口腔外科・歯科麻酔」 歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版 2011 年
- ・新・歯科衛生士教育マニュアル 「口腔外科学・歯科麻酔学」 クインテッセンス, 2013 年
- ・「歯科衛生士のための口腔外科学」 古森孝英 編著 永末書店
- ・「臨床病態学 3」北村 聖 総編集 ヌーヴェルヒロカワ
- ・「医療従事者のためのカラーアトラス：口腔外科疾患」 道 健一 編 永末書店
- ・「最新口腔外科学 第 4 版(総論, 各論)」 塩田重利、富田喜内 監修 医歯薬出版

留意事項

事前に資料の配布・アップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

担当教員の office hour

吉増秀實 健康支援口腔保健衛生学分野 随時 h-yoshimasu.ocsh@tmd.ac.jp

担当教員

木野孔司 顎関節治療部

神野成治 麻酔・生体管理学分野

科目名	口腔疾患予防学
ユニット名	口腔疾患予防学の基礎
授業形態	実習・講義
開講時期・単位・時間数	2 学年前・後期・必修 3 単位・135 時間
科目責任者・ユニット責任者	品田佳世子・品田佳世子
主な授業場所	口腔保健学科第4講義室・臨床基礎実習室・相互実習室

学習目標

- ・ 歯・口腔の健康状態を維持するための要因と、予防可能な口腔疾患の種類、その原因と予防法について理解する。
- ・ 歯・口腔の状態把握および歯科予防処置の基本的知識と技術を修得する。

到達目標

- ・ 歯・口腔の健康と予防の定義について説明する。
- ・ 歯・口腔の健康と予防の方法と健康づくりについて説明する。
- ・ セルフケア、プロフェッショナルケア、コミュニティーケアの内容を説明する。
- ・ 歯・口腔の付着物・沈着物について説明する。
- ・ 口腔清掃について説明する。
- ・ プラークコントロールの方法について説明する。
- ・ 歯磨剤や洗口剤について説明する。
- ・ 歯周病の症状・種類・診査を説明する。
- ・ 歯周病の予防を説明する。
- ・ う蝕の発生のメカニズムを説明する。
- ・ う蝕の発生要因とう蝕活動性試験を説明する。
- ・ フッ化物の応用とそのう蝕予防効果を説明する。
- ・ フッ化物の代謝や毒性について説明する。
- ・ 歯質損耗 (tooth wear) の症状、種類、予防、治療法を説明する。
- ・ 口臭の分類、原因、予防、処置を説明する。
- ・ 生体への配慮 (器具の消毒・滅菌、感染予防、手指の消毒法、偶発事故の予防) の基本を実践しながら、歯科予防処置を実施できる。
- ・ 歯科予防処置のうち、歯石除去、歯面清掃、SRP、う蝕予防処置、フッ化物歯面塗布、フッ化物洗口を実施できる。
- ・ 歯科衛生過程の基本的な使い方を理解する。

授業計画

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1	口腔の健康と口腔疾患の予防	歯・口腔の健康と予防の定義、基礎	品田佳世子
2・3	歯・口腔の付着物・沈着物	歯・口腔の付着物・沈着物：ペリクル、プラーク、歯石、舌苔、外来性色素沈着物	品田佳世子
4・5	口腔内観察 1	自己観察 健康な口腔内の把握	品田・近藤・大塚 安田・遠藤・白田
6・7	う蝕の発生、発生要因	う蝕の発生機序、発生要因、う蝕活動性試験	品田佳世子
8・9	リスク検査	実習 う蝕リスクテスト	品田・近藤・大塚 安田・遠藤・白田
10	う蝕予防：食餌性要因, 酸蝕症	シュガーコントロール、代用甘味料、その他の予防方法、歯質損耗 (tooth wear) の症状・種類・予防法、	品田佳世子
11・12	飲料の糖度と pH 測定	実習	品田・近藤・大塚 安田・遠藤・白田
13	う蝕の予防：フッ化物の応用	フッ化物の応用とそのう蝕予防効果	品田佳世子
14・15	フッ化物応用 1	実習 フッ化物洗口など	品田・近藤・大塚 安田・遠藤・白田
16	フッ化物の急性、慢性中毒	フッ化物の代謝、急性・慢性中毒	品田佳世子
17	歯周病の原因とリスク評価	歯周病の症状・種類・診査・検診、実態調査	品田佳世子
18・19	歯周病のリスクテスト	実習	品田・近藤・大塚 安田・遠藤・白田
20	プラーク・歯石の評価、Index	プラーク・歯石の評価、Index	品田佳世子
21・22	プラーク・歯石等の自己評価	実習 自己観察可能なインデックス	品田・近藤・大塚 安田・遠藤・白田

23	歯周病の予防	口腔保健指導、生活習慣指導、 歯石除去、歯面研磨等	品田佳世子
24	プラークコントロール:ブラッシング	歯・口腔の清掃法:自然的・人工的・手術的・科学的清掃法、 プラークコントロールの重要性と効果、方法	品田佳世子
25・26	ブラッシング	実習	品田・近藤・大塚 安田・遠藤・白田
27	フロス、歯間ブラシ、その他	歯間清掃用具および補助的清掃用具	品田佳世子
28・29	フロッシング等	実習	品田・近藤・大塚 安田・遠藤・白田
30	歯磨剤、洗口剤について	歯磨剤、洗口剤について	品田佳世子
31	口臭の原因と予防	口臭の分類、原因、予防方法	品田佳世子
32・33	口臭測定等	実習	品田・近藤・大塚 安田・遠藤・白田
34-37	フッ化物応用2 (後期)	相互実習 フッ化物歯面塗布、 フッ化物応用の方法と実際	品田・近藤・大塚 安田・遠藤・白田
38・39	歯科衛生過程概略 実習の進め方 1	歯科衛生過程概略、実習の目的 と基本事項 実習使用器材の準備(購入物品 について)	近藤・遠藤・大塚 安田・白田
40・41	実習の進め方 2	マネキンの取扱方法、 歯科用ユニットの操作方法	近藤・遠藤・大塚 安田・白田
42・43	実習の基本1	インスツルメントの種類、 衛生材料の作成、滅菌物の取扱 方法	近藤・遠藤・大塚 安田・白田
44・45	実習の基本2	位置と姿勢、インスツルメント (診査・検査器具、スケーラー) の把持法と操作法	近藤・遠藤・大塚 安田・白田
46・47	インスツルメンテーション1	インスツルメントの基本操作1 スケーリングの基本操作1	近藤・遠藤・大塚 安田・白田

48・49	インスツルメンテーション 2	インスツルメントの基本操作 2 スケーリングの基本操作 2	近藤・遠藤・大塚 安田・白田
50・51	インスツルメンテーション 3	インスツルメントの基本操作 3 スケーリングの基本操作 3	近藤・遠藤・大塚 安田・白田
52・53	インスツルメンテーション 4	前歯部のスケーリング 1	近藤・遠藤・大塚 安田・白田
54・55	インスツルメンテーション 5	前歯部のスケーリング 2	近藤・遠藤・大塚 安田・白田
56・57	インスツルメンテーション 6	前歯部のスケーリング 3	近藤・遠藤・大塚 安田・白田
58・59	インスツルメンテーション 7	前歯部のスケーリング 4	近藤・遠藤・大塚 安田・白田
60・61	インスツルメンテーション 8	臼歯部のスケーリング 1	近藤・遠藤・大塚 安田・白田
62・63	インスツルメンテーション 9	臼歯部のスケーリング 2	近藤・遠藤・大塚 安田・白田
64・65	インスツルメンテーション 10	臼歯部のスケーリング 3	近藤・遠藤・大塚 安田・白田
66・67	インスツルメンテーション 11	臼歯部のスケーリング 4	近藤・遠藤・大塚 安田・白田
68・69	歯面研磨 1	歯面研磨に使用する器材と取扱、方法	近藤・遠藤・大塚 安田・白田
70・72	歯面研磨 2	歯面研磨の実際	近藤・遠藤・大塚 安田・白田
73・74	シャープニング 1	シックスケーラーのシャープニング	近藤・大塚 安田
75-77	ルートプレーニング 1	ルートプレーニングの基本	近藤・遠藤・大塚 安田・白田
78-80	ルートプレーニング 2	ルートプレーニング実習	近藤・遠藤・大塚 安田・白田
81-83	SRP 1	スケーリング、ルートプレーニング	近藤・遠藤・大塚 安田・白田

84-87	SRP 2	スケーリング、ルートプレーニング	近藤・遠藤・大塚 安田・白田
88-90	SRP 3	スケーリング、ルートプレーニング	近藤・遠藤・大塚 安田・白田
91	シャープニング 2	グレーシーキュレットのシャープニング	近藤・大塚・安田
92-95	相互実習について	相互実習について、相互実習スケーラーのシャープニング、準備	近藤・遠藤・大塚 安田・白田
96-99	相互実習 1	アセスメント 1 医療面接、口腔内観察、検査	品田・荒川・近藤 遠藤・大塚・安田 白田
100-103	相互実習 2	アセスメント 2	品田・荒川・近藤 遠藤・大塚・安田 白田
104-107	対象者の把握	記録の整理、歯科衛生診断のためのまとめ	近藤・大塚・安田
108-111	相互実習 3	ハンドスケーリング 前歯	品田・荒川・近藤 遠藤・大塚・安田 白田
112-115	相互実習 4	ハンドスケーリング 前歯	品田・荒川・近藤 遠藤・大塚・安田 白田
116-119	相互実習 5	ハンドスケーリング 臼歯	品田・荒川・近藤 遠藤・大塚・安田 白田
120-123	相互実習 6	ハンドスケーリング 臼歯	品田・荒川・近藤 遠藤・大塚・安田 白田
124-127	相互実習 7	臨床体験実習	品田・荒川・近藤 遠藤・大塚・安田 白田

128-131	相互実習 8	処置後の評価 医療面接、口腔内観察、検査	品田・荒川・近藤 遠藤・大塚・安田 白田
132-135	記録の整理と確認	記録の整理と確認、まとめ、評価	近藤・大塚・安田

評価方法

- ・随時の小テストで形成的評価を行う。
- ・出席および実習態度などを評価に加味する。
- ・実技試験および筆記試験による試験を実施し、総括的評価を行う。

参考図書等

- ・最新歯科衛生士教本「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み 1 保健生態学」全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論」全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・「歯科衛生士の臨床」ウイルキンス著 医歯薬出版
- ・目で見えるペリオドンタルインスツルメンテーションⅠ「ベーシック スキル」 医歯薬出版
- ・目で見えるペリオドンタルインスツルメンテーションⅡ「アセスメントとインスツルメンテーション」 医歯薬出版
- ・目で見えるペリオドンタルインスツルメンテーションⅢ「デブライドメント」 医歯薬出版
- ・目で見えるペリオドンタルインスツルメンテーションⅣ「アドバンス スキル」 医歯薬出版
- ・授業の際に印刷物を配付、または e-learning システム上にアップロードする。

留意事項

- ・事前に資料の配布、e-learning へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

担当教員の office hour

品田佳世子	口腔疾患予防学分野	随時	shinada.pvoh@tmd.ac.jp
荒川真一	生涯口腔保健衛生学分野	随時	s-arakawa.ltoh@tmd.ac.jp
近藤圭子	生涯口腔保健衛生学分野	随時	solan.ltoh@tmd.ac.jp
遠藤圭子	口腔疾患予防学分野	随時	usagi.pvoh@tmd.ac.jp
白田千代子	地域・福祉口腔保健衛生学分野	随時	hakuta.ohcw@tmd.ac.jp
大塚紘未	口腔疾患予防学分野	随時	hiromi.pvoh@tmd.ac.jp
安田昌代	歯学部附属病院 口腔ケア外来	随時	yasuda.ocsh@tmd.ac.jp

科目名	口腔疾患予防学
ユニット名	医学一般 I
授業形態	講義・演習
開講時期・単位・時間数	2 学年後期・必修 1 単位・45 時間
科目責任者・ユニット責任者	品田佳世子・吉増秀實
主な授業場所	口腔保健学科 第4講義室

学習目標

- ・口腔保健活動を行うために必要な臨床医学の各分野の知識を身につける。

到達目標

- ・主な感染症を説明する。
- ・主な循環器疾患を説明する。
- ・主な呼吸器疾患を説明する。
- ・主な消化器疾患を説明する。
- ・主な神経疾患を説明する。
- ・主な血液疾患を説明する。
- ・主な精神疾患を説明する。
- ・主な骨・関節・結合組織疾患を説明する。
- ・主な精神疾患を説明する。
- ・臓器移植を概説する。
- ・主な先天性疾患を説明する。
- ・有病者の歯科治療・口腔保健活動における対応法を説明する。

授業計画

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1	内科	内科総論	下門顕太郎
2	内科	呼吸器疾患	岡本師
3・4	内科	循環器疾患	磯部光章
5・6	内科	代謝性疾患，内分泌疾患	三原正朋
7・8	内科	消化管疾患，肝・胆・膵疾患	藤井俊光

9	内科	神経疾患	水澤英洋
10	内科	腎臓疾患	西田秀範
11	内科	血液疾患	山本正英
12	内科	膠原病・リウマチ	副島誠
13・14	脳神経外科	脳血管障害、脳腫瘍等	稲次基希
15	外科	食道・胃外科	中島康晃
16	外科	肝胆膵外科	入江工
17	外科	大腸・肛門外科	石黒めぐみ
18	外科	乳腺外科	佐藤隆宜
19・20	整形外科	神経系疾患	川端茂徳 若林良明
21・22	整形外科	関節系疾患	渡邊敏之
23・24	産婦人科	妊娠、出産、不妊治療、更年期障害など	平田麻実
25・26	産婦人科	子宮筋腫、子宮がん、卵巣がんなど	若菜公雄
27・28	精神科	うつ病、統合失調症	西川徹
29・30	精神科	認知症	車地暁生
31・32	講義の総括	総括（試験 1）	吉増秀實
33-35	演習 1	有病者に対する歯科的対応 1	吉増秀實
36-38	演習 2	有病者に対する歯科的対応 2	吉増秀實
39-41	演習 3	有病者に対する歯科的対応 3	吉増秀實
42-44	演習 4	有病者に対する歯科的対応 4	小林裕
45	演習の総括	総括（試験 2）	吉増秀實

評価方法

2 学年後期末に試験を行う。

出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。

受験資格は、東京医科歯科大学歯学部試験規則第 11 条に準ずる。

参考図書等

- ・ 医科臨床系教科書など

留意事項

事前に資料の配布・アップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

担当教員の office hour

吉増秀實 健康支援口腔保健衛生学分野 随時 h-yoshimasu.ocsh@tmd.ac.jp

担当教員

下門顕太郎 血流制御内科学分野

岡本師 統合呼吸器病学分野

磯部光章 循環制御内科学分野

三原正朋 分子内分泌科学分野

藤井俊光 消化器病態学分野

水澤英洋 脳神経病態学分野

西田秀範 腎臓内科学分野

山本正英 血液内科学分野

副島誠 膠原病・リウマチ内科学分野

稲次基希 脳神経機能外科学分野

中島康晃 食道・一般外科学分野

入江工 肝胆膵・総合外科学分野

石黒めぐみ・佐藤隆宜 腫瘍外科学分野

川端茂徳・若林良明 整形外科学分野

渡邊敏之 運動器外科学分野

平田麻実・若菜公雄 生殖機能協関学分野

西川徹・車地暁生 精神行動医科学分野

担当教員（非常勤）

小林裕 東京都立広尾病院歯科口腔外科

科目名	健康教育の基礎
ユニット名	健康教育の基礎 I
授業形態	講義・演習
開講時期・単位・時間数	2 学年前期・必修 1 単位・30 時間
科目責任者・ユニット責任者	遠藤圭子・遠藤圭子
主な授業場所	口腔保健学科 第4講義室・臨床基礎実習室

学習目標

ライフステージ毎の健康課題に基づいて、口腔健康教育のアセスメントから評価に至る流れを修得する。

到達目標

- ・口腔健康教育を説明できる。
- ・ライフステージ毎の健康課題を説明する。
- ・歯科衛生過程を活用した健康教育実践の流れが説明できる。
- ・歯科衛生に関わる理論を説明する。
- ・ニーズの把握について説明できる。
- ・アセスメント、歯科衛生診断、歯科衛生計画、実施、評価の各ステップが説明できる。
- ・健康教育計画立案のモデルを使い、課題に関する健康教育を企画立案する。
- ・家庭、地域、学校、職域における健康教育の実際を知る。
- ・視聴覚教材の種類と特徴、作成および使用に際しての留意点を説明できる。

授業計画

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1・2	口腔健康教育とは	健康教育・口腔健康教育の定義 考え方	遠藤圭子
3・4	ライフステージ毎の健康課題	健康のとらえ方、発達課題 歯や口の健康	遠藤圭子
5・6	口腔健康教育の基盤となる理論 健康教育のための計画づくり	ニーズの考え方、行動理論 アセスメントに基づく計画立案	遠藤圭子
7・8	健康教育の実践	健康教育実践に必要なスキル	白田千代子
9・10	健康教育の評価	評価とは何か、評価の種類	遠藤圭子

11・12	評価の具体的な事例	保健行政における健康教育評価	白田千代子
13・14	社会的アプローチ	ソーシャルマーケティング論の応用	遠藤圭子
15・16	健康教育の展開－家庭	家庭における健康教育の実際	白田千代子
17・18	〃－学校	学校における健康教育の実際	遠藤圭子
19・20	〃－職域	職域における健康教育の実際	白田千代子
21・22	〃－地域	地域における健康教育の実際	白田千代子
23・24	課題別健康教育－ライフスキル	ライフスタイル支援のあり方	遠藤圭子
25・26	〃－運動、歯科	筋力トレーニング、禁煙支援	遠藤圭子
27・28	〃－栄養、休養	食育、余暇時間	遠藤圭子
29・30	まとめ	まとめ	遠藤圭子

評価方法

課題レポート、期末の試験で総括的評価を行う。

受講態度、出席状況等を総括的評価に加味する。

参考図書等

- ・日本健康教育学会編 「健康教育－ヘルスプロモーションの展開」 保健同人社 2003
- ・全国歯科衛生士教育協議会編 最新歯科衛生士教本「歯科予防処置・歯科保健指導」 医歯薬出版 2011
- ・平成17年歯科疾患実態調査報告書 口腔保健協会 2007
- ・授業の際、印刷物を配布する。

留意事項

事前配布資料やe-learningへのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

担当教員の office hour

遠藤圭子	口腔疾患予防学分野	随時	usagi.pvoh@tmd.ac.jp
近藤圭子	生涯口腔保健衛生学分野	随時	solan.ltoh@tmd.ac.jp
白田千代子	地域・福祉口腔保健衛生学分野	随時	hakuta.cohc@tmd.ac.jp
大塚紘未	口腔疾患予防学分野	随時	hiromi.pvoh@tmd.ac.jp

科目名	健康教育の基礎
ユニット名	健康教育の基礎Ⅱ
授業形態	実習
開講時期・単位・時間数	2 学年後期・必修 1 単位・45 時間
科目責任者・ユニット責任者	遠藤圭子・遠藤圭子
主な授業場所	口腔保健学科 第4講義室・臨床基礎実習室

学習目標

口腔健康教育の実践に必要な知識・技術を修得し、実践力を培う。

到達目標

- ・生活と口腔保健行動の関連を説明できる。
- ・歯科衛生過程の流れに従って、健康教育が組み立てられる。
- ・個人の口腔保健と生活習慣に関するアセスメントができる。
- ・アセスメント内容を活用して、歯科衛生診断、計画立案ができる。
- ・対象者に合わせた健康教育計画が立案できる。
- ・口腔健康教育実践のためのツールを説明できる。
- ・口腔清掃の術式、用具の種類と用途を説明でき、口腔清掃指導を実施できる。
- ・対象者に対して、口腔健康教育を実施・評価できる。
- ・口腔内写真撮影ができ、情報把握ができる。

授業計画

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1-3	小学生対象の健康教育 1	H 小学校における健康教育実習の目的 事前調査について	遠藤圭子
4-6	小学生対象の健康教育 2	学童対象の健康教育計画	遠藤圭子
7-9	小学生対象の健康教育 3	歯科衛生診断、計画立案、健康教育目標の設定 媒体、シナリオ（絵コンテ）作成	大塚・近藤 遠藤
10-12	小学生対象の健康教育 4	リハーサル、評価 健康教育評価法の選択	遠藤・近藤 大塚
13-15	H 小学校健康教育実習	1・2 年対象の健康教育の実際 報告書作成	大塚・近藤 遠藤

16-18	口腔内写真撮影 1 写真撮影の基礎	デジタルカメラの取り扱い、撮影、パソコンへの取り込み・整理、管理法口角鉤、写真用ミラーの使用上の注意	大塚・近藤 遠藤
19-21	口腔内写真撮影 2 相互実習	相互実習時の配慮点 写真撮影、写真の整理・管理	大塚・近藤 遠藤
22-24	歯口清掃 1	歯ブラシ、デンタルフロス、歯間ブラシ、 歯磨剤、洗口剤	近藤・遠藤
25-27	歯口清掃 2	用具の使い方、	遠藤・白田 近藤
28-30	歯口清掃 3	電動歯ブラシの種類と使用法	遠藤・近藤
31-33	対象別健康教育事例検討 1	乳幼児期の健康課題	遠藤・大塚
34-36	対象別健康教育事例検討 2	学童期の健康課題	遠藤・大塚
37-39	対象別健康教育事例検討 3	思春期の健康課題	遠藤・大塚
40-42	対象別健康教育事例検討 4	成人期の健康課題	遠藤・大塚
43-45	まとめ	学校、保護者への報告書の作成	遠藤・大塚

評価方法

授業態度、グループワークでの役割行動、出席、提出物、期末試験によって、総括的評価を行う。
期末試験受験資格は、東京医科歯科大学歯学部試験規則第 11 条に準ずる。

参考図書

- ・「平成 17 年歯科疾患実態調査報告」 厚生労働省医政局歯科保健課編 口腔保健協会
- ・全国歯科衛生士教育協議会編 最新歯科衛生士教本「歯科予防処置・歯科保健指導」 医歯薬出版 2011
- ・「オーラルヘルスケア事典」 松田裕子、近藤いさを 学建書院 2012
- ・「プラークコントロールのためのホームケア指導」 荒川浩久編集 クインテッセンス出版
- ・「歯と口の健康百科」 伊藤公一他編 医歯薬出版
- ・「子どもの声を生かした保健室活動 ー大規模校における養護教諭と子どもたちー」 尾花美恵子 不昧堂出版
- ・「お母さんの疑問にこたえる すこやかな口 元気な子ども」 田中英一、佐々木洋他 医歯薬出版

留意事項

事前に資料の配付、e-learning へのアップロード等があった倍医は、各自予習して授業に臨むこと。
授業進度や学外実習先の状況によって、関連の授業項目の順序が入れ替わることがある。

担当教員の office hour

遠藤圭子	口腔疾患予防学分野	随時	usagi.pvoh@tmd.ac.jp
近藤圭子	生涯口腔保健衛生学分野	随時	solan.ltoh@tmd.ac.jp
白田千代子	地域・福祉口腔保健衛生学分野	随時	hakuta.cohc@tmd.ac.jp
大塚紘未	口腔疾患予防学分野	随時	hiromi.pvoh@tmd.ac.jp

科目名	食生活教育
ユニット名	食生活教育
授業形態	講義・演習・実習
開講時期・単位・時間数	2学年前・後期・必修1単位・45時間
科目責任者・ユニット責任者	小野寺光江・小野寺光江
主な授業場所	口腔保健学科 第4講義室

学習目標

栄養学の知識を基に食生活について理解し、栄養指導に必要な知識と技能を修得する。

到達目標

- ・ 栄養や食生活に関する国の取り組みについて理解し説明する。
- ・ 日本人の食事摂取基準について理解し説明する。
- ・ 健康づくりのための食育の必要性を理解し説明する。
- ・ 日本人の食生活の現状を理解する。
- ・ ライフステージに適した食生活について理解し説明する。
- ・ 保健機能食品について理解し説明する。
- ・ 食生活指導の意義を理解し説明する
- ・ 食生活と口腔保健の関連を理解し説明する。
- ・ 食品の形態と食べやすさの関係について理解し説明する。
- ・ 疾病と食生活指導の必要性を理解し説明する。
- ・ 個人の栄養・食生活を分析する。
- ・ 自らの食生活の現状を知り問題および課題を発見し、食生活教育方法を検討する。
- ・ 口腔保健の立場から個人および集団に対する食生活指導をする。

授業計画

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1	日本人の食生活 1	日本人の食生活の現状と栄養や食生活に関する国の取り組み（国民健康・栄養調査の最近の結果など）	小野寺光江
2	日本人の食生活 2	日本人の食事摂取基準	小野寺光江

3	ライフステージと食生活Ⅰ	成長・発達・加齢による食に関する機能の変化と食生活	小野寺光江
4	ライフステージと食生活Ⅱ	母性の栄養と食生活	小野寺光江
5	ライフステージと食生活Ⅲ	乳児期の栄養と食生活	小野寺光江
6	ライフステージと食生活Ⅳ	幼児期の栄養と食生活	小野寺光江
7	ライフステージと食生活Ⅴ	学童期および青少年期の栄養と食生活	小野寺光江
8	ライフステージと食生活Ⅵ	成人期の栄養と食生活	小野寺光江
9	ライフステージと食生活Ⅶ	高齢期の栄養と食生活	小野寺光江
10	保健機能食品Ⅰ	食品安全学、保健機能食品学概論	森田育男
11	保健機能食品Ⅱ	保健機能食品学特論	森田育男
12	食生活教育の基礎知識Ⅰ	食生活と口腔保健の関連-1 食生活と口腔機能、食品のう蝕誘発能	寺岡加代
13	食生活教育の基礎知識Ⅱ	食生活と口腔保健の関連-2 食品の形態と食べやすさの関係	寺岡加代
14	食生活指導の基礎知識Ⅲ	食生活と口腔保健の関連-3 咀嚼の意義と全身への影響	寺岡加代
15	食生活教育の基礎知識Ⅳ	疾病と栄養指導-1（糖尿病）	小野寺光江
16	食生活教育の基礎知識Ⅴ	疾病と栄養指導-2（高血圧症、腎臓病）	小野寺光江
17	食生活教育の基礎知識Ⅵ	疾病と栄養指導-3（脂質異常症）	小野寺光江
18	食生活教育の基礎知識Ⅶ	疾病と栄養指導-4（手術前後の栄養、経管栄養）	小野寺光江
19	食生活教育の基礎知識Ⅷ	栄養・食事バランスの分析 - 1	寺岡加代
20	食生活教育の基礎知識Ⅸ	栄養・食事バランスの分析 - 2	寺岡加代
21	食生活教育の基礎知Ⅹ	栄養・食事バランスの分析 - 3	寺岡加代
22-24	食生活教育演習Ⅰ	個人に対する食生活教育-1	寺岡加代
25-27	食生活教育演習Ⅱ	個人に対する食生活教育-2	寺岡加代
28-30	食生活教育演習Ⅲ	個人に対する食生活教育-3	寺岡加代
31-33	食生活教育演習Ⅳ	個人に対する食生活教育-4	寺岡加代
34-36	食生活教育1（演習）	食生活指導の事例検討-1（妊婦）	寺岡・小野寺
37-39	食生活教育2（演習）	食生活指導の事例検討-2（乳幼児）	寺岡・小野寺
40-42	食生活教育3（演習）	食生活指導の事例検討-3（高齢者）	寺岡・小野寺

評価方法

期末の客観試験、記述試験で総括的評価を行う。
講義、グループ討論、発表の態度等を総括的評価に加味する。

参考図書等

- ・副読本：食品成分表 2013 香川芳子監修 女子栄養大学出版部
- ・最新歯科衛生士教本 人体の構造と機能 2 栄養と代謝 全国歯科衛生士教育協議会監修 医師薬出版
- ・「わかりやすい栄養学」第3版 中村美知子・長谷川恭子編集 スーヴェルヒロカワ
- ・「糖尿病食事療法のための食品交換表」第6版 日本糖尿病学会編 日本糖尿病協会・文光堂

留意事項

事前に資料の配布、e-learning へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

担当教員の office hour

寺岡加代	口腔健康教育学分野	随時	ktera.ohce@tmd.ac.jp
小野寺光江	健康支援口腔保健衛生学分野	随時	m.onodera.ocsh@tmd.ac.jp

担当教員

森田育男	分子細胞機能学分野
------	-----------

科目名	臨床検査
ユニット名	臨床検査
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年後期・必修 1 単位・15 時間
科目責任者・ユニット責任者	吉増秀實・吉増秀實
主な授業場所	口腔保健学科 第4 講義室

学習目標

口腔保健の実践に必要な臨床検査についての理論と実際を理解し、個々の対象者に応用できる問題解決能力を身につける。

到達目標

- ・ 臨床検査の目的および意義を説明する。
- ・ 主な臨床検査について説明する。
- ・ 口腔領域のエックス線写真を読影する。
- ・ 歯科金属アレルギー検査を説明する。

授業計画

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1-3	臨床検査 1	臨床検査概論、血液検査	吉増秀實
4-6	臨床検査 2	肝機能検査、腎機能検査、感染症検査	吉増秀實
7-8	臨床検査 3	病理検査、口腔領域の検査	出雲俊之
9	臨床検査 4	口腔領域の検査	吉増秀實
10-12	画像診断	歯と歯周組織の X 線診断、デンタル X 線写真、パノラマ X 線写真等の読影法（正常像、異常像）等	吉野教夫
13・14	歯科用金属によるアレルギー検査	歯科用金属によるアレルギー検査	三浦宏之
15	咀嚼機能検査	咀嚼機能検査	全部床義歯 補綴学分野 教員

評価方法

随時小テストを行い、形成的評価を行う。期末に客観試験、記述試験を行い、総括的評価を行う。
講義、グループ討論、発表の態度等を総括的評価に加味する。
受験資格は、東京医科歯科大学歯学部試験規則第 11 条に準ずる。

参考図書等

- ・新歯科衛生士教本 歯科診療補助 臨床検査法
- ・歯科衛生士テキスト わかりやすい歯科放射線学第 2 版, 学建書院, 2010 年

留意事項

事前に資料の配布・アップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

担当教員の office hour

吉増秀實 健康支援口腔保健衛生学分野 随時 h-yoshimasu.cohc@tmd.ac.jp

担当教員

出雲俊之 口腔病態診断科学分野
吉野教夫 口腔放射線医学分野
三浦宏之 摂食機能保存学分野
全部床義歯補綴学分野教員

科目名	生体材料学
ユニット名	生体材料学
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年前期・必修 1 単位・15 時間
科目責任者・ユニット責任者	白田千代子・白田千代子
主な授業場所	口腔保健学科 第4講義室

学習目標

顎口腔歯科領域の治療に使用される歯科生体材料の種類と使用方法について学習する。

到達目標

- ・ 歯科生体材料の一般的性質を理解する。
- ・ 石膏の種類と使用方法を理解する。
- ・ 印象材の種類と使用方法について理解する。
- ・ セメント(合着用セメント、成形修復用セメント)の種類と使用方法について説明する。
- ・ アクリルレジンおよびコンポジットレジンの種類と使用方法を説明する。
- ・ 歯科補綴治療（インプラントを含む）に使用する材料の種類と使用方法を概説する。
- ・ 歯科生体材料の安全性について理解する。

授業計画

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1	歯科生体材料の特徴、生体適合性	歯科生体材料の特徴とその素材、歯科材料の所要性質、生体適合性の重要性と評価方法	高橋英和
2	歯科生体材料の物理的性質と化学的性質	歯科生体材料の物理的性質、機械的性質、応力（ひずみ線図、硬さ）	高橋英和
3	成形修復材 1	歯科用アマルガムの性質と取扱方法、グラムアイオノマーセメントの性質と取扱い方法	高橋英和
4	成形修復材 2	コンポジットレジンの性質と取扱い方法、接着機序	高橋英和
5	印象材 1	模型材の所要性質、石膏の種類と性質	高橋英和
6	印象材 2	ゴム質印象材、非弾性印象材、機能印象材	高橋英和
7	模型材 1	模型材の所要性質、石膏の種類と性質	高橋英和

8	模型材 2	石膏の取扱い方法	高橋英和
9	鑄造	歯科精密鑄造の概要とその特徴 鑄造用合金の種類と特徴	高橋英和
10	義歯床用材料	義歯床用レジンの特徴、レジンの重合、裏装材 義歯安定剤	高橋英和
11	合着材 1	合着材の所要性質と種類 リン酸亜鉛セメントの特徴と練和法	高橋英和
12	合着材 2	ポリカルボキシレートセメントの特徴と練和法 ガラスアイオノマーセメントの特徴と練和法 接着性レジンセメントの特徴と練和法	高橋英和
13	歯科治療用材料 予防歯科材料 矯正用材料	歯内療法に用いる小器具の特徴、仮封材の特徴 予防充填材の種類と特徴、歯ブラシの構造 矯正用ワイヤの特徴	高橋英和
14	口腔外科用材料と感染予防 インプラント材料 その他の材料	顎義歯に用いる材料、エピテーゼに用いる材料 インプラント材料の性質、歯科再生材料の性質 歯の物性	高橋英和
15	まとめ	歯科生体材料のまとめ	高橋英和

評価方法

- ・ 期末の筆記試験で総括評価を行う。
- ・ 必要に応じて小テストによる形態的評価を行う。
- ・ 出席状況、平常学習態度等を総括評価に加味する。

参考図書等

- ・ 宮崎隆ほか編「臨床歯科理工学」医歯薬出版 2006年
- ・ 小倉英夫ほか編「コア歯科理工学」医歯薬出版 2008年
- ・ 必要に応じてプリントを配布する。

留意事項

事前に資料の配付、e-learning システム上へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。また、学習する内容について各自で参考文献を読み、理解を深めること。

担当教員の office hour

高橋英和 生体材料加工学分野 火 16:00-19:00 takahashi.bmo@tmd.ac.jp

科目名	臨床口腔保健衛生基礎学
ユニット名	臨床口腔保健衛生基礎学
授業形態	実習・演習・講義
開講時期・単位・時間数	2 学年・必修 2 単位・90 時間
科目責任者・ユニット責任者	白田千代子・白田千代子
主な授業場所	口腔保健学科第4講義室・臨床基礎実習室・相互実習室

学習目標

- ・ 歯科材料を実際に使用し、その性質や特徴を知り、取り扱い方を学ぶ。
- ・ PCに慣れ親しみ、PCを使用し、情報収集、処理、図表の作成、簡単な統計処理を学び、プレゼンテーションの技術を習得する。
- ・ 口腔保健・歯科医療の変遷と現状、歯科医療従事者の種類と役割、歯科診療の概要を理解する。
- ・ 歯科臨床の場で必要な知識・器材の取扱・技術を理解し、基本的な歯科衛生士に必要な技術を身につける。

到達目標

- ・ 石膏を使用して、その特徴、使用目的を知る。
- ・ 印象材の種類とその特徴を体験を通して知る。
- ・ 切削加工を体験し、その意味を知る。
- ・ 学内無線 LAN に各自持ち込み PC を接続できる。
- ・ インターネットにおけるセキュリティー管理、著作権保護を実践できる。
- ・ PC 上で静止画像、プレゼンテーションファイル、動画像を編集できる。
- ・ 表計算ソフトで簡単な集計ができる。
- ・ 口腔保健・歯科医療の変遷と現状を理解する。
- ・ 歯科患者の特徴、心理状態を理解し説明する。
- ・ ライフサイクルに合わせた、歯科衛生士の関わりを理解する。
- ・ 歯科臨床の場で必要な知識・器材の取扱・技術を理解し、基本的な歯科衛生士に必要な技術を身につける。

授業計画

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1-5	石膏	石膏の種類、取り扱い方	高橋英和 岩崎直彦

6-8	石膏	石膏を使用して	高橋・岩崎
9-12	印象	印象 1	高橋・岩崎
13-15	印象	印象 2	高橋・岩崎
16-18	切削加工の基礎	切削加工の意味と実際	高橋・岩崎
1・2	インターネット接続とセキュリティ	各自持参 PC の無線 LAN 接続、インターネットとセキュリティー、著作権、e-learning 基礎	木下淳博
3・4	静止画像処理 プレゼンテーションファイル作成演習 1	メディアコンテンツ作成（静止画像処理）、 プレゼンテーションファイル作成演習 1	木下淳博 須永昌代
5・6	プレゼンテーションファイル作成演習 2	プレゼンテーションファイル作成演習 2	木下・須永
7・8	動画像処理 1	メディアコンテンツ作成（動画像処理 1）	木下・須永
9・10	動画像処理 2	メディアコンテンツ作成（動画像処理 2）	木下・須永
11・12	表計算ソフト演習	表計算ソフトによる集計	木下淳博
13	試験	各自持参 PC による試験（CBT）	木下淳博
14	課題発表（動画像処理）	課題発表（動画像処理）	木下淳博
1・2	口腔保健、歯科医療 1	口腔保健、歯科医療の変遷（演習）	遠藤圭子 近藤圭子
3・4	口腔保健、歯科医療 2	口腔保健、歯科医療の現状とこれから（演習）	遠藤・近藤
5・6	歯科診療従事者と歯科診療利用者	臨床の場における専門職種の協働、利用者への対応	遠藤圭子
7・8	成人の口腔保健歯科医療 1	う蝕・歯周病予防、保存治療、成人の矯正治療、メンテナンス	品田佳世子
9・10	成人の口腔保健・歯科医療 2	診療所・会社診療所、地域保健の現場	品田佳世子
11・12	成人の口腔保健・歯科医療 3	口腔外科的疾患の治療とメンテナンス、有病者・病棟入院者へのかかわり	吉増秀實
1-4	歯科診療室の環境整備	歯科診療室の基礎知識、診療室での身だしなみ、診療室管理の実際、清掃の仕方	白田・近藤 遠藤・大塚 安田

5-7	歯科診療補助の概要 1	歯科治療の流れと歯科衛生士の役割	白田・近藤 遠藤・大塚 安田
8-10	歯科診療補助の概要 2	歯科器材の特徴と取り扱いにおける注意点	白田・近藤 遠藤・大塚 安田
11-12	共同動作の基本 1	共同動作の概念、術者・補助者・患者のポジション	白田・近藤 遠藤・大塚 安田
13-14	共同動作の基本 2	ライティング、器具の受渡し、バキュームテクニック、他	白田・近藤 遠藤・大塚 安田
15-16	インシデントとアクシデント	インシデント・アクシデントの概要と発生時の対応	白田・近藤 遠藤・大塚 安田
17-19	歯科診療補助の実際 1	歯科に用いる薬剤・材料の管理	白田・近藤 遠藤・大塚 安田
20-22	歯科診療補助の実際 2	各診療における特徴的な歯科器具	白田・近藤 遠藤・大塚 安田
23-24	材料の取扱い	衛生材料の種類と取扱い、作成	白田・近藤 遠藤・大塚 安田
25-28	機械・器械の取扱い	歯科用チェア・ユニットの取扱い、管理の仕方	白田・近藤 遠藤・大塚 安田
29-32	滅菌と消毒の実践 1	滅菌・消毒・洗浄の定義、消毒薬使用の実際、歯科ユニットの清掃・消毒	白田・近藤 遠藤・大塚 安田
33-36	滅菌と消毒の実践 2	各種器材の滅菌・消毒、各種滅菌器材の取扱い	白田・近藤 遠藤・大塚 安田

37-40	滅菌と消毒の実践 3	外科的処置時の滅菌操作、滅菌グローブの装着	白田・近藤 遠藤・大塚 安田
41-44	共同動作の実際	患者の誘導（グループワークと実習） 姿勢と位置の確認（実習）	白田・近藤 遠藤・大塚 安田
89・90	まとめ		白田・近藤 遠藤・大塚 安田

評価方法

- ・ 出席状況、平常学習態度等を総括的評価に加味する。
- ・ 提出課題ファイル、試験で総括的評価を行う。

参考図書等

- ・ 最新歯科衛生士教本「歯科診療補助論」全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・ 必要に応じてプリントを配布する。

留意事項

- ①入学時の案内・ガイダンス等で指定した推奨ノート PC を準備し、指定のソフト (Microsoft 社製 Power Point、Excel は必須) をインストールしておくこと。
- ②ノート PC、USB フラッシュメモリーおよびステレオイヤホンを持参すること。
- ③事前配布資料や e-learning へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

担当教員の office hour

高橋英和	生体材料加工学分野	火 16:00 - 19:00	takahashi.bmoe@tmd.ac.jp
木下淳博	教育メディア開発学分野	金 16:00 - 17:00	kinoshita.emdv@tmd.ac.jp
須永昌代	教育メディア開発部	随時	sunaga.emdv@tmd.ac.jp
岩崎直彦	生体材料加工学分野	随時	iwasaki.bmoe@tmd.ac.jp
白田千代子	地域・福祉口腔保健衛生学分野	随時	hakuta.ohcw@tmd.ac.jp
遠藤圭子	口腔疾患予防学分野	随時	usagi.pvoh@tmd.ac.jp
近藤圭子	生涯口腔保健衛生学分野	随時	solan.ltoh@tmd.ac.jp
大塚絃未	口腔疾患予防学分野	随時	hiromi.pvoh@tmd.ac.jp
安田昌代	歯学部附属病院口腔ケア外来	随時	yasuda.ocsh@tmd.ac.jp

科目名	臨床口腔保健衛生応用学Ⅰ
ユニット名	臨床口腔保健衛生応用学Ⅰ
授業形態	実習・演習・講義
開講時期・単位・時間数	2 学年後期・必修 2 単位・90 時間
科目責任者・ユニット責任者	白田千代子・白田千代子
主な授業場所	口腔保健学科第 4 講義室・臨床基礎実習室・相互実習室・ 歯学科補綴実習室

学習目標

- ・ 歯科臨床の場で必要な知識・器材の取扱い・技術を理解し、歯科衛生士に必要な基本的な技術を身につける。
- ・ 口腔保健・歯科医療の変遷と現状、歯科医療従事者の種類と役割、歯科診療の概要を理解する。

到達目標

- ・ 器材の種類・特性・用途を理解する。
- ・ 診療に必要な器械・材料・薬品の適切な準備と取り扱いを行う。
- ・ 器材の特性にあわせ、滅菌・消毒を行う。
- ・ 器材の管理のしかたを説明する。
- ・ 患者を安全に誘導する。
- ・ チーム医療に必要な技能を理解する。
- ・ 各科で必要な器材を選択し、診療の流れにそって説明する。
- ・ バイタルサイン（意識レベルを含む）を測定する。
- ・ 歯科患者の特徴、心理状態を理解し説明する。
- ・ ライフサイクルに合わせた、歯科衛生士の関わりを理解する。
- ・ 歯科保健医療に関わる職種をあげ、それぞれの役割を説明する。

授業計画

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1-3	滅菌と消毒の実際 相互実習のために 1	外科的処置時の滅菌操作の実際	白田・近藤・遠藤 大塚・安田
4-6	滅菌と消毒の実際 相互実習のために 2	術衣の着用、滅菌グローブの装着 穴布の使用法	白田・近藤・遠藤 大塚・安田

7-10	滅菌と消毒の実際 相互実習のために 3	消毒薬使用の実際 歯科ユニットの清掃・消毒の実際	白田・近藤・遠藤 大塚・安田
11-14	滅菌と消毒の実際 相互実習のために 4	各種器材の滅菌・消毒の実際 各種滅菌器材の取り扱い	白田・近藤・遠藤 大塚・安田
15-17	材料の取扱い	衛生材料の種類と取扱い、作成	白田・近藤・遠藤 大塚・安田
18-19	診療の準備と管理	相互実習の準備と後片付けの計画、 実践	白田・近藤・遠藤 大塚・安田
20-23	共同動作（相互実習） 1	姿勢と位置の確認、 ライティング、ミラーテクニック	白田・近藤・遠藤 大塚・安田 田澤千鶴
24-25	診療の準備と管理	相互実習の準備と後片付けの計画、 実践	白田・近藤・遠藤 大塚・安田
26-29	共同動作（相互実習） 2	バキュームテクニック、3WAY シリンジ の使用法、器具の受け渡し	白田・近藤・遠藤 大塚・安田・田澤
30-31	診療の準備と管理	相互実習の準備と後片付けの計画、 実践	白田・近藤・遠藤 大塚
32-35	バイタルサイン（相互実習） 1	歯科診療に必要な計測、検査 （血圧ほか）	吉増・小野寺 白田・近藤 大塚・安田
36-37	診療の準備と管理	相互実習の準備と後片付けの計画、 実践	白田・近藤・遠藤 大塚・安田
38-41	バイタルサイン（相互実習） 2	歯科診療に必要な計測、検査 （リンパ腺ほか）	吉増・小野寺 白田・近藤 大塚・安田
42-45	歯科材料の取扱い 1	充填材、仮封材 セメントの練和と取扱い	白田・近藤・遠藤 大塚・安田
46-49	歯科材料の取扱い 2	印象材 アルジネートの練和と取扱い	白田・近藤・遠藤 大塚・安田・田澤
50-51	診療の準備と管理	相互実習の準備と後片付けの計画、 実践	白田・近藤・遠藤 大塚・安田

52-55	研究用模型の作成 1	全顎印象採得実習（相互実習）	荒川 歯科技工士 近藤・白田・遠藤 大塚・安田・田澤
56-58	研究用模型の作成 2	平行模型の作成 1	歯科技工士 近藤・白田 大塚・安田
59-61	研究用模型の作成 3	平行模型の作成 2	歯科技工士 近藤・白田 大塚・安田
62-69	診療の準備と管理	相互実習の準備と後片付けの計画、 実践	白田・近藤・遠藤 大塚・安田・田澤
1・2	地域における口腔保健・歯 科医療	他職種とのかかわり、医療関係専門 職・福祉関係専門職・地域住民	遠藤圭子
3・4	乳幼児・小児の口腔保健・ 歯科医療 1	う蝕・歯周病予防、不正咬合と口腔機 能の維持増進	遠藤圭子
5・6	乳幼児・小児の口腔保健・ 歯科医療 2	診療所・病院、地域保健の現状	遠藤圭子
7・8	学校歯科保健 1	小学校・特別支援学校での口腔保健と 歯科治療	品田佳世子
9・10	学校歯科保健 2	中学校・高校での口腔保健と歯科治療	品田佳世子
11・12	成人・高齢者の口腔保健・ 歯科医療 1	歯の欠損・喪失と歯科補綴治療、 口腔機能維持向上	白田千代子
13・14	成人・高齢者の口腔保健・ 歯科医療 2	地域保健、有病者・病棟入院患者への かかわり	白田千代子
84-86	まとめ		白田千代子
87-90	試験	実技試験、筆記試験	

評価方法

- ・中間と期末の筆記試験、実技試験及び提出レポート・課題により総括的評価する。
- ・出席状況、意欲・授業態度を総括的評価に加味する。

参考図書等

- ・最新歯科衛生士教本「歯科診療補助論」全国歯科衛生士教育協議会 医歯薬出版
- ・器材準備マニュアル第5版 全国歯科衛生士教育協議会編 財団法人 口腔保健協会

留意事項

- ・事前に資料の配布、e-learning システム上へのアップロードなどがあった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

担当教員の office hour

白田千代子	地域・福祉口腔保健衛生学分野	随時	hakuta.ohcw@tmd.ac.jp
遠藤 圭子	口腔疾患予防学分野	随時	usage.pvoh@tmd.ac.jp
近藤 圭子	生涯口腔保健衛生学分野	随時	solan.ltoh@tmd.ac.jp
大塚 紘未	口腔疾患予防学分野	随時	hiromi.pvoh@tmd.ac.jp
安田 昌代	歯学部附属病院 口腔ケア外来	随時	yasuda.ocsh@tmd.ac.jp
吉増 秀實	健康支援口腔保健衛生学分野	随時	h-yoshimasu.ocsh@tmd.ac.jp
小野寺光江	健康支援口腔保健衛生学分野	随時	mitsue.ocsh@tmd.ac.jp

科目名	歯科衛生過程
ユニット名	歯科衛生過程基礎演習
授業形態	演習
開講時期・単位・時間数	2学年前・後期・必修1単位・30時間
科目責任者・ユニット責任者	遠藤圭子・遠藤圭子
主な授業場所	口腔保健学科 第4講義室・演習室

学習目標

人々の健康ニーズにあった支援を提供するために、論理的に思考し、問題を解決する知識・技術を習得する。

到達目標

- ・ 歯科衛生過程の概念を説明する。
- ・ 歯科衛生過程の構成要素を説明する。
- ・ 歯科衛生過程の必要性と重要性を説明する。
- ・ 事例から、対象者の情報を分類・整理する。
- ・ 事例から、対象者の歯科衛生分野における問題を明確化し、優先順位をつける。
- ・ 明確化した問題の関連因子を特定し、歯科衛生診断文を作成する。
- ・ 歯科衛生計画を立案する(目標・歯科衛生介入・期待される結果)。
- ・ 歯科衛生評価を説明する。
- ・ 事例を用いて歯科衛生評価を行う。

授業計画

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1・2	歯科衛生過程の概念	歯科衛生過程の構成要素	遠藤圭子
3・4	歯科衛生アセスメント1	歯科衛生アセスメントの方法 データの分類・整理と分析・解釈	遠藤圭子
5・6	歯科衛生アセスメント2	歯科衛生問題の明確化 優先順位の決定	遠藤圭子
7・8	歯科衛生診断1	歯科衛生診断文の作成	遠藤圭子
9・10	歯科衛生診断2	〃	遠藤圭子

11・12	歯科衛生計画 1	介入内容の検討	遠藤・近藤
13・14	歯科衛生計画 2	〃	遠藤・近藤
15	歯科衛生介入	介入法の実際	遠藤・近藤 白田

授業計画 2 学年後期

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1・2	歯科衛生過程の展開 1	小児の事例（情報確認と整理、統合）	遠藤圭子
3・4	歯科衛生過程の展開 2	〃（歯科衛生診断文作成、歯科衛生計画）	遠藤圭子
5・6	歯科衛生過程の展開 3	大学生の事例（情報確認と整理、統合）	遠藤圭子
7・8	歯科衛生過程の展開 4	〃（歯科衛生診断文作成、歯科衛生計画）	遠藤圭子
9・10	歯科衛生過程の展開 5	歯周病の事例（情報確認と整理、統合）	遠藤圭子
11・12	歯科衛生過程の展開 6	〃（歯科衛生診断文作成、歯科衛生計画）	遠藤圭子
13・14	実践と評価の意義	歯科衛生実践、評価	遠藤圭子
15	総括	まとめ	遠藤圭子

評価方法

課題レポート、期末の試験で総括的評価を行う。

受講態度、出席状況等を総括的評価に加味する。

参考図書等

- ・佐藤陽子 他 「歯科衛生ケアプロセス」 医歯薬出版 2004
- ・全国歯科衛生士教育協議会編 最新歯科衛生士教本「歯科予防処置・歯科保健指導」 医歯薬出版 2011
- ・授業の際、印刷物を配布する。

留意事項

事前配布資料や e-learning へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

担当教員の office hour

遠藤圭子 口腔疾患予防学分野 随時 usagi.pvoh@tmd.ac.jp

科目名	相談援助の基盤と専門職 I
ユニット名	相談援助の基盤と専門職 I
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年後期・必修 1 単位・15 時間
科目・ユニット責任者	白田千代子・白田千代子
主な授業場所	口腔保健学科 第4 講義室

学習目標

- ・保健・医療・福祉サービスの専門職としての自己・他者を理解する。
- ・患者・サービス利用者・地域住民など支援を必要とする人たちとの信頼関係を構築するために必要なコミュニケーションスキルの基本を理解する。
- ・保健・医療・福祉サービスにおける相談援助の基盤となる専門職の職業倫理を理解する。

到達目標

- ・保健・医療・福祉サービスの専門職としての自己理解とその重要性を説明する。
- ・保健・医療・福祉サービスの専門職としての他者理解とその重要性を説明する。
- ・患者・サービス利用者・地域住民など支援を必要とする人たちとの信頼関係を構築するために必要なコミュニケーションスキルの基本を説明する。

授業計画

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1	相談援助とは	歯科治療、生活保護の相談者	遠藤圭子 白田千代子
2	自己理解・他者理解 1	自己紹介ゲームを通して	遠藤圭子 白田千代子
3	自己理解・他者理解 2	イメージの名刺交換を通して	遠藤圭子 白田千代子
4	自己理解・他者理解 3	コンセンサスゲームを通して	遠藤圭子 白田千代子
5	対応の理解 1	長寿・高齢者の問題	遠藤圭子 白田千代子
6	対応の理解 2	母子・父子家庭の問題	遠藤圭子 白田千代子
7	対応の理解 3	少子社会の問題	遠藤圭子 白田千代子

8	社会問題の理解 1	ひとり暮らしの多い社会	遠藤圭子 白田千代子
9	社会問題の理解 2	世帯人数の少ない社会	遠藤圭子 白田千代子
10	事例検討 1	コミュニケーションのスキル 1	遠藤圭子 白田千代子
11	事例検討 2	コミュニケーションのスキル 2	遠藤圭子 白田千代子
12	事例検討 3	コミュニケーションのスキル 3	遠藤圭子 白田千代子
13	事例検討 4	コミュニケーションのスキル 4	遠藤圭子 白田千代子
14	事例検討 5	コミュニケーションのスキル 5	遠藤圭子 白田千代子
15	まとめ	個人発表	遠藤圭子 白田千代子

評価方法

- ・授業内レポートで学習成果を評価する。
- ・事例検討などの参加態度、参加状況を評価に加味する。
- ・事例検討のまとめやプレゼンテーションの内容から評価する。

参考図書等

- ・随時、授業中に紹介する。

留意事項

- ・事前に資料の配布、e-learning へのアップロード等があった場合には、各自予習して授業に臨むこと。

担当教員の office hour

遠藤圭子 口腔疾患予防学分野 随時 usagi.pvoh@tmd.ac.jp
 白田千代子 地域・福祉口腔保健衛生学分野 随時 hakuta.ohcw@tmd.ac.jp

科目名	現代社会と福祉 I
ユニット名	現代社会と福祉 I
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年前期・選択 2 単位・30 時間
科目責任者・ユニット責任者	遠藤慶子・遠藤慶子
主な授業場所	口腔保健学科 第4 講義室

学習目標

- ・保健・医療・福祉の専門職に共通する人権擁護や社会正義などの価値・倫理を理解する。
- ・現代社会における社会福祉の意義や理念、福祉政策との関係について理解する。

到達目標

- ・保健・医療・福祉の専門職に共通する人権擁護や社会正義などの価値・倫理を具体的に説明できる。
- ・現代社会における社会福祉の意義を保健・医療・福祉専門職の価値・倫理と関連づけながら具体的に説明できる。
- ・現代社会における福祉政策の構成要素や社会資源、関連政策などの概要を説明することができる。
- ・人々の生活と健康に関連する社会福祉の課題について、自らの意見を具体的に述べるができる。
- ・社会福祉と口腔保健の関連性に興味関心をもち、自ら調べ、考える態度をもつ。

授業計画

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1・2	オリエンテーション、 現代社会における福祉	授業内容の理解、学習関心や学習方法の 確認 社会福祉の新たな展開	東島弘子 遠藤慶子
3・4	社会の変化と福祉	現代社会の変化と福祉 福祉政策の現代的課題	東島弘子
5・6	福祉政策の課題 1	社会福祉の拡大と限定 施策コラボレーションとしての福祉政策	東島弘子
7・8	福祉政策の課題 2	社会政策と福祉政策	東島弘子
9・10	福祉政策の課題 3	福祉政策の発展過程	東島弘子
11・12	福祉政策の課題 4	少子高齢化時代の福祉政策	遠藤慶子

13-18	福祉の思想と哲学	福祉の哲学・原理・価値・人間観	長谷川洋昭
19-24	福祉政策における必要と資源	必要と福祉政策、福祉政策の資源	長谷川洋昭
25-30	福祉政策の理念・主体・手法	福祉政策の理念 福祉政策の関連領域	長谷川洋昭

評価方法

- ・授業内レポートで重要な単元の学習成果を評価する。
- ・グループディスカッション（事例検討など）の参加状況を評価に加味する。
- ・定期試験を実施し、総合的に評価する。

参考図書等

- ・「社会福祉学習双書・老人福祉論」（全社協） 中央法規出版

教科書

- ・「厚生指針 国民の福祉の動向 各年度版」 厚生統計協会
随時、授業中に紹介する。

留意事項

事前に資料の配付、e-learning システム上へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

担当教員の office hour

遠藤慶子 地域・福祉口腔保健衛生学分野 随時 k-endo.ohcw@tmd.ac.jp

担当教員（非常勤）

東島弘子 国際医療福祉大学 大学院
長谷川洋昭 田園調布学園大学

科目名	現代社会と福祉Ⅱ
ユニット名	現代社会と福祉Ⅱ
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年後期・選択 2 単位・30 時間
科目責任者・ユニット責任者	遠藤慶子・遠藤慶子
主な授業場所	口腔保健学科 第4 講義室

学習目標

- ・保健・医療・福祉の専門職に共通する人権擁護や社会正義などの価値・倫理を理解する。
- ・現代社会における社会福祉の意義や理念、福祉政策との関係について理解する。

到達目標

- ・保健・医療・福祉の専門職に共通する人権擁護や社会正義などの価値・倫理を具体的に説明できる。
- ・現代社会における社会福祉の意義を保健・医療・福祉専門職の価値・倫理と関連づけながら具体的に説明できる。
- ・福祉政策におけるニーズと社会資源について説明できる
- ・福祉政策の課題や福祉政策の構成要素（福祉政策における政府、市場、家族、個人の役割を含む）について説明できる
- ・福祉政策と関連政策（教育政策、住宅政策、労働政策を含む）の関係について説明できる。
- ・相談援助活動と福祉政策との関係について説明できる。
- ・人々の生活と健康に関連する社会福祉の課題について、自らの意見を具体的に述べる事ができる。
- ・社会福祉と口腔保健の関連性に興味関心をもち、自ら調べ、考える態度をもつ。

授業計画

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1-3	オリエンテーション、 現代社会における福祉	授業内容の理解、学習関心や学習方法の確認、 現代社会における福祉（特徴と概要）	石渡和実 遠藤慶子
4-6	福祉政策におけるニーズ と社会資源	ニーズと社会資源の定義、グループ演習①	石渡和実
7-9	福祉政策の課題 1	現代の社会問題（貧困・失業・社会的排除等）	石渡和実
10-12	福祉政策の課題 2	社会的包摂とセーフティネット、グループ討 議②	石渡和実

13-15	福祉政策の課題 3	福祉国家の類型と福祉政策の国際比較	石渡和実
16-18	福祉政策の構成要素 1	福祉政策の視座と福祉供給部門の概要	石渡和実
18-21	福祉政策の構成要素 2	福祉政策と日常生活、グループ討議③	石渡和実
22-24	福祉政策と関連政策 1	保健・医療・福祉分野の政策と生活関連政策	石渡和実
25-27	福祉政策と関連政策 2	福祉政策と生活課題、グループ討議④	石渡和実
28-30	まとめ	授業の振り返りと学習成果の確認	石渡和実

評価方法

- ・授業内レポートで重要な単元の学習成果を評価する。
- ・グループディスカッション（事例検討など）の参加状況を評価に加味する。
- ・定期試験を実施し、総合的に評価する。

参考図書等

教科書

- 『系統看護学講座専門基礎⑨社会福祉』2013年2月 医学書院
- ・随時、授業中に紹介する。

留意事項

事前に資料の配付、e-learning システム上へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

担当教員

遠藤慶子 地域・福祉口腔保健衛生学分野 随時 k-endo.ohcw@tmd.ac.jp

担当教員（非常勤）

石渡和実 東洋英和女学院大学大学院

科目名	ソーシャルワーク I
ユニット名	ソーシャルワーク I
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年前・後期・選択 4 単位・60 時間
科目責任者・ユニット責任者	遠藤慶子・遠藤慶子
主な授業場所	口腔保健学科 第4講義室

学習目標

- ・相談援助の実際および相談援助の事例を教材とした実践的な講義を行う。
- ・本講義での事例は実践例の提示から相談援助の視点を学ぶことを目的に使用する。

到達目標

- ・相談援助の対象者が置かれている社会的背景を理解する。
- ・相談援助の知識・技術を具体的な事例の提示を通して理解する。
- ・相談援助に対する考え方（人権尊重・権利擁護・自立支援等）を理解し、総合的かつ包括的な援助のあり方を理解する。

授業計画

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1-3	ソーシャルワークとは (社会福祉支援)	ソーシャルワークにおけるミクロ実践からマクロ実践へのひろがり	大輪典子 遠藤慶子
4-6	相談援助の実際 1-1	高齢者（虚弱）について	大輪典子 遠藤慶子
7-9	相談援助の実際 1-2	高齢者（要介護者）について	大輪典子 遠藤慶子
10-12	相談援助の実際 2-1	障害者Ⅰ（身体）について	大輪典子 遠藤慶子
13-15	相談援助の実際 2-2	障害者Ⅱ（知的）について	大輪典子 遠藤慶子
16-18	相談援助の実際 2-3	障害者Ⅲ（精神）について	大輪典子 遠藤慶子

19-21	相談援助の実際 2-4	障害者Ⅳ（高次脳機能障害）について	大輪典子 遠藤慶子
22-24	相談援助の実際 3	子供について	大輪典子 遠藤慶子
25-27	相談援助の実際 4	DV について	大輪典子 遠藤慶子
28-30	相談援助の実際 5	低所得者について	大輪典子 遠藤慶子
31-33	相談援助の実際 6	就労支援について	大輪典子 遠藤慶子
34-36	ソーシャルワークの機能Ⅰ	ソーシャルワーク専門職の機能 調整的機能、開発的機能	大輪典子 遠藤慶子
37-39	ソーシャルワークの機能Ⅱ	代弁的機能、教育的機能、 ソーシャルワーク機能の発見	大輪典子 遠藤慶子
40-42	ソーシャルワークと援助関係	ソーシャルワークにおける援助関係 援助関係の形成と活用	大輪典子 遠藤慶子
43-44	相談援助の実践の場Ⅰ	在宅と施設（高齢者）について	大輪典子 遠藤慶子
45-46	相談援助の実践の場Ⅱ	在宅と施設（障害者）について	大輪典子 遠藤慶子
47-48	相談援助の実践の場Ⅲ	地域包括支援センターについて	大輪典子 遠藤慶子
49-51	相談援助の実践の場Ⅳ	低所得者と福祉事務所について	小畑万里 遠藤慶子
52-53	相談援助の実践の場Ⅴ	児童と児童相談所について	大輪典子 遠藤慶子
54-56	相談援助の実践の場Ⅵ	病院について	小畑万里 遠藤慶子
57-58	まとめⅠ	授業の振り返りと学習効果の確認	小畑万里 遠藤慶子
59-60	まとめⅡ	〃	大輪典子 遠藤慶子

評価方法

- ・授業内レポートで重要な単元の学習成果を評価する。
- ・実習態度、グループディスカッションの参加状況を評価に加味する。

教科書

- ・MINERVA 社会福祉養成テキストブック ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ 岩間伸之他
- ・MINERVA 社会福祉養成テキストブック ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ 岩間伸之他
- ・MINERVA 社会福祉養成テキストブック 相談援助の基盤と専門職 大橋謙策他

参考図書

- ・「地域・施設で死を看とるとき」明石書店 小畑万里

担当教員の office hour

遠藤慶子 地域・福祉口腔保健衛生学分野 随時 k-endo.ohcw@tmd.ac.jp

担当教員（非常勤）

大輪典子 公益社団法人 東京社会福祉士会

小畑万里 日本社会事業大学 通信教育科 社会福祉士養成課程

第3学年 履修ユニット

科目名	臨床歯科医学
ユニット名	小児歯科学
授業形態	演習・講義
開講時期・単位・時間数	2 学年後期・必修・15 時間 } 1 単位 3 学年後期・必修・15 時間 } 単位認定（1 単位）は 3 学年終了時に行う。
科目責任者・ユニット責任者	白田千代子・遠藤圭子
主な授業場所	口腔保健学科 第3講義室

学習目標

障害児・者に対して、口腔保健の立場から支援する際に必要な知識、技術を修得する。

到達目標

- ・ 障害とは何かを理解し、種々の障害の定義を説明できる。
- ・ 障害児・者の口腔内の特徴と歯科疾患罹患状況を説明できる。
- ・ 障害児・者の歯科治療時における行動への対応法を概説する。
- ・ 障害児・者の歯科治療におけるチーム医療を概説する。
- ・ 障害児・者の一次、二次、三次歯科医療体制を概説する。
- ・ 障害児・者の口腔健康教育の実際を説明できる。
- ・ 発音機能の発達とその異常を概説する。
- ・ 構音障害の訓練法を概説する。

授業計画

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1・2	障害と歯科医療 1	障害の分類およびその特徴、口腔内所見、歯科疾患罹患状況	篠塚修
3・4	障害と歯科医療 2	行動調整法の種類とその概要	篠塚修
5・6	障害と歯科医療 3	診療計画立案、予後管理、障害児・者の一次、二次、三次歯科医療体制	篠塚修
7・8	障害児・者に対する口腔健康教育の実際	ニーズ診断（理解力、運動機能、コミュニケーション能力評価）、障害に対応したセルフケア、ホームケア	大沼由季 秋山喜久江

9	障害児・者に対する歯科予防処置の実際	口腔内の状況、歯科予防処置の実際、患者対応上の留意点	大沼由季 秋山喜久江
10・11	発音機能の発達	発音機能の発達とその異常、構音障害、診断	壬生美智子
12・13	構音障害とその訓練	構音障害の訓練法	壬生美智子
14	歯科疾患予防と健康教育	う蝕と歯周病の予防、歯質の成熟と再石灰化 健康教育計画	遠藤圭子
15	まとめ	歯科衛生の視点からの障害児・者支援	遠藤圭子

評価方法

出席状況、レポート・テスト等により総括的評価を行う。

参考図書等

- ・最新歯科衛生士教本 「障害歯科学」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
- ・「スペシャルニーズデンティストリー」 日本障害者歯科学会編 医歯薬出版
- ・「食べる機能の障害」 金子芳洋編 医歯薬出版

留意事項

事前に資料の配布、e-learning 上へのアップロード等があった場合には、各自予習して授業に臨むこと。

担当教員の office hour

遠藤圭子	口腔疾患予防学分野	随時	usagi.pvoh@tmd.ac.jp
篠塚修	障害者歯科学分野	随時	o.shinozuka.dpa@tmd.ac.jp
壬生美智子	歯学部附属病院 言語治療外来	随時	mibumfp@tmd.ac.jp

担当教員

大沼由季	歯学部附属病院	歯科衛生保健部
秋山喜久江	歯学部附属病院	歯科衛生保健部

科目名	歯科薬理・薬剤学
ユニット名	歯科薬理・薬剤学
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	3 学年前期・必修 1 単位・15 時間
科目責任者・ユニット責任者	坂本裕次郎・大谷啓一
主な授業場所	口腔保健学科 第3講義室

学習目標

医薬品の薬理作用を理解し、薬物を安全かつ効果的に利用するために必要な基本的知識を修得する。

到達目標

- ・内分泌系薬物、ホルモン剤の種類と作用について概説する。
- ・病原微生物作用薬（消毒薬・化学療法薬）の種類と作用について概説する。
- ・悪性腫瘍治療薬の種類と作用について概説する。
- ・硬組織疾患治療薬について概説する。
- ・血液・造血系に作用する薬物について概説する。
- ・免疫系作用薬の種類と作用について概説する。
- ・歯科用医薬品の特徴および使用の留意点について概説する。
- ・う蝕予防薬の種類と作用について概説する。
- ・医薬品の剤形、処方箋および保管方法について概説する。
- ・薬事関連法規について概説する。
- ・臨床試験と薬害について概説する。

授業計画

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1	内分泌系作用薬・代謝系疾患治療	糖尿病治療薬、ホルモン拮抗薬	大谷啓一
2・3	感染と薬物	消毒薬、抗菌薬（抗生物質、抗真菌薬、抗結核薬、抗ウイルス薬）	大谷啓一
4	悪性腫瘍治療薬	化学療法薬、口腔領域の悪性腫瘍治療薬	田村幸彦
5	硬組織に作用する薬物	骨代謝調節ホルモン、骨粗鬆症の治療	青木和広

6	血液と薬物	貧血治療薬、局所性・全身性止血薬、抗血栓療法薬、血液製剤	青木和広
7	免疫調節薬・免疫療法薬	免疫抑制薬、免疫増強薬、ワクチン製剤、抗アレルギー薬、特異的抗リウマチ薬、抗ヒスタミン薬	青木和広
8	歯科医療と薬物・う蝕予防に用いる薬	歯科医療に用いられる薬物の特徴・副作用、う蝕予防薬の分類、フッ化物、フッ化物以外のう蝕予防薬、洗口剤	田村幸彦
9	口腔粘膜疾患治療薬	口腔粘膜疾患と治療薬、口腔内用薬（洗浄剤、口腔用膏剤、口腔用貼付性製剤など）	田村幸彦
10	歯内療法薬	う窩消毒剤および歯髄鎮静剤、覆髄剤、裏層剤、歯髄失活剤、歯髄乾屍剤、根管拡大補助剤と根管清掃剤、根管消毒剤、根管充填剤、象牙質知覚過敏症治療薬	長谷川望
11	歯周疾患治療薬	歯周疾患の分類、歯周炎の発症、プラークコントロールに用いる薬剤、歯周治療の処置に用いる薬剤	長谷川望
12	医薬品の分類・薬事関連法規	薬事法、日本薬局方及び局方薬、毒薬劇薬、麻薬、向精神薬、覚せい剤、医薬部外品、化粧品	原澤秀樹
13	薬物の取り扱い・服薬指導	処方箋、調剤と製剤、配合変化、保存方法、剤形	原澤秀樹
14	歯科用医薬品の特徴と使用	歯科用医薬品の特徴と剤形、歯科用医薬品の使用方法と留意点	原澤秀樹
15	臨床試験と薬害	臨床試験に関わる倫理規定、臨床試験のあり方・方法、臨床試験の課題、薬害	原澤秀樹

評価方法

- ・提出レポート、期末の客観試験、論述試験で総合的評価を行う。
- ・出席状況および授業態度を総合的評価に加味する。

参考図書等

- ・新歯科衛生士教本「薬理学」第2版 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版

- ・「シンプル薬理学」改訂第3版 植松俊彦 他編 南江堂
- ・「現代歯科薬理学」第5版 小椋秀亮監修 医歯薬出版

留意事項

事前に資料の配付、e-learning へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。

担当教員の office hour

大谷啓一	硬組織薬理学分野	月、火	16:00-18:00	kohya.hpha@tmd.ac.jp
青木和広	硬組織薬理学分野	火	16:00-18:00	kazu.hpha@tmd.ac.jp
田村幸彦	硬組織薬理学分野	金	16:00-18:00	tamu.hpha@tmd.ac.jp
原澤秀樹	歯学部附属病院 薬剤部	月・木	16:00-17:00	hharasawa.dpha@tmd.ac.jp

担当教員（非常勤）

長谷川望 歯学部非常勤講師（松翁会歯科）

科目名	臨床歯科医学
ユニット名	矯正歯科学
授業形態	実習・講義
開講時期・単位・時間数	3 学年前期・必修 1 単位・30 時間
科目責任者・ユニット責任者	白田千代子・大塚紘未
主な授業場所	口腔保健学科 第3講義室

学習目標

- ・顎口腔機能の発達過程および不正咬合との関連を理解し、顎口腔機能の育成および個性正常咬合獲得を、口腔保健の立場から支援するための知識を修得する。

到達目標

- ・正常な歯列咬合の状態を理解する。
- ・不正咬合の種類とその影響を理解する。
- ・不正咬合の診断に必要な資料・情報を理解する。
- ・不正咬合の診断・治療法を概説できる。
- ・歯科矯正器材と装置の種類・取り扱い方を概説できる。
- ・歯科矯正治療におけるチーム医療を理解する。
- ・歯科矯正治療中の患者の口腔保健指導を理解する。
- ・歯科矯正治療中の患者の口腔ケアと心理的支援を理解する。
- ・顎口腔機能の育成を概説できる。

授業計画

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1・2	歯科矯正学概論	不正咬合の生理的・心理的障害、矯正治療の目的とその必要性、矯正歯科治療の歴史、矯正歯科臨床における歯科衛生士の役割	辻美千子

3・4	成長・発育と口腔習癖	成長発育曲線、顎・顔面・頭蓋の成長発育、歯列の成長発育（乳歯列、混合歯列、永久歯列、歯年齢）、口腔習癖の種類と頻度、咬合・咀嚼・発音・嚥下への影響、口腔筋機能療法	辻美千子
5・6	咬合	正常咬合の定義、不正咬合の種類（歯の異常、歯列弓形態の異常、上下顎間関係の異常）と分類、不正咬合の原因（遺伝的・環境的、先天的・後天的）、不正咬合の予防	辻美千子
7・8	矯正診断	診査と情報の収集（相談・問診・写真・口腔模型・パノラマエックス線写真・頭部エックス線規格写真、口腔機能検査等）、症例分析法、治療方針の立て方	辻美千子
9・10	矯正治療における生体反応と生体力学、矯正治療の使用器材	矯正力、歯の移動・組織反応、歯の移動様式、固定、矯正器具の種類とその取扱い、矯正材料の種類と取扱い	辻美千子
11・12	矯正装置	舌側弧線装置、マルチブラケット装置、床矯正装置、機能的顎矯正装置、側方拡大装置、顎外固定装置、保定装置など、各装置の説明と注意事項	辻美千子
13-16	不正咬合の治療法	前後的関係・垂直的關係の不調和に対する治療、歯の埋伏と歯数の異常に対する治療、混合歯列期（第Ⅰ期治療）、永久歯列期（第Ⅱ期治療）、成人の矯正歯科治療（外科矯正、補綴前準備、歯周疾患患者、MTM）、トラブルへの対応	辻美千子
17-19	歯科矯正治療における歯科衛生士の役割 1	矯正歯科外来における歯科衛生士の役割（患者指導、MF T、チーム医療等）	葛西美樹 上原沙友里
20-22	歯科矯正治療における歯科衛生士の役割 2	診査の補助、歯科矯正治療の補助、各種装置の取扱い、矯正治療中の口腔保健管理、心理的支援等	大塚絃未
23-26	矯正歯科関連実習 1	矯正歯科における診査、検査、診断	辻美千子
27-30	矯正歯科関連実習 2	矯正歯科における器材の取扱い（結紮ほか）	辻美千子

評価方法

随時の小テスト・レポートで形成的評価、期末の客観試験、記述試験で総括的評価を行う。

参考図書等

- ・最新歯科衛生士教本「歯科矯正」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・矯正歯科治療とオーラルハイジーンコントロール 高田健治監修 クインテッセンス出版
- ・歯科矯正学と診療補助 東理十三雄監修 遠藤敏哉著 クインテッセンス出版
- ・歯科矯正学 第5版 葛西一貴他編 医歯薬出版

留意事項

事前に資料の配布、e-learning 上へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

担当教員の office hour

白田千代子 地域・福祉口腔保健衛生学分野 随時 hakuta.ohcw@tmd.ac.jp

大塚紘未 口腔疾患予防学分野 随時 hiromi.pvoh@tmd.ac.jp

担当教員

辻美千子 顎顔面矯正学分野

葛西美樹 歯学部附属病院歯科衛生保健部

上原沙友里 歯学部附属病院歯科衛生保健部

科目名	臨床歯科医学
ユニット名	歯科放射線学
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	3 学年前期・必修 1 単位・15 時間
科目責任者・ユニット責任者	白田千代子・近藤圭子
主な授業場所	口腔保健学科 第3 講義室

学習目標

歯科診療の診断に必要な放射線に関して、チーム医療に必要な知識、基本的手技を習得する。

到達目標

- ・放射線物理の基本的な内容を説明できる。
- ・歯科放射線の撮影方法について説明できる。
- ・放射線撮影にあたり、撮影の意味とその被曝の程度や適切な防護について説明できる。
- ・放射線治療の概要について説明できる。
- ・CTやMRIなどの画像診断法について概説できる。

授業計画

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1・2	放射線物理	放射線と放射能、X線の性質と物質の透過	大林尚人
3・4	X線撮影法	X線撮影装置の基本構造と各種歯科用装置、フィルムの特徴と管理	大林尚人
5・6	X線撮影の補助1	口内法（二等分法、平行法、咬合法）、デジタルX線	大林尚人
7・8	X線撮影の補助2	口外法（パノラマ、顎関節、頭部X線規格撮影）	大林尚人
9・10	放射線治療-腫瘍学と生物学	放射線による口腔癌の治療、治療中の口腔管理	大林尚人
11・12	放射線の管理と防護	放射線被曝、被曝線量の測定、放射線防護用具	大林尚人
13・14	画像診断	CT、MRI、PET/CT、RI検査	大林尚人
15	まとめ	必要とされる放射線の知識	大林尚人

評価方法

必要に応じてレポートの提出を課すとともに、期末の客観試験、記述試験で総括的評価を行う。出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。

参考図書等

- ・最新歯科衛生士教本「歯科放射線学」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・歯科衛生士テキスト わかりやすい歯科放射線学 有地榮一郎ほか監修 学建書院
- ・「歯科放射線学」 古本啓一、山本昭、岡野友宏著 医歯薬出版
- ・「放射線のABC」 真室哲雄編 丸善
- ・「新・放射線の人体への影響」 日本保健物理協会・日本アイソトープ協会編 丸善

留意事項

事前に資料の配布、e-learning へのアップロード等があった場合には、予習して授業に臨むこと。

担当教員の office hour

近藤圭子 生涯口腔保健衛生学分野 随時 solan.ltoh@tmd.ac.jp

担当教員

大林尚人 歯学部附属病院 歯科放射線外来

科目名	臨床歯科医学
ユニット名	包括的歯科医療の実際
授業形態	講義・演習・実習
開講時期・単位・時間数	3 学年後期・必修 2 単位・30 時間
科目責任者・ユニット責任者	白田千代子・遠藤圭子
主な授業場所	口腔保健学科 第3講義室・臨床基礎実習室・相互実習室

学習目標

加齢や障害に伴う身体・精神諸機能の変化や、高齢者・障害者の疾病の特徴を理解し、高齢者・障害者の医療・歯科医療に関する知識や技能の基礎を習得する。

到達目標

- ・ 加齢や障害に伴う身体的・精神的・社会的変化を理解する
- ・ 高齢者や障害者の疾病の特徴を理解する
- ・ 高齢者や障害者の医療・歯科医療の留意点を理解する
- ・ 高齢者や障害者の医療および福祉の社会的システムを理解する
- ・ 高齢者・障害者医療における倫理を理解する

授業計画

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1	高齢者・障害者に関する基礎医学	高齢者や障害者に関する基礎医学の確認	遠藤圭子、専攻・歯学科・医学科教員
2・3	高齢者医療に関するミニケース	高齢者医療に関するミニケース	遠藤圭子、専攻・歯学科・医学科教員
4-7	口腔ケア実習①	他科の学生に口腔ケアに関する指導実習①	遠藤圭子、専攻・歯学科・医学科教員
8-10	高齢者・障害者の歯科医療	高齢者・障害者の歯科医療	遠藤圭子、専攻・歯学科・医学科教員
11-15	高齢者・障害者に関する身体的・精神的・社会的特徴①	高齢者・障害者に関する身体的・精神的・社会的特徴①	遠藤圭子、専攻・歯学科・医学科教員

16-20	高齢者・障害者に関する身体的・精神的・社会的特徴②	高齢者・障害者に関する身体的・精神的・社会的特徴②	遠藤圭子、専攻・歯学科・医学科教員
21	高齢者・障害者の地域医療	高齢者・障害者の地域医療	遠藤圭子、専攻・歯学科・医学科教員
22・23	ケースカンファレンス	高齢者に関するケースカンファレンス	遠藤圭子、専攻・歯学科・医学科教員
24-27	口腔ケア実習②	他科の学生に口腔ケアに関する指導実習②	遠藤圭子、専攻・歯学科・医学科教員
28-30	まとめ	まとめ	遠藤圭子、専攻・歯学科・医学科教員

評価方法

- ・提出レポート、期末の客観試験、論述試験で総括的評価を行う。
- ・出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。

参考図書等

- ・老年医学テキスト(日本老年医学会編)
- ・健康長寿診療ハンドブック (日本老年医学会編)
- ・高齢者総合的機能評価ガイドライン(鳥羽研二)
- ・認知症地域ケアガイドブック (認知症介護研究・研修東京センター監修)
- ・日本老年歯科医学会監修 高齢者歯科診療ガイドブック (財団法人 口腔保健協会)

留意事項

- ・事前に資料の配付、e-learning へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。

担当教員の office hour

遠藤圭子 口腔疾患予防学分野 随時 usagi.pvoh@tmd.ac.jp

科目名	口腔疾患予防学
ユニット名	口腔疾患予防学の実践と応用
授業形態	実習・講義
開講時期・単位・時間数	3学年前・後期・必修3単位・135時間
科目責任者・ユニット責任者	品田佳世子・品田佳世子
主な授業場所	口腔保健学科 第3講義室・相互実習室・臨床基礎実習室

学習目標

- ・ 歯・口腔の健康状態を維持するための要因と、予防可能な口腔疾患の種類、その原因と予防法について理解する。
- ・ 歯・口腔の状態把握および歯科予防処置の基本的知識と技術を修得する。
- ・ より専門的な歯周病についての臨床知識を修得し、また歯科衛生士の実際の業務を学ぶ。

到達目標

- ・ う蝕予防と歯周歯科疾患予防の基礎を理解する。
- ・ 歯、口腔（歯、歯肉、歯の付着物・沈着物）状態を把握できる。
- ・ 器具の消毒・滅菌、感染予防、手指の消毒法、偶発事故の予防など生体への配慮の基本を実践しながら、歯科予防処置に必要な知識と技術を修得する。
- ・ 歯科予防処置のうち、歯石除去、歯面清掃、SRP、う蝕予防処置、フッ化物歯面塗布、フッ化物洗口を実施できる。
- ・ 歯科衛生過程にそって、口腔ケアを実施できる。
- ・ 集団を対象としたう蝕予防の処置を計画実践する。
- ・ 歯周病と全身疾患の関連を説明できる。
- ・ 歯周病発症の予防法を説明できる。
- ・ 歯周基本治療を説明できる。
- ・ 最新の歯周病検査・歯周治療を理解する。
- ・ 歯周専門分野での歯科衛生士の役割を説明する。

授業計画 3学年前・後期

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1-3	口腔疾患予防の実践	実習の進め方、手技の復習	近藤・白田・遠藤 大塚・安田

4-6	超音波スケーリング 1	超音波スケーリング	近藤・白田・遠藤 大塚・安田
7-9	超音波スケーリング 2	超音波スケーリングの実際	近藤・白田・遠藤 大塚・安田
10-12	試験ケースの説明、SRP・研磨復習	実習の進め方、SRP 復習	近藤・白田・遠藤 大塚・安田
13-15	シャープニング、SRP・研磨復習	シャープニング、SRP・研磨復習 相互実習準備	近藤・白田・遠藤 大塚・安田
16-20	ケース・シミュレーション 実習 1	相互実習 シミュレーションⅠ アセスメント 1	品田・荒川・近藤 白田・遠藤・大塚 安田・田澤
21-25	ケース・シミュレーション 実習 2	相互実習 シミュレーションⅡ アセスメント 2	品田・荒川・近藤 白田・遠藤・大塚 安田・田澤
26-30	歯科衛生過程による診断・ 計画・業務記録、実習準備	歯科衛生過程による診断・計画、 POS 相互実習準備	近藤・白田・遠藤 大塚・安田
31-35	ケース・シミュレーション 実習 3 * 口腔ケア体験実習	相互実習 シミュレーションⅢ 臨床実習（口腔ケア）体験実習	品田・荒川・近藤 白田・遠藤・大塚 安田・田澤
36-40	ケース・シミュレーション 実習 4 * 口腔ケア体験実習	相互実習 シミュレーションⅣ 臨床実習（口腔ケア）体験実習	品田・荒川・近藤 白田・遠藤・大塚 安田・田澤
41-45	ケース・シミュレーション 実習 5 * 口腔ケア体験実習	相互実習 シミュレーションⅤ 臨床実習（口腔ケア）体験実習	品田・荒川・近藤 白田・遠藤・大塚 安田・田澤
46-50	ケース・シミュレーション 実習 6 * 口腔ケア体験実習	相互実習 シミュレーションⅥ 臨床実習（口腔ケア）体験実習	品田・荒川・近藤 白田・遠藤・大塚 安田・田澤
51-55	ケース・シミュレーション 実習 7 * 口腔ケア体験実習	相互実習 シミュレーションⅦ （評価） 臨床実習（口腔ケア）体験実習	品田・荒川・近藤 白田・遠藤・大塚 安田・田澤

56-60	ケース・シミュレーション 実習 8	相互実習シミュレーションⅧ (評価)・記録整理	品田・荒川・近藤 白田・遠藤・大塚 安田・田澤
61-65	資料作成など	資料のまとめ、発表の準備	近藤・白田・大塚 安田
66-70	ケース・シミュレーション 実習 9	ケース発表	品田・荒川・近藤 白田・遠藤・大塚 安田・田澤
71-75	まとめ	発表後のフィードバック	品田・荒川・近藤 白田・遠藤・大塚 安田・田澤
76-78	集団に対するフッ化物塗布 1	幼稚園児に対する集団フッ化物塗 布実習 計画と準備	近藤・白田・遠藤 大塚・安田
79-85	集団に対するフッ化物塗布 2 校外実習	幼稚園児に対する集団フッ化物塗 布実習 実践	品田・寺岡・吉増 近藤・遠藤・白田 大塚・安田
86-120	臨床実習に関わる実習	実践に伴う実習 実技小試験 応用的な技術	近藤・白田・遠藤 大塚・安田
121・122	歯周組織の健康と全身の健 康との関わり 1	歯周病のリスクファクターとなる 全身疾患に関する最新情報	和泉雄一
123	ライフステージと歯周病	各ライフステージにおける歯周病 の特徴およびその予防	白田千代子
124	3・4年次臨床実習における 歯周基本治療の実際 1	臨床実習における歯周治療の流 れ・健康調査票の確認	塩山秀裕
125	3・4年次臨床実習における 歯周基本治療の実際 2	臨床実習における歯周組織検査・ 口腔保健衛生指導	塩山秀裕
126	3・4年次臨床実習における 歯周基本治療の実際 3	臨床実習におけるスケーリング・ ルートプレーニング	塩山秀裕
127	最新の歯周病検査	酵素反応・分子生物学的手法を用 いた細菌検査	竹内康雄
128	歯周治療の歴史	歯周病病態の解明・治療の変遷	荒川真一

129	歯周組織再生治療	歯周組織再生の最新治療	木下淳博
130	歯周病専門医による 歯周外科治療の実際	歯周組織再生療法の症例	須田智也
131	歯周病専門歯科医院での歯 周治療	歯周病専門歯科医院における歯周 治療（根面被覆）	菊池重成
132	レーザー治療	歯周治療におけるレーザー応用の 実際	青木章
133	歯科衛生士による歯周治療 の実際 1	歯科衛生士による歯周治療の実際	難波佳子
134	歯科衛生士による歯周治療 の実際 2	本学歯学部附属病院での歯科衛生 士による歯周治療の実際	難波佳子
135	歯周外科治療における歯科 衛生士の役割	歯周外科治療における歯科衛生士 の役割	吉田ひとみ

評価方法

- ・随時の小テストで形成的評価を行う。
- ・出欠状況、実習態度などを総括的評価に加味する。
- ・前期末の筆記試験、実技試験及び後期末の筆記試験、提出レポート・課題により総括的評価する。

参考図書等

- ・「歯科衛生士の臨床」 ウイルキンス著 医歯薬出版
- ・最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論」全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・目で見えるペリオドンタルインスツルメンテーションⅠ「ベーシック スキル」 医歯薬出版
- ・目で見えるペリオドンタルインスツルメンテーションⅡ「アセスメントとインスツルメンテーション」
医歯薬出版
- ・目で見えるペリオドンタルインスツルメンテーションⅢ「デブライドメント」 医歯薬出版
- ・目で見えるペリオドンタルインスツルメンテーションⅣ「アドバンス スキル」 医歯薬出版
- ・「歯科衛生ケアプロセス」下野正基監修 医歯薬出版
- ・ザ・ペリオドントロジー 和泉雄一、沼部幸博、山本松男、木下淳博 編 永末書店
- ・歯周病診断のストラテジー 吉江弘正、宮田 隆 編 医歯薬出版
- ・最新歯科衛生士教本 疾病の成り立ち及び回復過程の促進 2 微生物学 全国歯科衛生士教育協議会
監修 医歯薬出版
- ・臨床歯周病学 吉江弘正、伊藤公一、村上伸也、申 基喆 編 医歯薬出版
- ・チームアプローチで成功させる実践的歯周治療 野口俊英、横田 誠 編 医学情報社
- ・最新歯科衛生士教本 歯周疾患 歯周治療 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出

- 授業の際に印刷物を配付、または e-learning システム上にアップロードする。

留意事項

事前に資料の配付、e-learning へのアップロードなどがあった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

担当教員の office hour (メールで約束してから来室してください)

品田佳世子	口腔疾患予防学分野	随時	shinada.pvoh@tmd.ac.jp
荒川真一	生涯口腔保健衛生学分野	随時	s-arakawa.ltoh@tmd.ac.jp
近藤圭子	生涯口腔保健衛生学分野	随時	solan.ltoh@tmd.ac.jp
遠藤圭子	口腔疾患予防学分野	随時	usagi.pvoh@tmd.ac.jp
白田千代子	地域・福祉口腔保健衛生学分野	随時	hakuta.ohcw@tmd.ac.jp
大塚紘未	口腔疾患予防学分野	随時	hiromi.pvoh@tmd.ac.jp
安田昌代	歯学部附属病院 口腔ケア外来	随時	yasuda.ocsh@tmd.ac.jp

担当教員

木下淳博	教育メディア開発学分野
和泉雄一	歯周病学分野
塩山秀裕	歯学部附属病院 口腔ケア外来
竹内康雄	歯周病学分野
須田智也	歯学部附属病院 歯周病外来
青木章	歯周病学分野
難波佳子	歯学部附属病院 歯科衛生保健部
吉田ひとみ	歯学部附属病院 歯科衛生保健部

担当教員 (非常勤)

田澤千鶴
菊池重成

科目名	口腔疾患予防学
ユニット名	医学一般Ⅱ
授業形態	演習・講義
開講時期・単位・時間数	3 学年前期・必修 1 単位・45 時間
科目責任者・ユニット責任者	品田佳世子・吉増秀實
主な授業場所	口腔保健学科 第3 講義室

学習目標

- ・口腔保健活動を行うために必要な臨床医学の各分野の知識を身につける。

到達目標

- ・主な先天性疾患を説明する。
- ・主な皮膚疾患を説明する。
- ・主な耳鼻咽喉科疾患を説明する。
- ・主な眼科疾患を説明する。
- ・主な泌尿器科疾患を説明する。
- ・老化に伴う主な疾患を説明する。
- ・再生医療を概説する。
- ・救急医療について概説する。
- ・機能障害およびリハビリテーション医療を説明する。
- ・有病者の歯科医療・口腔保健活動の対応法について説明する。

授業計画

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1・2	小児科	小児が罹患しやすい感染症：麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎、先天性疾患、ダウン症	元吉八重子
3・4	小児科	ポリオ（小児麻痺）、脳性まひ、進行性筋ジストロフィー、小児喘息等	菅原佑之
5・6	皮膚科	アトピー性皮膚炎、薬剤アレルギー、皮膚がん	高山かおる
7・8	皮膚科	しみ、しわ 老化性変化、疥癬、水虫	
9・10	耳鼻咽喉科	耳科学、鼻科学	戸叶尚史

11・12	耳鼻咽喉科	咽頭・喉頭	角卓郎
13・14	眼科	主な目の疾患（近視、遠視、乱視、弱視、色盲、色弱、斜視、ドライアイ、飛蚊症）	鴨居功樹
15・16	眼科	老化と目（白内障、緑内障、網膜剥離、黄斑変性症、糖尿病性網膜炎、眼底出血）	
17・18	泌尿器科	主な泌尿器疾患（腎臓病、尿路結石、腎不全、透析、前立腺肥大）	木島敏樹
19・20	泌尿器科	老化に伴う変化 悪性腫瘍、ぼうこう癌、排尿のトラブル	
21・22	リハビリテーション医学	リハビリテーション医学	森田定雄
23・24	再生医療	再生医療	黒田真司
25・26	救急医療	救急医療	村田希吉
27・28	口腔保健活動と有病者	総合病院歯科勤務の歯科衛生士にもとめられること	道脇幸博
29・30	有病者に対する歯科医療	有病者の歯科医療	吉増秀實
31・32	講義の総括	総括（試験1）	吉増秀實
33-35	演習1	有病者に対する歯科的対応1	吉増秀實
36-38	演習2	有病者に対する歯科的対応2	吉増秀實
39-41	演習3	有病者に対する歯科的対応3	吉増秀實
42-44	演習4	有病者に対する歯科的対応4	根岸明秀
45	演習の総括	総括（試験2）	吉増秀實

評価方法

3 学年前期末に試験を行う。

出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。

受験資格は、東京医科歯科大学歯学部試験規則第 11 条に準ずる。

参考図書等

- ・ 医科臨床系教科書など
- ・ 歯科衛生士関連の教科書

留意事項

事前に資料の配布・アップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

担当教員の Office hour

吉増秀實 健康支援口腔保健衛生学分野 随時 h-yoshimasu.ocsh@tmd.ac.jp

担当教員

元吉八重子・菅原佑之 発生発達病態学分野

高山かおる 皮膚科学分野

戸叶尚史・角卓郎 耳鼻咽喉科学分野

鴨居功樹 眼科学分野

木島敏樹 腎泌尿器科学分野

森田定雄 リハビリテーション医学分野

村田希吉 災害医学分野

黒田真司 インプラント・口腔再生医学分野

担当教員（非常勤）

道脇幸博 武蔵野赤十字病院特殊歯科・口腔外科

根岸明秀 群馬大学大学院医学系研究科顎口腔科学分野

科目名	健康教育の企画と実践
ユニット名	健康教育の企画と実践 I
授業形態	実習
開講時期・単位・時間数	3 学年前後期・必修 2 単位・90 時間
科目責任者・ユニット責任者	遠藤圭子・遠藤圭子
主な授業場所	口腔保健学科 第3講義室、小学校、幼稚園、保育園、病院 等

学習目標

地域保健活動を展開するために必要な知識、技術、態度を習得して、実践力を養う。

到達目標

- ・地域における健康教育の実際を説明する。
- ・学童、園児等の歯科衛生上のニーズを判断して、健康教育を企画し、実践する。
- ・健康教育による介入後の変化を評価する。

授業計画

3 学年前期・必修・70 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1-3	学外実習の意義 小学生対象健康教育 1	学外実習について 事前調査項目の検討、設計	遠藤・近藤
4-7	小学生対象健康教育 2	小学校 1・2 年生の健康課題 生活習慣、学童が抱える歯科的問題	白田・安田 大塚・遠藤
8-10	小学生対象健康教育 3	教材の意義、種類、特徴、活用法 絵コンテ作成、必要物品準備	遠藤・近藤 大塚・安田
11-14	小学生対象健康教育 4	学外実習 (T 小学校における健康教育) 実習、事後評価、実習報告書の作成	遠藤・近藤 大塚・安田
15-17	幼稚園児対象健康教育 1	事前調査項目の検討、設計	遠藤・近藤 大塚・安田
18-21	幼稚園児対象健康教育 2	幼稚園児の生活習慣、歯科的問題	遠藤・近藤
22-24	幼稚園児対象健康教育 3	実習、事後評価、実習報告書の作成 (N 幼稚園における健康教育)	遠藤・近藤 大塚・安田

25-27	保育園児対象健康教育 1	園児の健康課題、生活習慣、幼児が抱える歯科的問題把握	遠藤・近藤 大塚
28-30	保育園児対象健康教育 2	事前調査結果まとめ、健康ニーズの把握、目標設定、内容検討	遠藤・近藤 大塚
31-35	保育園児対象健康教育 3	教材作成、リハーサル、評価	遠藤・近藤 大塚
36-40	保育園児対象健康教育 4	実習（H市保育園における健康教育）	遠藤・近藤 大塚
41-45	保育園児対象健康教育 5	事後評価、実習報告書の作成	遠藤・近藤 大塚
46-49	保育園児対象健康教育 6	保護者、園への報告書の作成	遠藤・近藤 大塚
50-52	成人対象健康教育 1	成人の抱える歯科衛生関連ニーズ	遠藤・近藤 大塚
53-55	成人対象健康教育 2	健康教育企画	遠藤・近藤 大塚
56-58	成人対象健康教育 3	教材の作成、シナリオ作成（絵コンテ）	遠藤・近藤 大塚
59-61	成人対象健康教育 4	健康教育の実践	遠藤・近藤 大塚
62-64	妊婦対象健康教育 1	ニーズ診断と健康教育企画	遠藤・近藤 大塚
65-67	妊婦対象健康教育 2	健康教育の実践	遠藤・近藤 大塚
68-70	評価、まとめ	健康教育の実際と評価	遠藤・近藤

3 学年後期・必修・20 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1-3	地域におけるイベント	健康教育企画	遠藤・近藤
4-7	特別支援学校における健康教育 1	健康教育の実際、評価	白田・安田 遠藤

8-10	特別支援学校における健康教育 2	健康教育の見学	白田・安田 遠藤
11-14	企業における健康教育 1	インターネットを利用した情報提供	遠藤・近藤 大塚・安田
15-17	企業における健康教育 2	情報提供の効果	遠藤
18-20	まとめ	健康教育の意義、実践上の留意点	遠藤・近藤

評価方法

- ・ 報告書、期末試験で総括的評価を行う。
- ・ 授業への取り組み、出席状況を総括的評価に加味する。

留意事項

- ・ 学外実習の取り組み、服装、言葉遣いに留意する。
- ・ 実習態度、出席状況、報告書の提出状況などが不適切な場合には、実習停止とすることがある。

担当教員の office hour

遠藤圭子	口腔疾患予防学分野	随時	usagi.pvoh@tmd.ac.jp
近藤圭子	生涯口腔保健衛生学分野	随時	solan.ltoh@tmd.ac.jp
白田千代子	地域・福祉口腔保健衛生学分野	随時	hakuta.cohc@tmd.ac.jp
大塚紘未	口腔疾患予防学分野	随時	hiromi.pvoh@tmd.ac.jp
安田昌代	歯学部附属病院 口腔ケア外来	随時	yasuda.ocsh@tmd.ac.jp

科目名	臨床口腔保健衛生応用学Ⅱ
ユニット名	臨床口腔保健衛生応用学Ⅱ
授業形態	実習・演習・講義
開講時期・単位・時間数	3 学年前・後期・必修 2 単位・90 時間
科目責任者・ユニット責任者	白田千代子・白田千代子
主な授業場所	口腔保健学科第3講義室・臨床基礎実習室・相互実習室 歯学科補綴実習室

学習目標

- ・ 歯科臨床の場で必要な知識・器材の取扱い・技術を理解し、歯科衛生士に必要な基本的な技術をみにつける。
- ・ 口腔保健・歯科医療の変遷と現状、歯科医療従事者の種類と役割、歯科診療の概要を理解する。

到達目標

- ・ 器材の種類・特性・用途を理解する。
- ・ 診療に必要な器械・材料・薬品の適切な準備と取り扱いを行う。
- ・ 器材の特性にあわせ、滅菌・消毒を行う。
- ・ 器材の管理のしかたを説明する。
- ・ 患者の誘導のしかた・患者とのコミュニケーションの取り方を理解する。
- ・ チーム医療に必要な技能を理解し実践する。
- ・ 各科に必要な器材を選択し、診療の流れにそって説明する。
- ・ バイタルサイン（意識レベルを含む）を測定し、判断できる。
- ・ 救急蘇生について説明し、ダミーを使用し体験する。
- ・ 歯科患者の特徴、心理状態を理解し説明する。
- ・ ライフサイクルに合わせた、歯科衛生士の関わりを理解する。
- ・ 歯科保健医療に関わる職種をあげ、それぞれの役割を説明する。

授業計画 3 学年前・後期

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1-3	歯科診療の補助とは 歯科診療の補助	歯科診療の補助の実際について 保存修復学 1. 補助の実践 器材を扱う体験 歯内療法 1. 補助の実践 器材を扱う体験	白田・遠藤 近藤・大塚 安田

4-6	歯科保険について 1. 歯科診療の補助	社会保険制度の体系と医療保険 保存修復学 2. 補助の実践 器材を扱う体験 歯内療法 2. 補助の実践 器材を扱う体験	白田・遠藤 近藤・大塚 安田
7-9	歯科保険について 2. 歯科診療の補助	歯科保険の仕組み 歯周疾患 補助の実践 器材を扱う体験	白田・遠藤 近藤・大塚 安田
10-12	歯科保険について 3. 歯科診療の補助	歯科治療と歯科保険請求 1 口腔外科 補助の実践 器材を扱う体験	白田・遠藤 近藤・大塚 安田
13-15	歯科保険について 4. 歯科診療の補助	歯科治療と歯科保険請求 2 歯科補綴 補助の実践 器材を扱う体験	白田・遠藤 近藤・大塚 安田
16-18	歯科保険について 5. 歯科診療の補助	歯科治療と歯科保険請求 3 矯正歯科 補助の実践 器材を扱う体験	白田・遠藤 近藤・大塚 安田
19-21	歯科保険について 6. 歯科診療の補助	歯科保険請求書の作成 小児歯科 補助の実践 器材を扱う体験	白田・遠藤 近藤・大塚 安田
22-24	歯科保存処置関連実習 1.	器材の取り扱いの実際 充填物	島田康史 白田・近藤 大塚・安田
25-27	歯科保存処置関連実習 2.	器材の取り扱いの実際 接着材	島田康史 白田・近藤 大塚・安田
28-30	歯科保存処置関連実習 3.	防湿法について ラバーダム防湿法（基礎実習）	白田・遠藤 近藤・大塚 安田・田澤
31-35	歯科保存処置関連実習 4	防湿法の実際 ラバーダム防湿法（相互実習）	竹田淳志 白田・遠藤 近藤・大塚 安田・田澤
36-38	歯科診療補助	歯科補綴 2 補助の実践 器材を扱う体験	白田・近藤 遠藤・大塚

39-42	暫間被覆冠の作成	暫間被覆冠の種類と作製の実際	歯科医師教員・安江 白田・近藤 大塚・安田
43-47	精密印象採得の実習	精密印象・硬石膏の取り扱い（相互実習）	歯科医師教員、安江、 白田・遠藤 近藤・大塚 田澤
48-50	小児歯科関連の実習	小児における診療補助の実際（相互実習）	品田・白田 近藤・遠藤 大塚・安田 田澤
51-53	口腔外科・歯科麻酔関連実習	浸潤麻酔・静脈確保の実際	神野成治 吉増秀實 大塚・安田
54-56	補綴物について	義歯の種類と取り扱い方	白田・近藤 大塚・安田
57-60	救急蘇生法の実習	救急蘇生の実際	神野成治 白田・大塚 安田
61-70	診療の準備と管理	相互実習の準備と後片付けの計画、実践	白田・近藤 遠藤・大塚 安田・田澤
71・72	インプラントの基礎と臨床	インプラントの歴史、インプラントの種類 インプラントの手技、インプラントの管理	黒田真司
73・74	インプラントの臨床と制作過程	インプラントの埋入法 インプラントの補綴法	黒田真司
75・76	顎顔面補綴学 顎顔面補綴治療の実際 1	顎顔面補綴学が対応する症例 補綴症例、顎顔面補綴治療における口腔 衛生指導	隅田由香
77・78	顎顔面補綴治療の実際 2	顎顔面補綴治療の実際に求められる心理ケ ア、顎顔面補綴治療におけるチーム医療	隅田由香

79・80	高齢者歯科学 高齢者歯科治療の実際 1	高齢者、高齢者歯科の全体像	関田俊明
81・82	高齢者歯科治療の実際 2	高齢者歯科治療の内容	関田俊明
83・84	高齢者歯科治療の実際 3	高齢者歯科治療の対応 高齢者歯科におけるチーム医療	関田俊明 歯科衛生士
85・86	まとめ		白田千代子
87-90	試験	実技試験、筆記試験	

評価方法

- ・前期末の筆記試験、実技試験及び後期末の筆記試験、提出レポート・課題により総括的評価する。
- ・出席状況、意欲・授業態度を総括的評価に加味する。

参考図書等

- ・最新歯科衛生士教本「歯科診療補助論」全国歯科衛生士教育協議会 医歯薬出版
- ・よくわかる口腔インプラント学 赤川安正、松浦正朗編 医歯薬出版
- ・声と言葉のしくみ 亀田和夫 口腔保健協会
- ・口唇裂口蓋裂の補綴治療 大山喬史編 医歯薬出版社
- ・顎顔面補綴の臨床 大山喬史・谷口 尚著 医学情報社
- ・言語聴覚士に必要な歯科の知識 谷口 尚・片倉伸郎・大野友久・墨田由香著 インテルナ出版

留意事項

- ・事前に資料の配布、e-learning システム上へのアップロードなどがあった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

担当教員の office hour

白田千代子	地域・福祉口腔保健衛生学分野	随時	hakuta.ohcw@tmd.ac.jp
遠藤圭子	口腔疾患予防学分野	随時	usage.pvoh@tmd.ac.jp
近藤圭子	生涯口腔保健衛生学分野	随時	solan.ltoh@tmd.ac.jp
大塚紘未	口腔疾患予防学分野	随時	hiromi.pvoh@tmd.ac.jp
安田昌代	歯学部附属病院 口腔ケア外来	随時	yasuda.ocsh@tmd.ac.jp
吉増秀實	健康支援口腔保健衛生学分野	随時	h-yoshimasu.ocsh@tmd.ac.jp

担当教員

島田康史 う蝕制御学分野
竹田淳志 歯髄生物学分野
安江透 歯冠修復技工学分野
神野成治 麻酔・生体管理学分野
黒田真司 インプラント・口腔再生医学分野
隅田由香 顎顔面補綴学分野
関田俊明 高齢者歯科学分野

担当教員（非常勤）

田澤千鶴

科目名	歯科衛生過程
ユニット名	歯科衛生過程専門演習
授業形態	演習
開講時期・単位・時間数	3 学年前期・必修 1 単位・30 時間
科目責任者・ユニット責任者	遠藤圭子・遠藤圭子
主な授業場所	口腔保健学科 第3講義室・演習室

学習目標

人々の歯科衛生ニーズにあった支援を提供するために活用する問題解決思考ツールの歯科衛生過程の概念と展開の方法を理解し、必要な知識・技術を習得する。

到達目標

- ・事例を通して、対象者の情報を分類・整理、統合する。
- ・事例を通して、対象者の歯科衛生関連の問題を明確化し、優先順位をつける。
- ・明確化した問題の関連因子を特定し、歯科衛生診断文を作成する。
- ・歯科衛生計画を立案する(目標・歯科衛生介入・期待される結果)。
- ・歯科衛生評価を説明する。

授業計画

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1・2	中学生の事例	情報確認と整理	遠藤・大塚
3・4	〃	歯科衛生診断文作成、歯科衛生計画	遠藤・大塚
5・6	〃	歯科衛生介入、評価	遠藤・大塚
7・8	妊婦の事例	情報確認と整理	遠藤・大塚
9・10	〃	歯科衛生診断文作成、歯科衛生計画	遠藤・大塚
11・12	〃	歯科衛生介入、評価	遠藤・大塚
13・14	就活中の大学生の事例	情報確認と整理	遠藤・大塚
15・16	〃	歯科衛生診断文作成、歯科衛生計画	遠藤・大塚
17・18	〃	歯科衛生介入、評価	遠藤・大塚
19・20	糖尿病治療中の男性	情報確認と整理	遠藤・大塚

21・22	〃	歯科衛生診断文作成、歯科衛生計画	遠藤・大塚
23・24	〃	歯科衛生介入、評価	遠藤・大塚
25・26	放射線治療を受ける患者事例	情報確認と整理	遠藤・大塚
27・28	〃	歯科衛生診断文作成、歯科衛生計画	遠藤・大塚
29・30	まとめ	歯科衛生過程の活用例、評価	遠藤・大塚

評価方法

課題レポート、期末試験で総括的評価を行う。

受講態度、出席状況等を総括的評価に加味する。

参考図書等

- ・佐藤陽子 他 「歯科衛生ケアプロセス」 医歯薬出版 2004
- ・全国歯科衛生士教育協議会編 最新歯科衛生士教本「歯科予防処置・歯科保健指導」 医歯薬出版 2011
- ・授業の際、印刷物を配布する。

留意事項

事前配布資料や e-learning へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

担当教員の office hour

遠藤圭子 口腔疾患予防学分野 随時 usagi.pvoh@tmd.ac.jp

大塚絃未 口腔疾患予防学分野 随時 hiromi.pvoh@tmd.ac.jp

科目名	歯科衛生臨床実習
ユニット名	歯科衛生臨床実習
授業形態	実習
開講時期・単位・時間数	3 学年後期・必修 7 単位・315 時間 4 学年・必修 6 単位・270 時間 単位認定（13 単位）は 4 学年終了時に行う
科目責任者・ユニット責任者	近藤圭子・近藤圭子
主な授業場所	歯学部附属病院内

学習目標

・ 歯科診療施設において、チーム医療の一員として、対象者本位の歯科予防処置・歯科保健指導・歯科診療補助を実践するために必要な態度・知識・技能を修得する。

到達目標

- ・ 対象者の身体的・精神的・社会的苦痛に配慮し、問題点を抽出・整理する。
- ・ 対象者の不安・不満や表情・行動の変化に適切に対応できる。
- ・ 歯科ユニット各部の名称と機能を説明できる。
- ・ 診療に必要な器材を説明する。
- ・ 診療室への患者の誘導を適切にできる。
- ・ 対象者に挨拶して自己紹介できる。
- ・ 対象者との信頼関係を築くことができる。
- ・ 個人的、社会的背景等が異なる対象者に、わけへだてなく対応できる。
- ・ 対象者の価値観が多様であることを認識し、柔軟に対応できる。
- ・ 必要な情報を整理し、わかりやすい口頭説明と文書を準備できる。
- ・ 説明を行うために適切な時期・場所・機会に配慮できる。
- ・ 対象者からの質問に適切に応え、その様々な反応に柔軟に対応できる。
- ・ 医療事故や潜在的医療事故（ニアミス）に関する情報を共有し、再発防止に役立てることができる。
- ・ インフォームドコンセントを行うことができる。
- ・ 対象者に応じた歯科予防処置を実施する。
- ・ 対象者に応じた歯科保健指導を実施する。
- ・ 対象者に応じた歯科診療補助を実施する。

授業計画 3 学年後期

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1-49	臨床実習ガイダンス および予備実習	臨床実習ガイダンス、口腔ケア、むし歯 外来、歯周病外来、義歯外来、口腔外科 外来、歯科放射線外来、小児歯科外来等 におけるオリエンテーション	口腔保健学 科教員、歯学 科教員、歯科 衛生士
50-140	口腔ケア実習	患者さんを担当した歯科予防処置、歯科 保健指導	口腔保健学 科臨床系教 員 非常勤講師 佐々木好幸
141-182	むし歯外来実習	むし歯外来における歯科診療補助、歯科 保健指導	むし歯外来 教員、歯科衛 生士
183-224	歯周病外来実習	歯周病外来における歯科診療補助、歯科 保健指導	歯周病外来 教員、歯科衛 生士
225-245	義歯外来実習	義歯外来における歯科診療補助、歯科保 健指導	義歯外来教 員、歯科衛生 士
246-266	口腔外科外来実習	口腔外科外来における歯科診療補助、歯 科保健指導	口腔外科外 来教員、看護 師
267-287	小児歯科外来実習	小児歯科外来における歯科診療の補助、 歯科保健指導	小児歯科外 来教員、歯科 衛生士
288-308	歯科放射線外来実習	歯科放射線外来における歯科診療の補 助	歯科放射線 外来教員、放 射線技師
309-315	中央器材室実習	中央器材室における歯科診療室管理業 務実習	看護師

評価方法

- ・実習記録・実習報告書、出席状況、臨床実習指導者評価等により総括的評価を行う。
- ・実習態度・取組み、提出物の提出状況を総括的評価に加味する。
- ・提出レポート、課題発表等で総括的評価を行う。

参考図書等

- ・最新歯科衛生士教本「口腔保健管理」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
- ・最新歯科衛生士教本「歯の硬組織・歯髄疾患 保存修復・歯内療法」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
- ・最新歯科衛生士教本「歯周疾患」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
- ・最新歯科衛生士教本「咀嚼障害・咬合異常1歯科補綴」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
- ・最新歯科衛生士教本「顎口腔粘膜疾患 口腔外科・歯科麻酔」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
- ・最新歯科衛生士教本「歯科診療補助論」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
- ・最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「歯科器械の知識と取り扱い」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版

留意事項

附属病院等では服装、態度等に留意すること。不適切な場合は実習停止とする場合がある。

担当教員の office hour (メール等で約束してから来室してください)

近藤圭子	生涯口腔保健衛生学分野	随時	solan.ltoh@tmd.ac.jp
品田佳世子	口腔疾患予防学分野	随時	shinada.pvoh@tmd.ac.jp
吉増秀實	健康支援口腔保健衛生学分野	随時	h-yoshimasu.ocsh@tmd.ac.jp
寺岡加代	口腔健康教育学分野	随時	ktera.hce@tmd.ac.jp
荒川真一	生涯口腔保健衛生学分野	随時	s-arakawa.ltoh@tmd.ac.jp
遠藤圭子	口腔疾患予防学分野	随時	usagi.pvoh@tmd.ac.jp
白田千代子	地域・福祉口腔保健衛生学分野	随時	hakuta.ohcw@tmd.ac.jp
大塚絃未	口腔疾患予防学分野	随時	hiromi.pvoh@tmd.ac.jp
安田昌代	歯学部附属病院 口腔ケア外来	随時	yasuda.ocsh@tmd.ac.jp
佐々木好幸	う蝕制御学分野	随時	sasaki.prev@tmd.ac.jp

科目名	歯科衛生臨地実習
ユニット名	歯科衛生臨地実習
授業形態	実習
開講時期・単位・時間数	3学年前後期・必修1単位・45時間 } 5単位 4学年前後期・必修4単位・180時間 } 単位認定（5単位）は4学年終了時に行う
科目責任者・ユニット責任者	遠藤圭子・遠藤圭子
主な授業場所	口腔保健学科 第3講義室、学外施設、病院 等

学習目標

歯科衛生活動を展開するために必要な知識、技術、態度を習得して、実践力を養う。

到達目標

- ・地域、病院、企業における歯科衛生活動を説明する。
- ・対象のニーズ判断に基づいた介入計画を立案する。
- ・介入後の変化を評価する。

授業計画

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1-3	学外実習の意義	学外実習について	遠藤
4-7	地域における歯科衛生活動Ⅰ	地域の現状、住民の歯科衛生ニーズ判断	遠藤・近藤
8-10	地域における歯科衛生活動Ⅱ	ニーズ判断に基づく歯科衛生計画	遠藤・近藤
11-14	地域における歯科衛生活動Ⅲ	実践と介入評価、報告書の作成	遠藤・近藤
15-17	病院における歯科衛生活動Ⅰ	病院の現状、入院患者の歯科衛生ニーズ判断	遠藤・白田 安田
18-21	病院における歯科衛生活動Ⅱ	ニーズ判断に基づく歯科衛生計画	遠藤・白田 安田
22-24	病院における歯科衛生活動Ⅲ	実践と介入評価、報告書の作成	遠藤・白田 安田
25-27	企業における歯科衛生活動Ⅰ	社員の現状、歯科衛生ニーズ判断	遠藤・近藤 大塚

28-30	企業における歯科衛生活動Ⅱ	ニーズ判断に基づく歯科衛生計画	遠藤・近藤 大塚
31-35	企業における歯科衛生活動Ⅲ	実践と介入評価、報告書の作成	遠藤・近藤 大塚
36-40	発表準備	グループワーク（まとめ）	遠藤
41-45	発表	まとめ（歯科衛生活動とは）	遠藤・大塚

評価方法

授業への取り組み、出席状況、報告書、期末試験を基に総括的評価を行う。

留意事項

- ・学外実習時の服装、態度、言葉遣いに留意する。
- ・実習への取り組み、出席状況、報告書の提出状況などが不適切な場合には、実習停止とすることがある。

担当教員の office hour

遠藤圭子	口腔疾患予防学分野	随時	usagi.pvoh@tmd.ac.jp
近藤圭子	生涯口腔保健衛生学分野	随時	solan.ltoh@tmd.ac.jp
白田千代子	地域・福祉口腔保健衛生学分野	随時	hakuta.ohcw@tmd.ac.jp
大塚絃未	口腔疾患予防学分野	随時	hiromi.pvoh@tmd.ac.jp
安田昌代	歯学部附属病院 口腔ケア外来	随時	yasuda.ocsh@tmd.ac.jp

科目名	高齢者福祉
ユニット名	高齢者福祉
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	3 学年前期・必修 2 単位・30 時間
科目責任者・ユニット責任者	遠藤慶子・遠藤慶子
主な授業場所	口腔保健学科 第3 講義室

学習目標

- ・ 高齢者の特徴を理解し、高齢者の人々の生活実態、高齢者の人々を取り巻く社会情勢、高齢者福祉の変遷と今後のありかたについて学ぶ。

到達目標

- ・ 高齢者の心身の特徴を理解し、説明する。
- ・ 高齢者の人々の生活実態を理解する。
- ・ 日本における少子高齢化について理解し、説明する。
- ・ 日本における少子高齢化や家族類型および家族機能の変化について理解し、高齢者を取り巻く諸問題について考えることができる。
- ・ 高齢者福祉制度および関連法規について理解し、説明する。
- ・ 高齢者をとりまく問題を自ら発見し、解決するための方法を検討する。

授業計画

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1・2	少子高齢社会と介護問題	高齢者・家族の生活実態と問題状況	遠藤慶子
3・4	少子高齢社会と高齢者問題の変化	高齢者の福祉ニーズの把握等	〃
5・6	高齢者の心身の特徴	高齢者のこころとからだ 口腔保健等	白田千代子 遠藤慶子
7・8	高齢者福祉および関連分野の組織・専門職およびその連携のあり方	組織、専門職、連携のあり方	遠藤慶子
9・10	高齢者のための地域および住環境と福祉用具	住環境、福祉用具	遠藤慶子

11・12	高齢者に対する相談援助活動 1	事例： ①施設 ②在宅	白田千代子 遠藤慶子
13・14	高齢者に対する相談援助活動 2	事例 ①歯科クリニック ②居宅介護支援事業	白田千代子 遠藤慶子
15・16	高齢者福祉制度	高齢者介護の概念・対象・介護予防	佐藤信人 遠藤慶子
17・18	高齢者支援関連法規 1	老人福祉法	佐藤信人 遠藤慶子
19・20	高齢者支援関連法規 2	老人保健法、後期高齢者医療制度	佐藤信人 遠藤慶子
21・22	高齢者支援関連法規 3	介護保険制度の概要（1） 保険者、被保険者、財源等	佐藤信人 遠藤慶子
23・24	高齢者支援関連法規 4	介護保険制度の概要（2） 要介護認定、居宅介護支援等	佐藤信人 遠藤慶子
25・26	高齢者支援関連法規 5	介護保険制度の概要（3） 介護保険制度の改正	佐藤信人 遠藤慶子
27・28	高齢者支援関連法規 6	その他の高齢者支援関連法規	佐藤信人
29・30	まとめ	まとめ	遠藤慶子

評価方法

- ・提出レポート、期末の客観試験、論述試験で総括的評価を行う。
- ・出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。

参考文献

- ・新・社会福祉士養成講座 13 高齢者に対する支援と介護保険制度 第3版 社会福祉士養成講座編集委員会編 中央法規

留意事項

- ・事前に資料の配布、e-learning へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

担当教員の office hour

白田千代子 地域・福祉口腔保健衛生学分野 随時 hakuta.ohcw@tmd.ac.jp

遠藤慶子 地域・福祉口腔保健衛生学分野 随時 k-endo.ohcw@tmd.ac.jp

担当教員（非常勤）

佐藤信人 認知症介護研究・研修東京センター

科目名	社会調査の基礎
ユニット名	社会調査の基礎
授業の形態	講義
開講時期・単位・時間数	3 学年前期・必修 2 単位・30 時間
科目責任者・ユニット責任者	遠藤慶子・遠藤慶子
主な授業場所	口腔保健学科 第3 講義室

学習目標

- ・社会調査の意義と目的を理解し、調査票の作成と模擬実施、集計解析など実践的に学習する。
- ・社会調査における倫理や個人情報保護について理解する。

到達目標

- ・社会調査の意義と目的及び方法の概要について説明できる。
- ・量的調査及び質的調査の基本的な方法を説明することができる。
- ・統計法の概要、社会調査における倫理や個人情報保護について説明できる。

授業計画

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1・2	現代社会と社会調査	社会調査とは、標本調査の種類、調査の分類・選択基準	佐藤貴一郎 遠藤慶子
3・4	調査と法制・倫理	社会調査の実施方法と統計法、個人情報保護と倫理	佐藤貴一郎 遠藤慶子
5・6	調査計画と調査対象	調査計画と手順、サンプリングと標本数の決定(理論)	佐藤貴一郎 遠藤慶子
7・8	調査内容の決定(1)	調査テーマの選定、調査事象の概念化(調査図式)	佐藤貴一郎 遠藤慶子
9・10	調査内容の決定(2)	調査票の作成(1) 質問項目とワーディング	佐藤貴一郎 遠藤慶子
11・12	調査内容の決定(3)	調査票の作成(2) 回答形式と測定尺度	佐藤貴一郎 遠藤慶子
13・14	調査実施と処理(1)	調査の実施方法：調査票設計例とプリテスト	佐藤貴一郎 遠藤慶子

15・16	調査実施と処理(2)	調査終了後の点検、データ・ファイルの作成など	佐藤貴一郎 遠藤慶子
17・18	結果の集計解析(1)	集計方法(1)単純集計と基本統計量など	佐藤貴一郎 遠藤慶子
19・20	結果の集計解析(2)	集計方法(2)クロス集計と関連性	佐藤貴一郎 遠藤慶子
21・22	調査結果の分析(1)	相関分析、多変量解析など統計分析	佐藤貴一郎 遠藤慶子
23・24	調査結果の分析(2)	分析結果の統計的検定：考え方と代表的な方法	佐藤貴一郎 遠藤慶子
25・26	聴取調査の方法	聴取調査の手順、構造化面接、調査結果の個別性など	佐藤貴一郎 遠藤慶子
27・28	聴取調査の実際	調査内容と実施例、結果の分析方法	佐藤貴一郎 遠藤慶子
29・30	調査結果のまとめ	分析結果の考察と調査報告書・プレゼンテーション	佐藤貴一郎 遠藤慶子

評価方法

- ・ 出欠状況と授業参加の態度
- ・ 調査課題に関するレポートに基づき総合評価する。

参考図書等

- ・ 参考書：東京大学医学部保健社会学教室編「保健・医療・看護調査ハンドブック」、東京大学出版会
- ・ 他随時授業中に紹介します。

留意事項

- ・ 調査票作成、分析については、調査テーマに沿ってグループ学習を行います。Excel でデータ処理をしますので、各グループに1台ノートPCを用意してください。
- ・ 事前に資料の配付、e-learning システム上へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。また、講義における質疑応答などには主体的に参加し、学ぶ意欲を持って授業に参加することを望みます。

担当教員の office hour

遠藤慶子 地域・福祉口腔保健衛生学分野 随時 k-endo.ohcw@tmd.ac.jp

担当教員（非常勤）

佐藤貴一郎 東京慈恵会医科大学

科目名	介護福祉
ユニット名	介護福祉
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	3 学年前期・必修 2 単位・30 時間
科目責任者・ユニット責任者	遠藤慶子・遠藤慶子
主な授業場所	口腔保健学科 第3 講義室

学習目標

- ・ 歯科衛生士にとって求められる介護とは何か、介護福祉とは何かを探究する。また現在社会における介護問題も最新の情報を取り上げ、介護を身近なものとして考えられるような授業内容を構成し、介護についての理解を深めることを目指す。

到達目標

- ・ 介護福祉の役割について理解する。
- ・ 身体的および精神的な変化に対する観察能力を学び、保健・医療機関、専門職との連携、協力および必要に応じた手助けができる。
- ・ 病気や遭遇しやすい事故についての知識を持ち、それらの予防的措置の技術を理解する。
- ・ 高齢者の健康の概念を理解し、健康を促進する具体的な展開方法について学ぶ。
- ・ 認知症の症状や行動異常の体験的世界を理解し、家族支援や地域のサポートを理解する。

授業計画

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1・2	介護福祉を取り巻く環境	介護福祉士を取り巻く状況、 介護の歴史	遠藤慶子
3・4	介護保険制度と介護福祉	少子高齢社会と介護問題	遠藤慶子
5・6	介護福祉の対象と機能	介護の概念	遠藤慶子
7・8	介護福祉と自立	介護における自立支援	遠藤慶子
9・10	生活支援技術(1)	尊厳を支える介護と自立支援	遠藤慶子
11・12	生活支援技術(2)	介護過程の展開	遠藤慶子
13・14	高齢者の健康と生活	加齢に伴う身体機能の変化と疾患 高齢者のヘルスプロモーション	白田千代子 遠藤慶子

15・16	高齢者の心理と精神特性	加齢に伴う心理 高齢者のパーソナリティと適応	遠藤慶子
17・18	高齢者と社会（日常生活）	高齢者の家族と友人 高齢期の社会関係と社会参加	遠藤慶子
19・20	認知症ケアの現状と課題	認知症ケアの概念と歴史	遠藤慶子
21・22	認知症の人と地域サポート	認知症の人が生きる世界と生活障害	遠藤慶子
23・24	介護予防(1)	介護予防の必要と対象者	白田千代子 遠藤慶子
25・26	介護予防(2)	介護予防の実際	白田千代子 遠藤慶子
27・28	介護福祉の倫理	医療行為と介護 医の倫理、食の倫理	遠藤慶子
29・30	まとめ	自立に向けた介護	遠藤慶子

評価方法

- ・提出レポート、期末の客観試験、論述試験で総括的評価を行う。
- ・出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。

参考文献

教科書：新・社会福祉士養成講座 13 高齢者に対する支援と介護保険制度 第2版 社会福祉士養成講座編集委員会編 中央法規

参考・介護基礎学 竹内孝仁著 医歯薬出版

留意事項

- ・事前に資料の配布、e-learning へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

担当教員の office hour

白田千代子 地域・福祉口腔保健衛生学分野 随時 hakuta.ohcw@tmd.ac.jp
 遠藤慶子 地域・福祉口腔保健衛生学分野 随時 k-endo.ohcw@tmd.ac.jp

科目名	児童・家庭福祉 I
ユニット名	児童・家庭福祉 I
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	3 学年前期・必修 1 単位・15 時間
科目責任者・ユニット責任者	遠藤慶子・遠藤慶子
主な授業場所	口腔保健学科 第3 講義室

学習目標

- ・現代社会における児童の成長・発達と生活実態について理解するとともに、現代社会における児童福祉の社会的背景、理念と意義について理解する。
- ・社会福祉士に必要な児童福祉の特質への理解を深める。

到達目標

- ・現代社会における児童の成長・発達と生活実態について説明できる。
- ・ライフサイクルにおける児童期の位置づけ・とらえ方を説明できる。
- ・近代・現代社会における子どもの権利および子どもを巡る問題について説明できる。
- ・現代社会における児童福祉の理念と意義について説明できる。
- ・児童福祉に関する法とサービス体系について説明できる。
- ・児童のための地域・住環境整備と相談援助活動について説明できる。
- ・近代・現代社会における国家・家族・児童の関連について説明できる。
- ・児童福祉の歴史、児童福祉の仕組み、問題発生の際の機序について説明できる。
- ・児童福祉サービスの種類やあり方について説明できる。
- ・少年非行や養護について説明できる。
- ・母子保健、保育政策など発達期の児童福祉について説明できる。
- ・子ども虐待の問題とその防止の取り組みについて概説できる。

授業計画

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1・2	オリエンテーション 現代社会と子ども家庭	児童・家庭福祉を学ぶにあたって 児童を取り巻く社会環境、子育てニーズ	雨宮由紀枝 遠藤慶子
3・4	児童・家庭福祉とは何か 子どもと家庭の権利保障	児童観、児童の権利に関する条約児童観、理念、意義	雨宮由紀枝

5・6	児童福祉の発展 児童福祉と法(1)	児童・家庭福祉の歴史 (日本、欧米) 児童・家庭福祉の法体系	雨宮由紀枝
7・8	児童福祉と法(2) 児童福祉と法(3)	関連法、実施体制 行財政、専門職、権利擁護	雨宮由紀枝
9・10	母子保健 障害・難病のある子ども と家族への支援	母子保健施策、母子保健法 障害・難病のある子どもと家族のニーズ、支 援制度	雨宮由紀枝
11・12	地域における子育てと 青少年育成保育	児童健全育成施策 保育制度、保育施策	雨宮由紀枝
13・14	子育て支援 ひとり親家庭の福祉	子育て支援施策 母子及び寡婦福祉法、自立支援	雨宮由紀枝
15	まとめ	振り返りと学習成果の確認	雨宮由紀枝

評価方法

- ・ 期末試験、授業への参加状況、課題レポート等により総合的に評価する。

参考図書等

- ・ 教科書：社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座 ⑮児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度 第4版』中央法規

担当教員の office hour

遠藤慶子 地域・福祉口腔保健衛生学分野 随時 k-endo.ohcw@tmd.ac.jp

担当教員（非常勤）

雨宮由紀枝 日本女子体育大学

科目名	障害児・者福祉 I
ユニット名	障害児・者福祉 I
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	3 学年前期・必修 1 単位・15 時間
科目責任者・ユニット責任者	遠藤慶子・遠藤慶子
主な授業場所	口腔保健学科 第3 講義室

学習目標

- ・ 障害福祉制度の変遷について学び、保健・医療・福祉・教育・労働の連携について理解する。
- ・ 障害者福祉の理念の変化を概観し、障害者自身の活躍に注目する中で「共に歩む」を考える。

到達目標

- ・ 障害者福祉制度の変遷について理解し、現代社会における障害者の実情・福祉課題を認識する。
- ・ 国際的な「障害」の概念の変遷を理解し、人権思想にもとづく「障害者観」を獲得する。
- ・ 障害者・その家族の生き方や社会的役割について学び、保健・医療・福祉などの専門職に共通する価値・倫理と関連づけながら具体的に説明できる。
- ・ ノーマライゼーション、リハビリテーション、インクルージョンなどの障害者福祉の理念の変遷を理解し、現代社会における障害者福祉の位置づけ・意義について説明できる。
- ・ 障害者観と優生思想の関連について学び、医療従事者としての倫理観・価値観を獲得する。
- ・ 障害児教育の変遷について学び、「共に学ぶ」「共に生きる」の意義を理解し、福祉教育や心のバリアフリーと社会のあり方について自分なりの考えを築く。
- ・ 現代の障害者福祉の法体系について学び、「障害者が地域で生きる」ことの意義、ユニバーサル社会の本質について説明できる。
- ・ 国連・障害者権利条約の特徴と意義について理解し、障害者差別とは何かを考え、「共生社会」を築くためのわが国の課題について考える。
- ・ 障害者権利条約批准に向けての障がい者制度改革推進会議の成果と障害者の果たした役割を理解し、障害者福祉におけるわが国の課題について説明できる。
- ・ 障害児・者福祉の学びを通して、医療者として「生命の尊厳」をどう考えるかについて、自分なりの価値観・倫理観を獲得する。

授業計画

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1	オリエンテーション、 障害者福祉の現状	わが国の障害者の生活実態、現代社 会における障害児・者福祉の課題	石渡和実 遠藤慶子
2	障害者福祉制度の変遷	障害者福祉制度の法体系の発展過程	石渡和実
3	「障害」概念の変遷	「障害」概念とわが国の障害者観の変遷	石渡和実
4	障害者福祉の理念 1	リハビリテーション理念の進展	石渡和実
5	「障害」概念の進展	国際的な ICIDH、ICF モデル、グループ討 議①	石渡和実
6	障害者福祉の理念 2	自立生活運動と当事者の活躍	石渡和実
7	障害者問題と優生思想	優生保護法と障害者観、グループ討議②	石渡和実
8	障害者福祉の理念 3	ノーマライゼーション理念の進展	石渡和実
9	障害児教育制度の変遷	特殊教育、特別支援教育、グループ討議③	石渡和実
10	障害者福祉の理念 4	インクルージョン理念と多様性の尊重、グ ループ討議④	石渡和実
11	障害者福祉の法体系	障害者基本法と障害者関連の法体系	石渡和実
12	障害者福祉制度の現状	障害者自立支援法 グループ討議⑤	石渡和実
13	国連・障害者権利条約	国連・障害者権利条約の特徴とわが国への 影響	石渡和実
14	障害者福祉制度の改革	障がい者制度改革推進会議と当事者の活躍、 グループ討議⑥	石渡和実
15	まとめ：障害者と「生命 の尊厳」	授業の振り返りと学習成果の確認	石渡和実

評価方法

- ・ 授業内レポートで重要な単元の学習成果を評価する。
- ・ グループディスカッション（事例検討など）の参加状況を評価に加味する。
- ・ 定期試験を実施し、総合的に評価する。

参考図書等

- ・ 随時、授業中に紹介する。

留意事項

事前に資料の配付、e-learning システム上へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

担当教員の office hour

遠藤慶子 地域・福祉口腔保健衛生学分野 随時 k-endo.ohcw@tmd.ac.jp

担当教員（非常勤）

石渡和実 東洋英和女学院大学大学院

科目名	地域福祉 I
ユニット名	地域福祉 I
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	3 学年前期・必修 1 単位・15 時間
科目責任者・ユニット責任者	遠藤慶子・遠藤慶子
主な授業場所	口腔保健学科 第3 講義室

学習目標

- ・地域福祉の基本的考え方、地域福祉に係る組織や専門職の役割について理解する。
- ・ネットワーキングをはじめとする地域福祉の推進方法について理解する。

到達目標

- ・地域福祉の基本的考え方（人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援、地域移行、社会的包摂等を含む）について説明できる。
- ・地域福祉の主体と対象について説明できる。
- ・地域福祉に係る組織、団体及び専門職の役割と実際について説明できる。
- ・地域福祉におけるネットワーキング（多職種・多機関との連携を含む）の意義と方法及びその実際について説明できる。
- ・地域福祉の推進方法（ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発、福祉ニーズの把握方法、地域トータルケアシステムの構築方法、サービスの評価方法を含む）について説明できる。

授業計画

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1	地域福祉の理念	自立支援、地域生活支援、地域移行	小嶋珠実 遠藤慶子
2	地域福祉の基本概念 1	地域コミュニティと住民、社会福祉法	小嶋珠実
3	地域福祉の基本概念 2	人権尊重、権利擁護、社会的包摂、	小嶋珠実
4	地域福祉の歴史的展開 1	地域福祉の源流 COS活動とセツルメント活動	小嶋珠実
5	地域福祉の歴史的展開 2	戦後日本の地域福祉	小嶋珠実
6	地域福祉の歴史的展開 3	地域コミュニティ視点の登場	小嶋珠実

7	地域福祉の主体と対象 1	地方分権、住民自治	小嶋珠実
8	地域福祉の主体と対象 2	福祉の多元化、市場化	小嶋珠実
9	地域福祉の問題とは何か	ビデオ「孤立する都市の高齢者」	小嶋珠実
10	地域福祉を支える組織と人々 1	行政組織の役割と実際、地方自治体	小嶋珠実
11	地域福祉を支える組織と人々 2	民間組織の役割と実際、社会福祉協議会、共同募金	小嶋珠実
12	地域福祉を支える組織と人々 3	民間組織の役割と実際、社会福祉法人、NPO・NGO、自治会	小嶋珠実
13	地域福祉を支える組織と人々 4	社会福祉専門職の役割と実際、社会福祉士、地域活動専門員、介護相談員	小嶋珠実
14	地域福祉を支える組織と人々 5	地域住民の役割と実際、民生委員、児童委員、ボランティア、自治会	小嶋珠実
15	まとめ		小嶋珠実

評価方法

- ・授業内レポートで重要な単元の学習成果を評価する。
- ・試験を実施し、総合的に評価する。

参考図書等

- ・教科書：「地域福祉の理論と方法 第2版（新・社会福祉士養成講座 第9巻）」社会福祉士養成講座編集委員会編 中央法規出版

参考

- ・「厚生指針 国民の福祉の動向 各年度版」 厚生統計協会
- ・「社会福祉小六法」（最新年度版）ミネルヴァ書房
- ・他随時授業中に紹介する。

留意事項

事前に資料の配付、e-learning システム上へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。また、学習する内容について各自で参考文献を読み、理解を深めること。

担当教員の office hour

遠藤慶子 地域・福祉口腔保健衛生学分野 随時 k-endo.ohcw@tmd.ac.jp

担当教員（非常勤）

小嶋珠実 ルーテル学院大学

科目名	相談援助の基盤と専門職Ⅱ
ユニット名	相談援助の基盤と専門職Ⅱ
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	3学年前期・必修1単位・15時間
科目責任者・ユニット責任者	遠藤慶子・遠藤慶子
主な授業場所	口腔保健学科 第3講義室

学習目標

・ソーシャルワークを展開するために、統合化されたソーシャルワークの共通基盤（価値・知識・技術等）について体系的に学ぶ。

到達目標

- ・相談援助の概念について理解する。
- ・相談援助の理念について理解する。
- ・相談援助の形成過程を説明できる。
- ・専門職倫理について理解する。

授業計画

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1	オリエンテーション	社会福祉士の役割と意義 現在社会と地域生活	小嶋珠実 遠藤慶子
2	相談援助の定義	ソーシャルワークの概念 ソーシャルワークの構成要素	小嶋珠実
3	相談援助の形成過程Ⅰ(1)	ソーシャルワークの源流	小嶋珠実
4	相談援助の形成過程Ⅰ(2)	ソーシャルワークの基礎確立期	小嶋珠実
5	相談援助の形成過程Ⅱ(1)	ソーシャルワークの発展期	小嶋珠実
6	相談援助の形成過程Ⅱ(2)	ソーシャルワークの展開期	小嶋珠実
7	相談援助の形成過程Ⅱ(3)	ソーシャルワークの統合化とジェネラリスト・ソーシャルワーク	小嶋珠実

8	相談援助の理念Ⅰ(1)	ソーシャルワーカーと価値 ソーシャルワーク実践と価値	小嶋珠実
9	相談援助の理念Ⅰ(2)	ソーシャルワーク実践と権利擁護	小嶋珠実
10	相談援助の理念Ⅱ(1)	クライアントの尊厳と自己決定	小嶋珠実
11	相談援助の理念Ⅱ(2)	ノーマライゼーションと社会的包摂	小嶋珠実
12	専門職倫理(1)	専門職倫理の概念	小嶋珠実
13	専門職倫理(2)	倫理綱領の意義と内容	小嶋珠実
14	倫理的ジレンマ	ソーシャルワーク実践における倫理的ジレンマ	小嶋珠実
15	まとめ		小嶋珠実 遠藤慶子

評価方法

- ・授業内レポートで重要な単元の学習成果を評価する。
- ・試験を実施し、総合的に評価する。

参考図書等

- ・教科書：「相談援助の基盤と専門職 第2版（新・社会福祉士養成講座 第6巻）」社会福祉士養成講座編集委員会編 中央法規出版

参考

- ・「厚生 の 指標 国民の福祉の動向 各年度版」 厚生統計協会
- ・「社会福祉小六法」（最新年度版）ミネルヴァ書房
- ・他随時授業中に紹介する。

留意事項

事前に資料の配付、e-learning システム上へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。また、学習する内容について各自で参考文献を読み、理解を深めること。

担当教員の office hour

遠藤慶子 地域・福祉口腔保健衛生学分野 随時 k-endo.ohcw@tmd.ac.jp

担当教員（非常勤）

小嶋珠実 ルーテル学院大学

科目名	相談援助演習 I
ユニット名	相談援助演習 I
授業形態	演習
開講時期・単位・時間数	3 学年後期・必修 1 単位・30 時間
科目責任者・ユニット責任者	遠藤慶子・遠藤慶子
主な授業場所	口腔保健学科 第3 講義室

学習目標

社会福祉における相談援助の知識と技術に関わる他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助の係る知識と技術について実践的に修得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を滋養する。

到達目標

- ・相談援助の特徴を説明することができる。
- ・相談援助の内容・方法・プロセスを説明することができる。
- ・相談援助に関する実践上の課題について、自ら意見を述べるすることができる。
- ・相談援助と口腔保健における実践の関連性について興味や関心を持ち、自分から調べ、考える態度をもつ。
- ・相談援助実習に向けた自分の興味や関心を持ったことと学習課題を説明することができる。

授業計画

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1・2	相談援助技術の基礎 1	見る	小畑万里 遠藤慶子
3・4	相談援助技術の基礎 2	聞く	小畑万里 遠藤慶子
5・6	相談援助技術の基礎 3	話す	小畑万里 遠藤慶子
7・8	相談援助技術の基礎 4	関係・プロセス	小畑万里 遠藤慶子
9・10	相談援助技術の基礎 5	情報収集と分析	小畑万里 遠藤慶子

11・12	相談援助技術の基礎 6	アセスメント	小畑万里 遠藤慶子
13・14	相談援助技術の基礎 7	支援計画	小畑万里 遠藤慶子
15・16	相談援助技術の基礎 8	評価	小畑万里 遠藤慶子
17-23	相談援助技術の実際 1	相談援助における個別援助技術による活用①	福喜多恭子 遠藤慶子
24-30	相談援助技術の実際 2	相談援助における個別援助技術による活用②	福喜多恭子 遠藤慶子

評価方法

- ・授業内レポートで重要な単元の学習効果を評価する。
- ・定期試験を実施し、総合的に評価する。

参考図書等

- ・授業中に配布する資料。
- ・参考書は授業時に紹介する。

留意事項

- ・事前に資料の配布、e-learning へのアップロード等があった場合は、予習して臨むこと。

担当教員の office hour

遠藤慶子 地域・福祉口腔保健衛生学分野 随時 k-endo.ohcw@tmd.ac.jp

担当教員（非常勤）

小畑万里 日本社会事業大学 通信教育科 社会福祉士養成課程

福喜多恭子 神奈川県視覚障害者福祉協会

科目名	卒業研究
ユニット名	卒業研究
授業形態	演習・講義
開講時期・単位・時間数	3 学年前後期・39 時間 } 必修・4 単位・180 時間 4 学年前後期・141 時間 } 単位認定（4 単位）は 4 学年終了時に行う
科目責任者・ユニット責任者	荒川真一・荒川真一
主な授業場所	口腔保健学科 第3 講義室

学習目標

各学生の知的興味、将来の方向性に沿ってテーマを選択し、計画・立案に基づいて研究を実施する。さらに結果を論文にまとめて十分考察することにより、研究への理解と意欲を培う。

到達目標

- ・自分の知的興味、将来の方向性に沿って研究テーマが設定できる。
- ・研究テーマに対応した論文の検索と科学的吟味を行い、これまでの知見が整理できる。
- ・EBM・EBHC の概念を説明できる。
- ・知見や問題点に基づいた研究の計画・立案ができる。
- ・実験・調査などの研究を実施できる。
- ・実験・調査などの結果を分析整理し、統計学的な解析ができる。
- ・結果に基づき、新たな問題点と課題を抽出、提起できる。

授業計画

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1・2	卒業研究オリエンテーション	卒業研究の概要、これまでの卒業研究の紹介、口腔保健学科指導教員の研究テーマ紹介、卒業研究テーマの考え方	荒川真一
3・4	研究のデザイン	Evidence-based Medicine (EBM), Evidence-based Health Care (EBHC) とは、論文の構成、文献の検索と引用、文献の科学的吟味	吉田雅幸 藍真澄 小笹由香

5・6	研究方法の立案、結果の整理	実験ノートのつけ方、調査アンケート作成上の注意、倫理上の問題、個人情報管理、結果の入力方法とエクセルの使い方	吉田雅幸 藍真澄 小笹由香
7-10	研究結果の分析処理	研究結果の分析方法、有意性の検定、統計ソフトの使い方の実際	吉田雅幸 藍真澄 神田英一郎
11-17	教員の研究紹介	教員の研究テーマ・これまで指導した卒業研究の概要・新たな卒業研究テーマの紹介	荒川真一 各教員
18-21	研究計画の仮決定、論文書式	研究テーマの仮決定、研究分野・指導教官の決定、研究計画書の作成方法、CD掲載概要版と本論文の書式について	荒川真一 各教員
21-26	研究分野とテーマの検討	指導教官との討論による研究計画・方法の検討、研究テーマに関連する文献検索と知見の整理、課題の設定、研究計画書の作成	荒川真一 各教員
27・28	研究計画書の作成	研究計画書の作成 倫理審査委員会と研究評価方法について	荒川真一 各教員
29-31	研究計画書の提出	研究計画書の再検討および提出	荒川真一 各教員
32-39	4年生 卒業研究成果報告会	4年生 卒業研究成果報告会への参加	荒川真一 各教員

評価方法

- ・研究計画発表会での発表、および研究計画書により総括的中間評価を行う。
- ・単位認定（4単位）は4学年終了時に行う。
- ・単位認定は、3年次から各課題（論文抄録、研究計画書、中間発表会プレゼンテーション用ファイル、成果報告会プレゼンテーション用ファイル、卒業研究論文概要版）のWebClassへの期限内提出、本論文、研究進行表の提出により行う。

参考図書等

- ・「保健・医療のための研究法入門」、朝倉隆司監訳、協同医書出版社
- ・「歯科衛生研究の進め方、論文の書き方」、金澤紀子、武井典子、合場千佳子、岩久正明 編、医歯薬出版
- ・「医薬研究者の視点からみた道具としての統計学」、奥田千恵子、金芳堂
- ・「SPSSによる医学・歯学・薬学のための統計解析」第2版、石村貞夫他著、東京図書

留意事項

- ・常に指導教官、副指導教官と密接な連絡をとり、助言を得ながら研究を進め、研究進行表の各月欄に認印をもらうこと。

担当教員の office hour

荒川真一 生涯口腔保健衛生学分野 随時 s-arakawa.ltoh@tmd.ac.jp

担当教員

吉田雅幸 生命倫理研究センター

藍真澄 生命倫理研究センター

小笹由香 生命倫理研究センター

担当教員（非常勤）

神田英一郎

科目名	口腔保健と国際協力
ユニット名	口腔保健と国際協力
授業形態	講義・実習
開講時期・単位・時間数	3 学年前期・選択 2 単位・30 時間
科目責任者・ユニット責任者	白田千代子・白田千代子
主な授業場所	口腔保健学科 第3セミナー室

学習目標

国際保健医療福祉の現状を知り、国際的な視点から、歯科衛生士・社会福祉士として活躍できる人材になるための、基礎を学習する。

到達目標

- ・国際歯科保健医療福祉とは何かを説明する。
- ・それぞれの国の歯科保健医療福祉を説明する。
- ・国際保健医療福祉で、活躍するために必要な基礎的な事項を説明する。
- ・海外で活動できること、関心のあることをまとめ、説明する。
- ・海外での保健医療福祉活動の目標を立て、計画、実施できるよう説明する。

授業計画

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1・2	国際歯科保健医療福祉 I	国際歯科保健福祉の状況	白田千代子
3・4	国際歯科保健医療福祉 II	先進国・発展途上国の歯科事情	白田千代子
5・6	国際歯科保健医療福祉 III	多職種との活動との連携	白田千代子
7・8	国際歯科保健医療福祉 IV	歯科衛生士としての活動	白田千代子
9・10	国際歯科保健医療福祉 V	ヘルスプロモーションの展開	白田千代子
11-15	国際歯科保健医療福祉 の実践Ⅰ	計画立案（グループ活動）	白田千代子
16-20	国際歯科保健医療福祉 の実践Ⅱ	実践（グループ活動）	白田千代子
21-25	国際歯科保健医療福祉 の実践Ⅲ	実践（グループ活動）	白田千代子

評価方法

論述試験、提出レポートで総括的評価を行う。講義、グループ討論、発表の態度等を総括的評価する。授業態度等も総括的評価に加える。

参考図書等

- ・世界子供白書 2012, ユニセフ 2012
- ・The World Health Report 2012 , WHO, 2012
- ・国際協力NGOセンター, 国際協力NGOダイレクトリー2008
- ・国際歯科保健医療学, 中村修一編, 医師薬出版, 2003
- ・国際保健学講義, 山本太郎, 学会出版センター, 初版, 1999
- ・ヘルスプロモーション, ローレンス, W, グリーン, 医が書院, 1997

留意事項

他の教科で学習した内容を確認した上で、洞察力と実践力を養い、海外での保健医療福祉活動に積極的に参加できるよう努力する。

担当教員の office hour

白田千代子 地域・福祉口腔保健衛生学分野 随時 hakuta.ohcw @tmd.ac.jp

科目名	児童・家庭福祉Ⅱ
ユニット名	児童・家庭福祉Ⅱ
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	3学年前期・選択1単位・15時間
科目責任者・ユニット責任者	遠藤慶子・遠藤慶子
主な授業場所	口腔保健学科 第3講義室

学習目標

- ・現代社会における児童の成長・発達と生活実態について理解するとともに、現代社会における児童福祉の社会的背景、理念と意義について理解する。
- ・社会福祉士に必要な児童福祉の特質への理解を深める。

到達目標

- ・現代社会における児童の成長・発達と生活実態について説明できる。
- ・ライフサイクルにおける児童期の位置づけ・とらえ方を説明できる。
- ・近代・現代社会における子どもの権利および子どもを巡る問題について説明できる。
- ・現代社会における児童福祉の理念と意義について説明できる。
- ・児童福祉に関する法とサービス体系について説明できる。
- ・児童のための地域・住環境整備と相談援助活動について説明できる。
- ・近代・現代社会における国家・家族・児童の関連について説明できる。
- ・児童福祉の歴史、児童福祉の仕組み、問題発生の際の機序について説明できる。
- ・児童福祉サービスの種類やあり方について説明できる。
- ・少年非行や養護について説明できる。
- ・母子保健、保育政策など発達期の児童福祉について説明できる。
- ・子ども虐待の問題とその防止の取り組みについて概説できる。

授業計画

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1	障害児の福祉(1)	障害について	雨宮由紀枝
2・3	障害児の福祉(2) (3)	療育、福祉施策 特別支援教育、自立支援	雨宮由紀枝
4・5	社会的養護(1) (2)	近年の社会的養護の考え方 機関、施設、里親制度	雨宮由紀枝

6・7	非行児童・情緒障害児への支援(1)(2)	非行・情緒障害の理解、動向 非行児童・情緒障害児とその家族への支援制度	雨宮由紀枝
8・9	児童虐待対策(1)(2)	社会的背景、実態 被虐待児保護、児童虐待防止法	雨宮由紀枝
10・11	現代の課題(1)(2)	ドメスティック・バイオレンスへの対応、DV 防止法 生殖補助医療	雨宮由紀枝
12・13	子ども家庭への相談援助活動(1)(2)	相談援助の方法 施設ケアと児童・家庭福祉援助活動	雨宮由紀枝
14・15	地域活動とネットワーク まとめ	地域援助活動、児童・家庭福祉とネットワーク	雨宮由紀枝

評価方法

- ・期末試験、授業への参加状況、課題レポート等により総合的に評価する。

参考図書等

- ・教科書：社会福祉士養成講座編集委員会編「新・社会福祉士養成講座 ⑮児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度 第4版」中央法規

担当教員の office hour

遠藤慶子 地域・福祉口腔保健衛生学分野 随時 k-endo.ohcw@tmd.ac.jp

担当教員（非常勤）

雨宮由紀枝 日本女子体育大学

科目名	障害児・者福祉Ⅱ
ユニット名	障害児・者福祉Ⅱ
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	3学年前期・選択1単位・15時間
科目責任者・ユニット責任者	遠藤慶子・遠藤慶子
主な授業場所	口腔保健学科 第3講義室

学習目標

- ・障害種別の特性について理解し、具体的な支援の在り方を学び、自分なりの障害者観・関わり方を確立するよう努める。
- ・現代社会における障害児・者福祉の課題について、医療専門職として果たせる役割を考える。

到達目標

- ・身体障害、知的障害、精神障害、発達障害、高次脳機能障害など、具体的な障害種別の特性について理解し、支援にあたり求められる視点・姿勢を獲得する。
- ・知的障害と出生前診断、発達障害と児童虐待、精神障害の長期入院と隔離施策、重症心身障害児と医療的ケア・生命の尊厳など、障害児・者福祉と医療的課題に着目し、医療専門職として自分なりの視点や姿勢の確立をめざす。
- ・障害者雇用施策の変遷と就労支援の現状について学ぶなかで、「働くこと」の意義、ILOが提唱する「ディーセントワーク（decent work）（人間らしい尊厳をもった働き方）」について説明できる。
- ・エンパワメントの視点に立った支援について学び、障害児・者が地域で暮らすことの意義、まちづくりについて考え、自分なりの支援の在り方・関わり方を修得することをめざす。
- ・当事者主体の視点から、自己決定の尊重、意思決定支援などについて学び、自分なりに実践する具体的な方法の修得をめざす。
- ・障害児・者福祉の学びを通して、医療者として福祉的な支援を必要とする人に関わる際の価値観・倫理観を獲得する。

授業計画

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1	オリエンテーション、障害児・者福祉の現状	わが国の障害児・者福祉の現状、現代社会における障害児・者福祉の課題	石渡和実 遠藤慶子
2	障害別の特性と支援	3障害の分類と「障害」の定義	石渡和実

3	身体障害の種類と特性	身体障害者福祉法による定義と具体的な特性	石渡和実
4	知的障害の種類と特性	知的障害の定義と種類、具体的な特性	石渡和実
5	障害と出生前診断	出生前診断の変遷と「障害者の生命」、グループ討議①	石渡和実
6	精神障害の種類と特性	精神保健福祉法による定義と具体的な特性	石渡和実
7	精神障害と「隔離施策」	精神障害者福祉の変遷と「隔離施策」の関係性、グループ討議②	石渡和実
8	発達障害の種類と特性	発達障害者支援法と自閉症、学習障害、注意欠陥多動性障害などの特性	石渡和実
9	発達障害児と児童虐待	発達障害児と虐待の関係、人格形成への影響、グループ討議③	石渡和実
10	高次脳機能障害と特性	高次脳機能障害の種類と特性、支援における課題	石渡和実
11	障害者雇用促進法と就労支援	雇用施策の変遷と就労支援におけるわが国の課題 グループ討議④	石渡和実
12	エンパワメントと地域生活	障害者の地域生活とエンパワメントの意義・社会変革、グループ討議⑤	石渡和実
13	重症心身障害児・者と「生命の尊厳」	重症心身障害児・者の概念と支援の実態、「生命の尊厳」を考える、グループ討議⑥	石渡和実
14	当事者主体と自己決定の尊重・意思決定支援	当事者主体の地域生活支援、自己決定の尊重と意思決定支援	石渡和実
15	まとめ：障害児・者福祉と現代社会	授業の振り返りと学習成果の確認	石渡和実

評価方法

- ・授業内レポートで重要な単元の学習成果を評価する。
- ・グループディスカッション（事例検討など）の参加状況を評価に加味する。
- ・定期試験を実施し、総合的に評価する。

参考図書等

- ・随時、授業中に紹介する。

留意事項

事前に資料の配付、e-learning システム上へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

担当教員の office hour

遠藤慶子 地域・福祉口腔保健衛生学分野 随時 k-endo.ohcw@tmd.ac.jp

担当教員（非常勤）

石渡和実 東洋英和女学院大学大学院

科目名	地域福祉Ⅱ
ユニット名	地域福祉Ⅱ
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	3 学年前期・選択 1 単位・15 時間
科目責任者・ユニット責任者	遠藤慶子・遠藤慶子
主な授業場所	口腔保健学科 第3 講義室

学習目標

- ・地域福祉の基本的考え方、地域福祉に係る組織や専門職の役割について理解する。
- ・ネットワーキングをはじめとする地域福祉の推進方法について理解する。

到達目標

- ・地域福祉の基本的考え方（人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援、地域移行、社会的包摂等を含む）について具体的に説明できる。
- ・地域福祉の主体と対象について具体的に説明できる。
- ・地域福祉に係る組織、団体及び専門職の役割と実際について具体的に説明できる。
- ・地域福祉におけるネットワーキング（多職種・多機関との連携を含む）の意義と方法及びその実際について具体的に説明できる。
- ・地域福祉の推進方法（ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発、福祉ニーズの把握方法、地域トータルケアシステムの構築方法、サービスの評価方法を含む）について具体的に説明できる。

授業計画

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1	地域福祉の推進方法 1	社会福祉法	小嶋珠実
2	地域福祉の推進方法 2	コミュニティワーク技法	小嶋珠実
3	地域福祉の推進方法 3	ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発	小嶋珠実
4	地域福祉の財源	地方自治体の地域福祉財源、民間財源	小嶋珠実
5	地域福祉の実際 1	社会福祉施設の地域拠点	小嶋珠実
6	地域福祉の実際 2	福祉教育とボランティア活動	小嶋珠実
7	地域福祉計画策定 1	地域福祉計画策定の流れ	小嶋珠実

8	地域福祉計画策定 2	実践「住民参加による福祉のまちづくり」	小嶋珠実
9	地域福祉計画策定 3	実践「住民参加による福祉のまちづくり」	小嶋珠実
10	地域福祉計画策定 4	実践「住民参加による福祉のまちづくり」	小嶋珠実
11	地域福祉計画策定 5	実践「住民参加による福祉のまちづくり」	小嶋珠実
12	地域福祉の実際 3	地域福祉計画における住民主体形成	小嶋珠実
13	地域福祉の実際 4	福祉サービスの評価方法、第三者評価事業	小嶋珠実
14	地域福祉の実際 5	福祉の情報提供と苦情解決システム	小嶋珠実
15	まとめ	ミニテスト	小嶋珠実

評価方法

- ・授業内レポートで重要な単元の学習成果を評価する。
- ・試験を実施し、総合的に評価する。

参考図書等

- ・教科書：「地域福祉の理論と方法 第2版（新・社会福祉士養成講座 第9巻）」社会福祉士養成講座編集委員会編 中央法規出版
- ・「厚生指針 国民の福祉の動向 各年度版」 厚生統計協会
- ・「社会福祉小六法」（最新年度版）ミネルヴァ書房
- ・その他、随時授業中に紹介する。

留意事項

事前に資料の配付、e-learning システム上へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。また、学習する内容について各自で参考文献を読み、理解を深めること。

担当教員の office hour

遠藤慶子 地域・福祉口腔保健衛生学分野 随時 k-endo.ohcw@tmd.ac.jp

担当教員（非常勤）

小嶋珠実 ルーテル学院大学

科目名	相談援助の基盤と専門職Ⅲ
ユニット名	相談援助の基盤と専門職Ⅲ
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	3 学年夏季集中・後期・選択2 単位・30 時間
科目責任者・ユニット責任者	遠藤慶子・遠藤慶子
主な授業場所	口腔保健学科 第3 講義室

学習目標

- ・福祉専門職の役割と意義、実践活動の状況の概観を通して、社会福祉士の役割と意義、専門性について理解する。

到達目標

- ・福祉専門職の種類とそれぞれの業務等の概要を理解する。
- ・社会福祉士の役割と意義、実践活動分野を理解する。
- ・社会福祉士と精神保健福祉士の固有性と共通性、医療ソーシャルワーカーにおける両資格のあり方について理解する。

授業計画

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1	相談援助に関わる専門職	相談援助に関わる専門職の概念と範囲	後山恵理子 遠藤慶子
2	専門職の機能(1)	予防機能	後山恵理子
3	専門職の機能(2)	新しいニーズへの対応機能	後山恵理子
4	専門職の機能(3)	総合的支援機能	後山恵理子
5	専門職の機能(4)	権利擁護機能	後山恵理子
6	専門職の機能(5)	社会資源開発機能	後山恵理子
7	福祉専門職の歴史	福祉専門職とは	後山恵理子
8	緒分野の福祉専門職	社会福祉主事任用資格	後山恵理子
9	社会福祉士(1)	社会福祉士の役割と意義(根拠法と定義)	後山恵理子

10	社会福祉士(2)	社会福祉士の法制度見直しとその背景 新養成課程の概要	後山恵理子
11	社会福祉士(3)	社会福祉士の実践分野(地域包括支援センター など)	後山恵理子
12	社会福祉士(4)	社会福祉士の職能団体と現任教育 社会福祉士の専門性	後山恵理子
13	精神保健福祉士(1)	精神保健福祉士の役割と意義(根拠法と定義)	後山恵理子
14	精神保健福祉士(2)	精神保健福祉士の実践分野と職能団体など	後山恵理子
15	介護福祉士(1)	介護福祉士の役割と意義(根拠法と定義)	後山恵理子
16	介護福祉士(2)	介護福祉士の実践分野と職能団体など	後山恵理子
17	介護福祉士(3)	介護福祉士とホームヘルパーの資格と業務	後山恵理子
18	医療ソーシャルワーカー(1)	医療ソーシャルワーカーの歴史と業務	後山恵理子
19	医療ソーシャルワーカー(2)	医療ソーシャルワーカーと社会福祉士・精神保健福祉士資格	後山恵理子
20	介護支援専門員	介護支援専門員の資格と業務	後山恵理子
21	保育士	保育士の役割と意義 その他の専門職の資格と役割	後山恵理子
22	その他の専門職の資格と業務	弁護士・司法書士等	後山恵理子
23	総合的かつ包括的な相談援助(1)	動向とその背景	後山恵理子
24	総合的かつ包括的な相談援助(2)	地域を基盤としたソーシャルワーク①	後山恵理子
25	総合的かつ包括的な相談援助(3)	地域を基盤としたソーシャルワーク②	後山恵理子
26	総合的かつ包括的な相談援助(4)	ジェネラリスト・ソーシャルワークの意義と基本的視点	後山恵理子
27	総合的かつ包括的な相談援助(5)	ジェネラリスト・ソーシャルワークの特質	後山恵理子
28	総合的かつ包括的な相談援助(6)	事例と解説	後山恵理子

29	総合的かつ包括的な相談援助(7)	事例と解説	後山恵理子
30	まとめ		後山恵理子

評価方法

- ・授業内レポートで重要な単元の学習成果を評価する。
- ・試験を実施し、総合的に評価する。

参考図書等

- ・教科書：「相談援助の基盤と専門職 第2版（新・社会福祉士養成講座 第6巻）」社会福祉士養成講座編集委員会編 中央法規出版
- ・その他随時、授業中に紹介する。

留意事項

事前に資料の配付、e-learning システム上へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。また、学習する内容について各自で参考文献を読み、理解を深めること。

担当教員の office hour

遠藤慶子 地域・福祉口腔保健衛生学分野 随時 k-endo.ohcw@tmd.ac.jp

担当教員（非常勤）

後山恵理子 後山社会福祉士事務所

科目名	権利擁護
ユニット名	権利擁護
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	3 学年前期・選択 1 単位・15 時間
科目責任者・ユニット責任者	遠藤慶子・遠藤慶子
主な授業場所	口腔保健学科 第3 講義室

学習目標

- ・相談援助活動に必要とされている法律の知識の概要を学ぶ。権利擁護に関する基本的な考え方、成年後見制度をはじめとする権利擁護の仕組みをその実際について学ぶ。

到達目標

- ・相談援助にかかわる日本国憲法、行政法、民法の基本的理解ができる。
- ・成年後見及び関係する支援事業の概要が理解できる。
- ・権利擁護に関わる組織・団体・専門職の役割が理解できる。
- ・成年後見活動、権利擁護活動の実際が理解できる。

授業計画

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1	相談援助の活動と法①	相談援助と法、権利擁護との関わりの理解	國見真理子 遠藤慶子
2	相談援助の活動と法②	日本国憲法の基本的理解	國見真理子
3	相談援助の活動と法③	行政法の基本的理解	國見真理子
4	相談援助の活動と法④	民法の基本的理解	國見真理子
5	成年後見制度の概要の理解(1)	法定後見制度	國見真理子
6	成年後見制度の概要の理解(2)	任意後見制度、成年後見制度の動向	國見真理子
7	日常生活自立支援事業	日常生活自立支援事業の概要 成年後見制度との連携	國見真理子
8	成年後見制度利用支援事業	成年後見制度利用支援事業の概要 その他の財政支援の活用	國見真理子

9	権利擁護にかかわる組織・団体	家庭裁判所、法務局 市町村、社会福祉協議会、児童相談所	國見真理子
10	権利擁護にかかわる専門職の役割	弁護士、司法書士、公証人、医師 社会福祉士の活動の実際	國見真理子
11	成年後見活動の実際①	認知症の人への支援の実際	國見真理子
12	成年後見活動の実際②	知的・精神障害者への支援の実際	國見真理子
13	権利擁護活動の実際①	高齢者虐待対応	國見真理子
14	権利擁護活動の実際②	ホームレス支援	國見真理子
15	まとめ		國見真理子

評価方法

- ・授業内レポートで重要な単元の学習成果を評価する。
- ・試験を実施し、総合的に評価する。

参考図書等

- ・教科書：「権利擁護と成年後見制度 第3版（新・社会福祉士養成講座 第19巻）」社会福祉士養成講座編集委員会編 中央法規出版
- ・「厚生指針 国民の福祉の動向 各年度版」 厚生統計協会
- ・「社会福祉小六法」（最新年度版）ミネルヴァ書房
- ・他随時授業中に紹介する。

留意事項

事前に資料の配付、e-learning システム上へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。また、学習する内容について各自で参考文献を読み、理解を深めること。

担当教員の office hour

遠藤慶子 地域・福祉口腔保健衛生学分野 随時 k-endo.ohcw@tmd.ac.jp

担当教員（非常勤）

國見真理子 田園調布学園大学

科目名	社会福祉行政
ユニット名	社会福祉行政
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	3 学年前期・選択 1 単位・15 時間
科目責任者・ユニット責任者	遠藤慶子・遠藤慶子
主な授業場所	口腔保健学科 第3 講義室

学習目標

- ・福祉の関わる社会福祉制度は、法律によってその大枠が規定されている。その運用の実際は諸制度の運営に関わる行財政のあり方によって規定されている。その仕組みを学ぶ。

到達目標

- ・福祉の行財政の実施体制（国・都道府県・市区町村の役割、国と地方の関係、財源、組織及び団体、専門職の役割を含む）について説明できる。
- ・福祉行財政の実際について説明できる。

授業計画

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1	オリエンテーション	授業の説明、学習内容の確認、重要事項の説明	佐藤信人 遠藤慶子
2	福祉行政の実施体制 1	わが国における社会福祉の定義の変遷	佐藤信人
3	福祉行政の実施体制 2	福祉の法制度の展開	佐藤信人
4	福祉行政の実施体制 3	行政の骨格	佐藤信人
5	福祉行政の実施体制 4	社会福祉と法制度	佐藤信人
6	福祉行政の実施体制 5	福祉行政の組織	佐藤信人
7	福祉行政の組織 1	社会福祉基礎構造	佐藤信人
8	福祉行政の組織 2	社会福祉基礎構造改革	佐藤信人
9	福祉行政の組織 3	相談過程	佐藤信人
10	福祉行政の団体 1	相談体制	佐藤信人

11	福祉行政の団体 2	専門緒機関①	佐藤信人
12	福祉行政の団体 3	専門緒機関②	佐藤信人
13	福祉行政の団体 4	地域相談システム	佐藤信人
14	福祉行政の専門職の役割	専門職	佐藤信人
15	まとめ	授業の振り返りと学習成果の確認	佐藤信人

評価方法

- ・授業内レポートで重要な単元の学習成果を評価する。
- ・グループディスカッション（事例検討など）の参加状況を評価に加味する。
- ・定期試験を実施し、総合的に評価する。

参考図書等

- ・教科書：「福祉行財政と福祉計画 第3版（新・社会福祉士養成講座 第10巻）」社会福祉士養成講座編集委員会編 中央法規出版

留意事項

事前に資料の配付、e-learning システム上へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。また、講義における質疑応答などには主体的に参加し、学ぶ意欲を持って授業に参加することを望む。

担当教員の office hour

遠藤慶子 地域・福祉口腔保健衛生学分野 随時 k-endo.ohcw@tmd.ac.jp

担当教員（非常勤）

佐藤信人 認知症介護研究研修東京センター

科目名	ソーシャルワークⅡ
ユニット名	ソーシャルワークⅡ
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	3学年前後期・選択4単位・60時間
科目責任者・ユニット責任者	遠藤慶子・遠藤慶子
主な授業場所	口腔保健学科 第3講義室

学習目標

- ・相談援助の理論および相談援助の知識・技術について理解する。

到達目標

- ・相談援助における人と環境との相互作用に関する理論について理解する。
- ・相談援助の様々な実践モデルについて理解する。
- ・相談援助の過程とそれにかかわる知識・技術について理解する。
- ・相談援助の記録方法について学ぶ。

授業計画

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1-3	ソーシャルワーカーとは？	相談援助の理論と方法とは・・・ 対人援助職とは・・・	小畑万里 遠藤慶子
4-6	利用者と支援者	人（患者、高齢者、障がい者）を理解する 人は一生涯、学習を続ける動物である	小畑万里 遠藤慶子
7-9	環境について I	人間の発達段階と環境システム <地域・家族>	小畑万里 遠藤慶子
10-12	環境について II	環境の体系図とホメオタシス <健康への影響図・口腔環境>	小畑万里 遠藤慶子
13-15	相談援助の導入期	導入期の意義と定義 動機づけのレベルと導入期の課題	小畑万里 遠藤慶子
16-18	アセスメント (事前評価)	アセスメントのためのツール（道具） アセスメントにおけるニーズの定義	小畑万里 遠藤慶子

19-21	支援計画の作成と実施	支援計画作成の枠組みと展開方法 支援計画に基づく援助の実施	小畑万里 遠藤慶子
22-24	評価・終結	評価の意義と定義、方法 終結における感情の取り扱いの重要性	小畑万里 遠藤慶子
25-27	相談援助の方法 I	ケースマネジメント ケアマネジメント	小畑万里 遠藤慶子
28-30	相談援助の方法 II	グループ支援 家族支援	小畑万里 遠藤慶子
31-33	相談援助の方法 III	地域支援（アウトリーチ）	小畑万里 遠藤慶子
34-37	相談援助の方法 IV	スーパービジョン	小畑万里 遠藤慶子
38-41	相談援助の方法 V	相談援助における社会資源の位置づけ・活用・調整・開発	小畑万里 遠藤慶子
42-43	相談援助の方法 VI	ネットワーキング（相談援助における多職種・多機関との連携を含む）	小畑万里 遠藤慶子
44-45	相談援助の方法 VII	コンサルテーション	小畑万里 遠藤慶子
46-47	相談援助の方法 VIII	ソーシャルアクション	小畑万里 遠藤慶子
48-49	相談援助の方法 IX	ICT（Information and Communication Technology）と個人情報	小畑万里 遠藤慶子
50-51	相談援助の記録 I	記録の意義と定義	小畑万里 遠藤慶子
52-53	相談援助の記録 II	記録の方法	小畑万里 遠藤慶子
54-55	相談援助の記録 III	記録の実際 どのように記録されるべきか	小畑万里 遠藤慶子
56-57	相談援助の記録 IV	記録におけるマッピング 記録と専門職倫理及び個人情報保護	小畑万里 遠藤慶子
58-60	まとめ	記録の ICT 化	小畑万里 遠藤慶子

評価方法

- ・授業内レポートで重要な単元の学習成果を評価する。
- ・実習態度、グループディスカッションの参加状況を評価に加味する。

教科書

- ・MINERVA 社会福祉養成テキストブック ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ 岩間伸之他
- ・MINERVA 社会福祉養成テキストブック ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ 岩間伸之他
- ・MINERVA 社会福祉養成テキストブック 相談援助の基盤と専門職 大橋謙策他

参考書:「地域・施設で死を見取るとき」明石書店 小畑万里

担当教員の office hour

遠藤慶子 地域・福祉口腔保健衛生学分野 随時 k-endo.ohcw@tmd.ac.jp

担当教員 (非常勤)

小畑万里 日本社会事業大学通信教育科 社会福祉士養成課程

科目名	相談援助実習指導
ユニット名	相談援助実習指導
授業の形態	実習
開講時期・単位・時間数	3 学年後期・選択 1 単位・45 時間 4 学年前後期・選択 1 単位・45 時間 } 2 単位 (90 時間) 単位認定 (2 単位) は 4 学年終了時に行う
科目責任者・ユニット責任者	遠藤慶子・遠藤慶子
主な授業場所	口腔保健学科 第3講義室

学習目標

- ・社会福祉における相談援助実習の意義について理解する。
- ・授業で学んだ専門知識と相談援助の具体的な実践を結びつけるとともに、実習後は実習体験を意識化し、体系立てていくことをめざす。

到達目標

- ・社会福祉における相談援助実習の意義を事前に理解し、実習後は経験知として説明できる。
- ・相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ实际的に体験し、経験知として説明できる。
- ・社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得し、意識化できる。
- ・具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化・理論化し、体系立てて整理できる。

授業計画

3 学年後期・選択・45 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1	オリエンテーション	社会福祉実習施設の説明、社会福祉実習の意義・目的、実習先の決定、個人票作成要領の説明	遠藤慶子
2	社会福祉施設・機関の把握	社会福祉施設・機関の概要、社会福祉相談援助実習における実習施設・機関の位置づけなど	遠藤慶子
3-8	実習計画の検討(1)	実習計画に対する教員の個別指導	遠藤慶子
9-17	実習計画の検討(2)	実習計画に対する教員の個別指導	遠藤慶子

18-25	実習計画の検討(3)	実習計画に対する教員の個別指導	遠藤慶子
26-32	実習計画の検討(4)	実習計画に対する教員の個別指導	遠藤慶子
33-45	まとめ	報告会と実習の振り返り	遠藤慶子

評価方法

事前・事後学習の成果による総合的評価を行う。(4年後期)

参考図書等

随時、実習関連資料を配付する。

担当教員の office hour

遠藤慶子 地域・福祉口腔保健衛生学分野 随時 k-endo.ohcw@tmd.ac.jp

科目名	相談援助実習
ユニット名	相談援助実習
授業の形態	実習
開講時期・単位・時間数	3 学年後期（春季集中）・選択 } 4 学年（夏季集中）・選択 } 4 単位 ※実習日数（時間）は 24 日間（180 時間）・16 日間（120 時間）・ 8 日間（60 時間）以上のいずれか。 単位認定（4 単位）は、4 年次の実習期間終了後に行う
科目責任者・ユニット責任者	遠藤慶子・遠藤慶子
主な授業場所	社会福祉施設・機関

学習目標

- ・社会福祉士として求められる資質や倫理、相談援助に係る知識と技術について、具体的かつ実際に理解し、支援に必要な技術を体得する。

到達目標

- ・社会福祉分野における相談援助実習を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に経験し、実践的な技術等を経験知として整理できる。
- ・社会福祉士として求められる資質、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を体験的に把握できる。
- ・関連分野の専門職との連携のあり方や具体的内容を把握し、事後学習で整理できる。

授業計画 3 学年後期（春季集中）・選択・16 日間（120 時間）もしくは 8 日間（60 時間）以上
実習日程等については、実習受け入れ先と相談の上、決定する。

評価方法

実習計画、実習記録ノート、実習報告書および実習指導者評価表により、総括的評価を行う。

担当教員の office hour

遠藤慶子 地域・福祉口腔保健衛生学分野 随時 k-endo.ohcw@tmd.ac.jp
大塚紘未 口腔疾患予防学分野 随時 hiromi.pvoh@tmd.ac.jp

編入3学年 履修ユニット

科目名	口腔保健衛生基礎科学実習
ユニット名	口腔保健衛生基礎科学実習
授業形態	実習
開講時期・単位・時間数	編入3学年前・後期・必修1単位・45時間
科目責任者・ユニット責任者	坂本裕次郎・坂本裕次郎
主な授業場所	口腔保健学科基礎科学実習室、歯学部基礎実習室

学習目標

入学前後に人体の構造と機能及び疾病、歯・口腔の構造と機能、疾病の成り立ちと回復過程の促進、生体材料学などの講義で学習した内容について、実習を通して理解を深める。

到達目標

- ・人体の主要器官の組織標本を観察して特徴を説明する。
- ・組織標本の切片作製と染色を行い、光学顕微鏡観察の意義について説明する。
- ・う蝕および歯周病のリスクおよびその予防方法について説明する。
- ・口臭の測定や口腔内状況を観察し、口臭の発生や予防について説明する。
- ・尿の比重測定および一般検査を行い、尿から得られる生体の情報について説明する。
- ・味覚および体性感覚の感覚検査を行い、感覚のしくみについて説明する。
- ・歯科で用いられる生体材料の基本的な操作法を説明する。
- ・歯科で用いられる代表的な薬物の作用を観察し、薬物の特性を説明する。
- ・細菌の分離培養とその細菌の鑑別を行う。

授業計画

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1-3	解剖組織学実習1	組織標本作製（組織切片の作製）と顕微鏡観察	坂本裕次郎
4-7	解剖組織学実習2	組織標本作製（組織切片の染色）と顕微鏡観察	坂本裕次郎
8-10	リスクテスト、口臭測定と予防	う蝕や歯周病のリスクテスト、口臭の測定、口臭予防製品の効果	品田佳世子
11-14	う蝕の発生と予防	飲料の糖度測定、pH測定、フッ化物や再石灰化促進物質の予防・再石灰化効果	品田佳世子
15-17	生理学実習1	尿の生理学（尿比重測定・一般尿検査）	小野寺光江
18-21	生理学実習2	感覚機能検査（皮膚感覚の測定、味覚閾値測定）	杉本久美子

22-24	歯科材料学実習 1	印象採得と模型の観察、歯科鑄造の実際	高橋英和
25-27	歯科材料学実習 2	歯科用セメント、常温重合型レジンとコンポジットレジンの硬化反応と寸法変化	高橋英和
28-30	薬理学実習 1	全身麻酔薬の作用	大谷啓一 青木和広 田村幸彦
31-33	薬理学実習 2	硬組織の薬理	大谷啓一 青木和広 田村幸彦
34-36	薬理学実習 3	鎮痛薬の薬理、局所麻酔薬の作用	大谷啓一 青木和広 田村幸彦
37-39	細菌学実習 1	細菌の培養と観察 1	品田佳代子 荒川真一
40-42	細菌学実習 2	細菌の培養と観察 2	品田佳代子 荒川真一
43-45	細菌学実習 3	細菌の培養と観察 3	品田佳代子 荒川真一

評価方法

- ・出席状況、実習態度、提出レポート等で総合的評価を行う。
- ・各実習項目の実習状況を総合して評価するが、原則としてそれぞれに合格しなくてはならない。
- ・実習項目ごとに評価するので、原則としてそれぞれに出席を満たさなくてはならない。

参考図書等

e-learning システム上にアップロード、または授業の際に印刷物を配付する。

留意事項

- ・編入生の時間割の都合によって2年生と合同で実施できる場合と別の時間に行う場合があるので、実際の実施項目と実習の日時は担当教員と相談して決める。
- ・事前に、配付される実習書等を読み、関連知識を予習しておくこと。
- ・実習室では、必ず白衣とネームプレートを着用すること。

担当教員の office hour

坂本裕次郎	口腔保健衛生基礎学分野	随時	y.sakamoto.ombi@tmd.ac.jp
品田佳世子	口腔疾患予防学分野	随時	shinada.pvoh@tmd.ac.jp
荒川真一	生涯口腔保健衛生学分野	随時	s-arakawa.ltoh@tmd.ac.jp
高橋英和	生体材料加工学分野	火 17:00~19:00	takahashi.abm@tmd.ac.jp
小野寺光江	健康支援口腔保健衛生学分野	随時	m.onodera.ocsh@tmd.ac.jp
杉本久美子	口腔基礎科学分野	木 16:00-18:00	ksugimoto.fohc@tmd.ac.jp
大谷啓一	硬組織薬理学分野	月・火 16:00-18:00	kohya.hpha@tmd.ac.jp
青木和弘	硬組織薬理学分野	月 16:00-18:00	kazu.hpha@tmd.ac.jp
田村幸彦	硬組織薬理学分野	金 16:00-18:00	tamu.hpha@tmd.ac.jp

第4学年 履修ユニット

科目名	社会保障論Ⅱ
ユニット名	社会保障論Ⅱ
授業の形態	講義
開講時期・単位・時間数	4 学年前期・選択・15 時間 } 3 単位 *4 学年前期・選択・30 時間（放送大学） 単位認定（3 単位）は放送大学関連科目の履修と併せて行う
科目責任者・ユニット責任者	遠藤慶子・遠藤慶子
主な授業場所	口腔保健学科 第 2 講義室

学習目標

- ・保健・医療・福祉サービスを包含する社会保障の理念や歴史、社会保障の各制度や体系、諸外国における社会保障制度の概要を理解する。

到達目標

- ・現代社会における社会保障制度の課題を説明する。
- ・社会保障制度の概念・対象・理念を説明する。
- ・社会保障の財源と費用を説明する。
- ・社会保険と社会扶助の関係を説明する。
- ・公的保険制度と民間保険制度の関係を説明する。
- ・社会保障制度の体系（各制度の概要）を説明する。
- ・年金保険制度や医療保険制度の具体的内容を説明する。
- ・諸外国における社会保障制度の概要を説明する。

授業計画

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1	現代社会と社会保障制度	オリエンテーション、少子高齢社会と社会保障制度	弓削俊雄
2	社会保障制度の概念・対象・理念	社会保障の概念と範囲、役割と意義、理念と対象	弓削俊雄
3	社会保障の歴史(1)	諸外国における社会保障制度の発達	弓削俊雄
4	社会保障の歴史(2)	日本における社会保障制度の発達	弓削俊雄

5	社会保障の財源と費用	社会保障の財源、社会保障給付費、国民負担率	弓削俊雄
6	社会保険と社会扶助	社会保険の概念と範囲、社会扶助の概念と範囲	弓削俊雄
7	公的保険制度と民間保険制度の関係	公的施策と民間保険制度の現状	弓削俊雄
8	社会保障制度の体系(1)	年金保険制度、医療保険制度、介護保険制度の概要	弓削俊雄
9	社会保障制度の体系(2)	労災保険制度、雇用保険制度、家族手当制度の概要	弓削俊雄
10	社会保障制度の体系(3)	各種社会福祉制度、生活保護制度の概要	弓削俊雄
11	年金制度の具体的内容	国民年金、厚生年金、各種共済組合の年金	弓削俊雄
12	医療保険制度の具体的内容(1)	国民健康保険と健康保険（具体的内容と事例）	弓削俊雄
13	医療保険制度の具体的内容(2)	各種共済組合の医療保険（具体的内容と事例）	弓削俊雄
14	諸外国における社会保障制度の概要	各国の社会保障制度（具体的内容と特徴）	弓削俊雄
15	まとめ	授業の振り返りと学習成果の確認	弓削俊雄

評価方法

- ・授業内レポートで重要な単元の学習成果を評価する。
- ・定期試験を実施し、総合的に評価する。

参考図書等

- ・随時、授業中に紹介する。

留意事項

事前に資料の配付、e-learning システム上へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

担当教員の office hour

遠藤慶子 地域・福祉口腔保健衛生学分野 随時 k-endo.ohcw@tmd.ac.jp

担当教員（非常勤）

弓削俊雄

科目名	保健行動科学
ユニット名	ヘルスカウンセリング特論
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	4学年前期・選択1単位・15時間
科目責任者・ユニット責任者	遠藤圭子・遠藤圭子
主な授業場所	口腔保健学科 第2講義室

学習目標

歯科保健医療従事者として対人援助をするために、コミュニケーションやカウンセリングの手法を応用して、問題解決するための判断力と行動する姿勢を身につける。

到達目標

- ・対象とする人に対して、支援者としての基本的な態度をとることができる。
- ・対象とする人の話を受容的に聴く。
- ・歯科医療従事者の活動場面でのコミュニケーションを理解する。
- ・人びとの健康づくりに必要なカウンセリング技法を理解する。
- ・事例に則した問題解決のため意欲的に判断し、行動する。

授業計画

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1・2	オリエンテーション	授業の目的と方法	遠藤・白田 近藤
3・4	対象とする人の理解	カウンセリング技法の基礎と応用	遠藤・白田
5・6	事例検討1	口臭を訴える患者へのカウンセリング	遠藤・白田
7・8	事例検討2	審美的悩みを抱える患者へのカウンセリング	白田・遠藤 近藤
9・10	地域住民に対する相談技法	地域住民とのコミュニケーションの実際	遠藤・白田
11・12	産業保健におけるカウンセリング	産業保健における禁煙支援の相談事例	遠藤・近藤
13・14	ストレスマネジメント	ストレス対処法に関するカウンセリング	遠藤・白田
15	まとめ	振り返りとまとめ	遠藤

評価方法

出席、授業への取り組みならびに提出物により評価する。

留意事項

具体的事例を取り上げながら演習を行うとともに、歯科保健医療現場における対人援助に即した内容を設定して、授業を進める。

担当教員の office hour

白田千代子	地域・福祉口腔保健衛生学分野	随時	hakuta.cohc@tmd.ac.jp
遠藤圭子	口腔疾患予防学分野	随時	usagi.pvoh@tmd.ac.jp
近藤圭子	生涯口腔保健衛生学分野	随時	solan.ltoh@tmd.ac.jp

科目名	介護概論
ユニット名	介護概論
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	4 学年前・後期・必修 2 単位・30 時間
科目責任者・ユニット責任者	小野寺光江・小野寺光江
主な授業場所	口腔保健学科 第2 講義室

学習目標

- ・社会を構成する基本的単位である家族について学び、その機能の変遷より、現代の日本社会が抱える介護の問題を理解するとともに、基本的な介護技法を習得する。

到達目標

- ・家族とは何かを理解し説明する。
- ・家族の機能およびその変遷を理解し説明する。
- ・介護とは何かを理解し説明する。
- ・家族機能の視点から介護の必要性を理解し説明する。
- ・介護の対象を理解し説明する。
- ・介護活動の展開法を理解し説明する。
- ・介護予防の必要性を理解し説明する。
- ・介護予防活動の概要を説明する。
- ・老年症候群について理解し説明する。
- ・介護に必要な基本的な介護を理解し説明する。
- ・要支援者・要介護者の心身の特徴を理解し説明する。
- ・福祉用具について説明する。
- ・介護にかかわる保健・医療・福祉等の関連職種との連携の必要性を理解し説明する。

授業計画 4 学年前期

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1	家族とは何か	家族の概念、家族の機能	助友裕子
2	現代家族の動向 1	家族形成の原理、現代社会と家族	助友裕子
3	現代家族の動向 2	現代社会の家族構造および機能の変化	助友裕子

4	介護とは何か	介護の概念、介護の対象、介護保険の概要	小野寺光江
5・6	介護技術	介護活動の展開、 日常生活援助のための基本的な介護	小野寺光江
7	介護技術	高齢者の事故と予防	小野寺光江
8・9	介護技術	認知症高齢者の支援	小野寺光江
10	介護技術	高齢者の権利擁護、成年後見人制度	小野寺光江
11・12	介護技術	終末期支援	小野寺光江
13	介護と関連機関との連携	介護と医療の継続	小野寺光江
14	高齢社会の課題	高齢者を取り巻く諸問題	小野寺光江
15	まとめ	まとめ	小野寺光江

授業計画 4 学年後期

回	授業題目	授業内容	授業担当者
16・17	介護予防とは何か	介護予防の必要性、老年症候群	新井武志
18・19	介護予防の対象	介護予防の対象	新井武志
20・21	介護予防活動Ⅰ	介護予防活動の展開	新井武志
22・23	介護予防活動Ⅱ	介護予防活動時のリスク管理	新井武志
24・25	介護予防活動Ⅲ	転倒予防プログラムの概要	新井武志
26・27	介護予防活動Ⅳ	運動器の機能向上プログラムの概要	新井武志
28・29	介護予防活動Ⅴ	自己管理型筋力増強プログラムの概要	新井武志
30	まとめ	まとめ	新井武志

評価方法

- ・提出レポート、期末の客観試験、記述試験で総括的評価を行う。
- ・出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。

参考図書等

- ・新・社会福祉士養成講座 13 高齢者に対する支援と介護保険制度 社会福祉士養成講座編集委員会

留意事項

- ・事前に資料の配布、e-learning へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

担当教員の office hour

小野寺光江 健康支援口腔保健衛生学分野 随時 m.onodera.cohc@tmd.ac.jp

担当教員（非常勤）

助友裕子 日本女子体育大学

新井武志 目白大学

科目名	歯科口腔介護
ユニット名	歯科口腔介護
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	4 学年前期・必修 1 単位・15 時間 4 学年前期・選択 1 単位・15 時間
科目責任者・ユニット責任者	白田千代子・白田千代子
主な授業場所	口腔保健学科 第2 講義室ほか

学習目標

- ・加齢にともなう口腔機能の変化を理解し、高齢者の心身と口腔の状況に応じた口腔機能の保持・増進のための方法および技術を習得する。

到達目標

- ・高齢者の口腔保健の現状と課題を理解し説明する。
- ・加齢に伴う口腔機能の変化を理解し説明する。
- ・高齢者の口腔の健康維持・増進の必要性を理解し説明する。
- ・高齢者や障害者の口腔機能評価方法を理解し説明する。
- ・口腔機能に応じた食形態や障害に応じた食器について理解し説明する。
- ・疾病や障害に応じた食事摂取の方法について理解し説明する。
- ・自立高齢者および要支援・要介護高齢者への口腔ケア支援の方法を理解し、技術を習得する。
- ・麻痺や特殊疾患等により口腔機能障害をもつ高齢者の口腔ケアの方法を理解し、基本的な介護を習得する。

授業計画 4 年前期・必修・15 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1・2	高齢者口腔保健 加齢に伴う口腔機能の 変化	高齢者の口腔と現状 加齢に伴う生理的な口腔機能の変化と疾病や 障害などによる口腔機能の変化	白田・小野寺 遠藤・近藤
3・4	歯科口腔介護	歯科口腔介護とは、口腔の健康維持・増進の必 要性、歯科口腔介護の定義・目的・対象者介護 予防とは	白田・小野寺 遠藤・近藤

5・6	自立高齢者・ 要支援・要介護高齢者	高齢者の口腔機能評価と援助 口腔機能とは	白田・小野寺 遠藤・近藤
7・8	要支援・要介護高齢者 への援助 1.	口腔機能向上とは、口腔機能訓練とは 機能を維持増進させる方法	白田・小野寺 遠藤・近藤
9・10	要支援・要介護高齢者 への援助 2.	食事をとるということ 口から食べる意味	白田・小野寺 遠藤・近藤
11・12	要支援・要介護高齢者 への援助 3.	口腔機能に応じた食べ物・飲み物、 障害に応じた食器	白田・小野寺 遠藤・近藤
13・14	要支援・要介護高齢者 への援助 4.	口腔清掃・口腔機能訓練	白田・小野寺 遠藤・近藤
15	まとめ	まとめ	白田・小野寺 遠藤・近藤

授業計画 4 年前期・選択・15 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1・2	障害をもつ高齢者へ の日常生活援助 1	姿勢と体位、更衣の援助	白田・小野寺 遠藤・近藤
3・4	障害をもつ高齢者へ の日常生活援助 2	運動・移動の援助：床上の移動、座位の保持、 歩行介助、車いすへの移乗	白田・小野寺 遠藤・近藤
5・6	障害をもつ高齢者へ の日常生活援助 3	疾病や障害に応じた食事（栄養摂取）摂取の 方法、床上における食事介助	白田・小野寺 遠藤・近藤
7・8	口のはたらき	発声・発語、摂食・嚥下	大庭優香
9・10	疾患や障害をもつ 人々への口腔ケア 1.	口腔機能訓練、疾患や障害を地域で支援する 方法、口腔ケアの展開、慢性疾患患者に対す る口腔ケア	白田・小野寺 遠藤・近藤
11・12	疾患や障害をもつ 人々への口腔ケア 2.	特殊疾患患者・高次脳機能障害者に対する口 腔ケア	白田・小野寺 遠藤・近藤
13・14	疾患や障害をもつ 人々への口腔ケア 3.	癌患者（頭頸部癌・口腔癌も含む）に対する 口腔ケア	白田・小野寺 遠藤・近藤
15	まとめ	まとめ	白田・小野寺 遠藤・近藤

評価方法

- ・提出レポート、期末の客観試験、論述試験で総括的評価を行う。
- ・出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。
- ・随時の小テスト等で形成的評価を行い、授業態度等も総括的評価に加える。
- ・提出レポート、課題発表等で総括的評価を行う。

参考図書等

- ・最新歯科衛生士教本「高齢者歯科」全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版 2005年
- ・最新歯科衛生士教本「歯・口腔の健康と予防にかかわる人間と社会の仕組み1・保健生態学」全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版 2010年
- ・最新歯科衛生士教本「咀嚼障害・咬合異常1・歯科補綴」 医歯薬出版 2009年
- ・最新歯科衛生士教本「歯科診療補助」医歯薬出版 2009年
- ・臨床の口腔生理学に基づく摂食・嚥下障害のキュアとケア 舘村卓著 医歯薬出版 2009年
- ・実践訪問口腔ケア 上巻 高江洲義矩監修 クインテッセンス 1999年
- ・実践訪問口腔ケア 下巻 高江洲義矩監修 クインテッセンス 2000年

留意事項

事前に資料の配布、e-learning へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

担当教員の Office hour

白田千代子	地域・福祉口腔保健衛生学分野	随時	hakuta.ohcw@tmd.ac.jp
小野寺光江	健康支援口腔保健衛生学分野	随時	m.onodera.cohc@tmd.ac.jp
遠藤圭子	口腔疾患予防学分野	随時	usagi.pvoh@tmd.ac.jp
近藤圭子	生涯口腔保健衛生学分野	随時	solan.ltoh@tmd.ac.jp

担当教員

大庭優香 医学部附属病院 言語聴覚士

科目名	歯科口腔介護
ユニット名	顎口腔機能リハビリテーション
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	4 学年後期・必修 1 単位・15 時間
科目責任者・ユニット責任者	白田千代子・白田千代子
主な授業場所	口腔保健学科 第2 講義室

学習目標

顎口腔機能および顎口腔機能障害、機能障害に対する対応方法を理解する。

到達目標

- ・摂食・嚥下障害および言語障害の病因・病態・障害を説明する。
- ・摂食・嚥下障害および言語障害の治療・管理の必要性和流れを説明する。
- ・摂食・嚥下障害を有する患者の口腔清掃及び保健指導を説明する。
- ・摂食・嚥下障害および言語障害に対する訓練法を説明する。
- ・摂食・嚥下障害への食事の対応を説明する。
- ・摂食・嚥下障害および言語障害に対するチーム医療を説明する。

授業計画

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1	顎口腔機能	顎口腔機能の種類と重要性	白田千代子
2	言語障害 1	言語障害の特徴	白田千代子
3	言語障害 2	言語障害の問題点	戸原玄
4	摂食・嚥下障害 1	摂食・嚥下障害の特徴と問題点	戸原玄
5	言語障害 3	言語障害の評価と診断	大庭優香
6	言語障害 4	言語障害に対する治療・指導	大庭優香
7	摂食・嚥下障害 2	摂食・嚥下障害の診察（スクリーニング含む）	戸原玄
8	摂食・嚥下障害 3	検査・評価法（VF）	戸原玄
9	摂食・嚥下障害 4	検査・評価法（VE）	戸原玄
10	摂食・嚥下障害 5	間接訓練	戸原玄

11	摂食・嚥下障害 6	直接訓練・段階的摂食訓練	戸原玄
12	摂食・嚥下障害 7	摂食・嚥下障害への対応 (1 脳血管障害など)	戸原玄
13	摂食・嚥下障害 8	摂食・嚥下障害への対応 (2 口腔咽頭腫瘍)	戸原玄
14	摂食・嚥下障害 9	摂食・嚥下障害への対応 (3 訪問歯科診療)	戸原玄
15	顎口腔機能と障害	顎口腔機能とその障害の考え方	白田千代子

評価方法

期末の客観試験、論述試験、提出レポートで総括的評価を行う。講義、グループ討論、発表の態度等を総括的評価に加味する。随時の小テスト等で形成的評価を行い、授業態度等も総括的評価に加える。

参考図書等

- ・「わかる摂食・嚥下リハビリテーション I 評価法と対処法」 医歯薬出版
- ・「摂食・嚥下障害の VF 実践ガイドー歩進んだ診断・評価のポイントー」 南江堂
- ・「訪問歯科診療ではじめる摂食・嚥下障害のアプローチ」 医歯薬出版
- ・「歯学生のための摂食・嚥下リハビリテーション学」 医歯薬出版
- ・「成人のコミュニケーション障害 入門講座コミュニケーション障害とその回復 2」 大修館書店
- ・「言語障害第 2 版 リハビリテーション医学全書 11」 医歯薬出版
- ・絵でわかる言語障害 言葉のメカニズムから対応まで 学研メディカル秀潤社

留意事項

事前の資料の配布、e-learning へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。

担当教員の office hour

白田千代子 地域・福祉口腔保健衛生学分野 随時 hakuta.ohcw@tmd.ac.jp

担当教員

大庭優香 医学部附属病院 言語聴覚士

担当教員 (非常勤)

戸原 玄 日本大学

科目名	口腔保健衛生臨床実習
ユニット名	発達育成系口腔保健衛生臨床実習
授業形態	実習
開講時期・単位・時間数	3年後期・必修・140時間 } 4単位 4年前期・必修・40時間 } 単位認定（4単位・40時間）は4学年前期終了時に行う
科目責任者・ユニット責任者	近藤圭子・近藤圭子
主な授業場所	歯学部附属病院内

学習目標

歯科診療施設において、発達期にある乳幼児から青少年およびその保護者に対し、チーム医療の一員として、歯科予防処置・歯科保健指導・歯科診療補助を実践するために必要な態度・知識・技能を修得する。

到達目標

- ・ 患児の身体的・精神的・社会的苦痛に配慮し、問題点を抽出・整理する。
- ・ 患児および保護者の不安・不満に適切に対応する。
- ・ 歯科診療時に示す患児の行動とその変容に適切に対応する。
- ・ 歯科ユニット各部の名称と機能を説明する。
- ・ 発達期の歯科診療に必要な器材を説明する。
- ・ 診療室への患児および保護者を適切に誘導する。
- ・ 患児および保護者に挨拶して自己紹介する。
- ・ 患児および保護者との信頼関係を築く。
- ・ 個人的、社会的背景等が異なる患児および保護者に、わけへだてなく対応する。
- ・ 患児および保護者の価値観が多様であることを認識し、柔軟に対応する。
- ・ 必要な情報を整理し、わかりやすい口頭説明と文書を準備する。
- ・ 説明を行うために適切な時期・場所・機会に配慮する。
- ・ 患児および保護者からの質問に適切に応え、その様々な反応に柔軟に対応する。
- ・ 医療事故や潜在的医療事故（ニアミス）に関する情報を共有し、再発防止に役立てる。
- ・ インフォームドコンセントを行う。
- ・ 乳幼児から青少年に対し、歯科予防処置を実施する。
- ・ 乳幼児から青少年およびその保護者に対し、歯科保健指導を実施する。
- ・ 乳幼児から青少年の歯科診療に際し、診療補助を実施する。

授業計画

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1-5	臨床実習ガイダンス	臨床実習ガイダンス、 実習等に関するオリエンテーション	各外来担当教員
6-40	矯正歯科外来実習	矯正歯科外来における歯科診療の補助、 歯科保健指導	矯正歯科外来教員、 歯科衛生士、看護師

評価方法

- ・実習記録等により総括的評価を行う。
- ・実習態度を総括的評価に加味する。

参考図書等

- ・最新歯科衛生士教本「歯科臨床概論」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・最新歯科衛生士教本「歯科矯正」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・最新歯科衛生士教本「歯科放射線」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「歯科診療補助 歯科器械の知識と取り扱い」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「歯科診療補助 歯科材料の知識と取り扱い」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版

留意事項

附属病院等では服装、態度等に留意すること。不適切な場合は実習停止とする場合がある。

担当教員の office hour

近藤圭子 生涯口腔保健衛生学分野 随時 solan.ltoh@tmd.ac.jp

科目名	口腔保健衛生臨床実習
ユニット名	成人口腔保健衛生臨床実習Ⅱ
授業形態	実習
開講時期・単位・時間数	4学年前・後期・必修3単位・135時間
科目責任者・ユニット責任者	近藤圭子・近藤圭子
主な授業場所	歯学部附属病院内、歯学部 演習室

学習目標

主に成人に対し、対象者本位の歯科予防処置・歯科保健指導・歯科診療補助を実践するために必要な態度・知識・技能を修得する。

到達目標

- ・対象者の身体的・精神的・社会的苦痛に配慮し、問題点を抽出・整理する。
- ・対象者が有する全身疾患について理解する。
- ・歯科診療における対象者の全身管理について理解する。
- ・対象者の不安・不満や表情・行動の変化に適切に対応する。
- ・歯科ユニット各部の名称や機能を説明する。
- ・診療に必要な器材を説明する。
- ・対象者に挨拶して自己紹介する。
- ・対象者との信頼関係を築くことができる。
- ・個人的、社会的背景が異なる対象者に、わけへだてなく対応する。
- ・対象者の価値観が多様であることを認識し、柔軟に対応する。
- ・必要な情報を整理し、わかりやすい口頭説明と文書を準備する。
- ・説明を行うために適切な時期・場所・機会に配慮する。
- ・対象者からの質問に適切に答え、その様々な反応に柔軟に対応する。
- ・医療事故や潜在的医療事故（ニアミス）に関する情報を共有し、再発防止に役立てる。
- ・インフォームドコンセントを行うことができる。
- ・主に成人に対し、歯科予防処置を実施する。
- ・主に成人に対し、歯科保健指導を実施する。
- ・主に成人者に対し、歯科診療補助を実施する。

授業計画

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1-5	臨床実習ガイダンス	臨床実習ガイダンス、外来におけるオリエンテーション	近藤圭子
6-61	口腔ケア実習	患者さんを担当した、歯科予防処置、歯科保健指導	口腔保健学科教員、佐々木好幸、山崎美幸、岡田昌子、河野章江、飯田則子
62-66	合同クリニカル検討	歯学科と合同の症例検討授業	口腔保健学科教員、歯学科教員
67-93	歯周病外来	歯周病外来における歯科診療の補助、歯科保健指導	歯周病外来教員、歯科衛生士
94-121	インプラント外来・顎義歯外来実習	インプラント外来における歯科診療の補助 顎義歯外来における歯科診療の補助、歯科保健指導	インプラント外来教員 顎義歯外来教員、歯科衛生士、看護師
122-135	歯科麻酔外来実習	歯科麻酔外来における歯科診療補助	歯科麻酔外来教員、看護師

評価方法

- ・実習記録、患者さんへのリーフレット等により総括的評価を行う。
- ・出席状況、実習記録、患者へのリーフレット等、実習態度を総括的評価に加味する。
- ・提出レポート、課題発表等で総括的評価を行う。

参考図書等

- ・最新歯科衛生士教本「口腔保健管理」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
- ・最新歯科衛生士教本「歯の硬組織・歯髄疾患 保存修復・歯内療法」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
- ・最新歯科衛生士教本「歯周疾患」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
- ・最新歯科衛生士教本「咀嚼障害・咬合異常1歯科補綴」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
- ・最新歯科衛生士教本「顎口腔粘膜疾患 口腔外科・歯科麻酔」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
- ・最新歯科衛生士教本「歯科診療補助論」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
- ・最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版

- ・新歯科衛生士教本「歯科器械の知識と取り扱い」全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版

留意事項

附属病院等では服装、態度等に留意すること。不適切な場合は実習停止とする場合がある。

担当教員の office hour

- ・近藤圭子 生涯口腔保健衛生学分野 随時 solan.ltoh@tmd.ac.jp
- ・吉増秀實 健康支援口腔保健衛生学分野 随時 h-yoshimasu.ocsh@tmd.ac.jp
- ・品田佳世子 口腔疾患予防学分野 随時 shinada.pvoh@tmd.ac.jp
- ・寺岡加代 口腔健康教育学分野 随時 ktera.ohce@tmd.ac.jp
- ・荒川真一 生涯口腔保健衛生学分野 随時 s-arakawa.ltoh@tmd.ac.jp
- ・安田昌代 歯学部附属病院 口腔ケア外来 随時 yasuda.ocsh@tmd.ac.jp
- ・大塚紘未 口腔疾患予防学分野 随時 hiromi.pvoh@tmd.ac.jp

担当教員

佐々木好幸 う蝕制御学分野

担当教員（非常勤）

山崎美幸
岡田昌子
河野章江
飯田則子

科目名	口腔保健衛生臨床実習
ユニット名	高齢者口腔保健衛生臨床実習
授業形態	実習
開講時期・単位・時間数	4 学年前期・必修 1 単位・45 時間
科目責任者・ユニット責任者	近藤圭子・近藤圭子
主な授業場所	歯学部附属病院スペシャルケア外来診療室 1

学習目標

歯科診療施設において主に高齢者に対し、対象者本位の口腔保健活動を実践するために必要な態度・知識・技能を修得する。

到達目標

- ・対象者の身体的・精神的・社会的苦痛に配慮し、問題点を抽出・整理する。
- ・対象者（主に高齢者）が有する全身疾患について理解する。
- ・歯科診療における高齢者の全身管理について理解する。
- ・対象者（主に高齢者）が有する心理的・精神的な問題について理解する
- ・対象者の不安・不満や表情・行動の変化に適切に対応する。
- ・歯科ユニット各部の名称や機能を説明する。
- ・診療に必要な器材を説明する。
- ・対象者に挨拶して自己紹介する。
- ・対象者との信頼関係を築くことができる。
- ・個人的、社会的背景が異なる対象者に、わけへだてなく対応する。
- ・対象者の価値観が多様であることを認識し、柔軟に対応する。
- ・必要な情報を整理し、わかりやすい口頭説明と文書を準備する。
- ・説明を行うために適切な時期・場所・機会に配慮する。
- ・対象者からの質問に適切に答え、その様々な反応に柔軟に対応する。
- ・医療事故や潜在的医療事故（ニアミス）に関する情報を共有し、再発防止に役立てる。
- ・インフォームドコンセントを行うことができる。
- ・主に高齢者に対し、歯科予防処置を実施する。
- ・主に高齢者に対し、歯科保健指導を実施する。
- ・主に高齢者に対し、歯科診療補助を実施する。

授業計画

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1	臨床実習ガイダンス	臨床実習ガイダンス	指導教員
2-16	スペシャルケア外来 1 (高齢者歯科) 実習	スペシャルケア外来 1 (全身疾患を有する高齢者を対象) における歯科診療補助、歯科予防処置、歯科保健指導	スペシャルケア外来 1 教員、看護師、歯科衛生士
17-31	顎義歯外来実習	顎義歯外来における歯科診療補助、歯科予防処置、歯科保健指導	顎義歯外来教員 歯科衛生士
32-45	病棟実習	病棟における歯科診療の補助、歯科保健指導	病棟教員、看護師

評価方法

- ・提出レポート、期末の客観試験、実技試験で総括的評価を行う。
- ・出席状況、実習記録、患者へのリーフレット等、実習態度を総括的評価に加味する。
- ・提出レポート、課題発表等で総括的評価を行う。

参考図書等

- ・最新歯科衛生士教本「口腔保健管理」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
- ・最新歯科衛生士教本「歯の硬組織・歯髄疾患 保存修復・歯内療法」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
- ・最新歯科衛生士教本「歯周疾患」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
- ・最新歯科衛生士教本「咀嚼障害・咬合異常1歯科補綴」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
- ・最新歯科衛生士教本「顎口腔粘膜疾患 口腔外科・歯科麻酔」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
- ・最新歯科衛生士教本「歯科診療補助論」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
- ・最新歯科衛生士教本「高齢者歯科」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
- ・疾患別内科エマージェンシー対応 高齢者臨床ナビゲーション 大渡凡人著 医歯薬出版
- ・歯科衛生士のための高齢者歯科学 渡邊誠、岩久正明監修 永末出版
- ・脳卒中患者の口腔ケア 植田耕一郎 医歯薬出版
- ・高齢者歯科ガイドブック 植松 宏、稲葉 繁、渡辺 誠編集 医歯薬出版
- ・はじめて学ぶ歯科口腔介護 新井俊二、小椋秀亮監修 医歯薬出版
- ・日本老年歯科医学会監修口腔ケアガイドブック 日本老年歯科医学会監修 口腔保健協会
- ・日本老年歯科医学会監修高齢者歯科診療ガイドブック 日本老年歯科医学会監修 口腔保健協会

留意事項

附属病院等では服装、態度等に留意すること。不適切な場合は実習停止とする場合がある。

担当教員の office hour

近藤圭子 生涯口腔保健衛生学分野 随時 solan.ltoh@tmd.ac.jp

科目名	口腔保健衛生臨床実習
ユニット名	障害者口腔保健衛生臨床実習
授業形態	実習
開講時期・単位・時間数	4 学年前期・必修 1 単位・45 時間
科目責任者・ユニット責任者	近藤圭子・近藤圭子
主な授業場所	歯学部附属病院内

学習目標

歯科受診に対して障害を有する患者とスムーズにコミュニケーションをとった上で、患者が安心して歯科治療・予防処置・保健指導を受けられるように、知識を確認して、必要な基本的態度、専門的技術を身につける。

到達目標

- ・患者および保護者・介護者と挨拶、会話を交わす。
- ・患者を治療椅子へ導入する。
- ・治療中に、患者に対して、適切に言葉かけをする。
- ・精神鎮静法の準備・片付けをする。
- ・患者の全身状態、行動の観察をして、対応する。
- ・患者の情報収集・分析ができる。
- ・問診結果から、保健指導に必要な情報を分析して、活用する。
- ・保健指導記録を書くことができる。
- ・自分が行った指導について評価する。
- ・保健医療チームとして、歯科衛生士に必要な検査の知識と技術、倦怠の取扱方法を理解する。

授業計画

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1	臨床実習ガイダンス	臨床実習ガイダンス	各外来担当教員, 歯科衛生士
2-41	スペシャルケア外来2 (障害者歯科)実習	障害者歯科における歯科診療補助、 歯科予防処置、歯科保健指導	スペシャルケア 外来2教員, 歯科 衛生士

42-45	歯科アレルギー外来、 歯科心身医療外来、顎 関節治療部、検査実習	歯科アレルギー外来における歯科診 療補助、歯科心身医療外来における 歯科診療補助、顎関節治療部におけ る歯科診療補助、検査の実際	歯科アレルギー外来 教員、歯科心身医療 外来教員、顎関節治 療部教員、検査部教 員、歯科衛生士、看 護師
-------	--	---	---

評価方法

実習記録提出、出席状況、ケース履修状況をもって、総括的評価を行う。

参考図書等

- ・障害者歯科ガイドブック 森崎市治郎他編 医歯薬出版
- ・最新歯科衛生士教本 「障害者歯科」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
- ・スペシャルニーズデンティストリー 障害者歯科 日本障害者歯科学会編 医歯薬出版

留意事項

附属病院等では服装、態度等に留意すること。不適切な場合は実習停止とする場合がある。

担当教員の office hour

篠塚修	障害者歯科学分野	16:00-18:00	h-yoshimasu.cohc@tmd.ac.jp
近藤圭子	生涯口腔保健衛生学分野	随時	solan.ltoh@tmd.ac.jp

科目名	地域口腔保健衛生臨地実習
ユニット名	地域口腔保健衛生臨地実習
授業の形態	実習
開講時期・単位・時間数	3 学年前・後期・必修・45 時間 } 2 単位 4 学年前・後期・必修・45 時間 } 単位認定 (2 単位) は、4 学年終了時に行う
科目責任者・ユニット責任者	遠藤圭子・遠藤圭子
主な授業場所	口腔保健学科 第2 講義室、演習室、小学校、病院 等

学習目標

対象に合わせた口腔保健活動を展開するために必要な知識と技術を実践的に理解するとともに、その能力を高める。

到達目標

- ・学童の歯科保健ニーズを判断して、歯科衛生介入を計画、実践する。
- ・学童に対する健康教育を実施、評価して、次回の健康教育課題を提示する。

授業計画

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1-3	オリエンテーション 学童対象健康教育 1	地域歯科保健活動とは	遠藤
4-6	学校歯科健康診断の実際	学校歯科健康診断実施計画 役割分担、各室配置、必要器材準備	遠藤・近藤 大塚
7-13	学校歯科健康診断記録および集計	健康診断表記録、入力・集計	遠藤・近藤 大塚
14-20	学童対象健康教育 2	事前調査、健康課題検討、教材作成	遠藤・近藤 大塚
21-27	学童対象健康教育 3	リハーサル、意見交換、絵コンテ修正・ 完成版の作成	遠藤・近藤 大塚
28-34	H 小学校における健康教育実習	健康教育の実践と事後評価、報告書の作成	遠藤・近藤 大塚
35-41	高齢者対象の健康教育 1	口の機能を高める、実習	遠藤・白田
42-45	高齢者対象の健康教育 2	評価、報告書の作成	遠藤・白田

評価方法

- ・ 報告書、出席状況を基に総括的評価を行う。
- ・ 実習態度、受け入れ施設からの評価を総括的評価に加味する。

留意事項

- ・ 事前配布資料は、繰り返し読んで、確認して実習に臨む。
- ・ 実習時の服装（ユニホーム、ナースシューズ、ネームプレートの着用、頭髮のまとめ方）、態度、言葉遣いに留意する。
- ・ 実習への取り組み、出席状況、報告書の提出状況などが不適切の場合には、実習停止とする。

担当教員の office hour

白田千代子	地域・福祉口腔保健衛生学分野	随時	hakuta.ohcw@tmd.ac.jp
遠藤圭子	口腔疾患予防学分野	随時	usage.pvoh@tmd.ac.jp
近藤圭子	生涯口腔保健衛生学分野	随時	solan.ltoh@tmd.ac.jp
大塚紘未	口腔疾患予防学分野	随時	hiromi.pvoh@tmd.ac.jp
安田昌代	歯学部附属病院 口腔ケア外来	随時	yasuda.ocsh@tmd.ac.jp

科目名	地域口腔保健衛生臨地実習
ユニット名	高齢者・訪問口腔保健衛生臨地実習
授業形態	実習
開講時期・単位・時間数	4 学年前期・必修・45 時間 } 2 単位 4 学年後期・必修・45 時間
科目責任者・ユニット責任者	遠藤圭子・遠藤圭子
主な授業場所	高齢者在宅サービスセンター、訪問歯科診療、附属病院

学習目標

高齢者施設や居宅において、利用者の視点に立った口腔保健活動を実践するために必要な態度、知識、技術を習得して、実践力を養う。

到達目標

- ・居宅、施設などの特徴を理解して、利用者へのサービス内容を説明する。
- ・利用者の身体的・精神的・社会的特性に配慮して、問題点を抽出・整理する。
- ・対象者の価値観の多様性を理解して、対応する。
- ・利用者の心理状態や体調の変化に対応する。
- ・口腔ケア、歯科診療に必要な機材を準備する。
- ・スタッフ、利用者、家族とコミュニケーションをとる。

授業計画

4 学年前期・45 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1-6	高齢者施設実習オリエンテーション	高齢者施設の概要と現状の理解 実習の意義と留意点、実習内容 実習報告書について	遠藤圭子
7-12	利用者の理解、コミュニケーション	現状把握、利用者・家族とのコミュニケーションのとり方	遠藤圭子 白田千代子
13-18	高齢者在宅サービスセンターにおける実習	事前情報収集・整理	遠藤圭子 実習先指導者
19-24	〃	口腔ケア計画（評価法を含む）	遠藤圭子 実習先指導者
25-36	高齢者在宅サービスセンターにおける実習	口腔ケア実施	実習先指導者

37-42	実習報告、まとめ	実習報告書作成、今後の課題	遠藤圭子 白田千代子
43-45	利用者理解、スタッフ・利用者・家族とのコミュニケーションについての総括	利用者理解、スタッフ・利用者・家族とのコミュニケーションのとり方について振り返り	遠藤圭子

4 学年後期・45 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
46-51	訪問診療実習オリエンテーション	訪問診療の概要と現状の理解	遠藤圭子
52-57	訪問診療実習	事前情報収集・整理、口腔ケア計画、実践、評価	白田千代子
58-72	実習報告、まとめ	実習報告書作成、事後評価、今後の課題	実習先指導者
73-77	入院患者の口腔ケア	医学部附属病院入院患者の口腔ケア	遠藤圭子
78-84	口腔ケア総括	専門職種の実活動内容	白田千代子 遠藤圭子
85-90	発表	実習報告書作成、事後評価、今後の課題	遠藤圭子 白田千代子

評価方法

- ・ 報告書、出席状況を基に総括的評価を行う。
- ・ 実習態度、受け入れ施設からの評価を総括的評価に加味する。

留意事項

- ・ 事前配付資料は、繰り返し読んで、確認して実習に臨む。また、服装、態度、言葉遣いに留意する。
- ・ 実習への取り組み、出席状況、報告書の提出状況などが不適切の場合には、実習停止とする。

参考図書等

- ・ 最新歯科衛生士教本「高齢者歯科」全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版 2005
- ・ 最新歯科衛生士教本「歯・口腔の健康と予防にかかわる人間と社会の仕組み1・保健生態学」全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版 2010
- ・ 臨床の口腔生理学に基づく摂食・嚥下障害のキュアとケア 舘村卓著 医歯薬出版 2009
- ・ 実践訪問口腔ケア 上巻 高江洲義矩監修 クインテッセンス 1999
- ・ 実践訪問口腔ケア 下巻 高江洲義矩監修 クインテッセンス 2000

留意事項

事前に資料の配布、e-learning 上へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

担当教員の office hour

白田千代子	地域・福祉口腔保健衛生学分野	随時	hakuta.ohcw@tmd.ac.jp
遠藤圭子	口腔疾患予防学分野	随時	usagi.pvoh@tmd.ac.jp

科目名	選択臨床・臨地実習
ユニット名	選択臨床・臨地実習
授業の形態	実習
開講時期・単位・時間数	4 学年前・後期・必修 1 単位・45 時間
科目責任者・ユニット責任者	遠藤圭子・遠藤圭子
主な授業場所	歯学部附属病院、学外施設等

学習目標

既習の臨床実習および臨地実習で関心を抱いた場での実習、ボランティア活動、また学会等への参加を通して、その領域に関する知識を深め、技能を高める。

特別な配慮が必要な対象者に対して、対象者本位の口腔保健活動を実施するための、態度、知識、技術を習得する。

到達目標

- ・対象者の身体的・精神的・社会的特性に配慮して、生活上の問題を抽出・整理する。
- ・対象者の価値観の多様性を理解して、対応する。
- ・利用者の心理状態や体調の変化に対応できる。
- ・歯科衛生過程の各段階の意味を理解して、実施できる。
- ・評価結果から、次の課題が提示できる。
- ・専門職間の連携について説明できる。
- ・対象とする方の生活背景を理解して、対応できる。
- ・実習報告書が作成する。

授業計画 4 学年前・後期・必修・45 時間

- ・臨床実習・臨地実習の日程内で、演習・実習する。

評価方法

実習報告書、出席状況を基に総括的評価を行う。

実習態度、受け入れ施設からの評価を総括的評価に加味する。

参考図書等

- ・最新歯科衛生士教本「口腔保健管理」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・最新歯科衛生士教本「歯周疾患」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版

- ・最新歯科衛生士教本「歯科予防処置・歯科保健指導」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・最新歯科衛生士教本「歯科補綴」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・最新歯科衛生士教本「小児歯科」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・最新歯科衛生士教本「口腔外科・歯科麻酔」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「歯科診療補助 歯科器械の知識と取り扱い」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・新歯科衛生士教本「歯科診療補助 歯科材料の知識と取り扱い」 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版
- ・歯科衛生士サブテキスト「臨床実習」 クインテッセンス出版
- ・歯科衛生士サブテキスト「臨地実習」 クインテッセンス出版

留意事項

- ・事前配付資料は、繰り返し読んで、確認して実習に臨む。
- ・実習時の服装、態度、言葉遣いに留意する。
- ・実習への取り組み、出席状況、報告書の提出状況などが不適切の場合には**実習停止**とする。
- ・この科目には、医歯学融合セミナー（4学科学生対象、チーム医療）および事前学習、特別講義等を含む。医歯学融合セミナーは、他に振り替えることができないので、欠席のないよう注意する。
- ・海外研修、ボランティア活動、個人開業医院、総合病院見学等は、事前の申し出によって承認を受けること。
- ・学会、セミナー、講演会参加は、原則8時間までとする。

担当教員の office hour

遠藤圭子 口腔疾患予防学分野 随時 usagi.pvoh@tmd.ac.jp

科目名	特論（卒業研究）
ユニット名	特論（卒業研究）
授業形態	演習、講義
開講時期・単位・時間数	3 学年後期・必修 2 単位・60 時間 4 学年前後期・必修 4 単位・120 時間 単位認定（6 単位）は 4 学年（180 時間）終了時に行う
科目責任者・ユニット責任者	寺岡加代・寺岡加代
主な授業場所	口腔保健学科 第2講義室

学習目標

各学生の知的興味、将来の方向性に沿ってテーマを選択し、計画・立案に基づいて研究を実施する。さらに結果を論文にまとめて十分考察することにより、研究への理解と意欲を培う。

到達目標

- ・自分の知的興味、将来の方向性に沿って研究テーマが設定できる。
- ・研究テーマに対応した論文の検索と科学的吟味を行い、これまでの知見が整理できる。
- ・EBM・EBHC の概念を説明できる。
- ・知見や問題点に基づいた研究の計画・立案ができる。
- ・実験・調査などの研究を実施できる。
- ・実験・調査などの結果を分析整理し、統計学的な解析ができる。
- ・結果に基づき、新たな問題点と課題を抽出、提起できる。
- ・一連の研究成果を論文にまとめ発表する。

授業計画

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1-37	研究実施	研究計画に基づく研究の実施とフィードバック、研究データの整理分析	口腔保健学科 教員、歯学科指 導教員
38-43	研究中間発表会 準備	中間発表会プレゼンテーションの作成	同上
44-50	研究中間発表会	研究結果の中間発表と討論	同上

51-90	研究の再検討と実施、研究論文の作成準備	中間評価に基づく研究の進め方の再検討、研究の際実施、研究データの整理・分析、研究論文概要版の作成	同上
91-99	研究成果報告会準備	研究成果報告会プレゼンテーションの作成	同上
100-106	研究成果報告会	研究成果の発表と討論	同上
107-120	論文の作成	研究成果報告会での討論、コメントを加味して卒業研究概要版をアップロードし、かつ本論文を提出	同上

評価方法

- ・ 研究中間発表会での発表により総括的中間評価を行う。
- ・ 研究成果報告会での発表により、口腔保健衛生学専攻全教員による総括的評価を行う。
- ・ 単位認定（6単位）は、3年次から各課題（論文抄録、研究計画書、中間発表会プレゼンテーション用ファイル、成果報告会プレゼンテーション用ファイル、卒業研究論文概要版）のBlackboardへの期限内提出、本論文、研究進行表の提出により行う。

参考図書等

- ・ 「保健・医療のための研究法入門」、朝倉隆司監訳、協同医書出版社
- ・ 「歯科衛生研究の進め方、論文の書き方」、金澤紀子、武井典子、合場千佳子、岩久正明 編、医歯薬出版
- ・ 「医薬研究者の視点からみた道具としての統計学」、奥田千恵子、金芳堂
- ・ 「SPSSによる医学・歯学・薬学のための統計解析」第2版、石村貞夫他著、東京図書

留意事項

- ・ 常に指導教官、副指導教官と密接な連絡をとり、助言を得ながら研究を進め、研究進行表の各月欄に認印をもらうこと。
- ・ 平成25年1月末日までに卒業研究論文概要版（A4/6枚）をBlackboardに提出すること。
- ・ 平成25年2月末日までに卒業論文本論文（A4/10枚程度、表紙、ようやく、アンケート用紙等を含む）を指導教員、および礼状を添えて研究でお世話になった施設等に提出すること。

担当教員の office hour

寺岡加代 口腔健康教育学分野 随時 ktera.ohce@tmd.ac.jp

科目名	地域福祉の理論と方法Ⅱ
ユニット名	地域福祉の理論と方法Ⅱ
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	3 学年前期・選択 1 単位・15 時間 } 3 単位 (45 時間) 4 学年前期・選択 2 単位・30 時間 } 単位認定 (3 単位) は 4 学年前期終了時に行う
科目責任者・ユニット責任者	遠藤慶子・遠藤慶子
主な授業場所	口腔保健学科 第2 講義室

学習目標

- ・地域福祉の基本的考え方、地域福祉に係る組織や専門職の役割について理解する。
- ・ネットワーキングをはじめとする地域福祉の推進方法について理解する。

到達目標

- ・地域福祉の基本的考え方（人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援、地域移行、社会的包摂等を含む）について具体的に説明できる。
- ・地域福祉の主体と対象について具体的に説明できる。
- ・地域福祉に係る組織、団体及び専門職の役割と実際について具体的に説明できる。
- ・地域福祉におけるネットワーキング（多職種・多機関との連携を含む）の意義と方法及びその実際について具体的に説明できる。
- ・地域福祉の推進方法（ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発、福祉ニーズの把握方法、地域トータルケアシステムの構築方法、サービスの評価方法を含む）について具体的に説明できる。

授業計画

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1・2	地域福祉の推進方法 1	地域のとらえ方	遠藤慶子
3・4	地域福祉の推進方法 2	地域福祉活動	遠藤慶子
5・6	地域福祉の推進方法 3	福祉コミュニティ	遠藤慶子
7・8	地域福祉の実際 1	イギリスの地域福祉の発展	遠藤慶子
9・10	地域福祉の実際 2	アメリカの地域福祉の発展	遠藤慶子
11・12	地域福祉の実際 3	地域福祉に関する指針・報告等	遠藤慶子

13・14	地域福祉の実際 4	地域福祉の考え方	遠藤慶子
15・16	地域福祉の実際 5	住民参加	遠藤慶子
17・18	地域福祉の実際 6	福祉教育	遠藤慶子
19・20	地域福祉の実際 7	災害ボランティア活動①	遠藤慶子
21・22	地域福祉の実際 8	災害ボランティア活動②	遠藤慶子
23・24	地域福祉の実際 9	民生委員	遠藤慶子
25・26	地域福祉の実際 10	社会福祉協議会	遠藤慶子
27・28	地域福祉の実際 11	苦情解決体制	遠藤慶子
29・30	まとめ	ミニテスト	遠藤慶子

評価方法

- ・授業内レポートで重要な単元の学習成果を評価する。
- ・試験を実施し、総合的に評価する。

参考図書等

- ・随時、授業中に紹介する。

留意事項

事前に資料の配付、e-learning システム上へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。また、学習する内容について各自で参考文献を読み、理解を深めること。

担当教員

遠藤慶子 地域・福祉口腔保健衛生学分野 随時 k-endo.ohcw@tmd.ac.jp

科目名	就労支援サービス
ユニット名	就労支援サービス
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	4 学年（夏季集中）・選択 1 単位・15 時間
科目責任者・ユニット責任者	遠藤慶子・遠藤慶子
主な授業場所	口腔保健学科 第2 講義室

学習目標

- ・社会的に不利な立場にある人々の就労を通じた社会経済的な参加と、これを支える社会の仕組みを理解する。
- ・就労支援が、個人の生活保障や、少子高齢社会における活力ある社会・経済の形成に関わっていることを把握する。
- ・各種の就労支援制度や就労支援に係る組織・専門職、就労支援分野との関係性について理解する。

到達目標

- ・相談援助活動において必要となる各種の就労支援制度について説明できる。
- ・就労支援に係る組織、団体及び専門職について説明できる。
- ・社会福祉士と就労支援分野の関わりについて説明できる。

授業計画

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1	オリエンテーション	授業の説明、学習内容の確認、就労支援の概説	遠藤慶子 引馬知子
2	人が働くということ 1	労働の意義（講義及びグループ討議）	引馬知子
3	人が働くということ 2	社会的不利と労働（講義及びグループ討議）	引馬知子
4	雇用・就労の動向	社会経済情勢と雇用就労の現状	引馬知子
5	雇用・就労の動向と支援	雇用就労状況と就労支援が必要な人々	引馬知子
6	労働法政策の概要	労働法規及び就労支援に関する法律の概要	引馬知子
7	就労支援制度の現状と課題（障害） 1	障害のある人たちの就労の現状と就労支援制度	引馬知子

8	就労支援制度の現状と課題（障害）2	障害分野の福祉施策及び雇用施策における就労支援	引馬知子
9	就労支援制度の現状と課題（低所得）	低所得者の就労の現状と就労支援制度	引馬知子
10	就労支援制度における専門職の役割と実際1	障害に関わる専門職の役割 ー就労支援員、生活支援員、ジョブコーチ等、事例検討	引馬知子
11	就労支援における専門職の役割と実際2	低所得者に関わる専門職の役割 ー生活保護の現業員、就労支援員、就労支援コーディネーター等、事例検討	引馬知子
12	就労支援分野との連携と実際1	連携の過程・意義・実際	引馬知子
13	就労支援分野との連携と実際2	教育・福祉・労働の連携 ー職業指導、多様な就労形態、専門職の役割等	引馬知子
14	就労支援と新たな試み	均等待遇法政策を含む国際的動向	引馬知子
15	まとめ	授業の振り返りと学習成果の確認	引馬知子

評価方法

- ・授業内レポートで重要な単元の学習成果を評価する。
- ・リアクションペーパー、グループディスカッションの参加状況を評価に加味する。
- ・定期試験を実施し、総合的に評価する。

参考図書等

- ・社会福祉士養成講座編集委員会編 「新・社会福祉士養成講座 就労支援サービス 第3版」 中央法規出版
- ・随時、授業中に紹介する。

留意事項

事前に資料の配付、e-learning システム上へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。また、講義における質疑応答などには主体的に参加し、学ぶ意欲を持って授業に参加することを望む。

担当教員の office hour

遠藤慶子 地域・福祉口腔保健衛生学分野 随時 k-endo.ohcw@tmd.ac.jp

担当教員（非常勤）

引馬知子 田園調布学園大学

科目名	福祉行財政と福祉計画
ユニット名	福祉行財政と福祉計画
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	4 学年前期・選択 2 単位・30 時間
科目責任者・ユニット責任者	遠藤慶子・遠藤慶子
主な授業場所	口腔保健学科 第2講義室

学習目標

- ・福祉行財政の実施体制および福祉計画の意義・目的、計画の主体・方法などについて理解する。

到達目標

- ・福祉の行財政の実施体制（国・都道府県・市区町村の役割、国と地方の関係、財源、組織及び団体、専門職の役割を含む）について説明できる。
- ・福祉行財政の実際について説明できる。
- ・福祉計画の意義や目的、主体、方法、留意点について説明できる。

授業計画

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1・2	オリエンテーション	授業の説明、学習内容の確認、重要事項の説明	國見真理子 遠藤慶子
3・4	福祉行政の実施体制 1	福祉事務所や児童相談所などの福祉行政組織	國見真理子
5・6	福祉行政の実施体制 2	福祉行政で働く社会福祉士の役割	國見真理子
7・8	福祉行財政の動向 1	国・都道府県における福祉行財政の動向	國見真理子
9・10	福祉行財政の動向 2	市区町村における福祉行財政の動向	國見真理子
11・12	福祉行財政の課題と展望	国・都道府県・市町村の財政状況と福祉行財政	國見真理子
13・14	福祉行財政の実際	統計資料および事例に基づく福祉行財政の実態	國見真理子
15・16	福祉計画の意義と目的	行政の総合計画と福祉計画、福祉計画の法的根拠など	國見真理子

17・18	福祉計画の主体	福祉計画づくりにおける主体と専門職、住民の関わり方	國見真理子
19・20	福祉計画の方法	P D C Aサイクルやマネジメント過程などの計画理論	國見真理子
21・22	福祉計画の実際 1	国・都道府県・市区町村の関係性からみた福祉計画	國見真理子
23・24	福祉計画の実際 2	都道府県行政による各種計画と福祉計画の位置づけ	國見真理子
25・26	福祉計画の実際 3	市区町村行政による各種計画と福祉計画の位置づけ	國見真理子
27・28	福祉計画の実際 4	地域福祉計画と地域福祉活動計画の事例	國見真理子
29・30	まとめ	授業の振り返りと学習成果の確認	國見真理子

評価方法

- ・授業内レポートで重要な単元の学習成果を評価する。
- ・グループディスカッション（事例検討など）の参加状況を評価に加味する。
- ・定期試験を実施し、総合的に評価する。

参考図書等

- ・教科書：社会福祉士養成講座編集委員会編「新・社会福祉士養成講座 ⑩福祉行財政と福祉計画 第3版」中央法規

留意事項

事前に資料の配付、e-learning システム上へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。また、講義における質疑応答などには主体的に参加し、学ぶ意欲を持って授業に参加することを望む。

担当教員の office hour

遠藤慶子 地域・福祉口腔保健衛生学分野 随時 k-endo.ohcw@tmd.ac.jp

担当教員（非常勤）

國見真理子 田園調布学園大学

科目名	福祉サービスの組織と経営
ユニット名	福祉サービスの組織と経営
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	4 学年前期・選択 2 単位・30 時間
科目責任者・ユニット責任者	遠藤慶子・遠藤慶子
主な授業場所	口腔保健学科 第2 講義室

学習目標

- ・福祉サービスの組織と経営に係る基礎理論およびサービス経営と管理運営の特徴について理解する。

到達目標

- ・福祉サービスに係る組織や団体（社会福祉法人、医療法人、特定非営利活動法人、営利法人、市民団体、自治会など）について説明できる。
- ・福祉サービスの組織と経営に係る基礎理論について説明できる。
- ・福祉サービスの経営と管理運営について説明できる。

授業計画

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1・2	オリエンテーション	授業の説明、学習内容の確認、重要事項の概説	井野久明 遠藤慶子
3・4	福祉サービスの組織や団体 1	社会福祉法人、NPO法人、営利法人、市民団体、自治会・町内会など	井野久明
5・6	福祉サービスの組織や団体 2	福祉サービス提供組織の定義、組織の特徴など	井野久明
7・8	福祉サービスの組織や団体 3	福祉サービス提供組織の社会的役割、運営の実態や課題	井野久明
9・10	福祉サービス提供組織の経営 1	福祉サービス提供組織の経営の実際	井野久明
11・12	福祉サービス提供組織の経営 2	福祉サービス提供組織の経営を支える財務と会計	井野久明

13・14	福祉サービス提供組織の 経営と法令 1	行政法、民法、個人情報保護法などの関連制 度と組織の運営基準	井野久明
15・16	福祉サービス提供組織の 経営と法令 2	人事考課、労働関連法、育児・介護休業法、 安全衛生管理	井野久明
17・18	経営と組織づくり 1	組織に関する基礎理論、組織間ネットワー ク、チームアプローチ、リーダーシップ	井野久明
19・20	経営と組織づくり 2	キャリア・パスの概要（仕組みと意義）、職 員研修システム、OJT、OFF-JT	井野久明
21・22	経営と組織づくり 3	職場のメンタルヘルス対策（現状と課題）	井野久明
23・24	経営と組織づくり 4	リスクマネジメント、サービス評価の仕組み	井野久明
25・26	経営と組織づくり 5	スーパービジョン体制、苦情解決の仕組み	井野久明
27・28	福祉サービス提供組織と 社会福祉士	福祉サービス提供組織における社会福祉士 の役割と位置づけ	井野久明
29・30	まとめ	授業の振り返りと学習成果の確認	井野久明

評価方法

- ・授業内レポートで重要な単元の学習成果を評価する。
- ・グループディスカッション（事例検討など）の参加状況を評価に加味する。
- ・定期試験を実施し、総合的に評価する。

参考図書等

- ・教科書：福祉サービスの組織と経営 第4版（新・社会福祉士養成講座 第11巻）社会福祉士養成講座編集委員会編 中央法規出版
- ・随時授業中に紹介する。

留意事項

事前に資料の配付、e-learning システム上へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。また、講義における質疑応答などには主体的に参加し、学ぶ意欲を持って授業に参加することを望む。

担当教員の office hour

遠藤慶子 地域・福祉口腔保健衛生学分野 随時 k-endo.ohcw@tmd.ac.jp

担当教員(非常勤)

井野久明 川崎市保健衛生事業団

科目名	社会福祉相談援助演習
ユニット名	社会福祉相談援助演習
授業の形態	演習
開講時期・単位・時間数	3 学年前後期・選択・56 時間 } 5 単位 (150 時間) 4 学年前後期・選択・94 時間 } 単位認定 (5 単位) は 4 学年終了時に行う
科目責任者・ユニット責任者	遠藤慶子・遠藤慶子
主な授業場所	口腔保健学科 第2 講義室

学習目標

・社会福祉における相談援助の知識と技術に関わる他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について実践的に修得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を滋養する。

到達目標

- ・社会福祉援助の特徴を説明することができる。
- ・社会福祉援助の内容・方法プロセスを説明することができる。
- ・社会福祉援助に関する実践上の課題について、自らの意見を述べることができる。
- ・社会福祉援助と口腔保健における実践の関連性に興味関心をもち、自ら調べ、考える態度をもつ。
- ・社会福祉相談援助実習に向けた自らの興味関心と学習課題を説明することができる。

授業計画

4 学年前後期・選択・94 時間

回	授業題目	授業内容	授業担当者
1-8	相談援助技術基礎 1	基本的なコミュニケーション技術の習得①	堀千鶴子
9-16	相談援助技術基礎 2	基本的なコミュニケーション技術の習得②	堀千鶴子
17-24	相談援助技術基礎 3	基本的な面接技術の習得①	堀千鶴子
25-32	相談援助技術基礎 4	基本的な面接技術の習得②	堀千鶴子
33-40	相談援助技術基礎 5	相談実践における価値と倫理①	堀千鶴子
41-48	相談援助技術基礎 6	相談実践における価値と倫理②	堀千鶴子
49-56	相談援助技術基礎 7	相談援助における集団援助技術の活用①	堀千鶴子

57-64	相談援助技術基礎 8	相談援助における集団援助技術の活用②	堀千鶴子
65-72	相談援助技術基礎 9	相談援助における集団援助技術の活用③	堀千鶴子
73-80	相談援助技術基礎 10	相談援助における集団援助技術の活用④	堀千鶴子
81-88	相談援助技術基礎 11	相談援助における集団援助技術の活用⑤	堀千鶴子
89-94	振り返り		遠藤慶子

評価方法

事前・事後学習の成果による総合的評価を行う。(4年後期)

参考図書等

「相談援助の理論と方法Ⅰ(現代の社会福祉士養成シリーズ)」および「相談援助の理論と方法Ⅱ(現代の社会福祉士養成シリーズ)」 くみ出版

随時、実習関連資料を配付する。

担当教員の Office hour

遠藤慶子 地域・福祉口腔保健衛生学分野 随時 k-endo.ohcw@tmd.ac.jp

担当教員(非常勤)

堀千鶴子 城西国際大学

科目名	社会福祉相談援助実習
ユニット名	社会福祉相談援助実習
授業の形態	実習
開講時期・単位・時間数	3 学年後期（春季集中）・選択 } 4 単位（180 時間） 4 学年前期（夏季集中）・選択 } ※実習日数（時間）は 24 日間（180 時間）・16 日間（120 時間）・ 8 日間（60 時間）以上のいずれか。 単位認定（4 単位）は、4 年次の実習期間終了後に行う
科目責任者・ユニット責任者	遠藤慶子・遠藤慶子
主な授業場所	社会福祉施設・機関

学習目標

- ・社会福祉士として求められる資質や倫理、相談援助に係る知識と技術について、具体的かつ実際に理解し、支援に必要な技術を体得する。

到達目標

- ・社会福祉分野における相談援助実習を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に経験し、実践的な技術等を経験知として整理できる。
- ・社会福祉士として求められる資質、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を体験的に把握できる。
- ・関連分野の専門職との連携のあり方や具体的内容を把握し、事後学習で整理できる。

授業計画 4 学年前期（夏季集中）・選択・16 日間（120 時間）もしくは 8 日間（60 時間）以上
 実習日程等については、実習受け入れ先と相談の上、決定する。

評価方法

実習計画、実習記録ノート、実習報告書および実習指導者評価表により、総括的評価を行う。

担当教員の office hour

遠藤慶子 地域・福祉口腔保健衛生学分野 随時 k-endo.ohcw@tmd.ac.jp

大塚紘未 口腔疾患予防学分野 随時 hiromi.pvoh@tmd.ac.jp

科目名	社会福祉相談援助実習指導
ユニット名	社会福祉相談援助実習指導
授業の形態	実習
開講時期・単位・時間数	3 学年後期・選択・32 時間 4 学年前後期・選択・58 時間 } 2 単位 (90 時間) 単位認定 (2 単位) は 4 学年終了時に行う
科目責任者・ユニット責任者	遠藤慶子・遠藤慶子
主な授業場所	口腔保健学科 第 2 講義室

学習目標

- ・社会福祉における相談援助実習の意義について理解する。
- ・授業で学んだ専門知識と相談援助の具体的な実践を結びつけるとともに、実習後は実習体験を意識化し、体系立てていくことをめざす。

到達目標

- ・社会福祉における相談援助実習の意義を事前に理解し、実習後は経験知として説明できる。
- ・相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ实际的に体験し、経験知として説明できる。
- ・社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得し、意識化できる。
- ・具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化・理論化し、体系立てて整理できる。

授業計画

4 学年前後期・選択・58 時間

回	授業題目	授業内容	営業担当者
1-8	社会福祉施設・機関の把握	社会福祉施設・機関の概要、社会福祉相談援助実習における実習施設・機関の位置づけなど	遠藤慶子
9-16	実習計画の検討(1)	実習計画に対する教員の個別指導	遠藤慶子
17-24	実習計画の検討(2)	実習計画に対する教員の個別指導	遠藤慶子
25-32	課題整理	実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理 実習総括レポートの作成	遠藤慶子

33-40	現場実習報告(1)	相談実習の報告会準備	遠藤慶子
41-49	現場実習報告(2)	相談実習の報告会準備	遠藤慶子
50-58	振り返り	実習の評価全体について	遠藤慶子

評価方法

事前・事後学習の成果による総合的評価を行う。(4年後期)

参考図書等

随時、実習関連資料を配付する。

担当教員の office hour

遠藤慶子 地域・福祉口腔保健衛生学分野 随時 k-endo.ohcw@tmd.ac.jp